若年性認知症の 生活実態に関する調査 報告書

平成31(2019)年3月 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 一般に、65歳未満で発症する認知症のことを「若年性認知症」と呼びます。若年性認知症の人は、本人が現役世代であることから、就労の継続、世帯の経済、子の養育、老親をもつ場合には家族の多重介護など、高齢者の認知症とは異なるさまざまな生活課題に直面する可能性が高まります。また、高齢者の認知症と比較すると、人々の若年性認知症に対する認識や理解は一般に低く、そのために偏見もあらわれやすく、社会の中で孤立する傾向が高まります。

わが国では2006年~2008年に厚生労働科学研究において若年性認知症の実態調査が行われ、全国の若年性認知症の人の数は3.78万人(有病率は18歳~64歳人口10万人対47.6人)という数値が示されました。また、東京都では、2008年に若年性認知症の本人・家族に対するインタビュー調査が行われ、本人・家族が直面するさまざまな生活課題も明らかにされてきました。こうした調査の結果に基づいて、これまでに、若年性認知症ハンドブックの作成、若年性認知症総合支援センターや若年性認知症コーディネーターなどの社会資源の整備、介護保険サービスにおける若年性認知症受入体制加算の創設などが行われました。しかし、それでも、若年性認知症の人の就労、社会参加、世帯の経済、子の養育、家族介護者の支援に係る社会支援は総じて不足しており、身近な地域の中での支援体制の整備が強く求められている現状にあります。

ところで、前回実施された国及び東京都の調査からすでに 10 年が経過しています。その間に若年性認知症に対する人々の意識も変化し、若年性認知症の本人や家族も社会に参加し、地域づくりや政策づくりに参画する気運が現れつつあります。東京都では、こうした状況を背景にして、今後の若年性認知症施策の基礎資料を得るために、若年性認知症の人の生活実態を把握するための調査を行うことにいたしました。

本調査の実施にあたってご協力いただきました豊島区、北区、板橋区、練馬区の認知症施策担当課及び介護保険担当課、医療機関、地域包括支援センター、介護保険サービス事業所、障害福祉サービス事業所、保健が・保健センター、若年性認知症総合支援センター等の関係者の皆様に感謝申し上げます。また、何よりも、二次調査から三次調査にわたって、長い時間、調査にご協力いただいた若年性認知症のご本人・ご家族の皆様に心より感謝申し上げます。本調査の結果が、これからの東京都の若年性認知症施策の新たな展開に寄与することを切に願っております。

2019年3月31日

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長 粟 田 主 一

目 次

はじ	めに	i
第]	〔部 事業所・施設・医療機関を対象とする調査	1
1	調査全体の概要	3
T	<u> 1-1. 目的</u>	
	1-2. 調査対象	
	1-2. 調直刈家	
	1-4. 調査期間	
	1-5. 調査方法	
_	1-6. 倫理的配慮	
2	一次調査	
	2-1. 目的	
	2-2. 対象事業所数	
	2-3. 調査方法	
	2-4. 調査項目	5
	2-5. 調査期間	5
	2-6. 有効回答率	6
	2-7. 結果	7
	2-8. まとめと考察	.12
3	二次調査	.14
	3-1. 目的	.14
	3-2. 調査対象	.14
	3-3. 調査方法	.14
	3-4. 調査項目	.14
	3-5. 調査期間	.15
	3-6. 有効回答率と集計対象票の選定	.15
	3-7. 担当者票の集計結果	.15
	3-8. 本人・家族票の集計結果	
	3-9. まとめと考察	
4	三次調査	
•	<u> </u>	
	4-2. 調査対象	
	4-3. 調査方法	
	4-4. 調査期間	
	4-5. 回答状況	
	4-5. 凹合认况	
	4-7. 考察	./2

第	II 部 イ	↑護保険データを用いた調査	77
1	調査会	全体の概要	79
	1-1.	目的	79
	1-2.	調査対象地域	79
	1-3.	調査基準日と調査対象者	79
	1-4.	調査方法	79
	1-5.	倫理的配慮	79
	1-6.	集計について	80
2	調査網	吉果	81
	2-1.	基本属性	81
	2-2.	基本属性と特定疾病	85
	2-3.	若年性認知症者数	91
	2-4.	特定疾病と調査項目	92
	2-5.	認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上と調査項目	125
	2-6.	初老期における認知症・脳血管疾患・パーキンソン病関連疾患の特徴	134
	2-7.	調査対象地域の比較	139
3	まとめと	上考察	144
	3-1.	考察	144
	3-2.	今後の課題	144
第]	III部 刍	全体の考察	145
1	調査網	吉果の要約	147
2	今後0)若年性認知症施策への提言	148
第I	V部 賞	資料	151

研究組織

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所

研究代表者: 粟田主一(自立促進と精神保健研究チーム研究部長)

担当者: 枝広あや子(自立促進と精神保健研究チーム研究員)

岡村毅(自立促進と精神保健研究チーム研究員)

菊地和則(福祉と生活ケア研究チーム研究員)

杉山美香(自立促進と精神保健研究チーム研究員)

宮前史子(認知症支援推進センター研究員)

多賀努(自立促進と精神保健研究チーム研究員)

山村正子(自立促進と精神保健研究チーム研究員)

調 査 協 力: 阿部 崇(合同会社 HAM 人·社会研究所 代表)

鈴木貴浩 (日本大学医学部板橋病院精神科)

第 I 部 事業所・施設・医療機関を対象とする調査

1 調査全体の概要

1-1. 目的

本調査の目的は、東京都における若年性認知症(65 歳未満で発症する認知症)の有病者数と生活実態を把握し、今後の若年性認知症施策の基礎資料を得ることにあります。

1-2. 調査対象

調査対象地域(東京都豊島区、北区、板橋区、練馬区)に住所地がある医療機関・介護サービス事業所・障害福祉サービス事業所・相談機関等(以下「事業所」という。)及び同事業所を利用し、調査対象地域に在住する若年性認知症の本人及び家族

1-3. 調査基準日

2018年1月1日

1-4. 調査期間

2018年4月1日~2019年3月31日

1-5. 調査方法

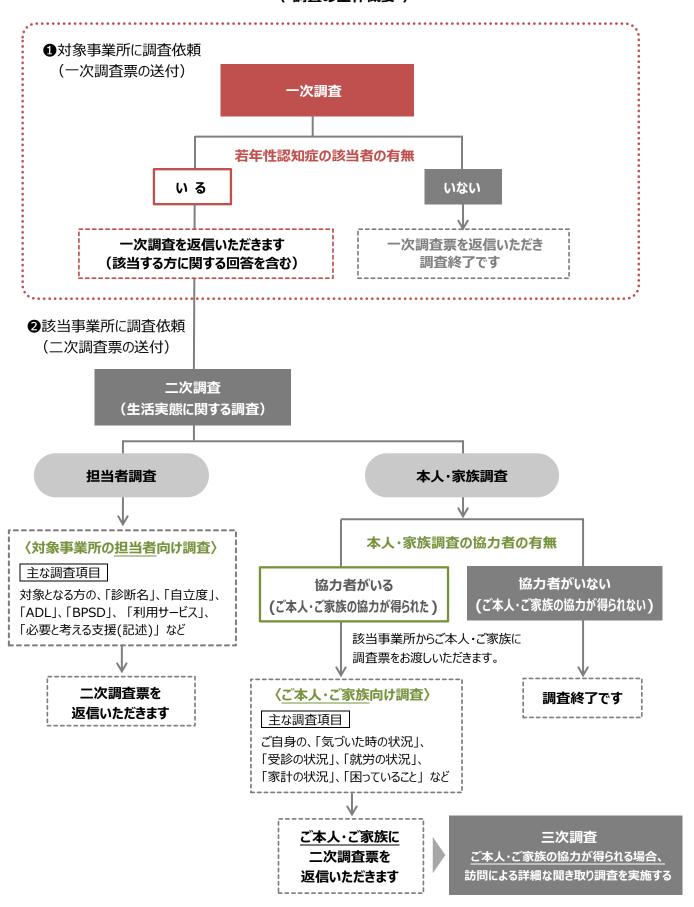
事業所を起点に、以下のような3段階調査を実施しました(調査の流れは、次ページを参照)。

- ①一次調査:調査対象地域の事業所における、若年性認知症の人の有無を調査しました。
- ②二次調査:一次調査により若年性認知症の人がいると回答した事業所に対し、利用者の生活実態に関する 二次調査を行いました。調査対象は一次調査に回答した事業所の担当者と、一次調査に回答した事業所を 介して二次調査への協力が得られる本人・家族としました。事業所の担当者に対しては疾病の状況、就労・ 生活の状況、医療・介護などの提供状況、必要と考える支援等について調査し、本人・家族に対しては、基 本属性、世帯構成、疾病名、就労・生活の状況、日常で困っていること等について調査しました。
- ③三次調査:二次調査において、三次調査に関する本人・家族の了解が得られた場合には、研究員が自宅等を 訪問し、生活実態についてより詳細な聞き取り調査を行いました。

1-6. 倫理的配慮

本調査は、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所倫理委員会の承認を得た上で実施しました。また、ご協力いただいた自治体の個人情報保護条例等関連法規を遵守いたしました。

〈調査の全体概要〉



2 一次調査

2-1. 目的

調査対象地域の事業所における若年性認知症の人の有無を確認し、二次調査の対象を選定しました。

2-2. 対象事業所数

調査対象地域に住所地のある事業所及び東京都が設置する相談機関のうち、「若年性認知症の人がいる可能性が高い事業所」を以下のルールに従って選定しました。

- ① 医療機関:認知症疾患医療センター、精神科・神経内科・心療内科・脳神経外科・老年内科のいずれかを標 榜する病院・診療所、自立支援医療登録医療機関、東京都医療機関案内サービス「ひまわり」に登録されてい る「認知症診断が可能な医療機関」
- ② 介護サービス事業所・施設等:訪問看護、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、看護小規模多機能型居宅介護、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護療養型医療施設
- ③ 障害関係サービス事業所: 就労移行支援事業所、就労継続支援 A 型事業所、就労継続支援 B 型事業所
- ④ 相談機関:地域包括支援センター、保健所・保健センター、高次脳機能障害の相談窓口、都相談機関(若年性認知症総合支援センター等)

以上の手続きを経て 1,878 事業所が選定されました。選定された調査対象事業所の内訳を図表 2-2.に示します。

2-3. 調査方法

若年性認知症の人の有無を問う一次調査票を各事業所に郵送し、各事業所の担当者に記入と郵送による返送を依頼しました。

2-4. 調査項目

調査項目は以下の通りです。

- ① 事業所名、所在地、記入者(担当者)氏名
- ② 2017年1月1日から2017年12月31日までの間の調査対象地域(豊島区、北区、板橋区、練馬区)に在住の若年性認知症の人の有無(調査基準日(2018年1月1日)時点で18歳以上65歳未満の人=「現在65歳未満」、調査基準日時点で65歳以上の人=「現在65歳以上」に分けて確認)
- ③「いた」場合の人数、若年性認知症の本人の性別、年齢、生年月日、発症年月、主な処遇(受診・通院、入院、サービス利用、入所、相談支援)

2-5. 調查期間

2018年6月中旬 ~ 2018年7月6日

図表 2-2. 調査対象事業所の内訳

	全体	1,878	-	_
1	医療機関	600	認知症疾患医療センター ※1 病院(精神科、神経内科、心療内科、脳神経外科、老年内科) ※1 診療所(精神科、神経内科、心療内科、脳神経外科、老年内科) 自立支援医療(精神通院医療)※2 認知症診断可能な医療機関 ※3	6 88 194 42 270
2	介護サー ビス事業所 ・施設等	992	訪問看護 居宅介護支援 小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護 看護小規模多機能型居宅介護 特別養護老人ホーム 介護老人保健施設 介護療養型医療施設	152 612 33 86 2 66 31
3	障害関係 サービス 事業所	155	就労移行支援事業所 就労継続支援 A 型事業所 就労継続支援 B 型事業所	45 16 94
4	相談機関	131	地域包括支援センター 保健所・保健センター 高次脳機能障害の相談窓口 都相談機関(若年性認知症総合支援センター等)	72 17 36 6

^{※1} 診療科ごとに調査対象としている。※2 2017年1月1日時点で自立支援医療登録されている医療機関。

2-6. 有効回答率

調査対象 1,878 事業所のうち、1,358 事業所から回答があり、有効回答率は、72.3%でした。事業所種類別では、認知症疾患医療センター、保健所・保健センター、都相談機関(若年性認知症総合支援センター等)が 100%、地域包括支援センターが 98.6%、就労移行支援事業所が 91.1%と高い回答率が得られましたが、病院(200 床未満)は41.3%、自立支援医療登録医療機関は52.4%、病院(200 床以上)は57.1%、診療所 57.2%と、認知症疾患医療センター以外の医療機関の回答率は相対的に低くなりました。

図表 2-6-1. 調査対象地域別有効回答数と有効回答率

	対象事業所数	有効回答数	有効回答率
全体	1,878	1,358	72.3%
区別			
豊島区	344	249	72.4%
北区	377	289	76.7%
板橋区	485	352	72.6%
練馬区	666	462	69.3%
都相談機関	6	6	100.0%

^{※3} 認知症の診断が可能な医療機関として、東京都医療機関案内サービス「ひまわり」に登録されている医療機関。

図表 2-6-2. 事業所種類別有効回答数と有効回答率

調査対象事業所	対象数	回答数	回答率	種類	対象数	回答数	回答率
認知症疾患医療センター	6	6	100.0%	医療	600	355	59.1%
病院(200 床以上)	42	24	57.1%				
病院(200 床未満)	46	19	41.3%				
診療所	194	111	57.2%				
自立支援医療登録医療機関(精神通院医療)	42	22	52.4%				
認知症診断(認知症診断可能)	270	173	64.1%				
訪問看護	152	114	75.0%	介護	992	752	75.8%
居宅介護支援	612	475	77.6%				
小規模多機能型居宅介護	33	21	63.6%				
認知症対応型共同生活介護	86	68	79.1%				
看護小規模多機能型居宅介護	2	1	50.0%				
特別養護老人ホーム	66	50	75.8%				
介護老人保健施設	31	19	61.3%				
介護療養型医療施設	10	4	40.0%				
就労移行支援事業所	45	41	91.1%	障害	155	125	80.6%
就労継続支援 A 型事業所	16	14	87.5%				
就労継続支援 B 型事業所	94	70	74.5%				
地域包括支援センター	72	71	98.6%	相談	131	126	96.2%
保健所・保健センター	17	17	100.0%				
高次脳機能障害相談窓口	36	32	88.9%				
都相談機関(若年性認知症総合支援センタ-等)	6	6	100.0%				

2-7. 結果

2-7-1. 若年性認知症の人がいる事業所数

若年性認知症の人がいると回答した事業所数は 134 で、そのうち現在満 65 歳未満の若年性認知症(以下、「現在 65 歳未満」とする)の人がいると回答した事業所は 126 事業所で調査対象事業所全体に占める割合は 6.7%、回答数に占める割合は 9.3%でした。また、現在満 65 歳以上の若年性認知症(以下、「現在 65 歳以上」とする)の人がいると回答した事業所は、109 事業所、同 5.8%、8.0%でした。

図表 2-7-1. 若年性認知症の人がいる事業所

	事業所数	調査対象数に 占める割合 (1,878)	調査回答数に 占める割合 (1,358)
現在満 65 歳未満の若年性認知症の人がいる事業所	126	6.7%	9.3%
現在満 65 歳以上の若年性認知症の人がいる事業所	109	5.8%	8.0%
若年性認知症の人がいる事業所 (上記のいずれか、または、両方)	134	7.1%	9.9%

2-7-2. 現在 65 歳未満/現在 65 歳以上別の人数

把握された若年性認知症の人の総数は 429 人、そのうち現在 65 歳未満の人は 248 人(57.8%)、現在 65 歳以上の人は 181 人(42.2%)でした。

図表 2-7-2. 現在の年齢別の人数

	人数	構成割合
合計	429	100.0%
現在 65 歳未満の人	248	57.8%
現在 65 歳以上の人	181	42.2%

2-7-3. 性別の人数

性別について、「男性」は 217 人 (50.6%)、「女性」は 209 人 (48.7%) でほぼ同数でした。

図表 2-7-3. 性別の人数

	人数	構成割合
合計	429	100.0%
男性	217	50.6%
女性	209	48.7%
(無回答)	3	0.7%

2-7-4. 平均年齢

若年性認知症の人の年齢範囲は 24~81 歳で、平均年齢は 62.4 歳 (現在 65 歳未満の人では 57.7 歳、現在 65 歳以上の人では 68.9 歳) でした。

図表 2-7-4. 現在 65 歳未満/現在 65 歳以上別・性別の平均年齢

	性別	人数	平均年齢±標	準偏差
合計	_	429		62.4±8.3
現在 65 歳未満の人	男性	127	57.4±8.4	
	女性	120	58.1±6.7	57.7±7.6
	(無回答)	1	_	
現在 65 歳以上の人	男性	90	68.3±2.5	
	女性	89	69.5±4.2	68.9±3.5
	(無回答)	2	_	

2-7-5. 年齢階級別の人数

5 歳刻み年齢階級別の人数をみると、現在 65 歳未満では、「60~64 歳」が 145 人 (33.8%) と最も多く、以下、「55~59 歳」が 41 人 (9.6%)、「50~54 歳」が 31 人 (7.2%)の順でした。現在 65 歳以上では、「65~69 歳」が 124 人 (28.9%)と最も多く、以下、「70~74 歳」が 41 人 (9.6%)、「75~79 歳」が 11 人 (2.6%)の順でした。 なお、平均年齢は 62.4 歳でした。

図表 2-7-5. 年齢階級別の状況

年齢階級	人数	構成割合	人数	構成割合
18~19 歳	0	0.0%	248	57.8%
20~24 歳	1	0.2%		
25~29 歳	2	0.5%		
30~34 歳	1	0.2%		
35~39 歳	6	1.4%		
40~44 歳	9	2.1%		
45~49 歳	12	2.8%		
50~54 歳	31	7.2%		
55~59 歳	41	9.6%		
60~64 歳	145	33.8%		
65~69 歳	124	28.9%	181	42.2%
70~74 歳	41	9.6%		
75~79 歳	11	2.6%		
80 歳~	5	1.2%		
合計	429	100.0%		

2-7-6. 発症してからの期間別人数

発症年月については 289 人から回答が得られました。発症してからの期間別人数については、「1~5 年」が 136 人 (47.1%) と最も多く、次いで「6~10 年」が 86 人 (29.8%)、「11~15 年」が 38 人 (13.1%) の順でした。

図表 2-7-6. 発症後期間

発症後からの期間	人数	構成割合
1 年未満	13	4.5%
1~5年	136	47.1%
6~10年	86	29.8%
11~15年	38	13.1%
16~20年	12	4.2%
21 年以上	4	1.4%
合計	289	100.0%

2-7-7. 回答事業所別の人数と一事業所あたりの利用者数

回答事業所別の若年性認知症の人数をみると、居宅介護支援事業所が108人と最も多く、次いで、認知症疾患医療センターが67人、診療所が54人、病院(200 床以上)が42人と続きました。一事業所あたりの平均人数では、認知症疾患医療センターが11.17人と最も多く、病院(200 床以上)が1.75人、病院(200 床未満)が1.47人と続きました。

図表 2-7-7. 回答事業所別の人数と一事業者あたりの利用者数

	回答	** 生			
調査対象事業所	事業所数	若年性認知症 の人数	現在 65 歳 未満の人	現在 65 歳 以上の人	
認知症疾患医療センター	6	67 (11.17)	40 (6.67)	27 (4.50)	
病院(200 床以上)	24	42 (1.75)	32 (1.33)	10 (0.42)	
病院(200 床未満)	19	28 (1.47)	16 (0.84)	12 (0.63)	
診療所	111	54 (0.49)	24 (0.22)	30(0.27)	
自立支援医療(精神通院医療)	22	6 (0.27)	4 (0.18)	2 (0.09)	
認知症診断(認知症診断可能)	173	16 (0.09)	6 (0.03)	10 (0.06)	
訪問看護	114	19 (0.17)	13 (0.11)	6 (0.05)	
居宅介護支援事業所	475	108 (0.23)	53 (0.11)	55 (0.12)	
小規模多機能型居宅介護	21	5 (0.24)	3 (0.14)	2 (0.10)	
認知症対応型共同生活介護	68	18 (0.26)	8 (0.12)	10 (0.15)	
看護小規模多機能型居宅介護	1	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	
特別養護老人ホーム	50	12 (0.24)	4 (0.08)	8 (0.16)	
介護老人保健施設	19	1 (0.05)	1 (0.05)	0 (0.00)	
介護療養型医療施設	4	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	
就労移行支援事業所	41	1 (0.02)	1 (0.02)	0 (0.00)	
就労継続支援 A 型事業所	14	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	
就労継続支援 B 型事業所	70	2 (0.03)	2 (0.03)	0 (0.00)	
地域包括支援センター	71	36 (0.51)	29 (0.41)	7 (0.10)	
保健所・保健センター	17	3 (0.18)	1 (0.06)	2 (0.12)	
高次脳機能障害相談窓口	32	4 (0.13)	4 (0.13)	0 (0.00)	
都相談機関(若年性認知症総合支援センター等)	6	7 (1.17)	7 (1.17)	0 (0.00)	

⁽⁾ 内は一事業所あたりの若年性認知症の人の利用者数。以下の数式で計算した。

[「]一事業所あたりの若年性認知症の人の利用者数」=「若年性認知症の人数」/「回答事業所数」

2-8. まとめと考察

- 一次調査によって、以下のことが明らかになりました。
 - 1) 2018 年 1 月 1 日現在、調査対象地域において 429 人 (男性 217 人、女性 209 人、不明 3 人) の若年性 認知症の人を把握しました。このうち現在 65 歳未満の人は 248 人 (男性 127 人、女性 120 人、不明 1 人) 、 現在 65 歳以上の人は 181 人 (男性 90 人、女性 89 人、不明 2 人) でした。
 - 2) 若年性認知症の人の年齢範囲は 24~81 歳で、平均年齢は 62.4 歳(現在 65 歳未満の人では 57.7 歳、現在 65 歳以上の人では 68.9 歳)でした。
 - 3) 年齢階級別で最も人数が多かったのは、現在 65 歳未満の若年性認知症では 60~64 歳、現在 65 歳以上では 65~69 歳でした。
 - 4) 発症後の期間は、1 ~ 5 年が 47.1%でもっとも多く、6~10 年が 29.8%、11~15 年が 13.1%と続きました。1 年未満は 4.5%でした。
 - 5) 事業所種別でみると、若年性認知症の人が最も多かったのは認知症疾患医療センターで、一事業所あたりの利用者数は11.17人でした。これに続いて多かったのは、200床以上の病院1.75人、200床未満の病院1.47人、都相談機関1.17人、地域包括支援センター0.51人でした。
 - 6) 現在 65 歳未満の若年性認知症に限定してみると、一事業所あたりの利用者数が多い順は、認知症疾患医療センター6.67 人、都相談機関 1.17 人、200 床以上の病院 1.33 人、200 床未満の病院 0.84 人、地域包括支援センター0.41 人でした。
 - 7) 介護保険サービス事業所における若年性認知症の一事業所あたりの利用者数は、認知症対応型共同生活介護 0.26 人(現在 65 歳未満: 0.12 人)、小規模多機能型居宅介護 0.24 人(0.14 人)、特別養護老人ホーム 0.24 人(0.08 人)訪問看護 0.17 人(0.11 人)でした。

本調査には以下のような限界があります。

- 1) 回答率が72.3%であり、特に認知症疾患医療センター以外の医療機関の回答率が相対的に低い。
- 2) 交通の便のよい東京都では、調査対象地域以外の医療機関を利用している若年性認知症の人が一定数いる ことが予測される。
- 3) 現在 65 歳以上の人では、年齢が高くなるほど発症時期が 65 歳未満であることを確認することが難しくなる(本調査においては、現在 65 歳以上の人については、担当者が覚えている範囲での回答で可としています)。

上記のことは、いずれも若年性認知症の人の数を過小評価する要因となります。また、一次調査の段階では、同一の利用者が複数の事業所を利用している場合(重複ケース)の補正をしておりません。このことは若年性認知症の人の数を過大評価する要因になります。以上の限界を踏まえた上で、参考値として、調査対象地域の住民基本台帳上の年齢階級別人口(2018 年 1 月 1 日現在)を分母にして算出した人口 10 万人対の若年性認知症の人の数を図表 2-8 に示します。

図表 2-8 人口 10 万人対の状況

年齢区分	人数	構成比	人口 10 万人対	調査対象地域の人口
現在 65 歳未満	248	57.8%	20.08	1,235,162
現在 65 歳以上	181	42.2%	41.75	433,492
合 計	429	100.0%	25.71	1,668,654

性別	人数	構成比	人口 10 万人対	調査対象地域の人口
男性	217	50.5%	26.52	818,223
女 性	209	48.7%	24.58	850,431
無回答	3	0.7%	_	_
合 計	429	100.0%	25.71	1,668,654

年齢階級	人数	構成比	人口 10 万人対	調査対象地域の人口
18~19	0	0.0%	0.00	29,659
20~24	1	0.2%	0.84	119,714
25~29	2	0.5%	1.37	145,882
30~34	1	0.2%	0.68	147,406
35~39	6	1.4%	4.10	146,209
40~44	9	2.1%	5.80	155,093
45~49	12	2.8%	7.72	155,490
50~54	31	7.2%	23.51	131,875
55~59	41	9.5%	37.85	108,333
60~64	145	33.8%	151.83	95,501
65~69	124	28.9%	108.47	114,319
70~74	41	9.6%	42.10	97,395
75~79	11	2.6%	12.97	84,797
80~	5	1.2%	3.65	136,981
合 計	429	100.0%	25.71	1,668,654

3 二次調査

3-1. 目的

事業所の担当者及び若年性認知症の本人または家族を対象とする調査によって、若年性認知症の人の生活実態を明らかにしました。

3-2. 調査対象

一次調査において若年性認知症の人が「いる」と回答した 134 事業所の担当者及び一次調査において把握された 若年性認知症 429 人(現在 65 歳未満の人 248 人 / 現在 65 歳以上の人 181 人)の本人または家族を対象としました。

3-3. 調査方法

調査対象の事業所担当者宛に二次調査票(「A.担当者票」「B.本人・家族票」)を郵送し、担当者に担当者票の記入・返送を依頼するとともに、担当者から本人または家族に本人・家族票を手渡してもらい、本人または家族に調査票の記入と返送を依頼しました。尚、担当者票、本人・家族票には、それぞれ以下のものをパッケージにして含めました。

- 担当者票:依頼状、返送手順説明、調査票、同意撤回書、東京都若年性認知症総合支援センターリーフレット、返信用封筒(担当者が、対象者ごとに回答の上、調査機関に返送してもらう)
- 本人・家族票:依頼状、返送手順説明、調査票、訪問調査依頼状、同意撤回書、東京都若年性認知症総 合支援センターリーフレット、返信用封筒(本人等が回答の上、調査機関に返送してもらう)

3-4. 調査項目

調査項目は以下の通りです。

A. 担当者票

- ① 疾病の状況:認知症の診断、認知症以外で治療中の病気、既往歴、本人以外で認知症の診断を受けた人
- ② 就労・生活の状況:現在の就労状況、認知症高齢者の日常生活自立度、基本的日常生活動作、BPSD (認知症の行動・心理症状)
- ③ 医療・介護の状況:要介護認定申請状況、要介護度、現在利用しているサービス、障害者手帳取得の有無、 障害年金等の受給の有無
- ④ 必要と考える支援:若年性認知症総合支援センターの周知度と利用の有無、対応や支援に関する意見

B. 本人·家族票

- ① 記入者の続柄
- ② 基本情報:本人の性別・牛年月日、同居者の有無
- ③ 認知症に関連すること:認知症に気づいたときの本人の年齢、最初に気づいた人、最初に気づいた症状、最初に受診した年月、受診した診療科、受診した医療機関を選んだ理由、認知症と診断された時期、診断された医療機関、認知症の病名、認知症以外の病気

- ④ 介護保険の申請・利用:介護保険の申請状況、申請していない理由、要介護度、利用しているサービス
- ⑤ 仕事の状況:発症時の仕事の状況、発症時の職場の対応・配慮、現在の仕事の状況、(発症時に仕事をしていなかった人について)発症時にしていたこと
- ⑥ 現在の暮らし:運転の状況、主たる収入、発症後の世帯の収入の状況、現在の家計の状況、養育を必要とする子供の有無
- ② 本人・家族が必要と考える支援:本人や家族が考える必要な情報、本人や家族が考える暮らしの中での困りごと、家族介護者・家族全体のこと、通いの場として必要と考えるもの、症状に気づいたとき家族以外で最初に相談した人、若年性認知症に関する情報をどこから得たか、若年性認知症総合支援センターの周知度と利用状況、現在の日中の過ごし方、対応や支援に関する意見・要望

3-5. 調査期間

2018年9月上旬 ~ 2018年11月16日

3-6. 有効回答率と集計対象票の選定

1) 回答数と有効回答率

担当者票は 167 票を回収し、全票が有効回答で、有効回答率は 38.9%でした。本人・家族票は 83 票を回収 し、うち 9 票が無効回答、74 票が有効回答で、有効回答率は 17.2%でした。

2) 二次調査集計対象票の選定

二次調査の集計にあたっては、本人・家族票から回答が得られ、調査について同意が得られたもののみを集計対象としました。また、同一の対象者についての重複回答を検討したところ、担当者票では3人の対象者についてそれぞれ2票ずつの重複票があり、本人・家族票では4人の対象者についてそれぞれ2票ずつの重複票がありました。その結果、担当者票からは3票、本人・家族票からは4票を集計対象から除外しました。

以上の結果、担当者票については計64票、本人・家族票については70票が集計の対象票になりました。

	担当者票	本人·家族票	対象者数	重複票 処理	担当者票 集計	本人·家族票 集計
4	0	0	67	▲3	64	64
	0	なし	100			
(1)	なし	0	7	▲1		6
			174		64	70

図表 9 二次調査集計対象票の選定

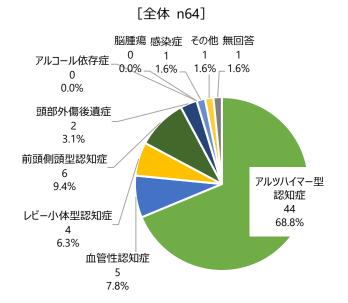
3-7. 担当者票の集計結果

担当者票 64 票のうち、36 票は現在 65 歳未満の人、28 票は現在 65 歳以上の人の票でした。以下、全数 (n=64) と現在 65 歳未満の人 (n=36) の2群にわけて集計結果を報告します。

3-7-1. 認知症の診断

認知症の診断は、「アルツハイマー型認知症」が44人(68.8%)と最も多く、次いで、「前頭側頭型認知症」が6人(9.4%)、「血管性認知症」が5人(7.8%)と続きました。現在65歳未満でも、「アルツハイマー型認知症」が最も多く、「血管性認知症」、「レビー小体型認知症」、「前頭側頭型認知症」は同数でした。

図表 3-7-1. 認知症の診断



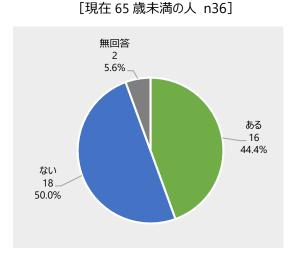
「現在 65 歳未満の人 n36] 無回答 脳腫瘍 感染症 アルコール 0 その他 2.8% 依存症 0.0% 2.8% 0 2,8% 0.0% 頭部外傷 後遺症 2 5.6% 前頭側頭 アルツハイマー型 型認知症 認知症 3 22 8.3% 61.1% レビー小体型 認知症 血管性認 3 知症 8.3% 3 8.3%

3-7-2. 認知症以外の治療中の病気

認知症以外の治療中の病気について、「ある」が 33 人 (51.6%)、「ない」が 28 人 (43.8%) でした。現在 65 歳未満では、「ある」としたのは 16 人 (44.4%) でした。具体的な病名では、頻度が高い順に、高血圧症 12 人、脂質異常症 6 人、糖尿病 4 人、うつ病または躁うつ病 3 人、てんかん 2 人、痛風 2 人、前立腺肥大症 2 人で、現在 65 歳未満では、高血圧症 5 人、脂質異常症 2 人、うつ病 2 人、てんかん 2 人の順番でした。

図表 3-7-2. 認知症以外の治療中の疾患





3-7-3. 既往歷

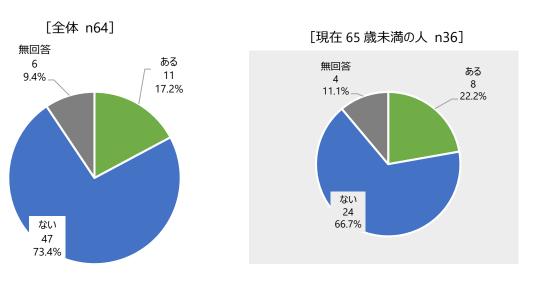
既往歴について、「ある」が 29 人 (45.3%)、「ない」が 30 人 (46.9%) とほぼ同数でした。現在 65 歳未満でも同様の結果でした。具体的な病名では、頻度が高い順に消化器系疾患(鼠径ヘルニア、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性便秘症、胆石など)9 人、呼吸器系疾患(気管支喘息、肺炎など)5 人、整形外科疾患(骨折など)4 人、泌尿器科疾患(尿管結石など)4 人、悪性腫瘍(乳がん、悪性リンパ腫、前立腺がん)3 人、頭部外傷 2 人、てんかん 2 人でした。現在 65 歳未満では、消化器系疾患 4 人、整形外科疾患 3 人、呼吸器系疾患 2 人、頭部外傷 2 人の順番でした。

[全体 n64] [現在 65 歳未満の人 n36] 無回答 無回答 2 7.8% 5.6% ある ある 29 17 45.3% 47.2% ない ない 30 47.2% 46.9%

図表 3-7-3. 既往歴

3-7-4. 家族の認知症の診断

家族の認知症の診断について、「ある」は 11 人(17.2%)、「ない」が 47 人(73.4%)でした。現在 65 歳未満でも「ない」が 24 人(66.7%)と 3 分の 2 を占めていました。



図表 3-7-4. 家族の認知症の診断

3-7-5. 就業(収入を伴う仕事)

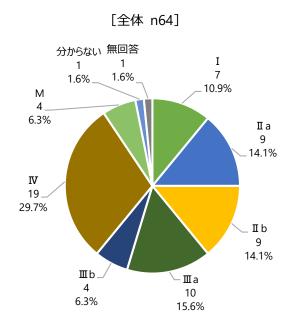
就業(収入を伴う仕事)について、現在就業中の方は 1 割、就業していない方は 9 割でした。就業していない 場合の内訳は、「定年前に自己退職」が25人(42.4%)と最も多く、「定年退職」が11人(18.6%)、「解雇」 が 6 人 (10.2%) 、「仕事に就いたことがない」が 11 人 (18.6%) でした。

[現在 65 歳未満の人 有効 n32] [全体 n59] 30 (人) 10 20 今まで通りの職場 今まで通りの職場 職場は同じだが配置転換 職場は同じだが配置転換 一旦退職、別の職場に再就職 6 (18.8%) 一旦退職、別の職場に再就職 6 (10.2%) 休職中 休職中 5 (15.6%) 定年退職 11 (18.6%) 定年退職 13 (40.6%) 25 (42.4%) 定年前に自己退職 定年前に自己退職 解雇 2 (6.3%) 6 (10.2%) 仕事に就いたことはない 6 (18.8%) 11 (18.6%) 仕事に就いたことはない

図表 3-7-5. 就業(収入を伴う仕事)

3-7-6. 認知症高齢者の日常生活自立度

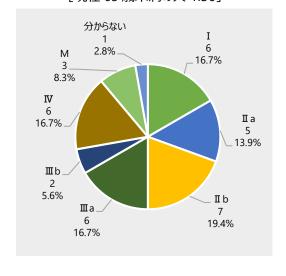
認知症高齢者の日常生活自立度は、「自立度IV」が 19 人 (29.7%) と最も多く、次いで、「自立度Ⅲa」が 10 人(15.6%)の順でした。現在 65 歳未満では、「自立度 I 」~「自立度 II b」で約 5 割を占め、比較的軽度の方 の割合が高くなりました。



認知症高齢者の日常生活自立度 図表 3-7-6.



15 (人)



3-7-7. 日常生活動作(ADL)

日常生活動作(ADL)について、歩行および食事では「自立」が 65%前後でしたが、排せつ、入浴、着脱衣では、自立は40~50%にとどまりました。現在65歳未満では、いずれの項目についても、全体に比べて「自立」の割合が5~10ポイント程度高くなっていました。

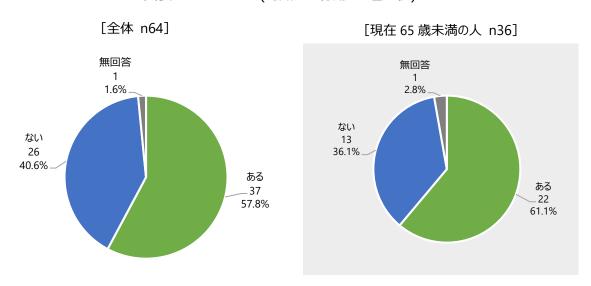
[全体 n60] 「現在 65 歳未満の人 n36] ■自立 ■一部介助 ■全介助 ■不明 ■無回答 ■自立 ■一部介助 ■全介助 ■不明 ■無回答 0% 60% 20% 40% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100% 1.6% 2.8% 歩行 65.6% 10.9% 17.2% 歩行 72.2% 11.1%<mark>13.9%</mark> 2.8% 1.6% 食事 72.2% 13.9%<mark>11.1%</mark> 食事 64.1% 17.2% 17.2% 2.8% 1.6% 排泄 **16.7%** 2.8% 16.7% 61.1% 排泄 50.0% 21.9% 25.0% 1.6% 1.6% 入浴 55.6% 22.2% **16.7%** 2.8% 入浴 42.2% 23.4% 31.3% 1.6% 2.8% 1.6% 30.6% 着脱衣 52.8% 着脱衣 43.8% 28.1% 26.6%

図表 3-7-7. 日常生活動作(ADL)

3-7-8. BPSD(認知症の行動・心理症状)

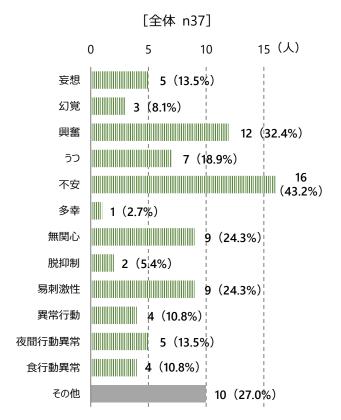
BPSD(認知症の行動・心理症状)について、「ある」が37人(57.8%)、「ない」が26人(40.6%)でした。「ある」 とした37人のうち、「不安」が16人(「ある」のうち43.2%)と最も多く、次いで、「興奮」が12人(同32.4%)、「無関心」、「易刺激性」が9人(24.3%)の順でした。

現在 65 歳未満では、「ある」の割合が若干高く、具体的な内容は、「不安」が 50.0%、「うつ」が 27.3%でした。

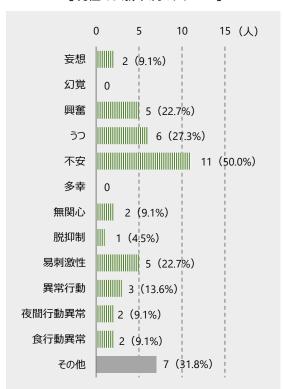


図表 3-7-8. BPSD(認知症の行動・心理症状)

(「ある」場合の具体的な内容)



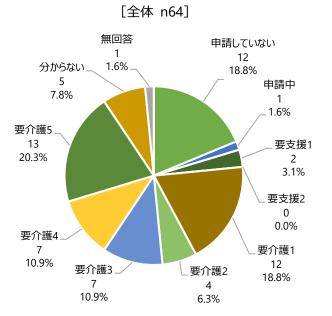
[現在 65 歳未満の人 n22]



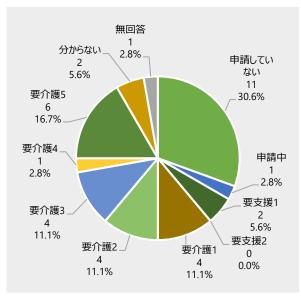
3-7-9. 要介護認定

要介護認定は、「要介護 5」が 13 人(20.3%)と最も多く、「要介護 1」が 12 人(18.8%)と続きました。他方、「申請していない」は 12 人(18.8%)でした。申請していない 12 人のうち、11 人は、現在満 65 歳未満の認知症の人でした。

図表 3-7-9. 要介護認定(申請・要介護度)

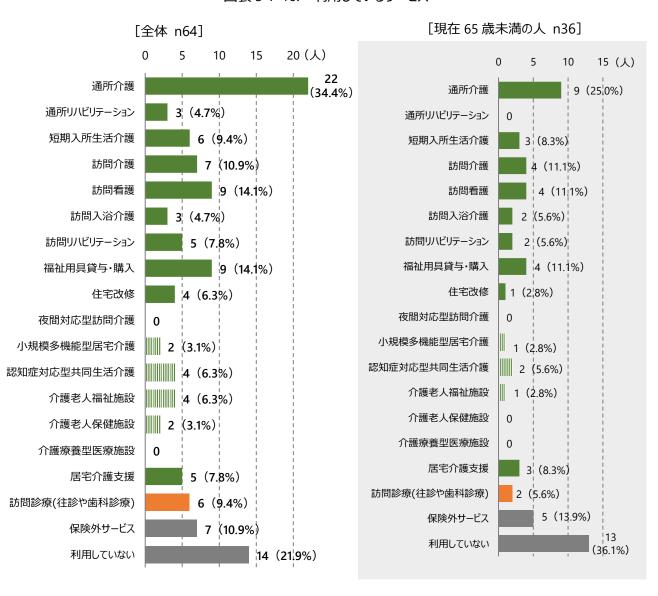






3-7-10. 利用しているサービス(複数回答)

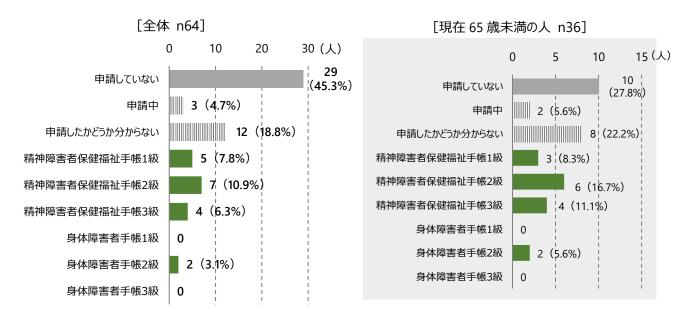
利用しているサービスについて、「通所介護」が 22 人 (34.4%) と最も多く、次いで、「訪問看護」、「福祉用具貸与・購入」が 9 人 (14.1%) でした。また、「訪問診療(往診や歯科診療)」は 6 人 (9.4%)、「利用していない」が 14 人 (21.9%) でした。現在 65 歳未満では、一定程度のサービス利用はありますが、「利用していない」が 13 人 (36.1%) と最も多くなりました。



図表 3-7-10. 利用しているサービス

3-7-11. 障害者手帳の取得

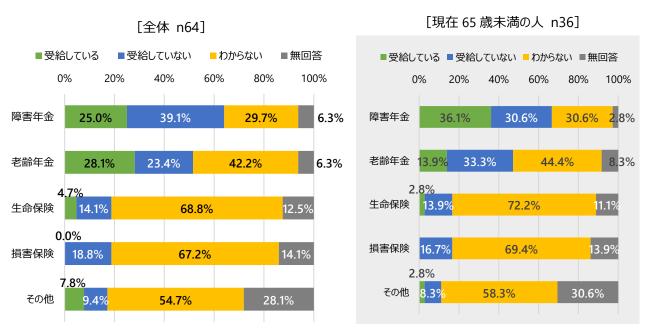
障害者手帳の取得の状況は、「申請していない」が 29 人 (45.3%) と最も多く、「申請したかどうか分からない」 が 12 人 (18.8%) と続きました。精神・身体のいずれかの手帳を取得しているうちでは、「精神障害者保健福祉手帳 2 級」が 7 人 (10.9%) と最も多くなりました。現在 65 歳未満でも、概ね同様の結果でした。



図表 3-7-11. 障害者手帳の申請・取得状況

3-7-12 障害年金などの受給

障害年金などの受給の状況は、障害年金で 25.0%、老齢年金で 28.1%が「受給している」という回答でした。 障害年金を受給していないという回答は39.1%、現在65歳未満では30.6%でした。 その他、生命保険や損害保険は、「受給している」はほとんどなく、「わからない」が3分の2を占めました。



図表 3-7-12. 障害年金等の受給状況

3-7-13. 「若年性認知症総合支援センター」について(複数回答)

「若年性認知症総合支援センター」の利用等については、「知らなかった」が 23 人 (35.9%) と最も多く、次いで、「知っているが相談したことはない」が 17 人 (26.6%)、「受診者・利用者に案内したことがある」が 12 人 (18.8%)の順でした。

[全体 n64] [現在 65 歳未満の人 n36] 0 30 (人) 10 20 10 (人) 受診者・利用者のことで相談し 受診者・利用者のことで相談したこと 6 (16.7%) (10.9%) たことがある がある 受診者・利用者に案内したこと 7 (19.4%) 12 (18.8%) 受診者・利用者に案内したことがある がある 10 知っているが相談したことはない 17 (26.6%) (27.8%) 知っているが相談したことはない 知っているが案内したことはない 4 (11.1%) 8 (12.5%) 知っているが案内したことはない 10 知らなかった (27.8%) 知らなかった (35.9%)

図表 3-7-13. 「若年性認知症総合支援センター」について

3-7-14. 若年性認知症の人への対応や支援に関する意見・要望

若年性認知症の方への対応や支援についての事業所担当者からのご意見・ご要望について、現在 65 歳未満/ 現在 65 歳以上別に、以下に主なものを掲載しました。

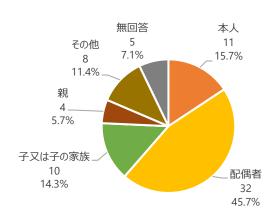
図表 3-7-14. 若年性認知症の人への対応や支援に関する意見・要望

現在65歳	1	診断中に、難病申請、自立支援等説明した。(MSW につなぐ)
未満の人	•	本例は会社員として在職中に発症したが、当初はストレスによるうつ状態等が考えられた。病院も受診
		し、認知症が疑われているが本人の回復への期待と診断への恐れがあり、評価が後手となりその間に自
	2	主退職を余儀なくさせられている。就労先との調整や早期にバイオマーカー診断を受ける機会があれば、
		 様々な紆余曲折やタイムラグを減らすことができたと考えられる。
	3	社会参加の概念を充実させてほしい。
	4	若年性認知症の方の支援センターが、各地域にあればより利用しやすいと思います(遠方で PSW に紹
	4	介してもらっても、利用しないことが多いため)。
	5	高次脳機能障害や若年性認知症の理解や啓蒙をより一層推進して、国民の理解をさらに進めてほし
	ס	را _ه
	6	生保担当者に知識があれば、もう少し早い段階で精神科につながった可能性もあったと思われる。
	7	若い方達だけのリハビリ施設などがあれば、もっと通いやすいと思う。
		若年認知症サポートセンターで学習し、若年認知症専門員として若年認知症の方への理解を深めたい
	8	と考え接していますが、1年間経過でADL低下していくのは著しいと見受けられました。若年認知症の方
		たちに対する専門のデイサービスがオープンするといいです
	9	カフェに参加したい意見あり、紹介している。若年認知症の会に 1 度参加したが、合わなかったとのこと。
	J	目黒は遠方なので、難しいらしい。ボランティアがあれば行きたい。
	10	認知症について、ご主人が症状に応じていくつかの専門病院を受診させ、その後の処方依頼に応じて当
		院で対応をしている。趣旨が異なる内容で申し訳ありません。
		動作は自立しているため、月 5 か所通院+言語リハビリ3 回+元気教室3回、一人で行っている。一人
		でいるより人といたい、役に立ちたいという思いが強く、友人との食事会や旅行も多い。今後トラブル多く
	11	なりそう。薬は薬局4~5か所行き、毎回違う薬局に行ったりしていたが、時間をかけて薬局を1か所にま
		とめ、全科を合わせて、1 日 2 回の服薬にしているが、週によっては未服用が 4~5 まであり、増えるよう
		│なら要検討。独居で訪看は週1回、最近室内ごみ臭が目立ち、煮物等の調理をした鍋、これ誰が作っ │たのだろうと全く覚えていないこともあり、生活実態の把握は限界があり、介入最小限。本人の身近にい
		ためたつうと主く見えていないことものう、生活実態の指揮は成界があり、八人最小限。本人の身近にい る友人たちが、若年性認知症をどれだけ理解して関わっているか。世間一般の若年性認知症の理解が
		る及人につか、石牛圧認知症をとれたり達解して関わりているか。臣間 一般の石牛圧認知症の達解が 大切だと考える。
	12	ケースが少なく、スタッフ一同ケアに不慣れである。情報量も少なく、不安を抱えながら支援している。
	13	サービスは、どうしても高齢の方ばかり。医療保険でのデイ(自立支援)も身近にありませんので、遠いとこ
		るに通っています。若年性認知症はまだまだ体力もあります。残された機能を活かせる場が欲しいです。
		当区は、今年度より 65 歳以上の高齢者以外に若年性の方も、おむつ補助が出るようになりました。2
		~3 年前から、行政にお願いしていたことです(予算を取ってもらうこと)。お金も継続的にかかるので、
	1.4	色んな支援があるとよいと思う。今後かかるお金への不安が大きいと感じました(ご主人定年後の、経
	14	済面の心配)。高齢者が聞く曲より若い世代の曲が好きなど、その方の今までの生活に近い支援がで
		きるとよいと思う。 就労につながる支援ができるとよい (自分の存在価値が感じられ、人の役に立っている
		と思われること)。

現在65歳	15	地域にある若年性認知症カフェ、オレンジカフェを紹介していただきたい。
未満の人	16	自分の症状を理解したり認めない場合は、とても支援が難しいと感じています。次につなげる資源がなく
	10	困っています。
	17	本人の両親を担当していたが、本人も関係者もうつ病等の精神疾患と思っていた。
現在65歳		本例は、夫が自営業を営み仕事を休めないため、同居していない家族が通院に付き添い、病状を正確
以上の人	1	に把握するのが極めて困難だった。診断や通院のために、病院に通院するうえでの様々なサポートがあれ
		ば、時間やタイミングを労せず、適切な診断・治療を迅速に行うことができたと考えられる。
	2	認知症という病名に対して、拒否がある方も多いと思います。その点において何かよい手があればいいで
		すが。
	3	遠方であるため、利用できないケースが多い。適切なデイサービス等が無く空白となり易い
	,	本人が病気を受容していても、ご家族が受容できず外とのつながりを絶つことが起こっている。本人は、社
	4	会とつながりたいと思っている。支援に困っている状況である。
		支援センターは、主として就労していて発症した方々の援助が、主のように感じられますが、60 歳代で発
	5	症したケースの場合、介護保険制度上では年齢の若い年代にあたり、外部交流サービスの参加も年齢
		の高い方の中に入り込むことは困難な場合が多いです。
	6	介護保険のサービスでは、年齢層が合わず利用しづらい。

3-8. 本人・家族票の集計結果

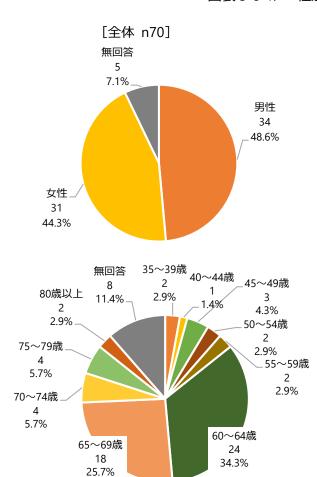
本人・家族票 70 のうち、40 は現在 65 歳未満、30 は現在 65 歳以上の票でした。本人・家族票のうち、本人の記入によるものは 11 票 (15.7%)、配偶者が 32 票 (45.7%)、子または子の家族が 10 票 (14.7%)、親が 4 票 (5.7%)でした。以下、全数 (n=70) と現在 65 歳未満の人 (n=40)の 2 群にわけて集計結果を報告します。



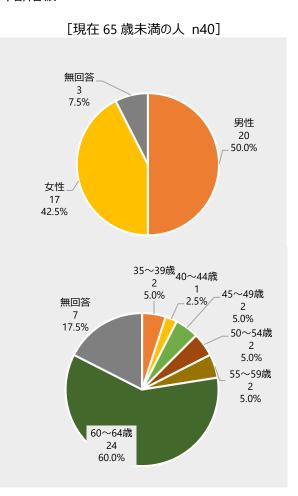
図表 3-8. 本人・家族票の記入者の続柄

3-8-1. 性別と年齢

性別は、「男性」が34人(48.6%)、「女性」が31人(44.3%)、「無回答」が5名(7.1%)でした。 年齢を5歳刻み階級でみると、「60~64歳」が24人(34.3%)と最も多く、次いで、「65~69歳」が18人(25.7%)、「70~74歳」、「75~79歳」がそれぞれ4人(5.7%)でした。

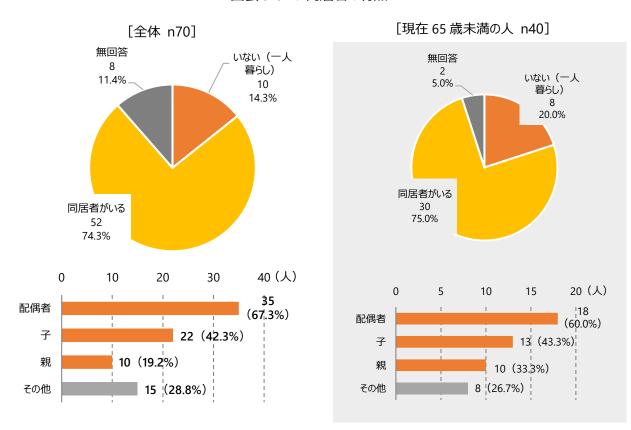


図表 3-8-1. 性別・年齢階級



3-8-2. 同居者の有無

同居者について、「いない(一人暮らし)」が10人(14.3%)、「同居者がいる」が52人(74.3%)でした。具体的な同居者としては、「配偶者」が35人(「同居者がいる」のうち67.3%)、「子」が22人(同42.3%)でした。 現在65歳未満の人でも、「同居者がいる」が4分の3を占めていました。



図表 3-8-2. 同居者の有無

3-8-3. 認知症に気づいた年齢

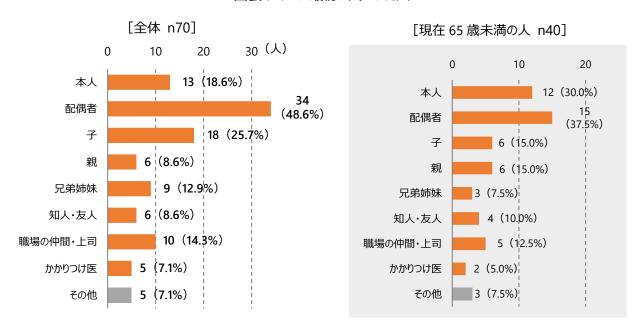
認知症に気づいた年齢は、「60~64 歳」が 24 人 (34.3%) と最も多く、次いで、「55~59 歳」が 13 人 (18.6%)、「50~54 歳」が 9 人 (12.9%)の順でした。

[全体 n70] [現在 65 歳未満の人 n40] 30~34歳 無回答 35~39歳 2 無回答 30~34歳 8 35~39歳 40~44歳 2.9% 3 2 2 11.4% 3 7.5% 5.0% 2.9% 5.0% 4.3% 65~69歳 40~44歳 60~64歳 45~49歳 6 10 3 8.6% 5.0% 25.0% 4.3% 45~49歳 50~54歳 9 7.5% 12.9% 60~64歳 55~59歳 24 50~54歳 55~59歳 13 34.3% 18.6% 22.5% 27 22.5%

図表 3-8-3. 認知症に気づいた年齢

3-8-4. 最初に気づいた人(複数回答)

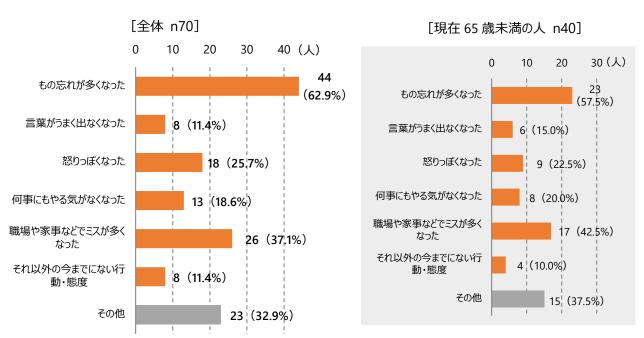
最初に気づいた人については、「配偶者」が34人(48.6%)と最も多く、次いで、「子」が18人(25.7%)、「本人」が13人(18.6%)の順でした。現在65歳未満の人では、「配偶者」が最も多い点は同様でしたが、「本人」が12人(30.0%)と次に多い点が異なっていました。



図表 3-8-4. 最初に気づいた人

3-8-5. 最初に気づいた症状(複数回答)

最初に気づいた症状としては、「もの忘れが多くなった」が 44 人 (62.9%) と最も多く、次いで、「職場や家事などでミスが多くなった」が 26 人 (37.1%)、「怒りっぽくなった」が 18 人 (25.7%) の順でした。現在 65 歳未満の人でも、ほぼ同様の結果となりました。



図表 3-8-5. 最初に気づいた症状

その他の具体的内容について、現在65歳未満/現在65歳以上の人別に、以下に主なものを掲載します。

現在 65 歳	1	② クタを作りたがたない、②電話の仁言 Jエを ガ に仁うていない
	1	①夕食を作りたがらない。②電話の伝言メモを、私に伝えていない。
未満の人	2	動作が鈍くなった。
	3	字が書けなくなった
	4	子と前日などの事で「言った」「聞いていない」の言い争いが増えた
	5	電車・バスに乗れなくなった。待ち合わせができない。
	6	人が怖い、胸がどきどき、眠れない他多数
	7	針が持てなくなった
		何を話しかけても「はい」と気持ちのない返答をする。実行していないのに、「やった」と言い張るが、すぐ露
	8	呈する。嘘が多くなる。挙動不審
	9	時計を見間違える。
	10	一時的に目の前が真っ暗になった。耳は聞こえていた。
	11	自宅がゴミ屋敷、熱中症で救急搬送
	12	排尿もわからなくなる。
	13	笑った後の最後が同じトーン
	14	歩行困難、右足まひのため不自然な歩行
TD+ cs 45	4	
現在 65 歳	1	目的地に行くことができなくなった。
以上の人	2	夜中に色々な人間が現れると騒ぎだしたり、襲ってきたりすると言い出し、110番に電話したり救急車を
		呼んだりしだす。

現在 65 歳	1	目的地に行くことができなくなった。
以上の人	ſ	夜中に色々な人間が現れると騒ぎだしたり、襲ってきたりすると言い出し、110 番に電話したり救急車を
	2	呼んだりしだす。
	3	浮き沈みが激しくなった。
	4	会社に行けなくなった。仕事は?と聞くと、部下がするから後から会社に行くとか言っていました。
	5	メモなどの文章がおかしくなっていた。
	6	小銭が使えなくなった。料理ができなくなった。
	7	うつ病、微熱が続く。昼間なのに暗くする(雨戸・カーテン閉める)。
	8	人前で話すことに、極度の緊張感。その日が近づくと落ち着かなくなる。同じことを、何度も聞く。

3-8-6. 最初に受診した時期・診療科

最初に受診した時期、および、気づいた時期についてともに回答のあった 41 人について、気づきから受診までの期間をみると、「1 ヵ月未満」が 16 人 (39.0%) と最も多く、次いで、「1~3 ヵ月未満」が 10 人 (24.4%)、「6 ヵ月~1 年未満」が 6 人 (14.6%)の順でした。

また、最初に受診した診療科では、「精神科」が 17 人 (24.3%) と最も多く、次いで、「一般内科」が 14 人 (20.0%)、「もの忘れ外来」が 12 人 (17.1%)の順でした。

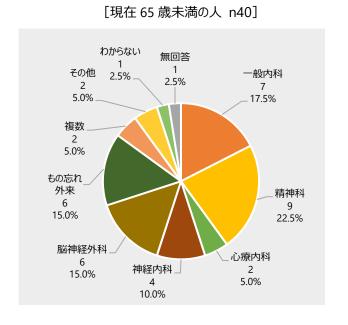
図表 3-8-6-1. 気づきから受診までの期間

[全体 有効 n41] 2年以上 2 1~2年未満 4.9% 3 7.3% 6ヵ月~1年 1ヵ月未満 未満 16 6 39.0% 14.6% 3~6ヵ月未満 1~3ヵ月 4 9.8% 未満 10 24.4%

[現在 65 歳未満の人 有効 n22] 2年以上 0.0% 1~2年未満 4.5% 6ヵ月~1年 未満 1ヵ月未満 8 36.4% 18.2% 3~6ヵ月. 未満 2 1~3ヵ月 9.1% 未満 31.8%

図表 3-8-6-2 受診した医療機関の診療科

[全体 n70] 無回答 わからない その他 4.3% 2 1.4% 一般内科 2.9% 14 20.0% 複数 3 4.3% もの忘れ 外来 12 精神科 17.1% 17 24.3% 脳神経外科 10 心療内科 14.3% 神経内科_ 2 6 2.9% 8.6%



3-8-7. 受診した医療機関を選んだ理由

最初に受診した医療機関を選んだ理由について、「近隣だから」が 19 人 (27.1%) と最も多く、次いで、「かかりつけ医だから」が 17 人 (24.3%)、「家族や知人に紹介された」が 11 人 (15.7%) の順でした。

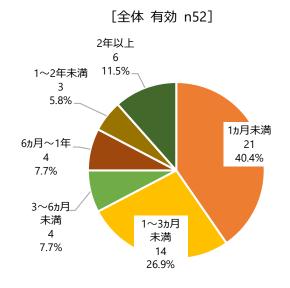
「現在 65 歳未満の人 n40] [全体 n70] 0 5 20 (人) 10 15 10 15 (人) かかりつけ医だから 10 (24.3%) かかりつけ医だから (25.0%) 認知症の専門医療機関だから 認知症の専門医療機関だか 10 (14.3%) 5 (12.5%) 5 医療機関から紹介 6 (8.6%) 医療機関から紹介 3 (7.5%) 医療機関以外の地域包括 医療機関以外の地域包括等から紹介 5 (7.1%) 4 (10.0%) 等から紹介 テレビや新聞などで知った 0 テレビや新聞などで知った 0 インターネットや専門誌を検 インターネットや専門誌を検索した 5 (7.1%) 1 (2.5%) 索した 家族や知人に紹介された 11 (15.7%) 家族や知人に紹介された 3 (7.5%) 19 15 (37.5%) 近隣だから 近隣だから (27.1%) 17 10 ¦ その他 その他 (24,3%) (25.0%)

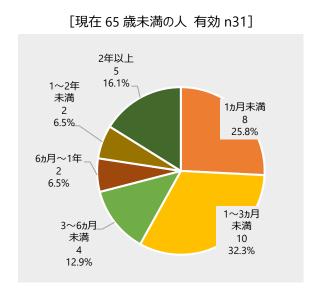
図表 3-8-7. 受診した医療機関を選んだ理由

3-8-8. 診断の時期と診断医療機関

診断の時期、および、最初に受診した時期についてともに回答のあった 52 人について、最初の受診から診断までの期間をみると、「1ヵ月未満」が 21 人 (40.4%) と最も多く、次いで、「1~3ヵ月未満」が 14 人 (26.9%)、「2 年以上」が 6 人 (11.5%) の順でした。3ヵ月のうちに 3分の2が診断に至っていた一方で、全体では 17%、現在 65歳未満では 23%の人が、受診から診断までに1年以上を要しました。

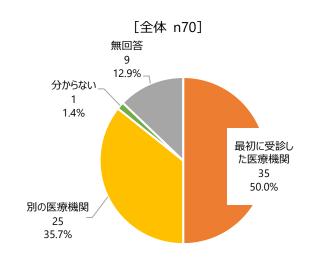
図表 3-8-8-1. (最初の受診から)診断までの期間(有効 n52)

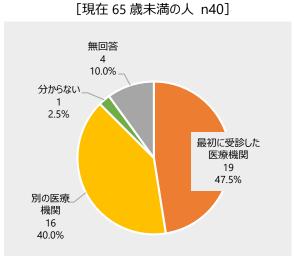




診断を受けた医療機関について、「最初に受診した医療機関」が 35 人 (50.0%) と半数を占め、「別の医療機関」は 25 人 (35.7%) でした。

図表 3-8-8-2. 診断医療機関 (n70)





3-8-9. 認知症の具体的な病名

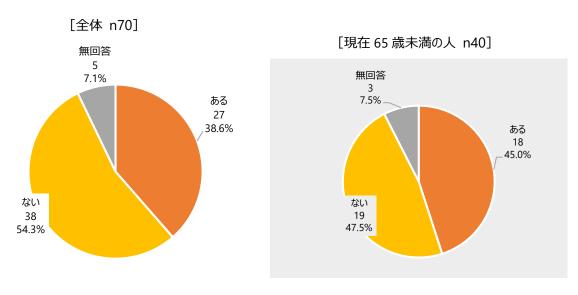
認知症の具体的な病名は、「アルツハイマー型認知症」が46人(65.7%)と最も多く、次いで、「前頭側頭型認知症」が7人(10.0%)、「血管性認知症」が5人(7.1%)でした。現在65歳未満の人では、「アルツハイマー型認知症」が最も多い点は同様でしたが、第2位は「血管性認知症」でした。

[全体 n70] [現在 65 歳未満の人 n40] 病名は聞いて 病名は聞い いない ていない その他 1 その他 2.5% 1.4% 11.4% 17.5% 前頭側頭型 前頭側頭型 認知症 認知症 7 2 10.0% 5.0% アルツハイマー型 認知症 レビー小体型 レビー小体型 25 アルツハイマー型 62.5% 認知症 認知症 認知症 3 46 5.0% 4.3% 65.7% 血管性認知症 血管性認知症 7.5% 5 7.1%

図表 3-8-9. 認知症の病名

3-8-10. 認知症以外の病気

認知症以外の病気について、「ある」が 27 人(38.6%)、「ない」が 38 人(54.3%)でした。現在 65 歳未満の人では、「ある」とした割合が相対的に高くなりました。



図表 3-8-10. 認知症以外の病気

「ある」と回答した27人について、認知症以外の病気の病名は、頻度の高い順に高血圧症5人、糖尿病4人、

てんかん 3 人、うつ病 2 人、パーキンソン病 2 人、脳血管疾患 2 人、悪性腫瘍 2 人、呼吸器疾患(肺炎、気管支喘息)2 人、その他の神経疾患(脊髄小脳変性症、筋強直性ジストロフィー)2 人、耳鼻科疾患 2 人、眼科疾患 1 人、皮膚科疾患 1 人、甲状腺機能低下 1 人、前立腺肥大症 1 人、脂質異常症 1 人でした。

3-8-11. 介護保険の申請

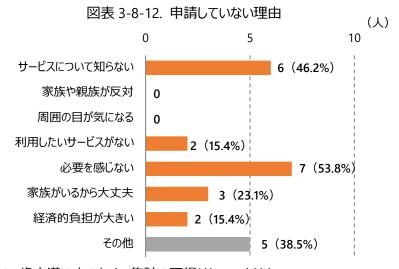
介護保険の申請について、「申請した」が 54 人 (77.1%) と最も多く、「申請していない」は 13 人 (18.6%) でした。申請していない 13 人はいずれも現在 65 歳未満の人でしたが、現在 65 歳未満の人だけでみると、申請していない人は 32.5%と約 3 分の 1 を占めていました。

[全体 n70] [現在 65 歳未満の人 n40] 無回答 申請していない 1 13 1.4% 18.6% 申請していない 申請中 13 32.5% 1.4% 申請した 申請中 かどうかわ 申請した からない 2.5% 25 申請した 1 62.5% 1.4% 申請したか 54 どうかわから 77.1% ない 2.5%

図表 3-8-11. 介護保険の申請

3-8-12 「申請していない」場合の理由 (n13)

申請していない場合の理由について、「必要を感じない」が 7 人 (53.8%) と最も多く、次いで、「サービスについて知らない」が 6 人 (46.2%)、「家族がいるから大丈夫」が 3 人 (23.1%)の順でした。

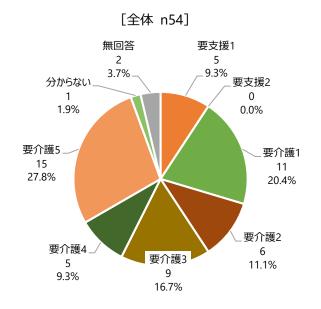


※対象が全て現在65歳未満の人のため、集計の再掲はしていません。

3-8-13. 「申請した」の場合の要介護度

介護保険の申請をした場合の要介護度について、「要介護 5」が 15 人 (27.8%) と最も多く、次いで、「要介護 1」が 11 人 (20.4%)、「要介護 3」が 9 人 (16.7%)の順でした。 現在 65 歳未満の人でも、同様の結果でした。

図表 3-8-13. 要介護度



無回答 要支援1 2 8.0% 要支援2 分からない 4.0% 0.0% 4.0% 要介護1 要介護5 20.0% 28.0% 要介護2 要介護4 4 16.0% 要介護3 0

20.0%

0.0%

[現在 65 歳未満の人 n25]

3-8-14. 「申請した」場合の現在の利用サービス(複数回答)

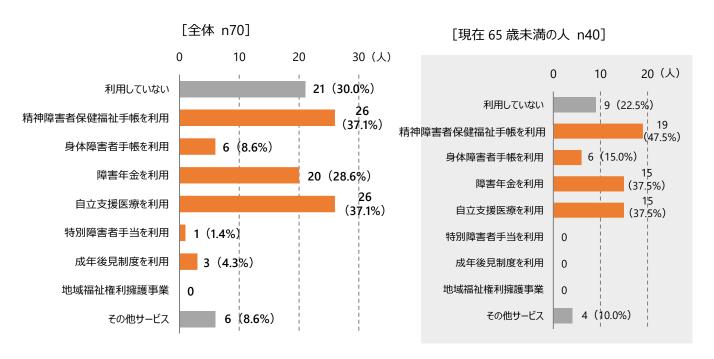
同じく、申請した場合の現在の利用サービスについて、「通所介護」が 24 人 (44.4%) と最も多く、次いで、「訪問看護」が 10 人 (18.5%)、「短期入所生活介護」、「福祉用具貸与・購入」、「その他」が 9 人 (16.7%)の順でした。 現在 65 歳未満の人でも、 概ね同様の結果でした。

[全体 n54] [現在 65 歳未満の人 n25] 10 20 (人) 10 (人) 24 通所介護 (44.4%) 10 通所介護 (40.0%) 通所リハビリテーション 6 (11.1%) 通所リハビリテーション 2 (8.0%) 短期入所生活介護 9 (16.7%) 短期入所生活介護 3¹ (12.0%) 訪問介護 7 (13.0%) 訪問介護 4 (16.0%) 訪問看護 10 (18.5%) 訪問看護 5 (20.0%) 訪問入浴介護 4 (7.4%) 3 (12.0%) 訪問入浴介護 訪問リハビリテーション 4 (7.4%) 訪問リハビリテーション 3¹ (12.0%) 福祉用具貸与·購入 9 (16.7%) 福祉用具貸与·購入 4 (16.0%) 3 (5.6%) 住宅改修 2 (8.0%) 住宅改修 夜間対応型訪問介護 夜間対応型訪問介護 0 0 小規模多機能型居宅介護 1 (4.0%) 小規模多機能型居宅介護 2 (3.7%) 1 (4.0%) 認知症対応型共同生活介護 認知症対応型共同生活介護 3 (5.6%) 介護老人福祉施設 1 (4.0%) 介護老人福祉施設 5 (9:3%) 介護老人保健施設 0 介護老人保健施設 1 (1.9%) 介護療養型医療施設 介護療養型医療施設 居宅介護支援 5 (20.0%) 居宅介護支援 8 (14.8%) 訪問診療(往診や歯科診療) 2 (8.0%) 訪問診療(往診や歯科診療) 6 (11.1%) その他 6 (24.0%) その他 9 (16.7%) 利用していない 5 (20.0%) 利用していない 7 (13.0%)

図表 3-8-14. 現在の利用サービス

3-8-15. 公的なサービスや支援の利用(複数回答)

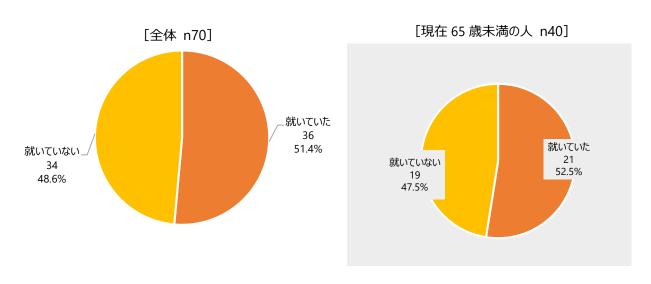
公的なサービスや支援の利用について、「精神障害者保健福祉手帳を利用」、「自立支援医療を利用」がそれぞれ 26 人 (37.1%) と多く、「障害年金を利用」が 20 人 (28.6%) と続きました。一方、「利用していない」は 21 人 (30.0%) でした。 現在 65 歳未満の人では、「精神障害者保健福祉手帳を利用」が 19 人 (47.5%) で最多でした。



図表 3-8-15. 現在利用の公的サービス

3-8-16. 発症時の就業状況

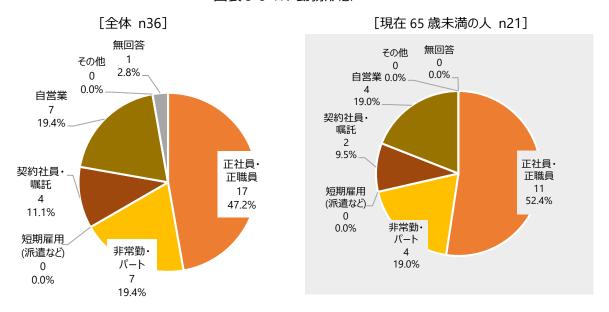
発症時の就業状況について、「就いていた」が36人(51.4%)、「就いていない」が34人(48.6%)とほぼ同数でした。現在65歳未満の人では、「就いていた」が52.5%と若干割合が高くなりました。



図表 3-8-16. 発症時の就業状況

3-8-17. 「就いていた」場合の勤務形態

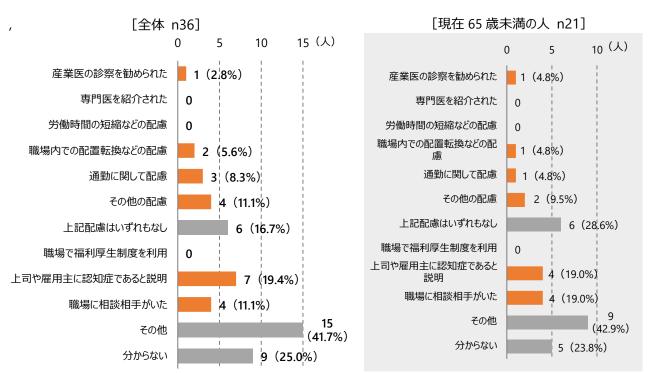
仕事に就いていた場合の勤務形態について、「正社員・正職員」が 17 人(47.2%)と最も多く、次いで、「非常勤・パート」、「自営業」がそれぞれ 7 人(19.4%)の順でした。現在 65 歳未満の人でも、ほぼ同様でした。



図表 3-8-17. 勤務形態

3-8-18. 「就いていた」場合の発症時の職場の対応や配慮(複数回答)

仕事に就いていた場合の発症時の職場の対応・配慮については、「その他」、「分からない」を除くと、「上司や雇用主に認知症であると説明した」が7人(19.4%)と最も多く、「上記(労働時間短縮、配置転換等の他の選択肢)配慮はいずれもなし」が6人(16.7%)と続きました。現在65歳未満の人では、「上記配慮はいずれもなし」が最多でした。



図表 2.18 発症時の職場の対応や配慮

3-8-19. 「就いていた」場合の現在の仕事の状況

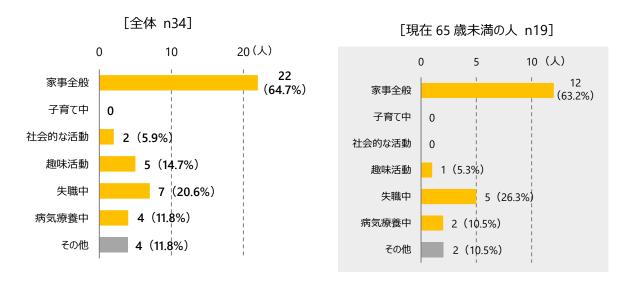
仕事に就いていた場合の現在の仕事の状況は、「退職した」が25人(69.4%)と最も多く、以下、「解雇された」、「その他」がそれぞれ4人(11.1%)、「転職した」が3人(8.3%)と続きましたた。発症前と同じ職場で働いている人はいませんでした。

「全体 n36] [現在 65 歳未満の人 n21] 0 10 20 (人) 10 (人) 0 5 発症前と同じ職場で働いてい 発症前と同じ職場で働いている 発症前と同じ職場だが部署が 発症前と同じ職場だが部署が変更 変更 転職した 3 (8,3%) 転職した 3 (14.3%) 休職·休業中 1 (2.8%) 休職·休業中 1 (4.8%) 25 退職した 11 退職した (69.4%)(52.4%) 解雇された 4 (11.1%) 解雇された 3 (14.3%) 退職したが地域でボランティア 退職したが地域でボランティアなど 1 (2.8%) 1 (48%) その他 4 (11.1%) その他 4 (19.0%)

図表 3-8-19. 現在の仕事の状況

3-8-20. 「就いていない」場合の発症時にしていたこと

他方、仕事についていない場合に発症時にしていたことについては、「家事全般」が 22 人 (64.7%) と最も多く、以下、「失職中」が 7 人 (20.6%)、「趣味活動」が 5 人 (14.7%)の順でした。



図表 3-8-20. 発症時にしていたこと

3-8-21. 現在の自動車運転について

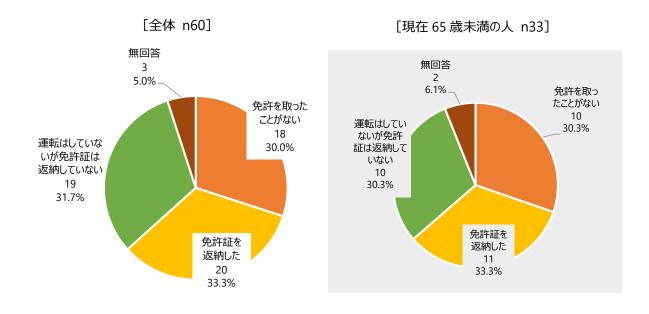
現在の自動車運転について、「運転していない」が60人(85.7%)、「運転を制限している」が2人(2.9%)であり、「今までと同じように運転している」とした方はいませんでした。

さらに、運転していない場合の運転免許証について、「運転免許証を返納した」が 20 人 (33.3%)、「運転はしていないが免許証は返納していない」が 19 人 (31.7%)、「免許証を取ったことがない」が 18 人 (30.0%) とそれぞれ約3分の1となっていました。

図表 3-8-21-1 運転の状況

[全体 n70] [現在 65 歳未満の人 n40] 今までと同じよう 無回答 8 に運転している 無回答 今までと同じ 11.4% 0 5 ように運転し 12.5% 0.0% ている 0 0.0% 運転を制 限している 運転を制限 2 している 2.9% 5.0% 運転していない 運転していない 60 82.5% 85.7%

図表 3-8-21-2. 「運転していない」場合の免許証についての状況



3-8-22. 世帯の主な収入(複数回答)

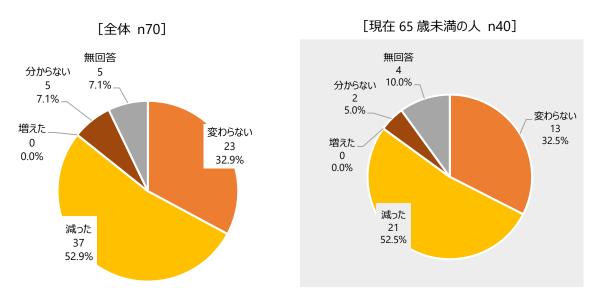
世帯の主な収入について、「本人の年金」が 33 人 (47.1%) と最も多く、「家族の収入」が 32 人 (45.7%) とほぼ同数で続きました。現在 65 歳未満の人では、「家族の収入」が 17 人 (42.5%) と最も多く、「本人の障害年金等」が 13 人 (32.5%) と続きました。

[全体 n70] [現在 65 歳未満の人 n40] 10 30 (人) 20 20 (人) 10 本人の収入 9 (12.9%) 本人の収入 8 (40.0%) 32 17′ 家族の収入 家族の収入 (45.7%) (42.5%) 33 本人の年金 本人の年金 12 (30.0%) (47.1%) 本人の障害年金等 13 (32.5%) 本人の障害年金等 16 (22.9%) 生活保護費 1 (2.5%) 生活保護費 3 (4.3%) 9 (22.5%) その他の収入 その他の収入 15 (21.4%) 分からない 1 (1.4%) 分からない

図表 3-8-22. 世帯の主な収入

3-8-23. 若年性認知症になってからの世帯の収入状況

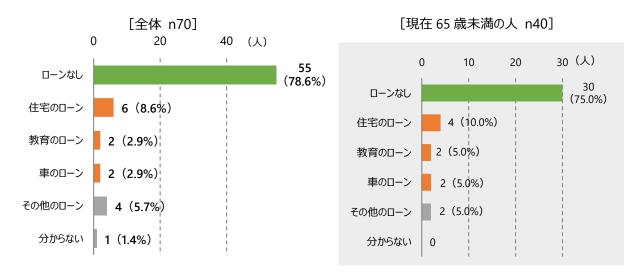
若年性認知症になってからの世帯の収入状況(変化)は、「減った」が 37 人(52.9%)と過半数を占め、「変わらない」が 23 人(32.9%)、「増えた」とした方はいませんでした。現在 65 歳未満の人でも、概ね同様の結果でした。



図表 3-8-23. 世帯の収入状況(変化)

3-8-24. 現在の住宅等のローン(複数回答)

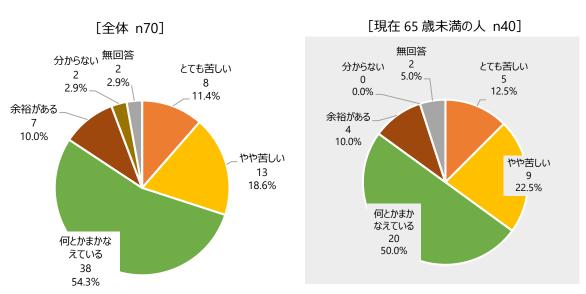
現在の住宅等のローンについて、「ローンなし」が 55 人 (78.6%) と8 割近くを占めました。ローンがあるのは 14 人 (20.1%) で、「住宅のローン」が 6 人、「教育のローン」、「車のローン」が 2 人、「その他のローン」が 4 人でした。



図表 3-8-24. 現在の住宅等ローン

3-8-25. 現在の家計

現在の家計について、「何とかまかなえている」が 38 人(54.3%)と最も多く、次いで、「やや苦しい」が 13 人 (18.6%)、「とても苦しい」が 8 人 (11.4%) でした。「余裕がある」とした方は 10.0%にとどまりました。 現在 65 歳 未満の人でも、ほぼ同様の結果でした。

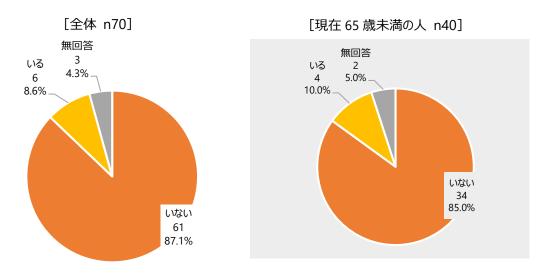


図表 3-8-25. 現在の家計

3-8-26. 養育を必要とする子

養育を必要とする子について、「いない」が61人(87.1%)、「いる」が6人(8.6%)でした。

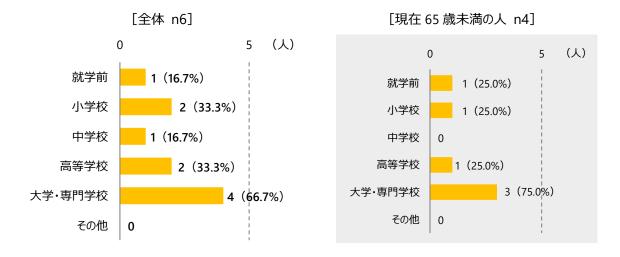
図表 3-8-26. 養育を必要とする子



3-8-27. 養育を必要とする子が「いる」場合の、養育を必要とする子の就学状況(複数回答)

養育を必要とする子がいる場合の、養育を必要とする子の就学状況については、「大学・専門学校」が4人(「いる」のうち66.7%)が最も多く、「高等学校」、「小学校」がともに2人(同33.3%)と続きました。

図表 3-8-27. 養育を必要とする子の就学状況

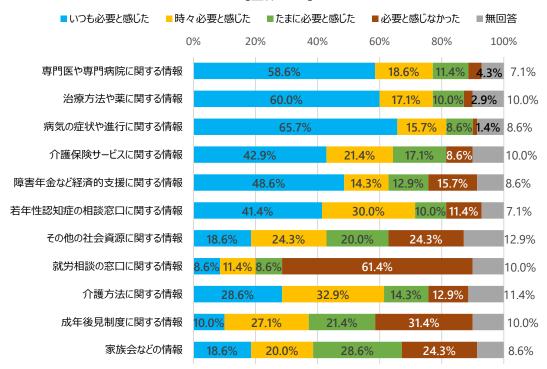


3-8-28. 診断から治療、介護などで必要と感じた情報

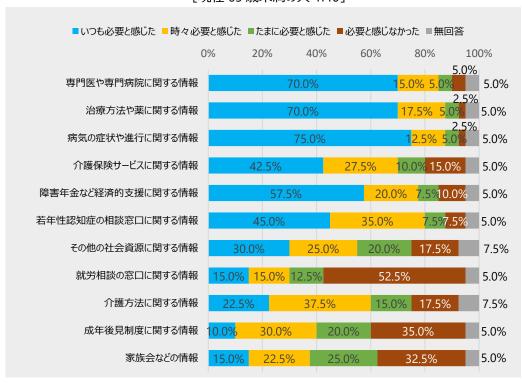
必要と感じた情報について、「いつも必要と感じた」の割合が高かったものは、『病気の症状や進行に関する情報』 65.7%、『治療方法や薬に関する情報』 60.0%、『専門医や専門病院に関する情報』 58.6%の順でした。現在 65 歳未満の人でも、概ね同様の傾向でした。

図表 3-8-28. 必要と感じた情報

[全体 n70]



「現在 65 歳未満の人 n40]



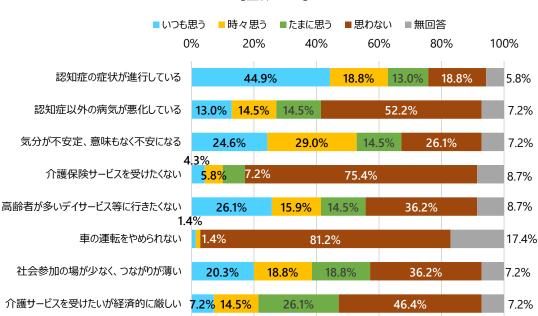
3-8-29. 暮らしの中での困りごと

①本人のことに関して困っていること

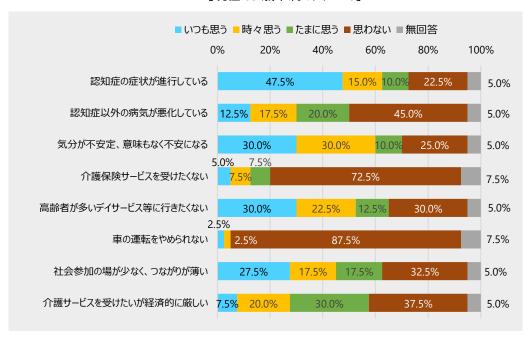
本人のことに関して困っていることについて、「いつも思う」の割合が高かったものは、『認知症の症状が進行してい る』44.9%、『高齢者が多いデイサービス等に行きたくない』26.1%、『気分が不安定、意味もなく不安になる』24.6%、 『社会参加の場が少なく、つながりが薄い』20.3%でした。現在 65 歳未満の人でも、概ね同様の傾向でした。

図表 3-8-29-1. 本人のことに関して困っていること

[全体 n70]



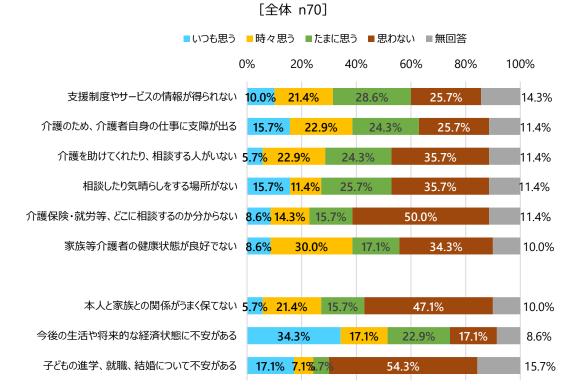
「現在 65 歳未満の人 n40]



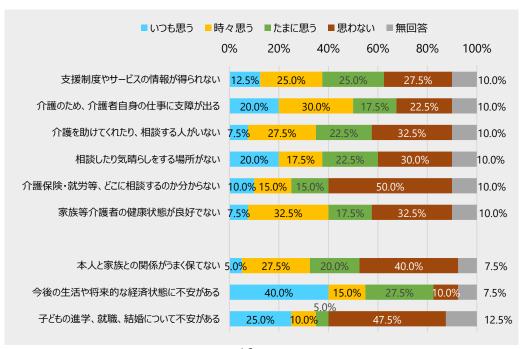
②家族等介護者のこと・家族全体のことに関して困っていること

家族等介護者のこと・家族全体のことに関して困っていることでは、「いつも思う」の割合が高かったものは、『今後の生活や将来的な経済状態に不安がある』34.3%、『子どもの進学、就職、結婚について不安がある』17.1%、『介護のため、介護者自身の仕事に支障が出る』、『相談したり気晴らしをする場所がない』15.7%でした。現在 65 歳未満の人でも、概ね同様の傾向でした。

図表 3-8-29-2. 家族等介護者のこと・家族全体のことに関して困っていること



「現在 65 歳未満の人 n40]



3-8-30. 必要な若年性認知症の人の通いの場

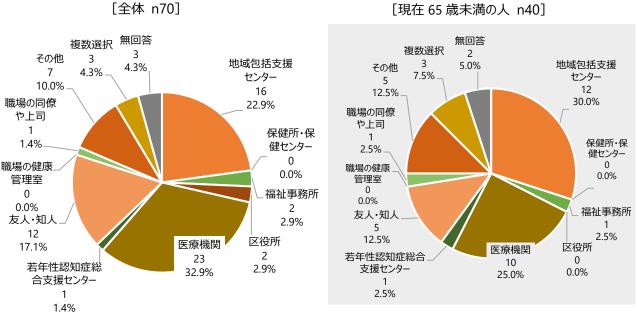
必要な通いの場について、「外出や趣味活動を楽しめる通いの場」が 26 人 (37.1%) と最も多く、次いで、「軽作業に取り組むなど就労に近い内容の通いの場」が 14 人 (20.0%)、「就労支援を受けられる通いの場」が 10 人 (14.3%)の順でした。現在 65 歳未満の人では、「軽作業に取り組むなど就労に近い内容の通いの場」が 25%とその割合がやや増加しました。

[全体 n70] [現在 65 歳未満の人 n40] 無回答 複数選択 無回答 就労支援を受けら 6 就労支援を受け 複数選択 れる通いの場 8.6% 7.5% 5.0% られる通いの場 6 その他 15.0% 10 8.6% 3 14.3% 7 5% その他 5 軽作業に取り ボランティアな 7.1% 軽作業に取り 組むなど就労 どの地域活 組むなど就労 に近い内容の 動に取り組む に近い内容の 通いの場 通いの場 ボランティアな 通いの場 14 どの地域活 10 5.0% 20.0% 動に取り組む 25.0% 外出や趣味活動を 通いの場 外出や趣味活 楽しめる通いの場 3 動を楽しめる通 14 4.3% いの場 35.0% 26 37.1%

図表 3-8-30. 必要な通いの場

3-8-31. 認知症の症状に気づいたときの家族以外の最初の相談先

症状に気づいたときの家族以外の最初の相談先として、「医療機関」が 23 人 (32.9%) と最も多く、以下、「地域包括支援センター」が 16 人 (22.9%)、「友人・知人」が 12 人 (17.1%)の順でした。現在 65 歳未満の人では、「地域包括支援センター」が 30.0%となり、「医療機関」を上回りました。



図表 3-8-31. 家族以外の最初の相談先

3-8-32. 認知症の症状に気づいたときの若年性認知症に関する情報入手元(複数回答)

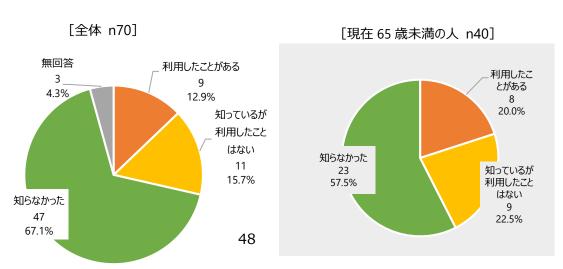
症状に気づいたときの若年性認知症に関する情報入手元については、「医療機関」が40人(57.1%)で最も多く、以下、「インターネット」が26人(37.1%)、「地域包括支援センター」が21人(30.0%)の順でした。現在65歳未満の人でも、概ね同様の結果でした。

[全体 n70] [現在 65 歳未満の人 n40] 0 10 40 (人) 20 30 10 20(人) 地域包括支援センター 21 (30.0%) 15 ¦(37.5%) 地域包括支援センター 保健所・保健センター 4 (5.7%) 4 (10.0%) 保健所・保健センター 福祉事務所 2 (2.9%) 福祉事務所 2 (5.0%) 区役所 3 (4.3%) 2 (5.0%) 区役所 40 医療機関 22 医療機関 (57.1%) (55.0%) 若年性認知症総合支援センター 4 (5.7%) 若年性認知症総合支援センター 4 (10.0%) 友人·知人 10 (14.3%) 友人·知人 7¦(17.5%)¦ 家族 8 (11.4%) 6 (15.0%) 家族 職場の健康管理室 職場の健康管理室 2 (5.0%) 職場の同僚や上司 3 (4.3%) 職場の同僚や上司 19 インターネット インターネット 26 (37.1%) (47.5%) 書籍 9 (12.9%) 書籍 6 (15.0%) 2 (5.0%) その他 2 (2.9%) その他

図表 3-8-32. 若年性認知症に関する情報入手元

3-8-33. 「若年性認知症総合支援センター」について

「若年性認知症総合支援センター」について、「知らなかった」が47人(67.1%)と3分の2を上回っており、「知っているが利用したことはない」を加えた"未利用"は8割以上となっていました。現在65歳未満の人でも、「知らなかった」が57.5%と最も多く、過半数を占めました。



図表 3-8-33. 若年性認知総合支援センターについて

3-8-34. 現在の日中の過ごし方(複数回答)

現在の日中の過ごし方については、「デイサービス・デイケアに行っている」が 25 人 (35.7%) と最も多く、「その他」 が 20 人 (28.6%)、「家事をしている」が 11 人 (15.7%) の順でした。「特に活動はしていない」は 18 人 (25.7%) と約 4 分の 1 を占めました。

[全体 n70] [現在 65 歳未満の人 n40] 10 30 (人) 20 20 (人) 10 仕事をしている 8 (11.4%) 仕事をしている 6 (15.0%) 家事をしている 8 (20.0%) 家事をしている 11 (15.7%) 子育てをしている 2 (5.0%) 子育てをしている 2 (2.9%) 就職先を探している 0 就職先を探している デイサービス・デイケアに行って 13¹ 25 デイサービス・デイケアに行っている いる (32.5%)(35,7%) 趣味活動をしている 5 (12.5%) 趣味活動をしている 8 (11.4%) ボランティアをしている 1 (2.5%) ボランティアをしている 2 (2.9%) 若年性認知症の交流の場に 6 (15.0%) 行っている 若年性認知症の交流の場に行っている 8 (11.4%) 特に活動はしていない 9 (22.5%) 特に活動はしていない 18 (25.7%) 13 その他 (32.5%)その他 20 (28.6%)

図表 3-8-34. 現在の日中の過ごし方

〈その他の具体的な内容〉

現在 65 歳	1	月に一度くらい、友人らとランチをしている。
未満の人	2	テレビを見たり、電車・バスに乗りまわっている。
	3	なるべく外に出る(散歩、図書館、気分転換)。
	4	地域生活支援センター・地域活動支援センターに行っている。
	5	たまに、デイサービスに、ボランティアの皿洗いに行くことがある。
	6	長女の家に行くか、自宅でテレビを見ている。
	7	就労継続支援 B 型事業所に通所
	8	リハビリトレーニング

現在 65 歳	1	友人と旅行、本人の会参加
以上の人	2	特養に入所中のため、イベントや作業の手伝いなど
	3	家でのんびり、散歩、TV

3-8-35. 若年性認知症の人への対応や支援に関する意見・要望

若年性認知症の人への対応や支援についてのご本人・家族からのご意見・ご要望について、現在 65 歳未満の

図表 3-8-35. 若年性認知症の人への対応や支援に関する意見・要望

現在 65 歳未満の人	1	思いや要望は多くある。軽~重への段階に応じて、その思い・要望・考え方も変わってくる。それをパワーポイント約 25 ページにまとめてある。日々の進行に応じて、書き足したり修正したり。それをぜひ聞いてほしい。聞いていただけるならどこにでも行きます。目的は、介護家族の思い、悩み、要望等から何か一つでも、小さくてもよいから改善につながり、不幸にも後に続く人への助けに役立てば、との思いです。
	2	私は本人の夫として、また、介護者の立場であります。今一番不安なのは、本人に対してというよりも、 自分自身の精神状態が時として不安になります。仕事をして帰宅後に本人と相対した時に、本人が病 気であると理解しつつも、本人の言動に対して怒りやストレスを激しく感じることがあります。何とかそれは 自身の内に収める努力はしていますが、いつか本人に対して爆発してしまうのではないかという不安があり ます。それを取り返しのつかないような言動をとってしまいそうでとても不安です。
	3	仕事に就いても、もの忘れが多い認知症の人はしりぞいてほしい等の理由で、2~3ヵ月しか続きません。 若年性認知症の人でも、仕事ができるような配慮をして頂ければありがたいと思います。
	4	認知症は、まだ社会的に理解されていない。認知症は今後高齢化し 700 万人になる予定。認知症に ついて、アルツハイマー型認知症が約 60%。それ以外の認知症の情報が、世の中に伝わっていない。
	5	たくさんの皆さんの支援を頂き、社会復帰して 1 年になります。皆さんの支援を受けたおかげで社会復帰できたと思います。
	6	発症して一番最初に困ったこと:将来への不安(①病状がどのように進行するのか、最後はどのようになってしまうのか、②会社を辞めたことによる、収入が断たれ生活はどのようにすればよいのか、③どこの医療機関に行けばよいのか) このような不安を相談できて、どのように手続きを進めていけばよいのかをアドバイス、そして助けてくれる方がいるのがありがたいです。
	7	企業が、もっと障害者に対して理解を深められるように、説明会等を開いてほしい。
	8	心理検査により、判明した点を認め、医師の指示を聞き生活する。脳外・精神と一生付き合う覚悟で生活する。リバウンドしないよう医師の指示に従う。もう少し手厚くしてほしい(相談は医師以外いないので)。とにかく自分を責めて、自分でも困る。日常がつらい。
	9	ここ最近、老年期の認知症がメディアでもとりあげられるようになってきました。ご隠居状態なら、まだ覚悟も対応の仕方もあるけれど、現役の場合とても生活上、不便の度合いが違います。身体的にはスタスタしているので、前頭側頭型認知症の主人の場合、社会性を失ってきているので、雑踏のような世間でのいろいろなトラブル発生の源となってしまうのではと、心配が募るばかりです。主人が誰かにぶつかっても、何食わぬ顔でいたら、いつか殴られて血だらけになるのではと、いつもヒヤヒヤしています。もっと若年認知症の素の姿を広めて欲しいです。
	10	自分には向かないと思い、信頼できる近所の人には話をしてあり、サポートをしてもらう事もある。
	11	認知症が軽度の時に、通ったり同じような方と出会ったりできる場が少ない。心のケアが重要と思うが、本人に寄り添ってサポートしてくれる人や情報がない。見つけにくい。
	12	地域包括支援センター、区の相談窓口等、全て「高齢者」「お年寄り」といったネーミングとなっています。 若年性認知症にとって少し抵抗感があります。
	13	介護=高齢者というガイドラインのため、介護を提供する側(プロ)が若年層に対しての認識がないと、 なかなか落としどころにもって行くまでに時間がかかる。A事業所は、若年性認知症者に特化しており、き め細かい的確で各自にあったサポートを提供しており、利用者には本人・家族ともども命綱ともいえる大 変に貴重な事業所です。
	14	病院へ行き診療を受けているときにいつも思うのですが、言葉がうまく出ない、あるいはどう答えればよいか
	15	以前、若年性施設(目黒)へ行ったことがあるが、遠くて通えない。当区でも設立を望みます。

現在 65 歳	16	40 代で発症と思われ、仕事がうまくいかなくなり退職。15 年以上何が原因か分からなかった。
未満の人		認知症の症状は少しありますが、違う病気です。日本の研究がもっと進むことを望んでいます。
	17	 認知症よりも歩行困難、マヒが月ごとに進んでいます。移動すること、交通機関利用に不安を感じます。
-		
現在65歳		ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
以上の人		らず、本人が受診を承諾するのに約2年が経過。診断の結果は、若年性認知症、悔やんでも仕方ない
	1	ことですがもう少し早い受診・治療をしていれば、発症を遅らせることができたのではと思ってしまいます。
		50 歳・55 歳・60 歳と 5 歳刻みで、健康診断の項目の中に脳の MRI が含まれていればと思います。多
		少の個人負担があったとしても、抵抗なく受診することができるのではと思っています。
		●仕事をして収入を得ている時期なので、経済的に不安になる。障害年金は 65 歳前までに 2 級をとっ
	2	ておかないと、とんでもないことになる。年金事務所の職員も、いつまでたっても知識がない。
	2	●介護者の毎日のケア等の不安は、初期は特に底なし。本人以上。診断したときに家族会の紹介や、
		不安・疑問を聞いてくれる人、場所を教えてほしい。
		前頭側頭型のため、社会性に欠ける行動で他人に迷惑をかけてしまったときの家族から、相手への謝罪
	3	は精神的な負担がとても大きいです。後日改めて、病気の説明やお詫びに同行して下さる専門スタッフ
		の方など、支援があったら心強いです。
		高齢と違い若年性だと、理解している部分も多くあり、自尊心を傷つけないようにと対応することが必要
	4	なのですが、医師と話すときなど、本人の前ではなかなか話せないことを話すタイミングがなく困ってしまい
	7	ます。デイサービスも高齢の方が多いので、なかなか本人にもすすめにくいところがあります。若い人がたくさ
		んいるデイサービスがあるといい。高齢者と違い、対応に困ることがたくさんあるように思います。
		もっと対応のし方や対応について、まとめてあるサイトがあって気軽に見られると助かる気がします。少し前
		の事でしたので、情報もなかなかわからず、暴れている父と対立する・けんかすることが多く、精神的に追
	_	い詰められるときもありました。若年性ということで、力も強かったので大変でした。そのため仕事を続けるこ
	5	ともできず、疲れて休むこともできない時もありました。デイサービスも最初に行った所は合わなくて、次のと
		ころを自分で探さなくてはならないことも、心労につながりました。支援する側の援助(一時的に)や情 報は、多ければ多いほど助かると思います。今まで普通だった親が、突然あれもこれもできなくなっていく、
		理解するのにも大変でしたので。
		何しろ私は、今から 30 年近く昔で、若年性認知症というものが世の中で知られていなくて、会社にも親
		戚にも理解してもらえず大変でした。なお、何とか不動産があったので主人はいない者として生活してきま
	6	した。私もボランティアとして、親や子からもいわれましたが、当人が好きで病気になったのではないと離婚
		 もしませんでした。まあ、後家さんになったと割り切りました。今はもう誰もが認知症になる年ですね。
	7	レンタルの品、ベッド等を借りているが価格が高い。
	0	母の発病当時は、情報も少なく治療や改善はないといわれ、あきらめてしまいましたが、少しでも可能性
		や対応方法などのアドバイスをいろいろしてほしかった。現在は、個人個人で症状も違うので、いろいろな
	8	ルールや規則の中で臨機応変な対応ができるようにしてほしいです。ルールや規則があり守られていること
		は多いが、いろいろな可能性を実行できないことも多くなってしまっています。
	9	若年性認知症相談窓口を増やし、告知をしてほしい。
		今般、若年性認知症の知識や認識が強まっているが、17年前は精神科に通うことしかわからず、たくさ
	10	んのお薬で症状を抑えていた結果、妄想、ふらつき、排尿障害など併発していました。MRI、造影検査も
		しましたが、当時詳しく説明もなかったです。老健に入所のため、薬を保険用にするため 7 種ぐらい~3 種
		に変更後改善が見られました。

3-9. まとめと考察

- 3-9-1. 二次調査の担当者票の集計結果からは以下のことが明らかになりました。
 - 1) 担当者票 64 票のうち、36 票は現在 65 歳未満の人、28 票は現在 65 歳以上の人の票でした。
 - 2) 認知症の原因疾患については、アルツハイマー型認知症が最も多く、前頭側頭型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症がこれに続きました。約半数の人が認知症以外の病気でも治療中でした。主な合併症は、高血圧症、脂質異常症、糖尿病、うつ病、てんかん等でした。自分以外の家族に認知症の診断歴がある人が2割程度に見られました。
 - 3) 現在就業中の人は1割程度で、就業していない人が9割でした。就業していない人のうち、「定年前に自己退職」した人が4割を占め、「解雇」された人が1割程度いました。
 - 4) 認知症高齢者の日常生活自立度では、全体ではIV(重度)の人が約3割と最も多くを占めましたが、現在65歳未満の人に限定すると I ~ II b の軽度の人が約半数を占めました。
 - 5) 約6割の人にBPSDが見られ、全体では不安、興奮、無関心、易刺激性が、現在65歳未満の人では、不安、 うつ、興奮、易刺激性が高頻度に認められました。
 - 6) 「若年性認知症総合支援センター」を「知らなかった」と回答したのは36%でした。現在65歳未満の人の担当者 に限定すると、「相談したことがある」は17%、「受診者・利用者に案内したことがある」は19%でした。
 - 7) 若年性認知症の人への支援について、事業所の担当者からは以下のような意見がありました。
 - ▶ 身近な地域の中に若年性認知症のための社会資源が不足している。
 - 若年性認知症の支援センターが各地域にあれば利用しやすい。
 - 住んでいる地区に利用できる若年性認知症のデイサービスがあればよい。
 - ▶ 若年性認知症の人のニーズに合った社会資源が不足している。
 - 適切なデイサービス等がないと空白となりやすい。
 - 専門のデイサービスをオープンするとよい。
 - 介護保険サービスでは年齢層が合わず利用しづらい。
 - 就労につながる支援ができるとよい。
 - ▶ 若年性認知症についての知識の普及が不十分。
 - 生活保護担当者に知識があれば、もう少し早い段階で精神科につながった可能性がある。
 - スタッフ一同、若年性認知症の人のケアに不慣れで、情報量も少ない。不安を抱えながら支援している。
 - 本人は社会につながりたいと思っているが、家族が受容できずに外とのつながりを断つことが起こっている。
 - ▶ 適切な情報サポートが不足、経済面での配慮が不足。
 - 今後かかるお金の不安が大きい。
- 3-9-2. 二次調査の本人・家族票の集計結果からは以下のことが明らかになりました。

- 1) 本人・家族票の 70 票のうち、40 票は現在 65 歳未満の人、30 票は現在 65 歳以上の人の票でした。また、本人・家族票のうち、本人の記入によるものは 11 票(16%)で、配偶者が 32 票(46%)、子または子の家族が 10 票(15%)、親が4 票(6%)でした。調査対象者のうち男性は 34 人、女性 31 人、無回答が 5 人でした。 同居者の有無では、一人暮らしが 10 人(14%)、同居者がいるが 52 人(74%)であり、現在 65 歳未満の人に限定すると、一人暮らしが 8 人(20%)、同居者がいるが 30 人(75%)でした。
- 2) 認知症に気づいた年齢は、60~64歳が最も多く、55~59歳がそれに次ぎました。最初に気づいた人は配偶者が 最も多く、子がそれに次ぎました。現在 65歳未満の人では、配偶者に次ぐのは本人でした。最初に気づいた症状 は、「もの忘れが多くなった」が最も多く、「職場や家事などでミスが多くなった」がそれに次ぎました。症状に気づいた ときから受診までの期間では、「1カ月未満」が最も多く、「1~3カ月」がそれに次ぎました。最初に受診した医 療機関は精神科が最も多く、一般内科、もの忘れ外来、脳神経外科、神経内科がそれに次ぎました。最初の受 診から診断までの期間は全体では 67%(65歳未満では 58%)が3カ月未満でしたが、全体では 12%(現在 65歳未満では 16%)が2年以上を要しました。認知症の原因疾患については、アルツハイマー型認知症が6割 以上で、前頭側頭型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症がそれに次ぎました。4割程度の人は認知 症以外の病気でも治療を受けており、主な合併症は高血圧症、糖尿病、てんかん、うつ病などでした。
- 3) 全体では約2割の人、現在65歳未満では約3割の人が介護保険を申請していませんでした。介護保険を申請していない理由については、「必要を感じない」「サービスについて知らない」と回答する人がそれぞれ約半数を占めました。要介護認定を受けている人では、要介護5が最も多く約3割を占めました。一方、要支援1から要介護1までの人も3割程度を占めました。最もよく利用されている介護保険サービスは通所介護で、訪問看護がこれに次ぎました。
- 4) 精神・身体のいずれかの障害者手帳を取得している人は約5割、自立支援医療を利用している人は約4割、障害年金を利用している人は約3割でした。成年後見制度を利用している人は全体の4%でした。
- 5) 発症時に就労していた人は約5割で、そのうち正社員・正職員であった人が5割を占めました。発症時の職場の対応については、「上司や雇用主に認知症であると説明」した人は19%でしたが、「通勤に関しての配慮があった」「職場内での配置転換などの配慮があった」「産業医の診察を勧められた」等の何らかの配慮があった人はいずれも数パーセント程度で、いずれの配慮もなかったと回答した人は全体の17%、現在65歳未満の人では29%を占めました。就労していた人のうち、全体では約7割(現在65歳未満では約5割)の人が「退職した」と回答しており、1割強が「解雇された」と回答しました。もともと就労していない方の6割以上は家事全般をされていた方でした。
- 6) 自動車運転については8割以上の人が「運転していない」と回答しており、「今までと同じように運転している」という人はいませんでした。運転免許証については、3割の人が「取得していない」、3割の人が「返納した」、3割の人が「返納していないが運転していない」と回答しました。
- 7) 世帯の主な収入は「本人の年金」が最も多く、「家族の収入」がこれに次ぎました。現在 65 歳未満の人では「家族の収入」が最も多くなりました。若年性認知症になってから世帯の収入は半数以上で「減った」と回答しており、

「住宅ローン」が残っている方は 1 割程度でした。現在の家計の状況については、1 割程度の人が「とても苦しい」、 2 割程度の人が「やや苦しい」と感じていました。

- 8) 現在養育を必要とする子供がいるのは回答者の 1 割程度で、子の就学状況については「大学・専門学校」が 7 割(全体の 67%、現在 65 歳未満の人の 75%) を占めました。
- 9) 暮らしの中で困っていることについては、本人のことでは、「認知症の症状が進行していること」、「気分が不安定であること」、「高齢者が多いデイサービス等に行きたくないこと」、家族介護者のことでは、「今後の生活や将来的な経済状態に不安がある」、「介護のため、介護者自身の仕事に支障が出る」、「相談したり、気晴らしする場所がない」の回答が多くなりました。診断から治療、介護などでいつも必要と感じた情報については、「病気の症状や進行に関する情報」、「治療方法や薬に関する情報」、「専門医や専門病院に関する情報」でした。また、必要な若年性認知症の人の通いの場としては、「外出や趣味活動を楽しめる通いの場」、「軽作業に取り組むなど就労に近い内容の通いの場」、「就労支援を受けられる通いの場」を求める回答が多く得られました。
- 10) 症状に気づいたときの最初の相談先については「医療機関」が最も多く、「地域包括支援センター」がそれに次ぎました。また、情報の入手元については、「医療機関」が最も多く、「インターネット」、「地域包括支援センター」がそれに次ぎました。「若年性認知症総合支援センター」については、7割の人が「知らなかった」と回答しており、利用したことがあると回答した人は全体の約1割、現在65歳未満の人では2割でした。
- 11) 現在 65 歳未満の人の現在の日中の過ごし方については、3 割の人がデイサービスやデイケアに通所しており、3 割の人が仕事や家事をしていますが、2 割の人は特に活動はしていませんでした。
- 12) 若年性認知症の人の支援については、以下のような意見がありました。
 - ▶ 家族介護者の状態について
 - 介護者の立場で、自分自身の精神状態が時として不安になる。
 - 初期の不安は底なし。診断したときに家族会の紹介、不安・疑問を聴いてくれる人・場所を紹介してほ しい。

▶ 仕事について

- 若年性認知症の人でも仕事ができるような配慮をしてほしい。
- 企業がもっと理解を深められるように説明会を開いてほしい。

▶ 相談支援・アドバイスについて

- 病状の経過、収入と生活、受診すべき医療機関についてアドバイスしてほしい。
- 診断後、医師からの手厚い説明がほしい。
- 若年性認知症総合支援センターが遠いので居住する区にもつくってほしい。
- 若年性認知症の窓口を増やし、周知してほしい。

▶ 社会の理解について

- 若年性認知症の素の姿を広めてほしい。
- 会社にも親戚にも理解してもらえずたいへんだった。

▶ 若年性認知症の人に合った支援

- 軽度の時に通ったり、同じような方で出会える場が少ない、本人に寄り添ってサポートしてくれる人や情報がない・見つけにくい。
- 地域包括支援センターも区の相談窓口も「高齢者」「おとしより」というネーミングなので抵抗がある。
- デイサービスは高齢者の方が多いので本人に勧めにくい。
- デイサービスが合わず、次のところを自分で探さなければならず心労につながった。

▶ 診断について

もう少し早い受診・治療ができれば。

▶ 経済について

• 障害年金は65歳までに手続きしないと手遅れになる。年金事務所の職員も知識がない。

3-9-3. 二次調査全体の考察

二次調査によって、若年性認知症の本人・家族の生活実態のいくつかの重要な特性が明らかにされました。その中で特に強調しておくべきことは以下のことかと思われます。

- 1) 若年性認知症の人の 6 割以上がアルツハイマー型認知症であり、血管性認知症、前頭側頭型認知症、レビー 小体型認知症もそれぞれ 6 ~10%の範囲で認められました。
- 2) 高血圧や糖尿病などの生活習慣病やてんかんやうつ病などの精神神経疾患を合併している人が全体としては半数程度に認められました。
- 認知症の重症度は軽度・中等度・重度それぞれがほぼ同じ頻度で認められました。
- 4) 制度やサービスの利用状況については、3割の人が介護保険を申請しておらず、5割の人が障害者手帳を取得しておらず、6割の人が自立支援医療を利用しておらず、7割の人が障害年金を受給していないという結果でした。この結果については、そもそもそのような制度やサービスを必要とする状態にないという人もいる一方で、制度・サービスへのアクセスが不良であるという側面がある可能性があります。
- 5) 発症時に仕事をしていた人は約5割ですが、現在65歳未満の人のうち5割が退職し、1割強が解雇されています。また、3割の人は、通勤や職場内での配置転換、産業医の受診勧奨等の職場からの配慮はなかったと回答していました。今回の調査では、退職や解雇時の状況について、詳細な確認はしていませんが、職場における理解の促進を図る必要があると考えられます。
- 6) 困っていると感じていることは、本人に関しては、症状の進行、精神的な不安定さ、若年性認知症にあった社会 資源がないこと、家族介護者に関しては、相談や気晴らしの場がないこと、介護のために仕事が継続できないこと、 将来の経済や生活への不安があることでした。
- 7) 若年性認知症についてのきめ細かな情報提供が行える相談機関、若年性認知症の人に合ったサービス(「外出や趣味を楽しんだり」「就労に近い軽作業を行ったり」「就労を支援してくれる」通い場など)が身近なところにあることが求められていました。

ただし、本調査には以下のような限界があります。

- 1) 担当者票の回収率は 38.9%、本人・家族票の回収率は 17.2%であり、さらに、①本人・家族の同意がある場合のみ担当者票も解析対象とすること、②重複票がある場合にはその中の 1 票のみを有効とすること、という条件の下で最終的に集計対象を選定したことから、実際に集計対象とされたのは担当者票の 64 票(対象の 14.9%)、本人・家族票の 70 票(対象の 16.3%)に限定されています。
- 2) 本人・家族票のうち本人が回答したものは 11 票(15.7%)であることから、多くは家族介護者によって回答されたものです。

上記のことは、このたびの結果を若年性認知症の生活実態として一般化するには限界があること、また、回答(特に自由回答)の内容は家族の視点によるものである場合が多いことに注意する必要があります。

4 三次調査

4-1. 目的

本人・家族と面接を通し、受診から介護保険サービス・障害福祉サービス等につながる過程、及び若年性認知症に 特有の生活課題をより詳細に聴取・分析しました。

4-2. 調査対象

二次調査の本人・家族票が返送された74件を対象としました。

4-3. 調査方法

訪問日時 調査実施機関とご本人・家族介護者の間で調整

事前準備 依頼文書・同意書・質問項目表

面接時間 60 分前後

面接方法 半構造化インタビュー調査

調査項目 (1) 身近なつながり

- (2) 認知症と診断されたときのこと
- (3) 診断後のできごと
- (4) 仕事や経済的なこと
- (5) 福祉サービス・地域の支えあい
- (6) その他(生き方に関することなど)

ただし、本人・家族介護者の「語り」の文脈を尊重する方法で調査を行ったので、調査対象者の話の流れによって、上記の調査項目のすべてについて回答を得たわけではありません。

面接対象 本人または家族介護者を面接対象としました

面接場所 対象者が指定した場所で実施しました。(自宅・勤務先・福祉事業所)

持参資料 同意撤回書・調査票・在住区の提供サービスに関する資料(各区提供)等

4-4. 調査期間

2018年12月~2019年2月

4-5. 回答状況

訪問調査を了承した27件(回答率36.5%)

うち、2件は本人と家族が別々に訪問調査を了承したので、訪問対象数は26件です。

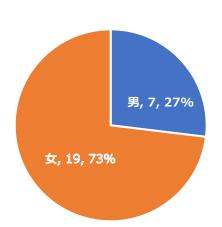
4-6. 調査結果

4-6-1. 対象者の属性について

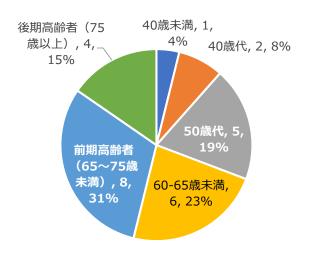
訪問対象者は、女性が 19 人 (73%)、男性が 7 人 (27%)で、前期高齢者 (65~74 歳未満) がもっとも多く、現在 65 歳未満の人は 14 人 (54%)でした。要介護度 (介護保険) は、要介護 5 がもっとも多く、次いで

多いのが要支援と未申請でした。原因疾患は、アルツハイマーが 18 人(69%)を占めました。回答者は、配偶者が 14人(52%)を占め、本人は7人(26%)でした。

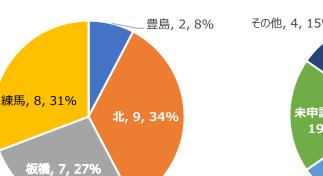
図表4-6-1 性別 [n=26]



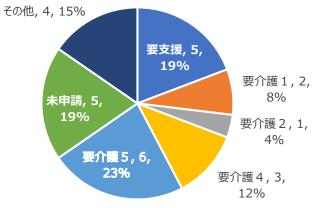
図表4-6-2 年齢 [n=26]



図表4-6-3 居住区 [n=26]



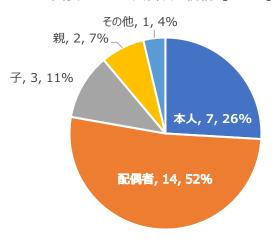
図表4-6-4 要介護度(介護保険) [n=26]



図表4-6-5 病名 [n=26]



図表4-6-6 回答者の続柄 [n=27]



4-6-2. 身近なつながりについて

(1) ご本人が認知症のことを相談できる身近な人・頼れる人はいますか?

本人の回答

8件のうち6件(75%)は、古くからの友人や職場の人に話していました。2件は専門職を挙げていました。 家族介護者の回答

本人の「身近なつながり」に関する回答は14件でした。認知症のことを話していたという回答は7件(50%)でした。本人の回答よりも、話していたという回答割合が小さく、うち4件は、中学・職場の友人、近所づきあい、宗教的なつながりなどでした。3件は専門職でしたが、余暇活動でたまたま専門職と知りあったという回答もありました。話していないという回答は7件でした。うち3件は近しい間柄だが認知症のことは話していなかったという回答でした。

家族介護者の「身近なつながり」に関する回答は17件でした。うち16件は認知症のことを話していました。「身近なつながり」として家族・親族を挙げた回答は5件でした。なかには、福祉に従事している家族・親族もいました。 職場のつながりを挙げた回答は3件でした。医療機関・福祉サービス事業所や企業の福利厚生部門であり、情報源として役立っていました。古くからの友人・飲み仲間という回答は6件でした。うち5件は、インフォーマルなつきあいの関係でした。専門職を挙げた回答は10件でした。医療機関がもっとも多く5件、次いでケアマネジャーが3件、訪問看護師が2件でした。ほかに家族会を挙げた回答が1件ありました。認知症のことを話していないという回答は1件でした。障害者支援を行っている団体の責任者とつながりがありましたが、高齢になり、頼れる人が周りにいなくなったという回答がありました。

(1-a) ご本人は、どのようなことを相談しますか?

本人の回答

回答のあった 7 件のうち、医療専門職を挙げた 2 件は病気のこと、福祉専門職を挙げた 2 件は生活のこと、 友人を挙げた 2 件は近況報告等という回答でした。福祉専門職の一人は家族の間柄でした。

家族介護者の回答

本人の相談内容に関する回答は2件でした。うち1件は宗教のつながりで、組織内の役割が果たせないという ことでした。他の1件は、相談していないという回答でした。

家族介護者の相談内容に関する回答は 12 件でした。専門職の友人・親族・職場から情報を得ているという回答が 4 件ありました。勤務先の同僚等が情報源となっているという回答が 1 件ありました。友人に話を聞いてもらう・悩みや迷いを相談するという回答が 3 件ありました。本人の職場の専門職と話すことがストレスの解消になっているという回答も 1 件ありました。近所づきあいの人たちに状況を報告するという回答が 1 件ありました。また、専門職とのつながりに医師に病気のことを相談しているという回答が 2 件、看護師に日常生活のことを相談しているという回答が 1 件ありました。医師・医療ソーシャルワーカー・若年性認知症総合支援センター職員に困りごとを相談しているという回答が 3 件ありました。ケアマネジャー・デイサービス職員と雑談したり、愚痴を言っているという回答が 3 件ありました。

(2) ご本人・ご家族は、当事者の会・家族の会に参加していますか?

本人の回答

8件のうち4件が当事者の会等に参加していました。みんなはどうしているのかを知りたいという理由のほか、看護師からボランティアとしての参加を促され、参加しているという回答もありました。参加しなくなったという回答は3件でした。会場が遠い、時間ごとにグループを移動するためじっくり話ができない(ワールドカフェ方式)、つまらないなどの理由でした。

家族介護者の回答

回答のあった 16 件のうち、10 件は参加していなかったか、参加しなくなりました。参考にならないという回答が 3 件ありました。専門職の情報でよいという意見や、空いた時間は自分のために使いたいという意見もありました。平日は都合がつかないという回答は 3 件でした。同じ境遇の人の話を聞くほど余裕がないという回答が 2 件でした。カウンセリングのほうがよいという意見もありました。ほかに、人と話すことが好きではない、本人の症状が進行したら情報収集のために参加したいという回答もありました。参加しているという回答は 6 件でした。

(2-a) ご本人・ご家族が参加する良い点は何ですか?

本人の回答

8件のうち3件はつながりが増えること、2件は自分だけじゃないことがわかること・励まされること、2件は自分の将来がわかることなどを、良い点として挙げていました。また、楽しい、食事がおいしいから参加しているという意見もありました。他の参加者は認知機能の障害が主だが、歩行障害が主のため症状が異なり、参加しても共感できないという回答が1件ありました。

家族介護者の回答

回答のあった 12 件のうち 7 件は、苦労を分かち合える、隠し立てする必要がなく愚痴をこぼせる、つながりが持てる、助言・情報提供が期待できる、制度等の情報源となっているなどを良い点として挙げていました。保育付レクリエーションクラブのようという回答が 1 件ありました。苦労を共有する必要はなく楽しい話がしたい、情報に詳しい会員がいない、冊子にも情報が掲載されているのでメリットがわからなくなったという回答が 3 件ありました。本人が嫌がって参加できなくなったという回答が 1 件ありました。

4-6-3. 認知症と診断されたときのこと

(1) 認知症と診断されたのは、いつでしたか?

家族介護者の回答

受診時期について回答のあった6件のうち5件は、1年以内に診断が確定していました。受診にいたった経緯は、本人の友だち・兄弟が性格の変化に気づいたり、家族介護者が本人の生活を支援するために福祉サービスを利用する必要があり、そのために医師の診断が必要だったなどでした。

(2) 認知症と診断されるまで、いくつかの医療機関を受診しましたか?

本人の回答

8件のうち5件が、1番目の医療機関で診断が確定されています。2番目の医療機関は、1番目の医療機関で原因が特定できなかった1件と、リハビリ病院で高次脳機能障害と診断された1件でした。確定されるまでの医療機関がもっとも多かったのは3番目でした。本人は診療時間が短いことが不満で、診療時間の長い病院を探していたところ、2番目まではアルツハイマー型認知症と誤診され、たまたま、3番目の医療機関で前頭側頭型認知症と診断されました。

家族介護者の回答

1番目の医療機関と2番目の医療機関がそれぞれ8件でした。2番目の医療機関は、1番目の医療機関で原因が特定できなかった、1番目の医療機関でうつ等と診断されたが薬が効かないなど疑いがあった、受診した医療機関から専門の医療機関を紹介された、知り合いから専門の医療機関を受診することを勧められた、セカンドオピニオンだったという回答でした。3番目の医療機関は2件でした。本人が閉所恐怖症で検査ができなかった、本人が正しく診断されることを嫌がって病院を変わったという回答でした。最も多かったのは11番目の1件でした。もの忘れ外来、心療内科、神経内科等に通院し、MRI検査等を行うものの、「異常なし」と言われ、その後、更年期外来を受診したり、脳ドック検診を受診したりしたが、特に問題はないと言われ続けました。

(3) ご本人に対する診断結果の伝え方に、配慮はありましたか?

本人の回答

回答のあった6件は、病名の伝え方に不満・意見はありませんでした。うち1件は、覚えていませんでした。また、 画像を見ながら日常生活のアドバイスがあったという回答が1件ありました。

家族介護者の回答

本人への配慮に関する回答は5件ありました。うち3件は、配慮がない、事務的などの回答でした。なかには、わかんないのねと言われ、嫌な印象だったというエピソードや、医師が告知後の本人の気持ちを受け止める対応をしなかったので、以後、本人は通院・検査を拒否し、認知症であることを認めなかった、そのため、家族介護者は本人と認知症の話ができなくなり、医師の選び方を間違えたという心の傷が残ったというエピソードがありました。他の2件は、家族だけに告知されたという回答でした。対症療法しかなく良くはならないと言われ、家族介護者は不安だけが大きくなったというエピソードがありました。

家族介護者への配慮に関する回答は6件でした。本人・家族介護者に対し配慮がなかったという回答は1件でした。アルツハイマー型認知症はガンと違って命に関わらないと言われ、病気に対するこころがまえなどは伝えられず、家族介護者としてショックを受けていました。配慮のある伝え方があったのは3件でした。これからも一緒にやっていきましょうと言われ安心したり、医療的なこと・食べ物のことなど進行しないための情報を伝えられたり、早期に伝えると落ち込むので本人が知りたいと思うまで待ちましょうという助言がありました。ほかに、まず家族介護者が診断を聞き、本人には知らせないという依頼をしたという回答が1件、薬の処方のために、家族介護者が依頼して診断が確定したという回答が1件ありました。

(3-a) ご本人は、診断結果をどのように受け止めましたか?

本人の回答

8件のうち5件が、不安・辛い・ショック等と回答しました。自覚もあり、やっぱりという反応もある一方、まさか自分がという反応もありました。認知機能の低下よりも身体症状のほうが深刻だったという回答が3件ありました。うち1件は、認知症であることは疑わなかったが、症状から原因疾患に疑問を持ったため、検査を依頼して原因疾患が変わりました。

心理カウンセリングを受けることによって人に言えないことを吐き出したり、見守られているという安心感が得られたという回答がありました。入院中の理学療法士との会話で、なんとかなるという気持ちが得られたというエピソードや、聞いてあげる人は必要という意見が出ていました。

家族介護者の回答

本人の受け止め方に関しては 13 件の回答がありました。うち7件は、本人自身の回答とは異なり、病名を聞いても理解していなかった、認知症と認めなかった、反応がなかったという回答でした。なかには、本人は記憶障害で薬を服用しているという回答もありました。ショックを受けたという回答は2件でした。そわそわした様子があったり、何も悪いことをしていないのになぜこんな病気になってしまったのかという反応がありました。家族に迷惑をかけられないので施設に行ったほうが良いと医師に言ったという反応もありました。自覚があり、原因を受け止めたという回答は2件でした。本人が治療に希望を持っていたり、本人・家族介護者に対し、医療的な対応だけでなく生活面への助言も行われていました。気持ちに余裕を持つために、心理療法等の支援を期待していました。

家族介護者の受け止め方に関しては 15 件の回答がありました。うち 5 件は、パニックになった、ショックだった、困った、誤診を願ったという回答でした。どうすればいいのか、どうなってしまうのかという不安や、本人が通院しない・検査を受けないという不安がありました。本人がかわいそう、恥ずかしくて子どもに言えなかったという反応もありました。なかには、家業の廃業のしかたばかり考えていたという回答や、病気を認めたがらない家族等への対応に助言が欲しかったという回答もありました。認知症と疑っていたので、そう思った、安心したという回答は 3 件でした。しかし、なかには、薬もなにもないと言われ、なにもできないところに行ってもしかたないと思ったという回答もありました。どのようなものかわからなかったという回答は 2 件でした。図書館に行って調べたが、分類以外はわからなかったという回答がありました。

(3-b) 認知症と診断されて、ご本人にとって良かったことはありますか?

本人の回答

回答のあった4件のうち3件は、病名を知って良かったと回答しました。病名がわかる前の診断に納得できなかった、自覚症状があったので知っておきたかった、情報がないと対応できないなどの理由が挙げられました。

病名を知って良かったことはないという回答もありました。病名を知っても治療法がないことや、将来、病名どおり に進行することへの不安がありました。

家族介護者の回答

本人にとっての良し悪しに関する回答は1件ありました。医師の配慮のない伝え方のため心に傷を負い、本人と

のあいだで認知症の話が一切できなくなりました。

家族介護者にとっての良し悪しに関する回答は 12 件ありました。うち、良かったという回答は 7 件でした。4 件は、今後のことが予想できるようになった、方向性が決まった、対応を考えることができた、やることが明確になったという回答でした。しょうがない、諦めが付いたという回答が 2 件ありました。検査を受ける気になった、介護保険が利用できるようになったという回答もありました。

(3-c)診断後のことについて、医療機関の助言や支援はありましたか?

本人の回答

回答のあった6件のうち2件は、医師の助言がない、医師が話をじっくり聞かないという回答でした。支援機関の一覧だけ渡され、片っ端から連絡したが期待はずれだったという回答や、医師・専門職に助言を求める発想がなかったという回答もありました。医師の助言があったという回答は2件でした。本人だけでは支援機関を探せないこともあるので、医師が助言することが一番いいという意見がありました。

家族介護者の回答

医師は病気の説明・経過観察・薬の処方しかせず、病気の進行や症状にともなって生じる生活上の障害に対し、助言はなかったという回答が7割近くを占めました。さじを投げられた、家族としてできることを教えてほしかったという回答者は、受診した医療機関と関係が切れて、介護保険の申請(主治医意見書の提出)をきっかけに、別の医療機関につながりました。たまたま親しかった医療ソーシャルワーカーから、支援に関する情報が得られたという回答や、地域包括支援センターや役所の相談窓口を紹介して欲しかったという回答もありました。一方、医師から病気の進行を予防する情報が提供されたり、介護保険サービスを勧められたり、退院時に専門職によって次の制度につながったという回答が3割前後ありました。

医師から診断後の支援や、病気の進行予防に役立つ情報が提供されることを望む意見や、医師等が地域包括支援センターに医学的な情報を提供した上で、本人・家族介護者が生活面の相談を行えるとよいという意見がありました。また、医師が診断後の支援を十分に行えないのであれば、相談室に行くよう指示する一言でもよいという意見もありました。

4-6-4. 診断後のできごとについて

(1) ご本人は、認知症のことをご自分で調べましたか?

本人の回答

8件のうち、調べなかったという回答は1件でした。3件は、携帯電話等を使いインターネットで調べていました。 将来のことがわかって参考になった、同じ立場の人の集まりを検索した、どうにもならないのでくわしくは調べなかった という回答がありました。そのほか、認知機能が低下し、インターネットが使えなくなったので、電子辞書で調べたが、 これからどうしていったらいいかは書かれていなかったという回答や、図書館で調べたり、新聞の切り抜きを行っていた が、突き詰めると怖くなるので途中でやめたという回答もありました。

家族が情報源となっていたのは、3件でした。

家族介護者の回答

回答のあった 16 件のうち、調べないという回答が 5 件ありました。職場や専門職・機関から情報が入ってきたほか、インターネットが使えないので周りが教えてくれる、人づてに知ったという回答もありました。

調べたという回答の多くは、家族介護者自身がネット等で調べていましたが、代わりに息子が調べたという回答 も2件ありました。ユマニチュード・民間療法・鍼・サプリ・脳トレ等、できることをやってみた、ブログの体験談がこころ の支えになったという回答のほか、治らない病気であることを知ったという回答もありました。

(2) 受診に苦労することはありますか?

本人の回答

回答のあった1件は、主治医の紹介で院内の他科を受診するため、苦労することはないという回答でした。

家族介護者の回答

他科の受診に苦労するという回答は、12 件のうち 7 件ありました。入院生活ができない、認知症のため診察できない、精神疾患の薬を服用していると診察できない、本人に口頭で説明されても理解できない、指示が聞けないので診られないと言われたなどの苦労が挙げられていました。手術のために入院したら拘束され別人のようになった、薬の調整のために認知症疾患医療センターに入院したら拘束されたという回答もありました。

配慮があったという回答は5件ありましたが、うち3件は歯科医師でした。ほかの2件は、主治医が配慮のある 医療機関を紹介したり、院内で情報が共有されていました。

(3) 家事・育児・介護等の家庭生活に変化はありましたか?

本人の回答

回答のあった6件のうち3件は、片づけをしなくなった、自炊できなくなった、体がきつくなってきたという回答でした。症状が改善し、妻の代わりに家事を行うようになったという男性回答者もいました。親と同居して生活が楽になったという回答もありました。

家族介護者の回答

夫が家族介護者の場合、回答のあった 13 件のうち 11 件は、料理をつくるようになった、家事をやるようになったという回答でした。現役世代の夫の場合は、家事がストレスになっていたり、帰宅後、妻が荒らした家のなかを片づけることが続き、疲労困憊していました。妻が家事をできなくなってきても家事をしないという回答は、1 件しかありませんでした。

妻が家族介護者の場合は、娘が仕事を辞めて介護に協力したという回答が1件ありました。夫の収入に加えて娘の収入もなくなり、生計は一層、厳しくなりました。

(4) ご近所づきあいや余暇活動などでご本人が苦労することはありますか?

本人の回答

回答のあった5件のうち3件は、自分だけ別世界にいるように感じるので古い友だちに会いたくない、障害者になったので飲みに行っていた友だちと会いたくない、転居して病気のことを知らない人たちばかりになって気が楽にな

ったという回答でした。 友だちが会いに来てくれる、 病気のことを理解している集まりに行っているという回答もありました。 物忘れのため一人で外出することが怖いので、 同伴してくれる人がいて欲しいという回答もありました。

家族介護者の回答

回答のあった 12 件のうち 5 件は、認知症を隠さないという回答でした。周囲の助けが必要、理解してもらうほうが生活が楽、励ましやこころの支えが得られるなどが理由として挙げられていました。つきあいがなくなったという回答や、法事に招待されなかったり親族と絶縁状態になった、地域ぐるみで見守りあう関係は無理という回答もありました。

4-6-5. 仕事や経済的なことについて

(1) [就労経験がある方] ご本人・ご家族の仕事の継続に、どのような影響がありましたか?

本人の回答

回答のあった6件のうち、解雇は0件でした。会社都合で退職するか、無給で休職するかという選択を求められたという回答が1件ありました。そのほかは、業務に支障があったため自発的に退職したという回答が2件、個人事業主として契約を更新しなかったという回答が1件、定年後再雇用を勧められたが、断ったという回答が1件、パートを諦めたという回答が1件でした。

家族介護者の回答

本人の就労に関する回答は7件ありました。うち、柔軟な働き方が認められたため就労が継続できたという回答は1件でした。経営者が福祉施設も運営していて、認知症に対する理解があったという理由でした。そのほかは、福祉サービスの事業所だったが、配慮なく退職勧奨されたという回答が1件、退職勧奨があったが、妻が自分の勤務先に相談し、本人の雇用継続を維持したという回答が1件、失敗が続き自発的に退職したという回答が1件、役員だったので契約を延長しなかったという回答が1件、個人事業主のため続けられなくなったという回答が2件ありました。

家族介護者の就労に関する回答は7件ありました。家族経営だったので廃業したという回答が2件、妻が勤務先にひっきりなしに電話してくるので勤務が続けられなくなったという回答が1件ありました。このほか、たまたま辞めたかった時期とけがが重なった、役職者として仕事の区切りがついたので、介護のため退職・廃業した、独立・開業できる資格を持っていたので早期退職したという回答がありました。

(1-a) ご本人・ご家族の仕事の継続について、医療機関・専門職等に相談しましたか?

本人の回答

医療機関の支援があったという回答はありませんでした。

家族介護者の回答

相談したという回答が1件ありました。相談先の若年性認知症総合支援センター職員が、本人の勤め先に出向き、直接、雇用継続の交渉を行いました。

相談しなかったという回答は3件ありました。うち、1件は相談しにくいという回答でした。

(1-b) 「退職した方】※いつ、どのようにご本人・ご家族は退職にいたりましたか?

本人の回答

回答のあった5件は、自発的に退職・廃業しました。仕事ができなくなった、迷惑をかける、職場に嫌がられたなどの理由が挙げられていました。

家族介護者の回答

本人の退職に関する回答は6件でした。うち、家族介護者が本人の勤務先から本人の退職を迫られたのは1件でした。自発的に辞めたという回答が1件、本人の兄弟・友人から勧められたという回答が2件、家族介護者が本人を説得して廃業したという回答が1件、家族介護者が雇い主に依頼したという回答が1件でした。

家族介護者が、介護を理由に離職・廃業したという回答は2件でした。

(1-c) ご本人・ご家族が勤務先に望むこと又は配慮してほしかったことはありますか?

本人の回答

回答のあった1件は、中小企業における若年性認知症の理解の浸透を求めていました。

家族介護者の回答

本人の退職に関する回答が2件ありました。20 年以上勤めた福祉サービスの事業所から家族介護者に、本人の退職を求められたことや、働き方が影響し脳血管障害が起きたと思われるのに、発症直後に退職して欲しいと言われたことに理不尽な思いを持ったというエピソードがありました。

家族介護者の勤務先への希望・配慮に関する回答は1件でした。定年延長・在宅勤務等の働き方があることを、辞める前に教えられれば、介護離職する必要がなかったかもしれないという意見でした。

(1-d) ご本人・ご家族は転職・再就職活動の経験はありますか?

本人の回答

回答のあった5件のうち再就職したのは1件でした。妻の人脈を活かし障害者雇用枠で発達障害が就労する職場に採用されたが、地域障害者職業センターのジョブコーチ派遣(障害者雇用促進法)および障害者就業・生活支援センターによる支援(障害者雇用促進法)も活用されていました。このほか、若年性認知症総合支援センター職員が同行し、就労継続支援 B 型事業所の利用にいたったという回答が1件、病前の職業経験を活かし、ボランティア活動をしているという回答が1件ありました。

家族介護者の回答

本人の再就労に関する回答は2件でした。1件は、若年性認知症総合支援センター職員の紹介により、障害者雇用枠で就労しました。もう1件は、本人に就労意欲は見られるものの、就労支援サービス(障害者総合支援法)につながったり、就労にはいたっていませんでした。そのほか、ケアマネジャーに就労継続支援B型事業所を紹介されたが、若年性認知症は進行するという理由で断られたという回答が1件ありました。家族会の紹介で子ども食堂のボランティアも希望したが、家族が同伴する必要があったため断念しました。就労意欲を持ちながら、就労継続支援B型事業所に通所しているという回答も1件ありましたが、神経変性疾患ではありませんでした。

家族介護者に関する回答は3件でした。介護のために、時間的に融通の利く勤務先に転職したという回答が2件、定年後に再雇用されたが、技術力を買われ、介護にあわせて柔軟な働き方が可能であったという回答が1件ありました。

(2) 経済的な苦労はありますか?

本人の回答

8件のうち、苦労があるという回答は4件でした。1件は、母娘の二人世帯で、姉が同じ症状・原因で指定難病の脊髄小脳変性症と診断され、医療費が助成されていました。しかし、本人は遺伝子診断を受けた結果、アルツハイマー病と診断されたため、指定難病の医療費助成が受けられませんでした。歩行障害があり、働けなくなった上、医療費の負担が重く、家族内で年金・手当のやりくりをしていました。他の3件も収入がなかったが、うち2件は生活保護を受給し生計の安定を図っていました。もう1件は、生活保護を申請せず貯金を取り崩して生活していますが、1年後から厚生年金の支給が始まる予定でした。

苦労がないという回答は4件でした。うち3件は、配偶者のほうが主たる生計者となっていました。生活に困らないくらいの年金収入・賃貸収入がある回答者もいました。

家族介護者の回答

回答のあった 16 件のうち、苦労があるという回答は 5 件でした。うち 2 件は、妻が家族介護者として生計を支える立場でした。夫婦の国民年金で無職の娘の生活も維持していて生活が困窮している状況や、廃業した店舗兼用住宅を賃貸し、その賃貸料で転居先のマンションの賃料を支払っているため、賃料収入が入ってこなくなると生計が成り立たなくなるという状況でした。夫が家族介護者の場合は、夫の退職金・年金と本人の障害年金で生活を維持できているものの、先々の経済状態に強い不安がありました。母子世帯は 2 件でした。母が家族介護者の場合は、本人(息子)の障害年金が主たる収入源のため、本人の障害が改善し、障害者雇用枠で雇用され、世帯収入が増えることを期待していました。娘が家族介護者の場合は、本人(母)の不動産収入等が主たる収入であり、それだけでは介護費用の捻出が難しいため、介護している娘の給与で補填しているほか、必要に応じて姉夫婦の援助がありました。

苦労がないという回答は9件でした。夫が家族介護者の場合は給与所得や退職金・厚生年金があり、ローンがないという共通点がありました。妻が家族介護者の場合も、夫が役職者として退職しており、経済的には安定しています。

(2-a) 経済的な公的支援制度に関する情報提供や支援・助言はありましたか?

本人の回答

回答のあった7件のうち、情報提供等がなかったという回答は1件でした。地域包括支援センターとはつながりがありました。

情報提供等があったという回答は、5件ありました。医師・行政職員(保健師等)・若年性認知症総合支援センター職員・地域生活支援センター相談支援専門員(障害者総合支援法)が情報源でした。地域包括

支援センターを挙げた回答はありませんでした。サービスをただ情報提供するだけでなく、今後、起きることをふまえた具体的な提案をしてほしいという意見や、受診直後のどうしていいかわからずパニックになっていたときに、若年性認知症総合支援センター職員がすぐに来てくれて専門的なことを教えてくれたというエピソードが出ていました。

家族介護者の回答

18 件のうち、情報提供がなかったという回答が9件ありました。うち2件は、医療機関の掲示・区報で制度を知り、利用にいたっていましたが、そのほかは制度の利用がありませんでした。長男・次男(双子)が脳性麻痺になり、障害児の保育所入所等のための運動を行った家族介護者でも、知らない障害福祉制度があり、利用にいたっていませんでした。

情報提供等があったという回答は、6件ありました。ケアマネジャー2件のほか、訪問看護師、医師、福祉に従事している義理の両親、家族会が情報源でした。地域包括支援センターを挙げた回答はありませんでした。医師は頼りにならないという回答や、障害年金をさかのぼって申請したとき、行政の担当職員から「よくこの制度にたどり着きましたね」と感心されてあきれたという回答がありました。障害年金や手帳を自分で調べたがわからなかったので、教えてくれる専門職がいるといいという意見がありました。

4-6-6. 福祉サービス・地域の支えあいについて

(1) [サービスを利用中の方] 利用の内容・きっかけはなんですか?

本人の回答

介護保険制度の利用について回答のあった6件の情報源は、地域包括支援センター2件、医療機関2件、保健師1件、家族が利用中のため知っていた1件でした。うち、保健師経由の1件は、生活保護制度の申請がきっかけでした。

40 歳未満のため、利用できないという回答が1件ありました。

家族介護者の回答

介護保険制度の利用について回答のあった 16 件のうち、専門職・専門機関が情報源という回答は5件でした。うち、医師・医療ソーシャルワーカーの勧めが4件でした。

専門職・専門機関以外が情報源となって、介護保険サービスにつながったという回答は9件でした。インフォーマルな情報源(兄弟の知り合い・職場・町会・家族会)が5件あったほか、本人が介護保険サービス事業所に勤めていたときのつながりが1件、友人が福祉に詳しい専門職だったという回答が1件、たまたま、街中で障害者支援を行っている団体の責任者に声をかけられサービス利用にいたったという回答が1件、家族介護に行きづまって近所のデイサービスに飛び込み利用にいたったという回答が1件でした。介護保険制度を利用していないという家族介護者は、仕事で介護保険施設と関係していたが、地域包括支援センターは高齢・重度が対象と思い込んでいました。

地域包括支援センターが介護保険サービスの情報源として挙げられたのは、1 件でした。

(1-a) ご本人・ご家族にどのように役立っていますか?

本人の回答

回答のあった1件は、デイサービスの利用者が70-80歳代以上ばかりで話があわないという回答でした。

家族介護者の回答

本人への役立ちに関する回答は4件ありました。うち2件は、デイサービスの利用を嫌がっていたが、施設側の配慮によってお手伝い・配膳等の役割が与えられ、通えるようになったという回答、1件が若年性認知症デイサービスには喜んで通っていたという回答でした。ほかに、デイサービスに関して、軽度の利用者だけで話せる、仕事のように通える(仕事になる)、軽作業ができる、世話されているという感じがしないなどの条件を挙げた回答が2件ありました。

家族介護者への役立ちに関する回答は6件ありました。うち4件は、見守りの空白時間がなくなった、日中に自由な時間・気分転換の時間が確保できるようになったという回答でした。2件は医療機関の提供するデイナイトケア(自立支援医療)を利用していて、家族介護者の自由時間が大幅に確保できるようになったり、仕事との両立が可能になりました。一方で、認知症でも利用可能な入院・入所施設を探すのは難しいという意見も出ていました。また、デイサービスの利用によって介護負担は軽減したが、本人は嫌がっていてかわいそうという意見もありました。

(2) 介護保険サービス・障害福祉サービスを必要としたのに、利用しなかった期間はありますか?

本人の回答

回答のあった1件は、ケアマネジャーの方針とあわなかったので利用をやめたという回答でした。

家族介護者の回答

回答のあった8件のうち3件は、福祉サービスが利用できることを知らずに介護していた期間が2年間から5年間までありました。2件は、利用できることを知っていたが、本人の実母が受容できず利用できなかった、送迎・胃瘻・喀痰吸引の条件にあうデイサービス事業者が見つからなかったという回答でした。

本人が受容できず困っているという相談を地域包括支援センターにしたところ、まだサービスが使えないので困ったら来てくださいと言われ、そこからサービス利用にいたるまでに2年間かかったという回答もありました。本人はサービスの利用を嫌がるに違いないと思い込んでいたが、勧められれば利用を検討したかもしれないという意見もありました。いずれも、地域包括支援センターが待ちの姿勢であったために、本人・家族介護者が介護保険サービス等の利用にいたりませんでした。

(3) ご本人・ご家族は、介護保険サービスと障害福祉サービスの両方を使えることを知っていますか?

本人の回答

回答のあった3件のうち、1件は知っていると回答し、2件は知らなかったと回答しました。知っていると回答した 1件は、家族に利用経験がありました。

家族介護者の回答

回答のあった 11 件のうち 4 件は、併用できることを知らなかったと回答していました。知っていたと回答した 7 件のうち、5 件は、ケアマネジャーが情報源となっていました。うち 1 件は、ケアマネジャーも詳しくなく、若年性認知症総合支援センターのパンフレットを渡すだけでした。障害福祉サービスは送迎がない・事業所が少ないなどの短所はあるが、家族介護者の孫の保育園の送迎も可能など利用範囲が広いという長所があり、介護保険サービスは障害福祉サービスよりも利用できるサービスの種類が多い点が長所だが、費用がかかる・本人に直接関わることしか利用できない点が短所として挙げられていました。

高次脳機能障害の場合は、どの段階でどの手続きが必要になるのかという流れがパンフレットに図となって載っていました。また、利用している制度・サービスの各段階で、専門職が次の制度・機関に切れ目なくつないでいました。

(4) ケアプランの内容を決めるのに、ご本人・ご家族はどのように関わっていますか?

本人の回答

回答のあった5件のうち、本人が主体的に決めたいという自己決定型の回答は1件でした。1件は、障害福祉サービスを利用していて、本人が希望を伝えた上で相談支援専門員の提案にしたがう委任型でした。ケアマネジャーが説明してくれない・先に決めてしまうという回答が2件あり、うち1件は介護保険サービスを利用しなくなりました。本人・家族・友人(専門職)を含めたケアチームで相談しあって決めているという回答が1件ありました。本人は、家族・友人の意見にしたがうという態度でした。

家族介護者の回答

回答のあった 14 件のうち、家族介護者がサービスの利用方針まで主導しているという回答は 1 件でした。6 件は、本人・家族介護者が希望を伝えた上で、ケアマネジャーの提案にしたがう部分委任型でした。ただし、利用する事業所等は本人・家族介護者が選択していました。要望の内容が介護保険サービスの対象でない場合も多く、かなえられないことも多いという意見もありました。

初めからケアマネジャーの勧めにしたがうという完全委任型も4件ありました。うち1件は、家族介護者からケアマネジャーに要望を出す場合もあり、初めからケアマネジャーの提案がある場合と半々でした。

はじめはケアマネジャーが中心となっていたが、家族介護者の制度理解が進み、家族介護者が主体になったという回答も1件ありました。

4-6-7. その他

(1) ご本人が認知症を乗り越えるために努力してきたこと・取り組んできたことはありますか?

本人の回答

回答のあった7件のうち4件は、外に出る、会話する、つながりを大事にする、時間がかかっても自分でやる、頭を使うゲームをする、長い距離を歩く等、行動面で努力していました。障害じゃない、病気を治すという心の持ち方に関する回答も含まれていました。

努力をしていない、やる気が出ないという回答が1件ありました。

家族介護者の回答

本人に関する回答は4件ありました。うち、2件は家族介護者を通じて本人が脳トレを行っていましたが、家族介護者の思いほど積極的ではありませんでした。病気に対する本人の拒否感が強いので、嫌な思いをさせなくてもいいと割り切っているという回答も1件ありました。訪問リハの専門職の紹介で定期的に寺に通い、座禅・読経等を行っていて、本人は心のよりどころになっているという回答が1件ありました。

家族介護者に関する回答は 13 件ありました。うち 5 件は、家族介護者が本人にやさしく接するために、家族介護者自身が好きなことをやる、先々の不安やできないことを考えずに今日と明日の笑えることを考える、配偶者が認知症になったことによって生じた苦労を受容するために、現実を受け入れた上で人生の楽しみ方を見直す、介護保険サービスを利用して家族介護者自身が楽しい時間を確保する、毎日、なるべく気分転換の時間を確保しようとしているという回答でした。夫が家族介護者である 3 件は、妻に家庭のことをまかせて十分に尽くしてこなかったという償う気持ちが、介護への献身につながっていました。親子の間柄では、世話になってきた親に対する絆が深まったという回答が 1 件ありました。そのほか、一緒に運動する機会をつくるように工夫しているという回答が 1 件ありました。当たりをひいてしまった、人生をやり直したいという回答も 2 件ありました。

(2) ご本人・ご家族がこれからやりたいこと、あきらめていたけど挑戦してみたいことはありますか?

本人の回答

回答のあった7件のうち、前向きな回答は4件でした。1件は、病前は他人をあてにしない生き方だったが、他人の力を借りて生きているようになったという回答でした。他の3件は、仕事一筋だったが趣味を見つけたい、昔やっていたテニスがしたい、旅行に行きたいという回答でした。

喪失感に関する回答は1件でした。あきらめることが多くなった、楽しめる仲間がいなくなったという回答でした。 変わらないという回答は2件でした。病前から先々のことで思い悩みにくかった、家族性アルツハイマー病のため、 発症を予見していたなどの理由でした。やる気が出ないという回答が1 件ありました。自分に自信がなく、楽しいと 思えること、はまること、集中することができないという理由でした。

家族介護者の回答

本人に関する回答は2件ありました。1件は車イス利用の特典を活かし、孫とディズニーランドに行くのが夢という前向きな回答でした。他の1件は、本人(夫)が実母と同居することを希望したため、家族介護者とは別居しているという回答でした。

家族介護者に関する回答は14件ありました。うち、人生観が変わったという回答は5件でした。家族で協力するようになった、思うようにならない介護の経験が仕事のやり方に良い影響を与えている、妻が愛おしくなった、自分で家事をなんでもやるようになった、優しさが生まれ家族介護者に貢献したいと思うようになったという回答でした。やりたいことができなくなったが、思いどおりに生きられなくてもいいかと思うようになった、育ててもらったことを考えると、現状をしかたがないと思えるようになったなど、受容に関する回答が2件ありました。そのほか、子どもたちに少しでも負債を減らして引き継ぎたいという経済的な回答が1件、介護経験を活かして社会的な活動をしたいという生き

がいに関する回答が1件、妻を長生きさせて看取りたいという回答が1件ありました。変化がなかったという回答は 1件でした。

(3) ご本人・ご家族が行政や地域に望むことはありますか?

本人の回答

8件の回答のうち、制度に関する意見は5件でした。制度は調べてもわかりにくいので、専門職が必要と思われる支援の内容を説明して欲しい、行政手続きのための移動・交通の便に配慮がない、症状が同一なのに診断名が異なるために難病指定が受けられない、病名ではなくどのように困っているかという決め方をして欲しい、認知症の症状は多様にもかかわらず、支援の仕組みが決まっていて、その制度に利用者があわせ、自由が制約されることは困るなどでした。精神障害者保健福祉手帳に関して、送付だけされて活用方法の説明がなかったという意見や、カバーが洗練されていないことへの不満もありました。そのほか、一般向けの趣味活動の場に通える仕組みがあるとよいという要望が1件ありました。

家族介護者の回答

18 件の回答のうち 15 件が支援の仕組みに関する意見でした。情報提供のあり方に関する意見は 8 件ありました。初めに受診した医療機関が、病気の診断だけでなく、その後に必要となる生活支援等の情報を提供し、専門職・専門機関につなぐ仕組み、冊子は読んで理解することが難しいので、専門職が必要となる情報を説明する体制、医療機関が自立支援医療を紹介する体制などが挙げられました。見守り・相談に関する意見は 2 件ありました。サービスを利用する前の段階から経過の見守りと必要な支援を検討する専門職の体制、診断後の心理的なケアを専門職が行う体制が挙げられました。手続きに関する意見は 2 件ありました。手続き等の書類の作成・提出を一緒に行うボランティアの育成と、地域包括支援センター・医療機関相談室等による紹介・マッチング、支援する側が情報を共有することによる手続き等の書類の簡素化・簡便化が挙げられました。居場所に関する意見は 2 件ありました。女性・若年が集まりやすい居場所の提供、本人も集まれる家族会の運営が挙げられました。家族介護者に対する支援に関する意見は 2 件ありました。家族介護者の介護に対する金銭的支援、認知機能等の低下にともない介護者の同行の必要があるため、精神障害者保健福祉手帳の交通運賃割引制度を他障害と同等にすることが挙げられました。そのほか、制度に利用者を当てはめるのではなく、症状に応じた支援の仕組みが求められていました。

4-7. 考察

A. 本人・家族介護者に配慮した病名の告知等

- 1) 病名の告知は、本人も家族もつらい体験であることが再確認されました。本人だけでなく、家族介護者のほうにも、診断されたときに心理的なケアがあったらよかったという意見がありました。
- 2) 家族介護者の意向に配慮した病名の告知が、望まれていました。病気の受け止め方には個人差があるので、まず、家族介護者に病名を伝え、家族介護者の考えもふまえた上で、本人に対する病気の伝え方を検討して欲しいという意見が複数ありました。

- 3) 本人・家族介護者が期待する治療の説明のしかたがありました。治療効果が期待できなくても、一緒に考えていきましょうという医師の姿勢・態度は、本人・家族から良い医師として支持されていました。
- 4) 医師等の専門職が、本人だけでなく家族介護者と話すことにも意義があることが認められました。専門職が、本人の情報を家族介護者に伝え、家族介護者の情報を本人に伝える役割を担うことによって、本人と家族介護者のあいだの相互理解が深まる効果が期待されます。

B. 本人・家族介護者に対するこころのケア

- 1) 病名を知ることによって 2 つの困難が生じていました。第一はこれから直面するであろう具体的な困難とそれにともなう不安、第二は病気であることによってさまざまな喪失を体験することへの葛藤です。喪失に関わる問題は、医療職・福祉職の対応に改善の余地があることを示唆していました。
- 2) 病名の告知によって生じる喪失を本人・家族が受け止めきれない場合、適切な支援策の一つとして、心理専門職の役割が挙げられます。心理専門職が関わることによって、人生の喪失から新しい生き方への転換を図る作業や、家族介護者が、受容できない家族へ対応するための方法をともに考えることが容易になります。

C. 医療機関を起点とする診断後支援

- 1) 本人・家族介護者の多くは、医師が病気を診るだけ、薬を処方するだけで、進行予防・生活障害等に対し助言がないことを不満に感じていました。診断後支援の一つとして、本人・家族介護者に対する適切な助言を行うとともに、必要な情報が得られるよう支援していくことが求められます。
- 2) 最初の受診機関で、制度・サービスにつないで欲しいという要望がありました。医療機関は、本人・家族介護者が診断をきっかけにつながる最初の専門機関で、かつ支援が必要のない段階から関係が継続します。しかし、医療機関は受診後の支援の仕組みとのつながりが弱いために、症状が進行したときに必要な制度・サービスにつながりにくい現状があります。医療機関を支援の"起点"と位置づけることによって、診断後の支援につながりにくいという現状を改善できる可能性があります。
- 3) 医療機関が"起点"となり、本人の症状・障害の変化に応じて若年性認知症総合支援センター・地域包括支援センター・特定相談支援事業所(障害者総合支援法)等の相談・支援機関につなげ、さらに、これらの機関が診断後支援の"拠点"となり、適切なサービス・制度の利用につなげるなど、切れ目のない支援を行うことが必要です。福祉サービスの必要ない症状・障害の段階では、医療機関が診断後支援の"起点"にならなければ、せっかく早期に医療機関につながっても、適切な時期に制度・サービスにつながりにくい状況が生まれてしまいます。

D. 本人等に知識・情報がなくても必要な制度・サービスにつながる支援

- 1) インフォーマルな情報源から介護保険サービスにつながった本人・家族介護者が多くいました。さまざまな制度・サービスが整備されても、現状では、本人・家族介護者が症状・障害の内容に応じて制度・サービスの利用を求めていかないと、適切な制度・サービスにつながらないという申請主義の問題があり、そのため、制度・サービスの利用にいたっていませんでした。
- 2) 若年性認知症の場合、利用できる制度・サービスは複数の制度にまたがっており、これらの情報は、冊子・パンフレットで本人・家族介護者に届けられています。しかし、ある家族介護者は、高齢になると冊子・パンフレットは読め

ないと言っていました。支援機関の一覧を渡されて、片っ端から連絡したが期待はずれだったという本人や、どの事業者を選択したらいいか、わからなかった家族介護者もいました。本人・家族の症状・障害に対応した制度・サービスを、症状・障害に応じてつなげる役割が、専門職・専門機関に望まれています。

E. 症状・障害・年齢の特徴に応じた制度横断的な支援

- 1) 遺伝子診断によって、家族性アルツハイマー病であることがわかった回答者は、歩行障害等が顕著で、アルツハイマー型認知症の進行は緩やかにもかかわらず、脊髄小脳変性症の進行は深刻でした。アルツハイマー型認知症は指定難病に認定されていないため、脊髄小脳変性症の症状があっても医療費助成が受けられず、家計は逼迫していました。介護保険制度に関しても、認知症の症状は多様であるにもかかわらず、制度に人があわせ自由が制限されているという意見、決まりではなく必要性(ニーズ)に対応して欲しいなどの要望が出ていました。症状の多様性に対応した、柔軟な制度設計を求める声がありました。精神障害者保健福祉手帳に関しても、交通運賃割引条件が他障害と同等でないことに対して意見がありました。若年性認知症の場合は見当識障害等があるので、外出時に家族介護者等の援護の必要性があるという理由でした。
- 2) 若年性認知症の場合は、介護保険サービスと障害福祉サービス(障害者総合支援法)の併用が可能であることを、多くの本人・家族介護者が知りませんでした。介護保険法は、加齢にともなって生ずる心身の変化に起因する疾病等が想定されていて、高齢者の日常生活の自立を、その症状・障害に応じて支援することが制度の趣旨です。そのため、介護保険制度を若年性認知症に適用すると、若年性認知症の社会的自立・経済的自立のニーズに合致しにくいという現状があります。一方、障害者総合支援法は、障害者等の日常生活・社会生活の自立を支援することが趣旨であり、介護給付だけでなく、自立支援医療・訓練等給付(就労支援等)などの仕組みも用意されています。しかし、障害の概念は、症状の安定・改善が前提となっています。サービス提供者側は症状・障害の進行を想定していないため、障害福祉サービスの利用を断られたというエピソードも出ていました。若年性認知症は、介護保険法・障害者総合支援法の制度の狭間に陥っている状況にあります。そこで、一つの制度で対応するのではなく、介護保険法・障害者総合支援法の制度の狭間に陥っている状況にあります。そこで、一つの制度で対応するのではなく、介護保険法・障害者総合支援法の仕組みを柔軟に活用して、そのときどきの状況に応じた制度・サービスを利用し、本人の日常生活・社会生活の自立と家族介護者等の介護を支援することが課題となります。また、障害者雇用促進法の仕組みを柔軟に活用し、就労後の職場の定着支援を行うとともに、就労後の症状・障害の進行に対応して、一般就労(障害者雇用等)から福祉的就労(就労継続支援B型事業所等)への移行支援など、専門職によるきめ細やかな支援が必要とされています。
- 3) 医療機関を"起点"とした支援体制を構築する観点からは、認知症疾患医療センターの医療相談室や、医療機関の地域連携室等から障害者総合支援法につなげるほか、医療機関と若年性認知症総合支援センター・地域包括支援センター等が連携し、障害者総合支援法につなげる体制が望まれます。また、医療機関を"起点"とした支援体制を構築しても、介護保険法・障害者総合支援法・障害者雇用促進法等の制度横断的な支援を実現するためには、医療機関から情報を受け取った福祉専門職がこれらの制度を柔軟に活用できることも必要であり、そのための専門職育成が課題です。
- 4) 制度横断的な支援が可能な専門職を育成する観点は、2点あります。第1点は、医療機関と若年性認知症

総合支援センター・地域包括支援センターの連携に関する人材育成です。医療機関の専門職(医師・看護師・医療ソーシャルワーカー等)と若年性認知症総合支援センター・地域包括支援センターの専門職とのあいだで、診断後支援を想定した情報の受渡しが必要となります。たとえば、本人・家族介護者が医学的な情報にもとづいて生活上・社会上の課題を説明することは難しいので、形式的な情報提供ではなく、専門職として、今後の見通しを持って情報を提供しあう関係が求められます。第2点は、地域包括支援センターとケアマネジャー(介護保険法)・相談支援専門員(障害者総合支援法)の連携に関する人材育成です。介護保険サービスと障害福祉サービス等を柔軟に活用するためには、居宅介護支援計画(介護保険法)とサービス等利用計画(障害者総合支援法)の内容が共有されている必要があります。地域包括支援センター職員・ケアマネジャー・相談支援専門員(障害者総合支援法)がお互いの制度・サービスの特徴を活かしあう関係を構築する必要があります。

F. その他

- 1) 配偶者が若年性認知症になったことを他の家族・親族に言えなかった場合、家族介護者の介護負担がより重くなる傾向がありました。一方、配偶者が病気になったことをご近所や仲間に開示して、本人を地域・仲間で見守る体制をつくっていた家族介護者もいました。家族介護者のこころのなかに潜む、認知症になることを恥ずかしいと思う気持ちが、家族介護力の低下や家族介護者の疲弊を招く可能性のあることがわかりました。
- 2) 本人の場合も、病気のことを身近な人に言っている場合、言っていない場合がありました。病気のことを言っている場合は、インフォーマルな支援に助けられていましたが、言っていない場合は、専門職の支援がすべてでした。本人のこころのなかに潜む、認知症になることを恥ずかしいと思う気持ちが、本人とインフォーマルな支援を結びつきにくくする可能性のあることがわかりました。
- 3) 本人・家族介護者が認知症という病気を受容するための支援の取り組みや、本人・家族介護者が地域の人たちの助けを借りながら自立した生活を送れるように、本人・家族介護者と地域の人たちの相互理解を深める取り組みが求められます。

第Ⅱ部 介護保険データを用いた調査

1 調査全体の概要

1-1. 目的

本調査は介護保険第2号被保険者データを用いて若年性認知症の人の実態を明らかにし、若年性認知症の 人の支援のための制度・政策の改善に資するための基礎資料を得ることを目的としています。

1-2. 調査対象地域

東京都豊島区、北区、板橋区、練馬区

1-3. 調査基準日と調査対象者

本調査では、2018 年 4 月 1 日現在(調査基準日)、要介護・要支援認定を受けている第 2 号被保険者であり、かつ、調査対象地域の自治体(以下「自治体」という。)に住民票がある人を調査対象としました。

1-4. 調査方法

1-4-1. 第 1 次調査

自治体の要介護認定システムから介護保険第2号被保険者データをダウンロードしていただき、データの提供を受けました。なお、提供されたデータには個人情報は含まれていません。データ提供期間は2018年7月~9月としました。なお、生活保護を受給している「みなし第2号被保険者」については、介護保険主管課が認定データを管理していないため、二次調査で対応しました。

自治体から提供されたデータの中から、転入ケースで特定疾病、認知症高齢者の日常生活自立度(以下、認知症自立度)など分析に必須の項目が無い者、調査基準日に第2号被保険者から第1号被保険者に移行していた者を除外した結果、1,713ケースが分析対象となりました。なお、2018年4月と6月の2度にわたり要介護認定システムの改修があり、その影響で自治体によっては要介護認定システムからデータを抽出できない項目がありました。

その他に調査基準日における住民基本台帳上の人口データ(40~64 歳)の提供を受ました。調査対象地域の調査基準日における住民基本台帳上の40~64 歳人口は646,292 人ででした。

1-4-2. 第 2 次調査

「みなし第2号被保険者」は、別途、特定疾病ごとに男女別・年齢5歳毎の人数、認知症高齢者の日常生活自立度、住民票の有無など、可能な範囲でデータの提供を求めました。データ提供は2019年2月1日までとしました。

自治体から提供されたデータの内容はそれぞれ異なり、一つのデータベースに統合することはできませんでした。しかし、調査対象地域でみなし第2号被保険者は554人いることが明らかになりました(住民票の有無を問わず)。第2号被保険者1,713人と合わせると2,267人となり、みなし第2号被保険者を加えると人数が3割以上増えることがわかりました。

1-5. 倫理的配慮

本調査は地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター倫理委員会の承認を得た上で実施されました。ま

た各自治体においては、それぞれの個人情報保護条例等に則り、必要に応じて個人情報保護審議会等に諮った上で、データ提供にご協力をいただきました。

1-6. 集計について

- ①年齢は調査基準日の年齢です。
- ②認知症高齢者の日常生活自立度は、主治医意見書と認定調査票の2つがありますが、報告書では認定調査票の認知症高齢者の日常生活自立度を用いています。
- ③「認知症関連疾患」とは特定疾病の内、認知症の原因となる中枢神経疾患である「筋萎縮性側索硬化症」、「多系統萎縮症」、「初老期における認知症」、「脊髄小脳変性症」、「早老症」、「脳血管疾患」、「進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病」を指します。
- ④障害高齢者の日常生活自立度を「障害自立度」、認知症高齢者の日常生活自立度を「認知症自立度」と標記している部分があります。
- ⑤集計結果は四捨五入の関係から、合計が100%にならないことがあります。
- ⑥集計は統計ソフト SPSS を用いて行いましたが、度数が 0 の項目は表に表示されません。
- ⑦表中の「システム欠損値」はデータが無い(転入ケースでデータがない、要介護認定システムからデータを抽出できないなどの理由でデータが提供されなかった) ことを示しています。
- ⑧本報告書では提供されたデータの中から項目を抜粋して掲載しており、全ての項目について記載しているわけではありません。

2 調査結果

2-1. 基本属性

2-1-1. 性別

性別は男性 54.4%、女性 45.6%とほぼ半々でした。

表1 性別

		度数	パーセント	有効パーセ ント	累積パーセ ント
有	男	932	54.4	54.4	54.4
効	女	781	45.6	45.6	100.0
	合計	1713	100.0	100.0	

2-1-2. 年齢

年齢は55歳以上で約7割を占めていました。

表 2 年齢

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	40~44歳	51	3.0	3.0	3.0
	45~49歳	187	10.9	10.9	13.9
	50~54歳	271	15.8	15.8	29.7
	55~59歳	451	26.3	26.3	56.0
	60~64歳	753	44.0	44.0	100.0
	合計	1713	100.0	100.0	

2-1-3. 特定疾病

最も多かったのは「脳血管疾患」であり 51.8%を占めていました。その他は全て 1 割未満でした。 なお、認知症 関連疾患を合わせると 7 割以上になります。

表 3 特定疾病 (*:認知症関連疾患)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	*筋萎縮性側索硬化症	33	1.9	1.9	1.9
	後縦靱帯骨化症	28	1.6	1.6	3.6
	骨折を伴う骨粗鬆症	21	1.2	1.2	4.8
	*多系統萎縮症	21	1.2	1.2	6.0
	*初老期における認知症	112	6.5	6.5	12.6
	*脊髓小脳変性症	39	2.3	2.3	14.8
	脊柱管狭窄症	40	2.3	2.3	17.2
	糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及 び糖尿病性網膜症	90	5.3	5.3	22.4
	*脳血管疾患	887	51.8	51.8	74.2
	*進行性核上性麻痺、大脳皮質基底 核変性症及びパーキンソン病	75	4.4	4.4	78.6
	閉塞性動脈硬化症	10	.6	.6	79.2
	関節リウマチ	58	3.4	3.4	82.5
	慢性閉塞性肺疾患	13	.8	.8	83.3
	両側の膝関節又は股関節に著しい変 形を伴う変形性関節症	36	2.1	2.1	85.4
	がん (がん末期)	250	14.6	14.6	100.0
	合計	1713	100.0	100.0	

2-1-4. 二次判定結果

要支援が約2割、要介護が約8割を占めていました。最も多かったのは要介護2で21.1%でした。

度数 パーセント 有効パーセント 累積パーセント 有効 要支援 1 133 7.8 23.3 要支援2 266 15.5 15.5 要介護 1 152 8.9 8.9 32.2 53.2 要介護 2 361 21.1 21.1 269 15.7 68.9 要介護3 15.7 要介護4 243 14.2 14.2 83.1 要介護 5 289 16.9 16.9 100.0 100.0 100.0 合計 1713

表 4 二次判定結果

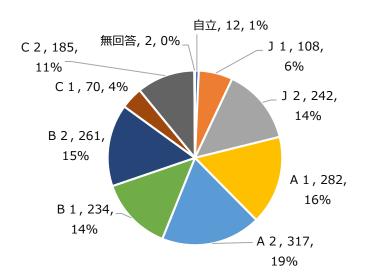
2-1-5. 障害高齢者の日常生活自立度 (障害自立度)

最も多かったのはランク A2 の 18.5%であり、ランク B 以上は 43.9%でした。

		ale dit.			mith o
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	自立	12	.7	.7	.7
	J 1	108	6.3	6.3	7.0
	J 2	242	14.1	14.1	21.2
	A 1	282	16.5	16.5	37.6
	A 2	317	18.5	18.5	56.2
	B 1	234	13.7	13.7	69.8
	B 2	261	15.2	15.3	85.1
	C 1	70	4.1	4.1	89.2
	C 2	185	10.8	10.8	100.0
	合計	1711	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	.1		
合計		1713	100.0		

表 5 障害高齢者の日常生活自立度

図表 2-1-5 障害高齢者の日常生活自立度 [n=1,713]



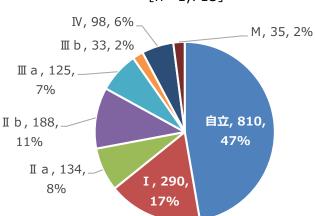
2-1-6. 認知症高齢者の日常生活自立度(認知症自立度)

自立・自立度 I で 64.2%と約 6.5 割を占め、自立度 II 以上は 35.7%と約 3.5 割でした。

度数 パーセント 有効パーセント 累積パーセント 有効 810 47.3 47.3 47.3 自立 Ι 290 16.9 16.9 64.2 Па 134 7.8 7.8 72.0 83.0 IБ 188 11.0 11.0 90.3 Ша 125 7.3 7.3 Шь 33 92.2 1.9 1.9 IV 98 5.7 5.7 98.0 100.0 35 2.0 2.0 М 合計 1713 100.0 100.0

表 6 認知症高齢者の日常生活自立度

図表2-1-6 認知症高齢者の日常生活自立度



[n=1,713]

2-1-7. 現在の状況

居所は居宅(施設利用なし)が 67.8%と約 7 割を占めていました。それ以外では医療機関(療養病床以外)の 18.7%がそれに次ぎました。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	居宅(施設利用なし)	1162	67.8	67.9	67.9
	指定介護老人福祉施設	26	1.5	1.5	69.4
	介護老人保健施設	44	2.6	2.6	72.0
	指定介護療養型医療施設	11	.6	.6	72.6
	痴呆対応型共同生活介護適用施設 (グループホーム)	6	.4	.4	73.0
	特定施設入所者生活介護適用施設 (ケアハウス等)	45	2.6	2.6	75.6
	医療機関(医療保険適用療養病床)	64	3.7	3.7	79.4
	医療機関(療養病床以外)	321	18.7	18.8	98.1
	その他の施設	32	1.9	1.9	100.0
	合計	1711	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	.1		
合計		1713	100.0		

表 7 現在の状況

2-1-8. 障害高齢者の日常生活自立度と認知症高齢者の日常生活自立度

障害自立度と認知症自立度の組み合わせを示しました。表の各セルは上から度数、認知症自立度の%(横に見ると 100%)、障害自立度の%(縦に見ると 100%)となっています。

表 8 障害高齢者の日常生活自立度と認知症高齢者の日常生活自立度

					基本調	査障害高齢	者の日常生	活自立度(寝たきり度)			
			自立	J1	J2	A1	A2	В1	B2	C1	C2	合計
基本調査認知症	自立	度数	5	69	137	134	175	112	102	33	42	809
高齢者の日常生 活自立度		基本調査認知症高齢者の日常 生活自立度 の %	0.6%	8.5%	16.9%	16.6%	21.6%	13.8%	12.6%	4.1%	5.2%	100.0%
		基本調査障害高齢者の日常生 活自立度(寝たきり度) の %	41.7%	63.9%	56.6%	47.5%	55.2%	47.9%	39.1%	47.1%	22.7%	47.3%
	I	度数	2	19	44	48	45	49	57	8	18	290
		基本調査認知症高齢者の日常 生活自立度 の %	0.7%	6.6%	15.2%	16.6%	15.5%	16.9%	19.7%	2.8%	6.2%	100.0%
		基本調査障害高齢者の日常生 活自立度(寝たきり度) の %	16.7%	17.6%	18.2%	17.0%	14.2%	20.9%	21.8%	11.4%	9.7%	16.9%
	Ιa	度数	1	6	23	35	26	15	20	2	6	134
		基本調査認知症高齢者の日常 生活自立度 の %	0.7%	4.5%	17.2%	26.1%	19.4%	11.2%	14.9%	1.5%	4.5%	100.0%
		基本調査障害高齢者の日常生 活自立度(寝たきり度) の %	8.3%	5.6%	9.5%	12.4%	8.2%	6.4%	7.7%	2.9%	3.2%	7.8%
	II Ь	度数	2	10	26	31	40	29	23	10	16	187
		基本調査認知症高齢者の日常 生活自立度 の %	1.1%	5.3%	13.9%	16.6%	21.4%	15.5%	12.3%	5.3%	8.6%	100.0%
		基本調査障害高齢者の日常生 活自立度(寝たきり度) の %	16.7%	9.3%	10.7%	11.0%	12.6%	12.4%	8.8%	14.3%	8.6%	10.9%
	Ша	度数	2	3	8	20	14	20	30	8	20	125
		基本調査認知症高齢者の日常 生活自立度 の %	1.6%	2.4%	6.4%	16.0%	11.2%	16.0%	24.0%	6.4%	16.0%	100.0%
		基本調査障害高齢者の日常生 活自立度(寝たきり度) の %	16.7%	2.8%	3.3%	7.1%	4.4%	8.5%	11.5%	11.4%	10.8%	7.3%
	Шb	度数	0	0	2	6	4	5	9	2	5	33
		基本調査認知症高齢者の日常 生活自立度 の %	0.0%	0.0%	6.1%	18.2%	12.1%	15.2%	27.3%	6.1%	15.2%	100.0%
		基本調査障害高齢者の日常生 活自立度(寝たきり度) の %	0.0%	0.0%	0.8%	2.1%	1.3%	2.1%	3.4%	2.9%	2.7%	1.9%
	IV	度数	0	0	2	8	11	4	17	7	49	98
		基本調査認知症高齢者の日常 生活自立度 の %	0.0%	0.0%	2.0%	8.2%	11.2%	4.1%	17.3%	7.1%	50.0%	100.0%
		基本調査障害高齢者の日常生 活自立度(寝たきり度) の %	0.0%	0.0%	0.8%	2.8%	3.5%	1.7%	6.5%	10.0%	26.5%	5.7%
	М	度数	0	1	0	0	2	0	3	0	29	35
		基本調査認知症高齢者の日常 生活自立度 の %	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	5.7%	0.0%	8.6%	0.0%	82.9%	100.0%
	_	基本調査障害高齢者の日常生 活自立度(寝たきり度) の %	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.1%	0.0%	15.7%	2.0%
合計		度数	12	108	242	282	317	234	261	70	185	1711
		基本調査認知症高齢者の日常 生活自立度 の %	0.7%	6.3%	14.1%	16.5%	18.5%	13.7%	15.3%	4.1%	10.8%	100.0%
		基本調査障害高齢者の日常生 活自立度(寝たきり度) の %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2-2. 基本属性と特定疾病

基本属性と特定疾病の関係を示しますが、表の各セルは上から度数、基本属性の%(横に見ると 100%)、特定疾病の%(縦に見ると 100%)となっています。

2-2-1. 性別と特定疾病

男性の中では脳血管疾患が 61.3%と最も多く、脳血管疾患の男女別割合を見ると男性が 64.4%、女性が 35.6%となっています。

合計 932 100.0% 54.4% 1713 100.0% 100.0% 781 100.0% 45.6% 250 14.6% 100.0% 10.2% 38.0% がん (がん 末期) 155 19.8% 62.0% 36 2.1% 100.0% 31 4.0% 86.1% 両膝又関著変伴形側関は節し形う形の節段にいを変関生 13 0.8% 100.0% 1.0% 0.5% 要性閉 寒性肺 疾患 53 6.8% 91.4% 58 3.4% 100.0% 0.5% 10 0.6% 100.0% 0.3% %0.08 75 4.4% 100.0% 43 5.5% 57.3% 3.4% 887 51.8% 100.0% 571 61.3% 64.4% 316 40.5% 35.6% 6.8% 27 3.5% 30.0% 90 5.3% 100.0% 雑性障雑性及尿網尿神害尿管は疾病、病症糖性症 19 2.0% 47.5% 40 2.3% 100.0% 21 2.7% 52.5% 脊柱管 狭窄症 22 2.8% 56.4% 39 2.3% 100.0% *脊髓小 脳変性 症 1.8% 58 6.2% 51.8% 112 6.5% '初老期 こおけ る認知 扉 54 6.9% 48.2% 10 1 1.1% 47.6% 11 1.4% 52.4% 2.1 16 2.0% 76.2% 21 1.2% 100.0% 0.5% 12 1.5% 42.9% 28 後縫勒 帯骨化 症 1.7% 14 1.8% 42.4% 33 1.9% 100.0% "筋萎縮 性側素 硬化症 2.0% 性別の%特定疾病コード・知症関連疾患)の 特定疾病コード 知症関連疾患) の 度数 性別の% 度数 性別の% 眠 体別 中平

性別と特定疾病

0

2-2-2. 年齢と特定疾病

初老期における認知症は 60~64 歳では 10.4%に過ぎませんが、年齢に占める割合をみると 60~64 歳が 69.6%を占めています。

表 10 年齢と特定疾病

								特定	特定疾病コード	*	認知症関連疾患	(音)						
			" 在 在 他 他 他 他 他 他 他 他 他 他 他 他 他 他 他 他 他	後 帶 禁 中 信 慰 化	音 半 報子 小 報報 場 場 場 場 場 場 場 場 場 場 場 場 場 場 場 場 場	多 秦 秦 徐 宗 宗	** を と は が 発 は は が と が と が が が が が が が が が が が が が が	** 國際 前 作	脊	糖性障糖性及尿糖医神性及尿糖素素、療症糖性症療	"置 然由 疾患	進、核麻大質核症パン行上域脳基変及一ソ病性性、反底性びキン病	型 强 學 影	図 空 り で マャチ	敏 寒性 赤 部 部	両膝又関着変伴形飾側関は節し形う性節の節段にいる変関に	がん (がん 末期)	
調査基準日年齢	40~44歲	度数	,-	0	0	0	-	-	-	2	28	0	0	2	0	0	15	51
(平成30年4月1 日)		調査基準日年齢(平成30 年4月1日)の%	2.0%	%0:0	%0.0	%0:0	2.0%	2.0%	2.0%	3.9%	54.9%	%0:0	%0.0	3.9%	%0:0	%0:0	29.4%	100:0%
		特定疾病コード (*: 認 知症関連疾患)の%	3.0%	%0.0	%0.0	%0:0	%6.0	2.6%	2.5%	2.2%	3.2%	%0:0	%0.0	3.4%	0.0%	%0:0	%0.9	3.0%
	45~49歲	度数	4	4	2	0	7	7	0	6	102	2	-	7	2	-	39	187
		調査基準日年齢(平成30 年4月1日)の%	2.1%	2.1%	1.1%	%0:0	3.7%	3.7%	%0.0	4.8%	54.5%	£	0.5%	3.7%	1.1%	0.5%	20.9%	100.0%
		特定疾病コード (*: 認 知症関連疾患)の%	12.1%	14.3%	9.5%	%0:0	6.3%	17.9%	%0.0	10.0%	11.5%	2.7%	10.0%	12.1%	15.4%	2.8%	15.6%	10.9%
	50~54歲	度数	2	-	2	2	10	4	9	13	160	12	2	9	0	က	42	271
		調査基準日年齢(平成30 年4月1日)の%	1.8%	0.4%	0.7%	1.8%	3.7%	1.5%	2.2%	4.8%	59.0%	4.4%	0.7%	2.2%	%0:0	%1.1%	15.5%	100.0%
		特定疾病コード (*: 認 知症関連疾患)の%	15.2%	3.6%	9.5%	23.8%	8.9%	10.3%	15.0%	14.4%	18.0%	16.0%	20.0%	10.3%	0.0%	8.3%	16.8%	15.8%
	55~59歲	度数	9	12	2	80	16	7	00	56	250	16	2	17	c)	=	62	451
		調査基準日年齢(平成30 年4月1日)の%	1.3%	2.7%	1.1%	1.8%	3.5%	1.6%	1.8%	5.8%	55.4%	3.5%	0.4%	3.8%	%1.1%	2.4%	13.7%	100.0%
		特定疾病コード (*:認 知症関連疾患)の%	18.2%	42.9%	23.8%	38.1%	14.3%	17.9%	20.0%	28.9%	28.2%	21.3%	20.0%	29.3%	38.5%	30.6%	24.8%	26.3%
	60~64歲	度数	17	=	12	80	78	20	22	40	347	45	2	26	9	21	95	753
		調査基準日年齢(平成30 年4月1日)の%	2.3%	1.5%	1.6%	1.1%	10.4%	2.7%	3.3%	5.3%	46.1%	%0.9	0.7%	3.5%	0.8%	2.8%	12.2%	100.0%
		特定疾病コード (*: 認 知症関連疾患)の%	51.5%	39.3%	57.1%	38.1%	%9.69	51.3%	62.5%	44.4%	39.1%	%0.09	50.0%	44.8%	46.2%	58.3%	36.8%	44.0%
中		度数	33	28	21	21	112	39	40	06	887	75	10	28	13	36	250	1713
		調査基準日年齢(平成30 年4月1日)の%	1.9%	1.6%	1.2%	1.2%	6.5%	2.3%	2.3%	5.3%	51.8%	4.4%	%9.0	3.4%	%8.0	2.1%	14.6%	100.0%
		特定疾病コード (*: 認 知症関連疾患)の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2-2-3. 二次判定結果と特定疾病

要支援1では脳血管疾患が57.9%と最も多いが、脳血管疾患の二次判定結果の中では要介護2の22.8% に対して要支援1では8.7%と少なくなっています。

361 100.0% 21.1%

10.8%

269 100.0% 15.7% 243 100.0% 14.2% 289 100.0% 16.9%

7.8%

0.0%

がん (が ん末期) 266 100.0% 15.5%

0.0%

152 100.0% 8.9%

12 7.9% 4.8% 1713 100.0% 100.0%

250 14.6% 100.0%

36 2.1% 100.0% 6.0% 0.8% 2.0% 1.7% 6.7% 1.9% 0.3% 3 1.1% 23.1% 慢性閉塞 性肺疾患 0.8% 0.8% 0.7% 0.8% 0.7% 1.2% 0.0% 5.3% 15 4.2% 25.9% 58 3.4% 100.0% 3.3% 2.3% 5.2% 1.3% 3.7% 関節リマチ 閉塞性動 脈硬化症 0.0% 0.6% 0.0% 2.6% 0.0% 0.3% 0.4% 0.4% 75 4.4% 100.0% 18 6.8% 24.0% 6.8% 4.4% 3.3% 1.3% 11 4.1% 4.7% 3.8% 特定疾病コード(*:認知症関連疾患 二次判定結果と特定疾病 95 62.5% 10.7% 129 48.0% 14.5% 110 45.3% 12.4% 117 40.5% 13.2% 887 51.8% 100.0% 57.9% 8.7% 157 59.0% 17.7% 202 56.0% 22.8% 6.4% 90 5.3% 00.0% 7.5% 5.3% 8.0% 4.1% 3.3% 2.4% 15 5.6% 37.5% 40 2.3% 100.0% 脊柱管狭 窄症 9.0% 3.0% %0.0 1.1% 0.4% 0.0% 3.5% 25.6% 39 2.3% 100.0% *脊髓小 脳変性症 3 1.2% 7.7% 3.4% 2.6% 1.9% 1.5% 1.5% 5.1% 0.0% 26 7.2% 23.2% 19 7.1% 17.0% 26 9.0% 23.2% 表 11 22 14.5% 19.6% 16 6.6% 14.3% 112 6.5% 2.3% 0.0% *多系統 萎縮症 21 1.2% 1.4% 1.1% 3.8% 52.4% 0.0% 0.0% 0.8% 2 0.8% 9.5% 21 1.2% 1.1% 3.8% 0.7% 0.3% 3.3% 0.3% 3.8% 35.7% **後續點那** 牵化前 28 1.6% 100.0% 2.3% 1.1% 4 1.6% 14.3% 4 1.4% 14.3% 0.7% 0.7% 33 1.9% 100.0% *筋萎縮 性侧素硬 化脂 3 1.1% 9.1% 22 7.6% 66.7% %0.0 0.7% 0.8% 0.7% 0.8% 二次判定結果 の % 特定疾病コード (*:語 知症関連疾患)の % 二次判定結果 の % 特定疾病コード (* :: 知症関連疾患) の % 特定疾病コード (*: 知症関連疾患)の% 二次判定結果 の % 特定疾病コード (*: 知症関連疾患)の% 特定疾病コード (* : 知症関連疾患)の% 8 特定疾病コード (* 知症関連疾患) の% 特定疾病コード (* : 知症関連疾患)の% 二次判定結果 の % 二次判定結果 の % 二次判定結果 の % 二次判定結果 の 9 二次判定結果 二次判定結果 度数 要介護2 要介護5 要介護3 要支援1

87

二次判定結果

2-2-4. 障害高齢者の日常生活自立度と特定疾病

障害自立度ランク J1 において脳血管疾患は 66.7%と最も多いですが、脳血管疾患の障害自立度の中ではランク A1 が 19.5%と最も多くなっています。

								特	定疾病コート	ド(*:認知	1症関連疾患	(E)						
			"游菱縮 性倒素 硬化症	後離勒 帯骨化 症	音 事 半 雅 ボラウ 本 子 野 瀬 野 野 野 野 野 野 野 野 野 野 野 野 野 野 野 野 野	"多系統 萎縮症	*初老期 におけ る認知 症	*脊髓小 脳変性 症	脊	華 は は は は は は は は は は は は は	*脳血管 疾患	#、 な 様 大 関 な は な は な の な の な の の の の の の の の の の の の の	閉塞性 動脈硬 化症	関節 ウマチ	慢性明 寒性肺 疾患	西藤又陽華数半路側側はなりまりまれる。 では、 とった。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	がん (がん 末期)	40
基本調査障害高齢	草	度数	0	2	0	0	5	0	-	0	4	0	0	0	0	0	0	12
者の日常生活自立 度(寝たきり度)		基本調査障害高齢者の日常生活 自立度 (寝たきり度) の%	%0:0	16.7%	%0:0	%0.0	41.7%	%0:0	8.3%	%0:0	33.3%	%0:0	%0:0	%0.0	%0:0	%0.0	%0.0	100.0%
		特定疾病コード (*:認知症関 連疾患)の%	%0:0	7.1%	%0:0	%0.0	4.5%	%0.0	2.5%	%0.0	0.5%	%0.0	%0.0	%0.0	%0.0	%0.0	%0.0	0.7%
	5	度数	0	-	-	0	2	8	4	8	72	3	-	2	0	4	4	108
		基本調査障害高齢者の日常生活 自立度 (寝たきり度) の%	%0:0	%6.0	%6:0	%0.0	1.9%	2.8%	3.7%	7.4%	%2.99	2.8%	%6.0	4.6%	%0.0	3.7%	3.7%	100.0%
		特定疾病コード (*:認知症関 連疾患)の%	%0:0	3.6%	4.8%	%0.0	1.8%	7.7%	10.0%	8.9%	8.1%	4.0%	10.0%	8.6%	%0:0	11.1%	1.6%	6.3%
	72	度数	2	8	က	0	21	2	12	18	115	19	4	=	2	80	19	242
		基本調査障害高齢者の日常生活 自立度(寝たきり度) の %	0.8%	1.2%	1.2%	%0.0	8.7%	2.1%	5.0%	7.4%	47.5%	7.9%	1.7%	4.5%	0.8%	3.3%	7.9%	100.0%
		特定疾病コード (*:認知症関連疾患)の%	6.1%	10.7%	14.3%	%0.0	18.8%	12.8%	30.0%	20.0%	13.0%	25.3%	40.0%	19.0%	15.4%	22.2%	7.6%	14.1%
	F4	度数	8	5	4	8	21	7	4	19	173	01	-	7	-	9	18	282
		基本調査障害高齢者の日常生活 自立度 (寝たきり度) の%	1.1%	1.8%	1.4%	1.1%	7.4%	2.5%	1.4%	6.7%	61.3%	3.5%	0.4%	2.5%	0.4%	2.1%	6.4%	100.0%
		特定疾病コード (*:認知症関連疾患)の%	9.1%	17.9%	19.0%	14.3%	18.8%	17.9%	10.0%	21.1%	19.5%	13.3%	10.0%	12.1%	7.7%	16.7%	7.2%	16.5%
	A2	度数	3	8	2	2	27	7	8	13	145	13	2	10	4	6	64	317
		基本調査障害高齢者の日常生活 自立度 (寝たきり度) の%	%6:0	2.5%	%9.0	%9.0	8.5%	2.2%	2.5%	4.1%	45.7%	4.1%	%9.0	3.2%	1.3%	2.8%	20.2%	100.0%
		特定疾病コード (*:認知症関連疾患)の%	9.1%	28.6%	9.5%	9.5%	24.1%	17.9%	20.0%	14.4%	16.4%	17.3%	20.0%	17.2%	30.8%	25.0%	25.6%	18.5%
	19	度数	4	0	2	2	6	9	4	12	124	S	-	6	2	9	51	234
		基本調査障害高齢者の日常生活 自立度 (寝たきり度) の%	1.7%	%0.0	%6:0	%6.0	3.8%	1.3%	1.7%	5.1%	53.0%	2.1%	0.4%	3.8%	%6.0	2.6%	21.8%	100.0%
		特定疾病コード (*:認知症関 連疾患)の%	12.1%	%0:0	9.5%	9.5%	8.0%	7.7%	10.0%	13.3%	14.0%	6.7%	10.0%	15.5%	15.4%	16.7%	20.4%	13.7%
	B2	度数	8	4	9	9	12	9	9	14	131	14	-	80	0	2	48	261
		基本調査障害高齢者の日常生活 自立度 (寝たきり度) の%	1.1%	1.5%	2.3%	2.3%	4.6%	2.3%	2.3%	5.4%	50.2%	5.4%	0.4%	3.1%	%0.0	0.8%	18.4%	100.0%
		特定疾病コード (*:認知症関 連疾患)の%	9.1%	14.3%	28.6%	28.6%	10.7%	15.4%	15.0%	15.6%	14.8%	18.7%	10.0%	13.8%	%0:0	5.6%	19.2%	15.3%
	2	度数	-	3	-	-	3	8	0	4	28	2	0	2	8	0	91	70
		基本調査障害高齢者の日常生活 自立度 (寝たきり度) の%	1.4%	4.3%	1.4%	1.4%	4.3%	4.3%	%0:0	5.7%	40.0%	7.1%	%0.0	2.9%	4.3%	%0.0	22.9%	100.0%
		特定疾病コード (*:認知症関連疾患)の%	3.0%	10.7%	4.8%	4.8%	2.7%	7.7%	%0:0	4.4%	3.2%	6.7%	%0:0	3.4%	23.1%	%0:0	6.4%	4.1%
	C2	度数	17	2	2	7	12	2	-	2	93	9	0	9	-	-	30	185
		基本調査障害高齢者の日常生活 自立度 (寝たきり度) の%	9.2%	1.1%	-1.1 %	3.8%	6.5%	2.7%	0.5%	1.1%	50.3%	3.2%	%0:0	3.2%	0.5%	0.5%	16.2%	100.0%
		特定疾病コード (*:認知症関連疾患)の%	51.5%	7.1%	9.5%	33.3%	10.7%	12.8%	2.5%	2.2%	10.5%	8.0%	%0.0	10.3%	7.7%	2.8%	12.0%	10.8%
中二		度数	33	28	21	21	112	39	40	06	882	75	10	28	13	36	250	1711
		基本調査障害高齢者の日常生活 自立度 (寝たきり度) の %	1.9%	1.6%	1.2%	1.2%	6.5%	2.3%	2.3%	5.3%	51.7%	4.4%	%9.0	3.4%	0.8%	2.1%	14.6%	100.0%
		m4	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2-2-5. 認知症高齢者の日常生活自立度と特定疾病

認知症自立度 II a では脳血管疾患が74.6%と8割近くを占めていますが、脳血管疾患の認知症自立度の中では自立が36.2%と最も多くなっています。

					表 15	3 認知		<u>認知症高齢者の日</u>	の日常生	田田 **	自 <u>立度と特定疾病</u> ※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※	侍定疾 ■〕	湯					
			, () (雅 孫 計 市 市 市	雷 半 雅 大 ウ 報報 唱 単 型 単 型 単 型 単 型 単 型 単 型 単 型 単 型 単 型 単	* * 秦 秦 秦 帝 帝 帝 帝	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	た	無性障害性及所 の に は に は に に に に に に に に に に に に に	"脳血管疾病	で、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	閉塞 動脈硬 七症	関節 リ ウマチ	優性 寒性 疾患	両膝又関者変伴形の側関はない形を受けるの節段にいたる変別になるない。	がん (がん 末期)	설 교
基本調査認知	自立 度数		27	23	13	Ξ	0	24	28	28	321	46	8	47	80	23	173	810
症高齢者の日 常生活自立度	基本調査認知症高齢者の 日常生活自立度 の %	症高齢者の 度の%	3.3%	2.8%	1.6%	1.4%	%0.0	3.0%	3.5%	7.2%	39.6%	5.7%	1.0%	5.8%	1.0%	2.8%	21.4%	100.0%
	特定疾病コード 知症関連疾患) の	·ド(*:認 !)の%	81.8%	82.1%	61.9%	52.4%	%0.0	61.5%	70.0%	64.4%	36.2%	61.3%	80.0%	81.0%	61.5%	63.9%	69.2%	47.3%
	I 度数		3	-	-	-	2	5	7	20	175	16	0	9	က	4	43	290
	基本調査認知症高齢者の 日常生活自立度 の %	症高齢者の度の あんりん あんりん しんりん しんりん しんりん しんりん しんりん しんりん	1.0%	0.3%	0.3%	0.3%	1.7%	1.7%	2.4%	%6.9	60.3%	5.5%	%0.0	2.1%	1.0%	1.4%	14.8%	100.0%
	特定疾病コード 知症関連疾患)の	·ド(*:認 () の%	9.1%	3.6%	4.8%	4.8%	4.5%	12.8%	17.5%	22.2%	19.7%	21.3%	%0.0	10.3%	23.1%	11.1%	17.2%	16.9%
	IIa 度数		0	-	2	-	6	က	က	4	100	-	0	2	0	4	4	134
	基本調査認知症高齢者の 日常生活自立度 の %	症高齢者の 度の%	%0.0	0.7%	1.5%	0.7%	6.7%	2.2%	2.2%	3.0%	74.6%	0.7%	%0.0	1.5%	%0.0	3.0%	3.0%	100.0%
	特定疾病コード 知症関連疾患)の	·ド(*:認 ()の%	%0:0	3.6%	9.5%	4.8%	8.0%	7.7%	7.5%	4.4%	11.3%	1.3%	%0.0	3.4%	%0.0	11.1%	1.6%	7.8%
	IIb 度数		0	3	8	8	20	2	-	3	129	2	2	2	2	2	11	188
	基本調査認知症高齢者の 日常生活自立度 の %	症高齢者の 度の%	%0.0	1.6%	1.6%	1.6%	10.6%	1.1%	0.5%	1.6%	89.89	2.7%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	5.9%	100.0%
	特定疾病コード 知症関連疾患)の	·ド(*:認 !)の%	%0.0	10.7%	14.3%	14.3%	17.9%	5.1%	2.5%	3.3%	14.5%	6.7%	20.0%	3.4%	15.4%	5.6%	4.4%	11.0%
	ma 度数		0	0	-	-	30	2	-	3	80	2	0	0	0	-	4	125
	基本調査認知症高齢者の 日常生活自立度 の %	症高齢者の 度の%	%0.0	%0.0	0.8%	0.8%	24.0%	1.6%	0.8%	2.4%	64.0%	1.6%	%0:0	%0:0	%0:0	0.8%	3.2%	100.0%
	特定疾病コード 知症関連疾患)の	·ド(*:認 !)の%	%0:0	0.0%	4.8%	4.8%	26.8%	5.1%	2.5%	3.3%	%0.6	2.7%	%0:0	%0:0	%0:0	2.8%	1.6%	7.3%
	IIb 度数		2	0	0	2	10	-	0	_	14	-	0	0	0	0	2	33
	基本調査認知症高齢者の 日常生活自立度 の %	症高齢者の 度の%	6.1%	0.0%	%0.0	%1.9	30.3%	3.0%	%0.0	3.0%	42.4%	3.0%	%0:0	%0:0	%0:0	%0.0	6.1%	100.0%
	特定疾病コード (知症関連疾患)の	-ド(*:認() の%	6.1%	%0.0	0.0%	9.5%	8.9%	2.6%	0.0%	1.1%	1.6%	1.3%	%0:0	%0:0	0.0%	0.0%	0.8%	1.9%
	Ⅳ 度数		-	0	-	0	29	0	0	1	25	3	0	0	0	-	10	86
	基本調査認知症高齢者の 日常生活自立度 の %	症高齢者の 度の%	1.0%	%0:0	1.0%	%0:0	29.6%	%0.0	%0.0	1.0%	53.1%	3.1%	%0.0	%0:0	%0:0	1.0%	10.2%	100.0%
	特定疾病コード 知症関連疾患) の	·ド(*:認)の%	3.0%	%0.0	4.8%	%0:0	25.9%	%0.0	%0.0	1.1%	5.9%	4.0%	%0:0	%0:0	%0:0	2.8%	4.0%	5.7%
	M 度数		0	0	0	2	6	2	0	0	16	-	0	-	0	-	က	35
	基本調査認知症高齢者の 日常生活自立度 の %	症高齢者の 度の%	%0.0	%0:0	%0.0	5.7%	25.7%	5.7%	%0.0	%0.0	45.7%	2.9%	%0.0	2.9%	%0.0	2.9%	8.6%	100.0%
	特定疾病コード 知症関連疾患) の	· ド(*:認 !)の%	%0.0	%0:0	%0.0	9.5%	8.0%	5.1%	%0.0	%0:0	1.8%	1.3%	%0:0	1.7%	%0.0	2.8%	1.2%	2.0%
合計	度数		33	28	21	21	112	39	40	06	887	75	10	28	13	36	250	1713
	基本調査認知症高齢者の 日常生活自立度 の %	症高齢者の 度の%	1.9%	1.6%	1.2%	1.2%	6.5%	2.3%	2.3%	5.3%	51.8%	4.4%	%9.0	3.4%	0.8%	2.1%	14.6%	100.0%
	特定疾病コード 知症関連疾患)の	·ド(*:認 () の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 14 現在の状況と特定疾病

2-2-6. 現在の状況と特定疾病

脳血管疾患は居宅に占める割合は51.5%ですが、脳血管疾患の中では居宅が67.7%となっています。

								特別	定疾病コード	*	認知症関連疾患	ans (
			。 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一	後 事 事 市 市	骨 半 粗なり 発 音 徒 も 信 を 登 を も 行 を 登 を し む む む む む む む む む む む む も む ひ も む ひ も む ひ も む ひ も む ひ も ひ も	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	*初老期 こおけ る認治 市	** 國家 市 市	脊	難は磨難は及民籍の事件を受ける場合を発生を受ける場合を登録を表して思いる。	* ** * * * * * * * * * * * * * * * * *	** 核麻大質核症パン 行上痺脳基数及一ソ病性性、X (X)を使性がある。	閉 脚	國 の の の の の も の も の も り り	慢性 寒性 疾患	両膝又関着変伴形側関は筋し形う性節の節股にいを変関症にを変関症	がん (がん 末期)	和
現在の	居宅(施設利用な	度数	28	22	13	17	62	31	35	65	599	63	7	20	6	59	132	1162
- - - - - - - - - -	<u>ي</u>	現在の状況の%	2.4%	1.9%	1.1%	1.5%	5.3%	2.7%	3.0%	5.6%	51.5%	5.4%	%9.0	4.3%	0.8%	2.5%	11.4%	100.0%
		特定疾病コード (*:認 知症関連疾患)の%	84.8%	78.6%	61.9%	81.0%	55.4%	79.5%	87.5%	72.2%	67.7%	84.0%	%0.07	86.2%	69.2%	%9.08	52.8%	67.9%
	指定介護老人福祉施	度数	0	0	-	-	5	0	0	0	14	2	0	2	0	-	0	26
	部	現在の状況 の %	%0:0	%0:0	3.8%	3.8%	19.2%	%0.0	%0.0	%0.0	53.8%	7.7%	%0.0	7.7%	%0:0	3.8%	%0:0	100.0%
		特定疾病コード (*:認 知症関連疾患)の %	0:0%	%0:0	4.8%	4.8%	4.5%	%0.0	%0:0	%0.0	1.6%	2.7%	%0:0	3.4%	%0:0	2.8%	%0.0	1.5%
	介護老人保健施設	度数	0	-	0	0	8	0	0	-	39	0	0	0	0	0	0	44
		現在の状況の%	%0:0	2.3%	%0:0	%0.0	%8.9	%0.0	%0.0	2.3%	88.6%	%0:0	%0.0	%0.0	%0.0	%0.0	%0.0	100.0%
		特定疾病コード (*:認 知症関連疾患)の%	%0:0	3.6%	%0.0	%0:0	2.7%	%0.0	%0.0	1.1%	4.4%	%0:0	%0.0	%0:0	%0:0	%0.0	%0.0	2.6%
	指定介護療養型医療	度数	0	0	0	0	-	0	0	0	6	0	0	-	0	0	0	11
	施設	現在の状況 の %	%0:0	%0:0	%0:0	%0.0	9.1%	%0.0	%0.0	%0.0	81.8%	%0:0	%0.0	9.1%	%0:0	%0:0	%0:0	100.0%
		特定疾病コード (*:認 知症関連疾患)の%	%0:0	%0.0	%0.0	%0:0	%6:0	%0.0	%0:0	%0.0	1.0%	%0:0	%0.0	1.7%	%0:0	%0.0	%0.0	%9.0
	痴呆対応型共同生活	度数	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	介護適用施設(グループホーム)	現在の状況 の %	%0:0	%0.0	%0:0	%0:0	100.0%	%0.0	%0:0	%0.0	%0:0	%0:0	%0:0	%0:0	%0:0	%0:0	%0:0	100.0%
	Î	特定疾病コード (*: 認 知症関連疾患)の%	%0:0	%0.0	%0:0	%0:0	5.4%	%0.0	%0:0	%0.0	%0:0	%0:0	%0.0	%0:0	%0:0	%0.0	%0.0	0.4%
	特定施設入所者生活	度数	-	-	0	0	7	0	0	8	29	-	0	-	0	0	2	45
	介護適用施設(ケア ハウス等)	現在の状況 の %	2.2%	2.2%	%0:0	%0.0	15.6%	%0.0	%0:0	6.7%	64.4%	2.2%	%0.0	2.2%	%0:0	%0:0	4.4%	100.0%
		特定疾病コード (*:認 知症関連疾患)の%	3.0%	3.6%	%0:0	%0:0	6.3%	%0.0	%0:0	3.3%	3.3%	1.3%	%0:0	1.7%	%0:0	%0.0	%8.0	2.6%
	医療機関(医療保険	度数	0	0	0	0	9	က	0	-	49	2	-	0	0	0	2	64
	適用療養病床)	現在の状況の%	%0:0	%0.0	%0.0	%0.0	9.4%	4.7%	%0.0	1.6%	%9'92	3.1%	1.6%	%0.0	%0.0	%0.0	3.1%	100.0%
		特定疾病コード (*:認 知症関連疾患)の%	%0:0	%0:0	%0.0	%0:0	5.4%	7.7%	%0:0	1.1%	5.5%	2.7%	10.0%	%0:0	%0:0	%0.0	%8.0	3.7%
	医療機関(療養病床	度数	4	3	7	2	17	က	2	18	129	9	2	က	3	2	114	321
	以外)	現在の状況 の %	1.2%	0.9%	2.2%	%9.0	5.3%	%6:0	1.6%	5.6%	40.2%	1.9%	%9:0	%6:0	%6:0	1.6%	35.5%	100.0%
		特定疾病コード (*:認 知症関連疾患)の%	12.1%	10.7%	33.3%	9.5%	15.2%	7.7%	12.5%	20.0%	14.6%	8.0%	20.0%	5.2%	23.1%	13.9%	45.6%	18.8%
	その他の施設	度数	0	-	0	-	2	2	0	2	17	-	0	-	-	-	0	32
		現在の状況 の %	%0:0	3.1%	%0:0	3.1%	15.6%	6.3%	%0:0	6.3%	53.1%	3.1%	%0.0	3.1%	3.1%	3.1%	%0:0	100.0%
		特定疾病コード (* : 認 知症関連疾患)の %	0.0%	3.6%	%0.0	4.8%	4.5%	5.1%	%0.0	2.2%	1.9%	1.3%	%0:0	1.7%	7.7%	2.8%	%0.0	1.9%
中二		度数	33	28	21	21	112	39	40	06	885	75	10	28	13	36	250	1711
		現在の状況 の %	1.9%	1.6%	1.2%	1.2%	6.5%	2.3%	2.3%	5.3%	51.7%	4.4%	%9:0	3.4%	%8.0	2.1%	14.6%	100.0%
		特定疾病コード (*:認 知症関連疾患)の %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2-3. 若年性認知症者数

調査基準日(2018年4月1日)現在の、調査対象地域(豊島区、北区、板橋区、練馬区)の第2号被保険者で要介護・要支援認定されている特定疾病は表15に示した通りになります。脳血管疾患が1,713人中887人(51.8%)と過半数を占めていました。次に多いのは初老期における認知症の112人(6.5%)、続いてパーキンソン病関連疾患の75名(4.4%)となっていました。

全特定疾病の内、認知症高齢者の日常生活自立度がII以上の者は 613 人 (35.8%) おり、内、認知症関連疾患は 533 人 (86.9%) , 初老期における認知症に限ると 107 人 (17.5%) を占めていました。

なお、有病率についてはみなし第2号被保険者のデータを分析に用いることができないため、推計は行いませんでした。しかし、調査対象地域でみなし第2号被保険者は554人おり、第2号被保険者1,713人と合わせると2,267人となり、みなし第2号被保険者を加えると人数が3割以上増えることがわかりました。よって、認知症高齢者の日常生活自立度がII以上の者も3割以上増える可能性があります。

表 15 若年性認知症者数

特定疾病カテゴリー	人数	全特定	2疾病	認知症閥	J連疾患	初老期にお	ける認知症
(主治医意見書認知症高齢者の日常生活自立度)	人致	I 以上	Ⅱ以上	I 以上	Ⅱ以上	I以上	Ⅱ以上
1. 筋萎縮性側索硬化症	33	6	3	6	3		
2. 後縦靱帯骨化症	28	5	4				
3. 骨折を伴う骨粗鬆症	21	8	7				
4. 多系統萎縮症	21	10	9	10	9		
5. 初老期における認知症	112	112	107	112	107	112	107
6. 脊髓小脳変性症	39	15	10	15	10		
7. 脊柱管狭窄症	40	12	5				
8. 早老症	0	0	0	0	0		
9. 糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及び糖尿病性網膜症	90	32	12				
10. 脳血管疾患	887	566	391	566	391		
11. 進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病	75	29	13	29	13		
12. 閉塞性動脈硬化症	10	2	2				
13. 関節リウマチ	58	11	5				
14. 慢性閉塞性肺疾患	13	5	2				
15. 両側の膝関節又は股関節に著しい変形を伴う変形性関節症	36	13	9				
16. がん(末期)	250	77	34				
合計	1713	903	613	738	533	112	107
認知症関連疾患							

なお、調査基準日における調査対象地域の住民基本台帳上の40~64歳人口は646,292人でした。

2-4. 特定疾病と調査項目

以下に特定疾病と認定調査項目のクロス表を示します。

表 16 特定疾病と麻痺

			麻痺(左	-上肢)	麻痺(右	一上肢)	麻痺(左	一下肢)	麻痺(右	-下肢)	麻痺(そ	の他)	
			ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	合計
	: *筋萎縮性側索硬化症	度数	10	23	8	25	11	22	9	24	26	7	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	30.3%	69.7%	24.2%	75.8%	33.3%	66.7%	27.3%	72.7%	78.8%	21.2%	100.0%
	後縱靱帯骨化症	度数	19	9	19	9	14	14	12	16	20	8	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	67.9%	32.1%	67.9%	32.1%	50.0%	50.0%	42.9%	57.1%	71.4%	28.6%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	17	4	17	4	12	9	10	11	19	2	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	81.0%	19.0%	81.0%	19.0%	57.1%	42.9%	47.6%	52.4%	90.5%	9.5%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	14	7	12	9	11	10	11	10	18	3	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	66.7%	33.3%	57.1%	42.9%	52.4%	47.6%	52.4%	47.6%	85.7%	14.3%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	95	17	94	18	80	32	81	31	111	1	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	84.8%	15.2%	83.9%	16.1%	71.4%	28.6%	72.3%	27.7%	99.1%	0.9%	100.0%
	*脊髓小脳変性症	度数	34	5	34	5	20	19	20	19	37	2	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	87.2%	12.8%	87.2%	12.8%	51.3%	48.7%	51.3%	48.7%	94.9%	5.1%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	36	4	36	4	25	15	25	15	35	5	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	90.0%	10.0%	90.0%	10.0%	62.5%	37.5%	62.5%	37.5%	87.5%	12.5%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿	度数	81	9	84	6	63	27	63	27	61	29	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	90.0%	10.0%	93.3%	6.7%	70.0%	30.0%	70.0%	30.0%	67.8%	32.2%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	536	349	503	382	470	415	447	438	711	174	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	60.6%	39.4%	56.8%	43.2%	53.1%	46.9%	50.5%	49.5%	80.3%	19.7%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	51	24	54	21	41	34	40	35	67	8	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	68.0%	32.0%	72.0%	28.0%	54.7%	45.3%	53.3%	46.7%	89.3%	10.7%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	9	1	7	3	5	5	4	6	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	90.0%	10.0%	70.0%	30.0%	50.0%	50.0%	40.0%	60.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	29	29	28	30	29	29	29	29	39	19	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	50.0%	50.0%	48.3%	51.7%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	67.2%	32.8%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	11	2	10	3	11	2	10	3	13	0	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	84.6%	15.4%	76.9%	23.1%	84.6%	15.4%	76.9%	23.1%	100.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	33	3	32	4	23	13	19	17	33	3	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	91.7%	8.3%	88.9%	11.1%	63.9%	36.1%	52.8%	47.2%	91.7%	8.3%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	209	41	211	39	127	123	131	119	241	9	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	83.6%	16.4%	84.4%	15.6%	50.8%	49.2%	52.4%	47.6%	96.4%	3.6%	100.0%
合計	•	度数	1185	526	1151	560	944	767	912	799	1435	276	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	69.3%	30.7%	67.3%	32.7%	55.2%	44.8%	53.3%	46.7%	83.9%	16.1%	100.0%

表 17 特定疾病と拘縮

			拘縮(肩]関節)	拘縮(胎	段関節)	拘縮(服	[関節]	拘縮(そ	その他)	
			ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	合計
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	20	13	26	7	22	11	24	9	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	60.6%	39.4%	78.8%	21.2%	66.7%	33.3%	72.7%	27.3%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	18	10	23	5	17	11	18	10	28
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	64.3%	35.7%	82.1%	17.9%	60.7%	39.3%	64.3%	35.7%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	19	2	20	1	14	7	15	6	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	90.5%	9.5%	95.2%	4.8%	66.7%	33.3%	71.4%	28.6%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	16	5	19	2	20	1	20	1	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	76.2%	23.8%	90.5%	9.5%	95.2%	4.8%	95.2%	4.8%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	103	9	105	7	96	16	104	8	112
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	92.0%	8.0%	93.8%	6.3%	85.7%	14.3%	92.9%	7.1%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	35	4	34	5	30	9	35	4	39
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	89.7%	10.3%	87.2%	12.8%	76.9%	23.1%	89.7%	10.3%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	37	3	39	1	32	8	35	5	40
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	92.5%	7.5%	97.5%	2.5%	80.0%	20.0%	87.5%	12.5%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿	度数	78	12	86	4	71	19	57	33	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	86.7%	13.3%	95.6%	4.4%	78.9%	21.1%	63.3%	36.7%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	460	425	789	96	573	312	639	246	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	52.0%	48.0%	89.2%	10.8%	64.7%	35.3%	72.2%	27.8%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	68	7	68	7	63	12	68	7	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	90.7%	9.3%	90.7%	9.3%	84.0%	16.0%	90.7%	9.3%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	9	1	7	3	6	4	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	90.0%	10.0%	70.0%	30.0%	60.0%	40.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	24	34	42	16	27	31	24	34	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	41.4%	58.6%	72.4%	27.6%	46.6%	53.4%	41.4%	58.6%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	10	3	13	0	10	3	13	0	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	76.9%	23.1%	100.0%	0.0%	76.9%	23.1%	100.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	30	6	31	5	23	13	31	5	36
	節に著しい変形を伴う変形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	83.3%	16.7%	86.1%	13.9%	63.9%	36.1%	86.1%	13.9%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	229	21	244	6	229	21	239	11	250
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	91.6%	8.4%	97.6%	2.4%	91.6%	8.4%	95.6%	4.4%	100.0%
合計	-	度数	1157	554	1548	163	1234	477	1328	383	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	67.6%	32.4%	90.5%	9.5%	72.1%	27.9%	77.6%	22.4%	100.0%

表 18 特定疾病と寝返り・起き上がり・座位保持

				寝返り			起き上がり			座位	保持		合計
			できる	つかまれ ば可	できない	できる	つかまれ ば可	できない	できる	自分で支 えれば可	支えが必 要	できない	
特定疾病コード(*:認知症関連疾患)	*筋萎縮性側索硬化症	度数	4	8	21	0	8	25	4	3	21	5	33
認知延舆建疾患)		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	12.1%	24.2%	63.6%	0.0%	24.2%	75.8%	12.1%	9.1%	63.6%	15.2%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	8	13	7	3	15	10	9	8	10	1	28
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	28.6%	46.4%	25.0%	10.7%	53.6%	35.7%	32.1%	28.6%	35.7%	3.6%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	5	12	4	1	12	8	6	5	9	1	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	23.8%	57.1%	19.0%	4.8%	57.1%	38.1%	28.6%	23.8%	42.9%	4.8%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	2	8	11	0	10	11	3	5	12	1	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	9.5%	38.1%	52.4%	0.0%	47.6%	52.4%	14.3%	23.8%	57.1%	4.8%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	70	23	19	37	53	22	61	23	25	3	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	62.5%	20.5%	17.0%	33.0%	47.3%	19.6%	54.5%	20.5%	22.3%	2.7%	100.0%
	*脊髓小脳変性症	度数	12	16	11	4	23	12	8	12	15	4	39
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	30.8%	41.0%	28.2%	10.3%	59.0%	30.8%	20.5%	30.8%	38.5%	10.3%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	11	25	4	2	33	5	17	13	9	1	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	27.5%	62.5%	10.0%	5.0%	82.5%	12.5%	42.5%	32.5%	22.5%	2.5%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿	度数	41	40	9	7	69	14	45	25	20	0	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	45.6%	44.4%	10.0%	7.8%	76.7%	15.6%	50.0%	27.8%	22.2%	0.0%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	194	501	190	54	592	239	299	226	330	30	885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	21.9%	56.6%	21.5%	6.1%	66.9%	27.0%	33.8%	25.5%	37.3%	3.4%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	21	26	28	5	41	29	19	20	35	1	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	28.0%	34.7%	37.3%	6.7%	54.7%	38.7%	25.3%	26.7%	46.7%	1.3%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	4	6	0	0	10	0	4	5	1	0	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	15	30	13	3	33	22	21	13	17	7	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	25.9%	51.7%	22.4%	5.2%	56.9%	37.9%	36.2%	22.4%	29.3%	12.1%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	5	6	2	2	7	4	1	4	7	1	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	38.5%	46.2%	15.4%	15.4%	53.8%	30.8%	7.7%	30.8%	53.8%	7.7%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	5	26	5	2	32	2	20	11	5	0	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	13.9%	72.2%	13.9%	5.6%	88.9%	5.6%	55.6%	30.6%	13.9%	0.0%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	59	137	54	23	130	97	62	55	112	21	250
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	23.6%	54.8%	21.6%	9.2%	52.0%	38.8%	24.8%	22.0%	44.8%	8.4%	100.0%
合計	•	度数	456	877	378	143	1068	500	579	428	628	76	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	26.7%	51.3%	22.1%	8.4%	62.4%	29.2%	33.8%	25.0%	36.7%	4.4%	100.0%

表 19 特定疾病と両足での立位・歩行・立ち上がり・片足での立位

			両	足での立	立		歩行			立ち上がり		þ	足での立	位	合計
			できる	支えが必 要	できない	できる	つかまれ ぱ可	できない	できる	つかまれ ば可	できない	できる	支えが必 要	できない	
特定疾病コード(*: 認知症関連疾患)	*筋萎縮性側索硬化症	度数	4	9	20	3	5	25	0	11	22	1	7	25	33
1000年代志/		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	12.1%	27.3%	60.6%	9.1%	15.2%	75.8%	0.0%	33.3%	66.7%	3.0%	21.2%	75.8%	100.0%
	後縱靱帯骨化症	度数	8	10	10	4	11	13	1	20	7	3	12	13	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	28.6%	35.7%	35.7%	14.3%	39.3%	46.4%	3.6%	71.4%	25.0%	10.7%	42.9%	46.4%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	4	9	8	1	8	12	1	11	9	1	7	13	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	19.0%	42.9%	38.1%	4.8%	38.1%	57.1%	4.8%	52.4%	42.9%	4.8%	33.3%	61.9%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	0	8	13	0	2	19	0	8	13	0	4	17	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	0.0%	38.1%	61.9%	0.0%	9.5%	90.5%	0.0%	38.1%	61.9%	0.0%	19.0%	81.0%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	73	20	19	66	19	27	38	55	19	36	45	31	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	65.2%	17.9%	17.0%	58.9%	17.0%	24.1%	33.9%	49.1%	17.0%	32.1%	40.2%	27.7%	100.0%
	*脊髓小脳変性症	度数	2	21	16	1	17	21	0	26	13	0	17	22	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	5.1%	53.8%	41.0%	2.6%	43.6%	53.8%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	43.6%	56.4%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	18	18	4	8	21	11	2	31	7	2	23	15	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	45.0%	45.0%	10.0%	20.0%	52.5%	27.5%	5.0%	77.5%	17.5%	5.0%	57.5%	37.5%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及び糖尿病性	度数	37	37	16	21	38	31	5	69	16	6	52	32	90
	網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	41.1%	41.1%	17.8%	23.3%	42.2%	34.4%	5.6%	76.7%	17.8%	6.7%	57.8%	35.6%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	251	416	218	116	396	373	47	606	232	55	369	461	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	28.4%	47.0%	24.6%	13.1%	44.7%	42.1%	5.3%	68.5%	26.2%	6.2%	41.7%	52.1%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大 脳皮質基底核変性症及	度数	25	31	19	15	22	38	1	55	19	7	35	33	75
	びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	33.3%	41.3%	25.3%	20.0%	29.3%	50.7%	1.3%	73.3%	25.3%	9.3%	46.7%	44.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	2	7	1	2	3	5	0	9	1	1	5	4	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	20.0%	70.0%	10.0%	20.0%	30.0%	50.0%	0.0%	90.0%	10.0%	10.0%	50.0%	40.0%	100.09
	関節リウマチ	度数	19	21	18	5	28	25	2	36	20	3	26	29	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	32.8%	36.2%	31.0%	8.6%	48.3%	43.1%	3.4%	62.1%	34.5%	5.2%	44.8%	50.0%	100.09
	慢性閉塞性肺疾患	度数	3	8	2	1	6	6	1	10	2	0	7	6	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	23.1%	61.5%	15.4%	7.7%	46.2%	46.2%	7.7%	76.9%	15.4%	0.0%	53.8%	46.2%	100.0%
	両側の膝関節又は股関 節に著しい変形を伴う変	度数	13	19	4	5	20	11	2	31	3	2	23	11	36
	形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	36.1%	52.8%	11.1%	13.9%	55.6%	30.6%	5.6%	86.1%	8.3%	5.6%	63.9%	30.6%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	76	104	70	52	91	107	22	156	72	22	112	116	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	30.4%	41.6%	28.0%	20.8%	36.4%	42.8%	8.8%	62.4%	28.8%	8.8%	44.8%	46.4%	100.09
승計		度数	535	738	438	300	687	724	122	1134	455	139	744	828	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	31.3%	43.1%	25.6%	17.5%	40.2%	42.3%	7.1%	66.3%	26.6%	8.1%	43.5%	48.4%	100.09

表 20 特定疾病と洗身・つめ切り

				洗	身			つめ切り		合計
			介助され ていない	一部介助	全介助	行ってい ない	介助され ていない	一部介助	全介助	
特定疾病コード(* 認知症関連疾患)	: *筋萎縮性側索硬化症	度数	4	3	21	5	4	5	24	33
認知延 倒建失思 <i>)</i>		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	12.1%	9.1%	63.6%	15.2%	12.1%	15.2%	72.7%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	7	11	8	2	4	10	14	28
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	25.0%	39.3%	28.6%	7.1%	14.3%	35.7%	50.0%	100.09
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	6	4	8	3	4	7	10	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	28.6%	19.0%	38.1%	14.3%	19.0%	33.3%	47.6%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	1	6	13	1	1	5	15	2
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	4.8%	28.6%	61.9%	4.8%	4.8%	23.8%	71.4%	100.09
	*初老期における認知症	度数	22	27	58	5	24	11	77	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	19.6%	24.1%	51.8%	4.5%	21.4%	9.8%	68.8%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	16	9	14	0	12	7	20	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	41.0%	23.1%	35.9%	0.0%	30.8%	17.9%	51.3%	100.09
	脊柱管狭窄症	度数	19	14	4	3	20	12	8	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	47.5%	35.0%	10.0%	7.5%	50.0%	30.0%	20.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性神経障害、糖尿病性神経障害	度数	40	32	11	7	21	25	44	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	44.4%	35.6%	12.2%	7.8%	23.3%	27.8%	48.9%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	167	408	281	29	99	144	642	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	18.9%	46.1%	31.8%	3.3%	11.2%	16.3%	72.5%	100.0%
		度数	27	29	18	1	24	19	32	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	36.0%	38.7%	24.0%	1.3%	32.0%	25.3%	42.7%	100.09
	閉塞性動脈硬化症	度数	4	4	2	0	2	3	5	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	20.0%	30.0%	50.0%	100.09
	関節リウマチ	度数	9	23	22	4	9	9	40	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	15.5%	39.7%	37.9%	6.9%	15.5%	15.5%	69.0%	100.09
	慢性閉塞性肺疾患	度数	2	2	7	2	4	5	4	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	15.4%	15.4%	53.8%	15.4%	30.8%	38.5%	30.8%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	12	16	5	3	7	18	11	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	33.3%	44.4%	13.9%	8.3%	19.4%	50.0%	30.6%	100.09
	がん(がん末期)	度数	70	56	30	94	77	61	112	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	28.0%	22.4%	12.0%	37.6%	30.8%	24.4%	44.8%	100.0%
合計	,	度数	406	644	502	159	312	341	1058	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	23.7%	37.6%	29.3%	9.3%	18.2%	19.9%	61.8%	100.09

表 21 特定疾病と視力・聴力

					視力					聴力			合計
			普通	1m先が 見える	目の前が 見える	ほとんど 見えず	判断不能	普通	やっと聞 き取れる	大声が聞 える	ほとんど 聞えず	判断不能	
特定疾病コード(*:認知症関連疾患)	: *筋萎縮性側索硬化症	度数	27	4	0	0	2	31	1	0	0	1	33
認知延闰建疾思/		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	81.8%	12.1%	0.0%	0.0%	6.1%	93.9%	3.0%	0.0%	0.0%	3.0%	100.0%
	後縱靱帯骨化症	度数	23	4	0	1	0	27	1	0	0	0	28
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	82.1%	14.3%	0.0%	3.6%	0.0%	96.4%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	18	3	0	0	0	20	1	0	0	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	95.2%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	14	5	1	0	1	20	0	0	0	1	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	66.7%	23.8%	4.8%	0.0%	4.8%	95.2%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	85	14	4	1	8	94	8	1	0	9	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	75.9%	12.5%	3.6%	0.9%	7.1%	83.9%	7.1%	0.9%	0.0%	8.0%	100.0%
	*脊髓小脳変性症	度数	25	9	3	0	2	33	2	2	0	2	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	64.1%	23.1%	7.7%	0.0%	5.1%	84.6%	5.1%	5.1%	0.0%	5.1%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	34	4	2	0	0	37	3	0	0	0	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	85.0%	10.0%	5.0%	0.0%	0.0%	92.5%	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿 病性腎症及び糖尿病性	度数	41	26	8	15	0	71	14	5	0	0	90
	網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	45.6%	28.9%	8.9%	16.7%	0.0%	78.9%	15.6%	5.6%	0.0%	0.0%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	605	194	49	5	32	785	60	12	4	24	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	68.4%	21.9%	5.5%	0.6%	3.6%	88.7%	6.8%	1.4%	0.5%	2.7%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大 脳皮質基底核変性症及	度数	57	15	3	0	0	68	7	0	0	0	75
	びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	76.0%	20.0%	4.0%	0.0%	0.0%	90.7%	9.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	7	2	1	0	0	8	2	0	0	0	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	70.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	49	5	3	1	0	54	3	0	0	1	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	84.5%	8.6%	5.2%	1.7%	0.0%	93.1%	5.2%	0.0%	0.0%	1.7%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	10	1	1	1	0	12	1	0	0	0	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	76.9%	7.7%	7.7%	7.7%	0.0%	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関 節に著しい変形を伴う変	度数	33	3	0	0	0	32	3	1	0	0	36
	形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	91.7%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	88.9%	8.3%	2.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	213	25	9	0	3	237	6	4	1	2	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	85.2%	10.0%	3.6%	0.0%	1.2%	94.8%	2.4%	1.6%	0.4%	0.8%	100.0%
合計		度数	1241	314	84	24	48	1529	112	25	5	40	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	72.5%	18.4%	4.9%	1.4%	2.8%	89.4%	6.5%	1.5%	0.3%	2.3%	100.0%

表 22 特定疾病と移乗・移動

			移乗					移	動		合計
			介助され ていない	見守り等	一部介助	全介助	介助され ていない	見守り等	一部介助	全介助	ЦВІ
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	7	3	5	18	7	3	3	20	33
認知症関連疾患) 		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	21.2%	9.1%	15.2%	54.5%	21.2%	9.1%	9.1%	60.6%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	17	0	6	5	16	2	2	8	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	60.7%	0.0%	21.4%	17.9%	57.1%	7.1%	7.1%	28.6%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	11	1	3	6	7	3	1	10	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	52.4%	4.8%	14.3%	28.6%	33.3%	14.3%	4.8%	47.6%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	4	2	6	9	2	3	4	12	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	19.0%	9.5%	28.6%	42.9%	9.5%	14.3%	19.0%	57.1%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	70	11	12	19	53	24	14	21	112
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	62.5%	9.8%	10.7%	17.0%	47.3%	21.4%	12.5%	18.8%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	18	6	3	12	14	8	5	12	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	46.2%	15.4%	7.7%	30.8%	35.9%	20.5%	12.8%	30.8%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	28	5	5	2	29	1	4	6	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	70.0%	12.5%	12.5%	5.0%	72.5%	2.5%	10.0%	15.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性腎病及疾性	度数	53	13	13	11	49	14	10	17	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	58.9%	14.4%	14.4%	12.2%	54.4%	15.6%	11.1%	18.9%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	460	122	142	161	418	158	90	219	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	52.0%	13.8%	16.0%	18.2%	47.2%	17.9%	10.2%	24.7%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	37	7	17	14	30	13	17	15	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	49.3%	9.3%	22.7%	18.7%	40.0%	17.3%	22.7%	20.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	8	1	0	1	7	1	0	2	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	80.0%	10.0%	0.0%	10.0%	70.0%	10.0%	0.0%	20.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	31	3	12	12	29	8	11	10	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	53.4%	5.2%	20.7%	20.7%	50.0%	13.8%	19.0%	17.2%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	6	3	3	1	5	3	1	4	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	46.2%	23.1%	23.1%	7.7%	38.5%	23.1%	7.7%	30.8%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	26	5	4	1	25	6	3	2	36
	節に著しい変形を伴う変形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	72.2%	13.9%	11.1%	2.8%	69.4%	16.7%	8.3%	5.6%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	124	36	39	51	111	39	19	81	250
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	49.6%	14.4%	15.6%	20.4%	44.4%	15.6%	7.6%	32.4%	100.0%
合計		度数	900	218	270	323	802	286	184	439	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	52.6%	12.7%	15.8%	18.9%	46.9%	16.7%	10.8%	25.7%	100.0%

表 23 特定疾病とえん下・食事摂取

				えん下			食事	摂取		合計
			できる	見守り等	できない	介助され ていない	見守り等	一部介助	全介助	
特定疾病コード(*認知症関連疾患)	: *筋萎縮性側索硬化症	度数	9	13	11	9	1	2	21	33
100年10日 100日 100日		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	27.3%	39.4%	33.3%	27.3%	3.0%	6.1%	63.6%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	25	3	0	25	0	1	2	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	89.3%	10.7%	0.0%	89.3%	0.0%	3.6%	7.1%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	20	1	0	18	0	2	1	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	95.2%	4.8%	0.0%	85.7%	0.0%	9.5%	4.8%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	5	13	3	6	2	6	7	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	23.8%	61.9%	14.3%	28.6%	9.5%	28.6%	33.3%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	90	17	5	58	19	17	18	112
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	80.4%	15.2%	4.5%	51.8%	17.0%	15.2%	16.1%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	22	14	3	24	2	4	9	39
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	56.4%		7.7%	61.5%	5.1%	10.3%	23.1%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	35	5	0	38	2	0	0	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	87.5%	12.5%	0.0%	95.0%	5.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及び糖尿病性	度数	77	12	1	75	8	4	3	90
	網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	85.6%	13.3%	1.1%	83.3%	8.9%	4.4%	3.3%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	638	180	67	615	97	74	99	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	72.1%	20.3%	7.6%	69.5%	11.0%	8.4%	11.2%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及	度数	56	18	1	55	4	7	9	75
	びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	74.7%	24.0%	1.3%	73.3%	5.3%	9.3%	12.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	9	1	0	10	0	0	0	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	90.0%		0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	46	11	1	40	6	8	4	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	79.3%	19.0%	1.7%	69.0%	10.3%	13.8%	6.9%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	9	3	1	11	0	2	0	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	69.2%	23.1%	7.7%	84.6%	0.0%	15.4%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関 節に著しい変形を伴う変	度数	34	2	0	32	0	4	0	36
	形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	94.4%	5.6%	0.0%	88.9%	0.0%	11.1%	0.0%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	191	47	12	197	14	9	30	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	76.4%	18.8%	4.8%	78.8%	5.6%	3.6%	12.0%	100.0%
슴計		度数	1266	340	105	1213	155	140	203	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	74.0%	19.9%	6.1%	70.9%	9.1%	8.2%	11.9%	100.0%

表 24 特定疾病と排尿・排便

				排	尿			排	便		合計
			介助され ていない	見守り等	一部介助	全介助	介助され ていない	見守り等	一部介助	全介助	ДП
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	6	0	7	20	8	0	4	21	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	18.2%	0.0%	21.2%	60.6%	24.2%	0.0%	12.1%	63.6%	100.0%
	後縱靱帯骨化症	度数	15	1	3	9	14	1	4	9	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	53.6%	3.6%	10.7%	32.1%	50.0%	3.6%	14.3%	32.1%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	9	0	4	8	9	0	5	7	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	42.9%	0.0%	19.0%	38.1%	42.9%	0.0%	23.8%	33.3%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	6	2	2	11	6	1	4	10	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	28.6%	9.5%	9.5%	52.4%	28.6%	4.8%	19.0%	47.6%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	41	5	23	43	40	5	24	43	112
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	36.6%	4.5%	20.5%	38.4%	35.7%	4.5%	21.4%	38.4%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	20	3	4	12	21	0	5	13	39
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	51.3%	7.7%	10.3%	30.8%	53.8%	0.0%	12.8%	33.3%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	30	1	5	4	29	1	5	5	40
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	75.0%	2.5%	12.5%	10.0%	72.5%	2.5%	12.5%	12.5%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性腎病及疾性	度数	65	0	9	16	59	1	13	17	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	72.2%	0.0%	10.0%	17.8%	65.6%	1.1%	14.4%	18.9%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	439	35	197	214	447	27	191	220	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	49.6%	4.0%	22.3%	24.2%	50.5%	3.1%	21.6%	24.9%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	38	1	20	16	40	1	19	15	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	50.7%	1.3%	26.7%	21.3%	53.3%	1.3%	25.3%	20.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	8	0	2	0	8	0	2	0	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	30	2	13	13	29	2	14	13	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	51.7%	3.4%	22.4%	22.4%	50.0%	3.4%	24.1%	22.4%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	9	0	2	2	8	0	4	1	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	69.2%	0.0%	15.4%	15.4%	61.5%	0.0%	30.8%	7.7%	100.0%
	両側の膝関節又は股関 節に著しい変形を伴う変	度数	23	3	7	3	25	3	5	3	36
	形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	63.9%	8.3%	19.4%	8.3%	69.4%	8.3%	13.9%	8.3%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	148	7	29	66	148	8	29	65	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	59.2%	2.8%	11.6%	26.4%	59.2%	3.2%	11.6%	26.0%	100.0%
合計		度数	887	60	327	437	891	50	328	442	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	51.8%	3.5%	19.1%	25.5%	52.1%	2.9%	19.2%	25.8%	100.0%

表 25 特定疾病と口腔衛生・洗顔・整髪

				口腔清潔			洗顔			整髪		合計
			介助され ていない	一部介助	全介助	介助され ていない	一部介助	全介助	介助され ていない	一部介助	全介助	
	: *筋萎縮性側索硬化症	度数	9	3	21	7	4	22	7	2	24	33
認知症関連疾患) 		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	27.3%	9.1%	63.6%	21.2%	12.1%	66.7%	21.2%	6.1%	72.7%	100.0%
			19	6	3	18	7	3	17	4	7	28
			67.9%	21.4%	10.7%	64.3%	25.0%	10.7%	60.7%	14.3%	25.0%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	8	10	3	9	9	3	9	4	8	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	38.1%	47.6%	14.3%	42.9%	42.9%	14.3%	42.9%	19.0%	38.1%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	7	5	9	8	5	8	7	3	11	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	33.3%	23.8%	42.9%	38.1%	23.8%	38.1%	33.3%	14.3%	52.4%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	31	41	40	29	39	44	33	30	49	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	27.7%	36.6%	35.7%	25.9%	34.8%	39.3%	29.5%	26.8%	43.8%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	21	9	9	21	9	9	23	5	11	39
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	53.8%	23.1%	23.1%	53.8%	23.1%	23.1%	59.0%	12.8%	28.2%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	29	11	0	28	11	1	35	3	2	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	72.5%	27.5%	0.0%	70.0%	27.5%	2.5%	87.5%	7.5%	5.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性腎病及び糖尿病性	度数	60	27	3	58	28	4	66	13	11	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	66.7%	30.0%	3.3%	64.4%	31.1%	4.4%	73.3%	14.4%	12.2%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	481	272	132	444	296	145	527	150	208	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	54.4%	30.7%	14.9%	50.2%	33.4%	16.4%	59.5%	16.9%	23.5%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及	度数	45	16	14	43	18	14	45	14	16	75
	がパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	60.0%	21.3%	18.7%	57.3%	24.0%	18.7%	60.0%	18.7%	21.3%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	8	2	0	8	2	0	8	1	1	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	80.0%	20.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	80.0%	10.0%	10.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	34	17	7	31	14	13	28	8	22	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	58.6%	29.3%	12.1%	53.4%	24.1%	22.4%	48.3%	13.8%	37.9%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	6	7	0	6	5	2	8	3	2	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	46.2%	53.8%	0.0%	46.2%	38.5%	15.4%	61.5%	23.1%	15.4%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	26	9	1	26	9	1	27	3	6	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	72.2%	25.0%	2.8%	72.2%	25.0%	2.8%	75.0%	8.3%	16.7%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	126	97	27	121	91	38	148	50	52	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	50.4%	38.8%	10.8%	48.4%	36.4%	15.2%	59.2%	20.0%	20.8%	100.0%
合計	-	度数	910	532	269	857	547	307	988	293	430	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	53.2%	31.1%	15.7%	50.1%	32.0%	17.9%	57.7%	17.1%	25.1%	100.0%

表 26 特定疾病と上衣着脱・ズボン等着脱・外出頻度

				上衣の)着脱			ズボン等	の着脱			外出頻度		合計
			介助され ていない	見守り等	一部介助	全介助	介助され ていない	見守り等	一部介助	全介助	週1回以 上	月1回以 上	月1回未 満	
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	4	0	4	25	5	0	4	24	9	6	18	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	12.1%	0.0%	12.1%	75.8%	15.2%	0.0%	12.1%	72.7%	27.3%	18.2%	54.5%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	12	1	8	7	12	0	7	9	15	5	8	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	42.9%	3.6%	28.6%	25.0%	42.9%	0.0%	25.0%	32.1%	53.6%	17.9%	28.6%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	7	1	8	5	8	0	5	8	10	4	7	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	33.3%	4.8%	38.1%	23.8%	38.1%	0.0%	23.8%	38.1%	47.6%	19.0%	33.3%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	2	0	9	10	3	0	7	11	8	5	8	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	9.5%	0.0%	42.9%	47.6%	14.3%	0.0%	33.3%	52.4%	38.1%	23.8%	38.1%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	25	14	35	38	22	15	34	41	56	8	48	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	22.3%	12.5%	31.3%	33.9%	19.6%	13.4%	30.4%	36.6%	50.0%	7.1%	42.9%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	19	1	12	7	18	2	7	12	24	6	9	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	48.7%	2.6%	30.8%	17.9%	46.2%	5.1%	17.9%	30.8%	61.5%	15.4%	23.1%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	29	1	9	1	28	1	6	5	26	6	8	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	72.5%	2.5%	22.5%	2.5%	70.0%	2.5%	15.0%	12.5%	65.0%	15.0%	20.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿	度数	55	7	23	5	49	7	20	14	63	6	21	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	61.1%	7.8%	25.6%	5.6%	54.4%	7.8%	22.2%	15.6%	70.0%	6.7%	23.3%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	304	23	367	191	320	27	309	229	538	87	260	885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	34.4%	2.6%	41.5%	21.6%	36.2%	3.1%	34.9%	25.9%	60.8%	9.8%	29.4%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	34	3	27	11	32	2	22	19	45	13	17	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	45.3%	4.0%	36.0%	14.7%	42.7%	2.7%	29.3%	25.3%	60.0%	17.3%	22.7%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	8	0	2	0	6	0	3	1	6	1	3	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%	30.0%	10.0%	60.0%	10.0%	30.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	18	1	24	15	21	2	18	17	28	17	13	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	31.0%	1.7%	41.4%	25.9%	36.2%	3.4%	31.0%	29.3%	48.3%	29.3%	22.4%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	7	0	4	2	7	1	2	3	3	6	4	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	53.8%	0.0%	30.8%	15.4%	53.8%	7.7%	15.4%	23.1%	23.1%	46.2%	30.8%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	24	1	10	1	20	1	13	2	22	6	8	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	66.7%	2.8%	27.8%	2.8%	55.6%	2.8%	36.1%	5.6%	61.1%	16.7%	22.2%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	100	3	103	44	95	4	87	64	58	64	128	250
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	40.0%	1.2%	41.2%	17.6%	38.0%	1.6%	34.8%	25.6%	23.2%	25.6%	51.2%	100.0%
合計	•	度数	648	56	645	362	646	62	544	459	911	240	560	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	37.9%	3.3%	37.7%	21.2%	37.8%	3.6%	31.8%	26.8%	53.2%	14.0%	32.7%	100.0%

表 27 特定疾病と意思の伝達・毎日の日課を理解・生年月日をいう

				意思の)伝達		毎日の日	課を理解	生年月	日をいう	合計
			できる	ときどき できる	ほとんど 不可	できない	できる	できない	できる	できない	ДИ
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	27	1	4	1	31	2	31	2	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	81.8%	3.0%	12.1%	3.0%	93.9%	6.1%	93.9%	6.1%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	25	3	0	0	26	2	27	1	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	89.3%	10.7%	0.0%	0.0%	92.9%	7.1%	96.4%	3.6%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	19	2	0	0	20	1	21	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	90.5%	9.5%	0.0%	0.0%	95.2%	4.8%	100.0%	0.0%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	11	7	2	1	18	3	18	3	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	52.4%	33.3%	9.5%	4.8%	85.7%	14.3%	85.7%	14.3%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	46	23	25	18	36	76	64	48	112
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	41.1%	20.5%	22.3%	16.1%	32.1%	67.9%	57.1%	42.9%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	32	3	1	3	33	6	36	3	39
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	82.1%	7.7%	2.6%	7.7%	84.6%	15.4%	92.3%	7.7%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	39	1	0	0	39	1	40	0	40
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	97.5%	2.5%	0.0%	0.0%	97.5%	2.5%	100.0%	0.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性解疾が糖尿症性	度数	88	1	1	0	88	2	89	1	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.8%	1.1%	1.1%	0.0%	97.8%	2.2%	98.9%	1.1%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	632	148	67	38	695	190	781	104	885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	71.4%	16.7%	7.6%	4.3%	78.5%	21.5%	88.2%	11.8%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及	度数	66	5	3	1	70	5	72	3	75
	びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	88.0%	6.7%	4.0%	1.3%	93.3%	6.7%	96.0%	4.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	9	1	0	0	10	0	10	0	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	55	2	0	1	56	2	57	1	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	94.8%	3.4%	0.0%		96.6%	3.4%	98.3%	1.7%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	12	1	0	0	12	1	13	0	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%	92.3%	7.7%	100.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関 節に著しい変形を伴う変	度数	33	2	1	0	34	2	35	1	36
	形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	91.7%	5.6%	2.8%	0.0%	94.4%	5.6%	97.2%	2.8%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	221	19	5	5	227	23	241	9	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	88.4%	7.6%	2.0%	2.0%	90.8%	9.2%	96.4%	3.6%	100.0%
合計		度数	1315	219	109	68	1395	316	1535	176	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	76.9%	12.8%	6.4%	4.0%	81.5%	18.5%	89.7%	10.3%	100.0%

表 28 特定疾病と短期記憶・自分の名前をいう・今の季節を理解・場所の理解

			短期	記憶	自分の名	がをいう	今の季節	節を理解	場所の	の理解	合計
			できる	できない	できる	できない	できる	できない	できる	できない	нп
特定疾病コード(*:	*筋萎縮性側索硬化症	度数	30	3	31	2	31	2	31	2	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	90.9%	9.1%	93.9%	6.1%	93.9%	6.1%	93.9%	6.1%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	27	1	28	0	26	2	27	1	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.4%	3.6%	100.0%	0.0%	92.9%	7.1%	96.4%	3.6%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	21	0	21	0	21	0	21	0	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	18	3	18	3	18	3	18	3	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	85.7%	14.3%	85.7%	14.3%	85.7%	14.3%	85.7%	14.3%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	22	90	88	24	45	67	69	43	112
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	19.6%	80.4%	78.6%	21.4%	40.2%	59.8%	61.6%	38.4%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	31	8	36	3	34	5	35	4	39
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	79.5%	20.5%	92.3%	7.7%	87.2%	12.8%	89.7%	10.3%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	38	2	40	0	40	0	40	0	40
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	95.0%	5.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及び糖尿病性	度数	86	4	90	0	88	2	90	0	90
	網膜症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	95.6%	4.4%	100.0%	0.0%	97.8%	2.2%	100.0%	0.0%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	659	226	817	68	738	147	794	91	885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	74.5%	25.5%	92.3%	7.7%	83.4%	16.6%	89.7%	10.3%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及	度数	67	8	72	3	71	4	73	2	75
	びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	89.3%	10.7%	96.0%	4.0%	94.7%	5.3%	97.3%	2.7%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	10	0	10	0	10	0	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	55	3	57	1	55	3	56	2	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	94.8%	5.2%	98.3%	1.7%	94.8%	5.2%	96.6%	3.4%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	12	1	13	0	13	0	13	0	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	92.3%	7.7%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関 節に著しい変形を伴う変	度数	33	3	35	1	35	1	33	3	36
	形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	91.7%	8.3%	97.2%	2.8%	97.2%	2.8%	91.7%	8.3%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	228	22	243	7	229	21	237	13	250
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	91.2%	8.8%	97.2%	2.8%	91.6%	8.4%	94.8%	5.2%	100.0%
合計		度数	1337	374	1599	112	1454	257	1547	164	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	78.1%	21.9%	93.5%	6.5%	85.0%	15.0%	90.4%	9.6%	100.0%

表 29 特定疾病と徘徊・外出して戻れない

				徘徊		外占	出して戻れた	よい	合計
			ない	ときどき ある	ある	ない	ときどき ある	ある	
特定疾病コード(*:認知症関連疾患)	*筋萎縮性側索硬化症	度数	33	0	0	33	0	0	33
認知症倒建失思力		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	28	0	0	28	0	0	28
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	20	1	0	21	0	0	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	95.2%	4.8%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	21	0	0	21	0	0	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	77	6	29	97	5	10	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	68.8%	5.4%	25.9%	86.6%	4.5%	8.9%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	38	0	1	39	0	0	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.4%	0.0%	2.6%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	40	0	0	40	0	0	40
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性神経障害、糖尿病性	度数	90	0	0	89	1	0	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	98.9%	1.1%	0.0%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	870	3	12	872	4	9	885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	98.3%	0.3%	1.4%	98.5%	0.5%	1.0%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及	度数	73	0	2	75	0	0	75
	びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.3%	0.0%	2.7%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	0	10	0	0	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	58	0	0	58	0	0	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	13	0	0	13	0	0	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関 節に著しい変形を伴う変	度数	36	0	0	36	0	0	36
	形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	249	0	1	249	0	1	250
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	99.6%	0.0%	0.4%	99.6%	0.0%	0.4%	100.0%
合計		度数	1656	10	45	1681	10	20	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.8%	0.6%	2.6%	98.2%	0.6%	1.2%	100.0%

表 30 特定疾病と被害的・作話・感情が不安定

				被害的			作話		愿	情が不安	Ê	合計
			ない	ときどき ある	ある	ない	ときどき ある	ある	ない	ときどき ある	ある	
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	33	0	0	33	0	0	28	2	3	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	84.8%	6.1%	9.1%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	28	0	0	27	0	1	26	0	2	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	96.4%	0.0%	3.6%	92.9%	0.0%	7.1%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	19	0	2	20	0	1	18	1	2	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	90.5%	0.0%	9.5%	95.2%	0.0%	4.8%	85.7%	4.8%	9.5%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	21	0	0	19	2	0	16	3	2	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	90.5%	9.5%	0.0%	76.2%	14.3%	9.5%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	100	1	11	89	3	20	75	8	29	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	89.3%	0.9%	9.8%	79.5%	2.7%	17.9%	67.0%	7.1%	25.9%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	39	0	0	39	0	0	35	3	1	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	89.7%	7.7%	2.6%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	36	1	3	37	1	2	36	1	3	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	90.0%	2.5%	7.5%	92.5%	2.5%	5.0%	90.0%	2.5%	7.5%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿	度数	88	1	1	87	1	2	77	4	9	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.8%	1.1%	1.1%	96.7%	1.1%	2.2%	85.6%	4.4%	10.0%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	862	8	15	839	11	35	734	43	108	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.4%	0.9%	1.7%	94.8%	1.2%	4.0%	82.9%	4.9%	12.2%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	73	1	1	71	1	3	64	2	9	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	97.3%	1.3%	1.3%	94.7%	1.3%	4.0%	85.3%	2.7%	12.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	0	10	0	0	9	0	1	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	90.0%	0.0%	10.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	54	1	3	54	2	2	47	5	6	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	93.1%	1.7%	5.2%	93.1%	3.4%	3.4%	81.0%	8.6%	10.3%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	12	0	1	13	0	0	11	0	2	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	92.3%	0.0%	7.7%	100.0%	0.0%	0.0%	84.6%	0.0%	15.4%	100.0%
	両側の膝関節又は股関 節に著しい変形を伴う変	度数	34	0	2	33	0	3	31	2	3	36
	形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	94.4%	0.0%	5.6%	91.7%	0.0%	8.3%	86.1%	5.6%	8.3%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	246	1	3	243	3	4	226	5	19	250
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	98.4%	0.4%	1.2%	97.2%	1.2%	1.6%	90.4%	2.0%	7.6%	100.0%
合計		度数	1655	14	42	1614	24	73	1433	79	199	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.7%	0.8%	2.5%	94.3%	1.4%	4.3%	83.8%	4.6%	11.6%	100.0%

表 31 特定疾病と昼夜逆転・同じ話をする・大声をだす

				昼夜逆転		Ī	司じ話をする	5		大声をだす		合計
			ない	ときどき ある	ある	ない	ときどき ある	ある	ない	ときどき ある	ある	
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	31	0	2	33	0	0	31	1	1	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	93.9%	0.0%	6.1%	100.0%	0.0%	0.0%	93.9%	3.0%	3.0%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	27	0	1	28	0	0	24	1	3	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.4%	0.0%	3.6%	100.0%	0.0%	0.0%	85.7%	3.6%	10.7%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	19	0	2	18	1	2	20	0	1	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	90.5%	0.0%	9.5%	85.7%	4.8%	9.5%	95.2%	0.0%	4.8%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	20	0	1	21	0	0	17	1	3	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	95.2%	0.0%	4.8%	100.0%	0.0%	0.0%	81.0%	4.8%	14.3%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	86	6	20	72	4	36	83	6	23	112
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	76.8%	5.4%	17.9%	64.3%	3.6%	32.1%	74.1%	5.4%	20.5%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	38	0	1	39	0	0	38	0	1	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.4%	0.0%	2.6%	100.0%	0.0%	0.0%	97.4%	0.0%	2.6%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	39	1	0	36	1	3	37	0	3	40
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	97.5%	2.5%	0.0%	90.0%	2.5%	7.5%	92.5%	0.0%	7.5%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性	度数	82	1	7	84	2	4	81	1	8	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	91.1%	1.1%	7.8%	93.3%	2.2%	4.4%	90.0%	1.1%	8.9%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	832	13	40	797	15	73	813	13	59	885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	94.0%	1.5%	4.5%	90.1%	1.7%	8.2%	91.9%	1.5%	6.7%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	69	0	6	70	1	4	69	2	4	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	92.0%	0.0%	8.0%	93.3%	1.3%	5.3%	92.0%	2.7%	5.3%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	9	1	0	10	0	0	10	0	0	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	90.0%	10.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	53	3	2	55	1	2	56	0	2	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	91.4%	5.2%	3.4%	94.8%	1.7%	3.4%	96.6%	0.0%	3.4%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	12	0	1	12	0	1	13	0	0	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	92.3%	0.0%	7.7%	92.3%	0.0%	7.7%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	33	1	2	33	1	2	33	1	2	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	91.7%	2.8%	5.6%	91.7%	2.8%	5.6%	91.7%	2.8%	5.6%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	238	0	12	244	0	6	244	0	6	250
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	95.2%	0.0%	4.8%	97.6%	0.0%	2.4%	97.6%	0.0%	2.4%	100.0%
合計	•	度数	1588	26	97	1552	26	133	1569	26	116	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	92.8%	1.5%	5.7%	90.7%	1.5%	7.8%	91.7%	1.5%	6.8%	100.0%

表 32 特定疾病と介護に抵抗・落ち着きなし・一人で出たがる

				介護に抵抗	į.	**	客ち着きなし	,	-	人で出たが	る	合計
			ない	ときどき ある	ある	ない	ときどき ある	ある	ない	ときどき ある	ある	
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	33	0	0	33	0	0	33	0	0	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	27	0	1	28	0	0	28	0	0	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.4%	0.0%	3.6%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	21	0	0	21	0	0	21	0	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	21	0	0	21	0	0	21	0	0	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	81	6	25	93	8	11	96	4	12	112
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	72.3%	5.4%	22.3%	83.0%	7.1%	9.8%	85.7%	3.6%	10.7%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	39	0	0	39	0	0	39	0	0	39
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	39	0	1	40	0	0	40	0	0	40
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	97.5%	0.0%	2.5%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性	度数	83	3	4	90	0	0	90	0	0	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	92.2%	3.3%	4.4%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	842	12	31	873	4	8	875	1	9	885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	95.1%	1.4%	3.5%	98.6%	0.5%	0.9%	98.9%	0.1%	1.0%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	73	0	2	74	0	1	73	1	1	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	97.3%	0.0%	2.7%	98.7%	0.0%	1.3%	97.3%	1.3%	1.3%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	9	0	1	10	0	0	10	0	0	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	90.0%	0.0%	10.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	58	0	0	58	0	0	58	0	0	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	13	0	0	13	0	0	13	0	0	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関節に苦しい変形を伴う変	度数	36	0	0	36	0	0	36	0	0	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	245	1	4	249	0	1	250	0	0	250
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	98.0%	0.4%	1.6%	99.6%	0.0%	0.4%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	-	度数	1620	22	69	1678	12	21	1683	6	22	1711
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	94.7%	1.3%	4.0%	98.1%	0.7%	1.2%	98.4%	0.4%	1.3%	100.0%

表 33 特定疾病と収集癖・物や衣類を壊す・ひどい物忘れ

				収集癖			や衣類を壊)どい物忘れ		合計
			ない	ときどき ある	ある	ない	ときどき ある	ある	ない	ときどき ある	ある	
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	33	0	0	33	0	0	33	0	0	33
認知症関連疾患) 		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	28	0	0	28	0	0	27	0	1	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	96.4%	0.0%	3.6%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	21	0	0	21	0	0	18	1	2	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	85.7%	4.8%	9.5%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	21	0	0	21	0	0	21	0	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	100	2	10	100	4	8	59	6	47	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	89.3%	1.8%	8.9%	89.3%	3.6%	7.1%	52.7%	5.4%	42.0%	100.0%
	*脊髓小脳変性症	度数	39	0	0	38	0	1	35	1	3	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	97.4%	0.0%	2.6%	89.7%	2.6%	7.7%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	39	0	1	39	0	1	36	2	2	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.5%	0.0%	2.5%	97.5%	0.0%	2.5%	90.0%	5.0%	5.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性神経障害、糖尿病性神経障害	度数	89	1	0	90	0	0	83	2	5	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	98.9%	1.1%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	92.2%	2.2%	5.6%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	876	1	8	879	1	5	728	23	134	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	99.0%	0.1%	0.9%	99.3%	0.1%	0.6%	82.3%	2.6%	15.1%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	75	0	0	75	0	0	69	3	3	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	92.0%	4.0%	4.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	0	9	1	0	8	1	1	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	90.0%	10.0%	0.0%	80.0%	10.0%	10.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	58	0	0	58	0	0	57	1	0	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	98.3%	1.7%	0.0%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	13	0	0	13	0	0	13	0	0	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	35	0	1	36	0	0	34	1	1	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.2%	0.0%	2.8%	100.0%	0.0%	0.0%	94.4%	2.8%	2.8%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	249	0	1	249	1	0	240	2	8	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	99.6%	0.0%	0.4%	99.6%	0.4%	0.0%	96.0%	0.8%	3.2%	100.0%
合計	•	度数	1686	4	21	1689	7	15	1461	43	207	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	98.5%	0.2%	1.2%	98.7%	0.4%	0.9%	85.4%	2.5%	12.1%	100.0%

表 34 特定疾病と独り言独り笑い・自分勝手に行動・話がまとまらない

			独	り言・独り笑	Ę۱۱	自分	勝手に行動	する	話	がまとまらな	よしい	合計
			ない	ときどき ある	ある	ない	ときどき ある	ある	ない	ときどき ある	ある	
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	33	0	0	33	0	0	33	0	0	33
認知症関連疾患) 		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	27	0	1	27	0	1	27	0	1	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.4%	0.0%	3.6%	96.4%	0.0%	3.6%	96.4%	0.0%	3.6%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	21	0	0	19	0	2	19	0	2	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	90.5%	0.0%	9.5%	90.5%	0.0%	9.5%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	21	0	0	20	0	1	19	0	2	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	95.2%	0.0%	4.8%	90.5%	0.0%	9.5%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	86	2	24	80	2	30	70	8	34	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	76.8%	1.8%	21.4%	71.4%	1.8%	26.8%	62.5%	7.1%	30.4%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	39	0	0	37	1	1	38	1	0	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	94.9%	2.6%	2.6%	97.4%	2.6%	0.0%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	40	0	0	39	0	1	39	0	1	40
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	97.5%	0.0%	2.5%	97.5%	0.0%	2.5%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性腎病	度数	89	0	1	84	1	5	88	0	2	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	98.9%	0.0%	1.1%	93.3%	1.1%	5.6%	97.8%	0.0%	2.2%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	862	6	17	824	11	50	780	22	83	885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	97.4%	0.7%	1.9%	93.1%	1.2%	5.6%	88.1%	2.5%	9.4%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	71	0	4	71	0	4	70	1	4	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	94.7%	0.0%	5.3%	94.7%	0.0%	5.3%	93.3%	1.3%	5.3%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	0	10	0	0	10	0	0	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	57	0	1	57	0	1	55	0	3	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	98.3%	0.0%	1.7%	98.3%	0.0%	1.7%	94.8%	0.0%	5.2%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	13	0	0	12	0	1	12	0	1	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	92.3%	0.0%	7.7%	92.3%	0.0%	7.7%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	33	0	3	35	0	1	33	2	1	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	91.7%	0.0%	8.3%	97.2%	0.0%	2.8%	91.7%	5.6%	2.8%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	245	0	5	246	0	4	240	2	8	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	98.0%	0.0%	2.0%	98.4%	0.0%	1.6%	96.0%	0.8%	3.2%	100.0%
合計		度数	1647	8	56	1594	15	102	1533	36	142	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.3%	0.5%	3.3%	93.2%	0.9%	6.0%	89.6%	2.1%	8.3%	100.0%

表 35 特定疾病と薬の内服・金銭の管理・日常の意思決定

				薬の内服		1	金銭の管理	1		日常の意	思決定		合計
			介助され ていない	一部介助	全介助	介助され ていない	一部介助	全介助	できる	特別な場 合を除い てできる	日常的に 困難	できない	
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	7	5	21	8	4	21	25	4	2	2	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	21.2%	15.2%	63.6%	24.2%	12.1%	63.6%	75.8%	12.1%	6.1%	6.1%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	14	9	5	17	2	9	21	7	0	0	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	50.0%	32.1%	17.9%	60.7%	7.1%	32.1%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	9	9	3	12	2	7	13	6	2	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	42.9%	42.9%	14.3%	57.1%	9.5%	33.3%	61.9%	28.6%	9.5%	0.0%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	5	9	7	5	2	14	7	10	2	2	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	23.8%	42.9%	33.3%	23.8%	9.5%	66.7%	33.3%	47.6%	9.5%	9.5%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	4	60	48	5	12	95	4	32	51	25	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	3.6%	53.6%	42.9%	4.5%	10.7%	84.8%	3.6%	28.6%	45.5%	22.3%	100.0%
	*脊髓小脳変性症	度数	19	9	11	15	4	20	22	9	5	3	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	48.7%	23.1%	28.2%	38.5%	10.3%	51.3%	56.4%	23.1%	12.8%	7.7%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	26	14	0	25	7	8	29	10	1	0	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	65.0%	35.0%	0.0%	62.5%	17.5%	20.0%	72.5%	25.0%	2.5%	0.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及び糖尿病性	度数	40	43	7	34	27	29	59	29	1	1	90
	網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	44.4%	47.8%	7.8%	37.8%	30.0%	32.2%	65.6%	32.2%	1.1%	1.1%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	257	458	170	202	168	515	302	407	116	60	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	29.0%	51.8%	19.2%	22.8%	19.0%	58.2%	34.1%	46.0%	13.1%	6.8%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及	度数	34	28	13	45	6	24	43	25	4	3	75
	びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	45.3%	37.3%	17.3%	60.0%	8.0%	32.0%	57.3%	33.3%	5.3%	4.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	6	4	0	8	1	1	8	2	0	0	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	60.0%	40.0%	0.0%	80.0%	10.0%	10.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	29	20	9	38	5	15	39	18	0	1	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	50.0%	34.5%	15.5%	65.5%	8.6%	25.9%	67.2%	31.0%	0.0%	1.7%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	6	7	0	6	1	6	8	4	1	0	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	46.2%	53.8%	0.0%	46.2%	7.7%	46.2%	61.5%	30.8%	7.7%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関 節に著しい変形を伴う変	度数	22	13	1	23	3	10	23	9	3	1	36
	形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	61.1%	36.1%	2.8%	63.9%	8.3%	27.8%	63.9%	25.0%	8.3%	2.8%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	82	132	36	117	28	105	141	90	10	9	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	32.8%	52.8%	14.4%	46.8%	11.2%	42.0%	56.4%	36.0%	4.0%	3.6%	100.0%
合計		度数	560	820	331	560	272	879	744	662	198	107	1711
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	32.7%	47.9%	19.3%	32.7%	15.9%	51.4%	43.5%	38.7%	11.6%	6.3%	100.0%

表 36 特定疾病と集団への不適応・買い物・簡単な調理

			集	団への不適	応		買し	ハ物			簡単な	よ調理 ニュー		合計
			ない	ときどき ある	ある	介助され ていない	見守り等	一部介助	全介助	介助され ていない	見守り等	一部介助	全介助	
	: *筋萎縮性側索硬化症	度数	33	0	0	2	0	3	28	8	0	1	24	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	6.1%	0.0%	9.1%	84.8%	24.2%	0.0%	3.0%	72.7%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	28	0	0	5	0	7	16	7	0	2	19	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	17.9%	0.0%	25.0%	57.1%	25.0%	0.0%	7.1%	67.9%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	19	1	1	4	0	7	10	7	0	0	14	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	90.5%	4.8%	4.8%	19.0%	0.0%	33.3%	47.6%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	21	0	0	1	0	1	19	4	0	0	17	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	4.8%	90.5%	19.0%	0.0%	0.0%	81.0%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	95	6	11	8	0	5	99	19	0	2	91	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	84.8%	5.4%	9.8%	7.1%	0.0%	4.5%	88.4%	17.0%	0.0%	1.8%	81.3%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	39	0	0	7	0	8	24	12	0	1	26	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	0.0%	17.9%	0.0%	20.5%	61.5%	30.8%	0.0%	2.6%	66.7%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	39	1	0	10	0	13	17	21	0	1	18	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	97.5%	2.5%	0.0%	25.0%	0.0%	32.5%	42.5%	52.5%	0.0%	2.5%	45.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿 病性腎症及び糖尿病性	度数	89	0	1	19	1	19	51	30	1	4	55	90
	網膜症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	98.9%	0.0%	1.1%	21.1%	1.1%	21.1%	56.7%	33.3%	1.1%	4.4%	61.1%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	847	15	23	85	6	163	631	216	6	30	633	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	95.7%	1.7%	2.6%	9.6%	0.7%	18.4%	71.3%	24.4%	0.7%	3.4%	71.5%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大 脳皮質基底核変性症及	度数	73	0	2	17	0	18	40	28	1	7	39	75
	びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	97.3%	0.0%	2.7%	22.7%	0.0%	24.0%	53.3%	37.3%	1.3%	9.3%	52.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	9	1	0	3	0	2	5	3	0	0	7	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	90.0%	10.0%	0.0%	30.0%	0.0%	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%	0.0%	70.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	54	1	3	13	0	19	26	19	1	6	32	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	93.1%	1.7%	5.2%	22.4%	0.0%	32.8%	44.8%	32.8%	1.7%	10.3%	55.2%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	13	0	0	0	1	3	9	3	0	0	10	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	23.1%	69.2%	23.1%	0.0%	0.0%	76.9%	100.0%
	両側の膝関節又は股関 節に著しい変形を伴う変	度数	34	1	1	8	0	10	18	19	0	0	17	36
	形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	94.4%	2.8%	2.8%	22.2%	0.0%	27.8%	50.0%	52.8%	0.0%	0.0%	47.2%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	249	0	1	25	0	29	196	55	0	4	191	250
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	99.6%	0.0%	0.4%	10.0%	0.0%	11.6%	78.4%	22.0%	0.0%	1.6%	76.4%	100.0%
合計		度数	1642	26	43	207	8	307	1189	451	9	58	1193	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	96.0%	1.5%	2.5%	12.1%	0.5%	17.9%	69.5%	26.4%	0.5%	3.4%	69.7%	100.0%

表 37 特定疾病と点滴の管理・中心静脈栄養・透析・ストーマの処置

			点滴の)管理	中心静	脈栄養	透	析	ストーマ	'の処置	合計
			ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	28	5	31	2	33	0	32	1	33
認知症関連疾患) 		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	84.8%	15.2%	93.9%	6.1%	100.0%	0.0%	97.0%	3.0%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	27	1	28	0	28	0	28	0	28
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	96.4%	3.6%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	20	1	21	0	21	0	21	0	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	95.2%	4.8%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	21	0	21	0	21	0	21	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	112	0	111	1	112	0	111	1	112
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	99.1%	0.9%	100.0%	0.0%	99.1%	0.9%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	38	1	38	1	39	0	39	0	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.4%	2.6%	97.4%	2.6%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	39	1	40	0	37	3	40	0	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.5%	2.5%	100.0%	0.0%	92.5%	7.5%	100.0%	0.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿	度数	86	4	90	0	40	50	90	0	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	95.6%	4.4%	100.0%	0.0%	44.4%	55.6%	100.0%	0.0%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	871	14	881	4	862	23	881	4	885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	98.4%	1.6%	99.5%	0.5%	97.4%	2.6%	99.5%	0.5%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	71	4	75	0	75	0	74	1	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	94.7%	5.3%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	98.7%	1.3%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	10	0	4	6	10	0	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	40.0%	60.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	55	3	58	0	58	0	58	0	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	94.8%	5.2%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	12	1	13	0	13	0	13	0	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	92.3%	7.7%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	36	0	36	0	35	1	36	0	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	97.2%	2.8%	100.0%	0.0%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	168	82	229	21	250	0	240	10	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	67.2%	32.8%	91.6%	8.4%	100.0%	0.0%	96.0%	4.0%	100.0%
合計	-	度数	1594	117	1682	29	1628	83	1694	17	1711
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	93.2%	6.8%	98.3%	1.7%	95.1%	4.9%	99.0%	1.0%	100.0%

表 38 特定疾病と酸素療法・レスピレーター・気管切開の処置・疼痛の看護

			酸素	療法	レスピレ	ノーター	気管切開	の処置	疼痛0	D看護	合計
			ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	
特定疾病コード(*:認知症関連疾患)	*筋萎縮性側索硬化症	度数	31	2	19	14	24	9	33	0	33
1000年月年1天志/		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	93.9%	6.1%	57.6%	42.4%	72.7%	27.3%	100.0%	0.0%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	28	0	28	0	28	0	28	0	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	20	1	21	0	21	0	20	1	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	95.2%	4.8%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	95.2%	4.8%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	21	0	21	0	20	1	21	0	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	95.2%	4.8%	100.0%	0.0%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	112	0	111	1	112	0	112	0	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	99.1%	0.9%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	38	1	39	0	39	0	39	0	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.4%	2.6%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	40	0	40	0	40	0	39	1	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	97.5%	2.5%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性神経障害、糖尿病性	度数	90	0	90	0	90	0	90	0	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	877	8	883	2	859	26	884	1	885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	99.1%	0.9%	99.8%	0.2%	97.1%	2.9%	99.9%	0.1%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及	度数	75	0	75	0	75	0	75	0	75
	びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	9	1	10	0	10	0	10	0	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	90.0%	10.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	57	1	58	0	58	0	58	0	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	98.3%	1.7%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	7	6	13	0	12	1	13	0	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	53.8%	46.2%	100.0%	0.0%	92.3%	7.7%	100.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	36	0	36	0	36	0	36	0	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	214	36	250	0	248	2	205	45	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	85.6%	14.4%	100.0%	0.0%	99.2%	0.8%	82.0%	18.0%	100.0%
合計		度数	1655	56	1694	17	1672	39	1663	48	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.7%	3.3%	99.0%	1.0%	97.7%	2.3%	97.2%	2.8%	100.0%

表 39 特定疾病と経管栄養・モニター測定・じょくそうの処置・カテーテル

			経管	栄養	モニタ-	一測定	じょくそう	の処置	カテー	テル	合計
			ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	,,,,
特定疾病コード(*:認知症関連疾患)	: *筋萎縮性側索硬化症	度数	19	14	27	6	33	0	30	3	33
1000 和亚民建长忠/		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	57.6%	42.4%	81.8%	18.2%	100.0%	0.0%	90.9%	9.1%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	28	0	28	0	27	1	25	3	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	96.4%	3.6%	89.3%	10.7%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	21	0	20	1	19	2	20	1	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	95.2%	4.8%	90.5%	9.5%	95.2%	4.8%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	18	3	20	1	18	3	17	4	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	85.7%	14.3%	95.2%	4.8%	85.7%	14.3%	81.0%	19.0%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	108	4	112	0	109	3	111	1	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.4%	3.6%	100.0%	0.0%	97.3%	2.7%	99.1%	0.9%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	36	3	38	1	38	1	35	4	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	92.3%	7.7%	97.4%	2.6%	97.4%	2.6%	89.7%	10.3%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	40	0	40	0	40	0	39	1	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	97.5%	2.5%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性神経障害、糖尿病性神経障害	度数	89	1	89	1	87	3	83	7	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	98.9%	1.1%	98.9%	1.1%	96.7%	3.3%	92.2%	7.8%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	817	68	862	23	872	13	861	24	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	92.3%	7.7%	97.4%	2.6%	98.5%	1.5%	97.3%	2.7%	100.0%
		度数	74	1	75	0	74	1	73	2	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	98.7%	1.3%	100.0%	0.0%	98.7%	1.3%	97.3%	2.7%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	9	1	9	1	10	0	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	90.0%	10.0%	90.0%	10.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	57	1	58	0	58	0	56	2	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	98.3%	1.7%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	96.6%	3.4%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	12	1	12	1	13	0	13	0	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	92.3%	7.7%	92.3%	7.7%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	36	0	36	0	36	0	35	1	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	97.2%	2.8%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	245	5	220	30	239	11	213	37	250
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	98.0%	2.0%	88.0%	12.0%	95.6%	4.4%	85.2%	14.8%	100.0%
合計	•	度数	1610	101	1646	65	1672	39	1621	90	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	94.1%	5.9%	96.2%	3.8%	97.7%	2.3%	94.7%	5.3%	100.0%

表 40 特定疾病とサービス利用①

			訪問介護(ホームヘル ウ	訪問入	浴介護	訪問	看護		ごリテーショ ィ	合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	
	: *筋萎縮性側索硬化症	度数	14	19	22	11	28	5	31	2	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	42.4%	57.6%	66.7%	33.3%	84.8%	15.2%	93.9%	6.1%	100.0%
	後縱靱帯骨化症	度数	22	6	27	1	24	4	24	4	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	78.6%	21.4%	96.4%	3.6%	85.7%	14.3%	85.7%	14.3%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	17	4	21	0	20	1	21	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	81.0%	19.0%	100.0%	0.0%	95.2%	4.8%	100.0%	0.0%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	12	9	19	2	19	2	19	2	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	57.1%	42.9%	90.5%	9.5%	90.5%	9.5%	90.5%	9.5%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	96	16	111	1	108	4	107	5	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	85.7%	14.3%	99.1%	0.9%	96.4%	3.6%	95.5%	4.5%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	28	11	35	4	37	2	36	3	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	71.8%	28.2%	89.7%	10.3%	94.9%	5.1%	92.3%	7.7%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	32	8	40	0	34	6	39	1	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	80.0%	20.0%	100.0%	0.0%	85.0%	15.0%	97.5%	2.5%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿	度数	75	15	89	1	87	3	88	2	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	83.3%	16.7%	98.9%	1.1%	96.7%	3.3%	97.8%	2.2%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	715	170	862	23	790	95	787	98	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	80.8%	19.2%	97.4%	2.6%	89.3%	10.7%	88.9%	11.1%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	56	19	73	2	69	6	65	10	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	74.7%	25.3%	97.3%	2.7%	92.0%	8.0%	86.7%	13.3%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	10	0	9	1	9	1	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	90.0%	10.0%	90.0%	10.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	38	20	55	3	50	8	55	3	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	65.5%	34.5%	94.8%	5.2%	86.2%	13.8%	94.8%	5.2%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	10	3	12	1	11	2	12	1	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	76.9%	23.1%	92.3%	7.7%	84.6%	15.4%	92.3%	7.7%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	25	11	36	0	33	3	35	1	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	69.4%	30.6%	100.0%	0.0%	91.7%	8.3%	97.2%	2.8%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	235	15	246	4	238	12	246	4	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	94.0%	6.0%	98.4%	1.6%	95.2%	4.8%	98.4%	1.6%	100.0%
合計	1	度数	1385	326	1658	53	1557	154	1574	137	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	80.9%	19.1%	96.9%	3.1%	91.0%	9.0%	92.0%	8.0%	100.0%

表 41 特定疾病とサービス利用②

			居宅療養	管理指導	通所介護(ス	デイサ <i>ー</i> ビ 、)		ジリテーショ ノ		生活介護	合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	
	: *筋萎縮性側索硬化症	度数	24	9	33	0	33	0	32	1	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	72.7%	27.3%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	97.0%	3.0%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	27	1	27	1	26	2	27	1	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.4%	3.6%	96.4%	3.6%	92.9%	7.1%	96.4%	3.6%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	20	1	19	2	20	1	21	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	95.2%	4.8%	90.5%	9.5%	95.2%	4.8%	100.0%	0.0%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	18	3	19	2	19	2	21	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	85.7%	14.3%	90.5%	9.5%	90.5%	9.5%	100.0%	0.0%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	108	4	90	22	108	4	111	1	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.4%	3.6%	80.4%	19.6%	96.4%	3.6%	99.1%	0.9%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	37	2	34	5	35	4	36	3	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	94.9%	5.1%	87.2%	12.8%	89.7%	10.3%	92.3%	7.7%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	40	0	36	4	40	0	40	0	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	90.0%	10.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿	度数	88	2	83	7	87	3	90	0	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.8%	2.2%	92.2%	7.8%	96.7%	3.3%	100.0%	0.0%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	858	27	716	169	760	125	866	19	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.9%	3.1%	80.9%	19.1%	85.9%	14.1%	97.9%	2.1%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	71	4	66	9	68	7	75	0	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	94.7%	5.3%	88.0%	12.0%	90.7%	9.3%	100.0%	0.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	10	0	10	0	10	0	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	54	4	55	3	58	0	58	0	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	93.1%	6.9%	94.8%	5.2%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	12	1	11	2	13	0	13	0	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	92.3%	7.7%	84.6%	15.4%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	33	3	32	4	34	2	35	1	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	91.7%	8.3%	88.9%	11.1%	94.4%	5.6%	97.2%	2.8%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	247	3	249	1	248	2	250	0	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	98.8%	1.2%	99.6%	0.4%	99.2%	0.8%	100.0%	0.0%	100.0%
合計	1	度数	1647	64	1480	231	1559	152	1685	26	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.3%	3.7%	86.5%	13.5%	91.1%	8.9%	98.5%	1.5%	100.0%

表 42 特定疾病とサービス利用③

			短期入所	療養介護		人居者生活 護	福祉用	具貸与	特定福祉	用具販売	合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	一直制
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	33	0	33	0	14	19	30	3	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	42.4%	57.6%	90.9%	9.1%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	27	1	28	0	20	8	26	2	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	96.4%	3.6%	100.0%	0.0%	71.4%	28.6%	92.9%	7.1%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	20	1	21	0	17	4	19	2	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	95.2%	4.8%	100.0%	0.0%	81.0%	19.0%	90.5%	9.5%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	21	0	21	0	8	13	19	2	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	38.1%	61.9%	90.5%	9.5%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	111	1	106	6	102	10	110	2	112
	脊髄小脳変性症	特定疾病コード(:認知症関連疾患)の%	99.1%	0.9%	94.6%	5.4%	91.1%	8.9%	98.2%	1.8%	100.0%
	*脊髓小脳変性症	度数	39	0	39	0	23	16	37	2	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	59.0%	41.0%	94.9%	5.1%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	40	0	40	0	34	6	39	1	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	85.0%	15.0%	97.5%	2.5%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性腎病	度数	90	0	87	3	70	20	86	4	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	96.7%	3.3%	77.8%	22.2%	95.6%	4.4%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	880	5	859	26	598	287	824	61	885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	99.4%	0.6%	97.1%	2.9%	67.6%	32.4%	93.1%	6.9%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	75	0	74	1	52	23	68	7	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	98.7%	1.3%	69.3%	30.7%	90.7%	9.3%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	10	0	8	2	10	0	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	80.0%	20.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	58	0	57	1	34	24	57	1	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	98.3%	1.7%	58.6%	41.4%	98.3%	1.7%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	13	0	13	0	9	4	12	1	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	69.2%	30.8%	92.3%	7.7%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	36	0	36	0	26	10	35	1	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	72.2%	27.8%	97.2%	2.8%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	250	0	248	2	220	30	245	5	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	99.2%	0.8%	88.0%	12.0%	98.0%	2.0%	100.0%
合計		度数	1703	8	1672	39	1235	476	1617	94	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	99.5%	0.5%	97.7%	2.3%	72.2%	27.8%	94.5%	5.5%	100.0%

表 43 特定疾病とサービス利用④

			住宅改修(介護給付)	夜間対応型	型訪問介護		芯型通所介 雙		機能型居宅 ·護	合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	ши
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	29	4	33	0	33	0	33	0	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	87.9%	12.1%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	23	5	28	0	28	0	28	0	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	82.1%	17.9%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	20	1	21	0	21	0	21	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	95.2%	4.8%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	11	10	21	0	21	0	21	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	52.4%	47.6%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	110	2	112	0	108	4	109	3	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	98.2%	1.8%	100.0%	0.0%	96.4%	3.6%	97.3%	2.7%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	30	9	38	1	39	0	39	0	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	76.9%	23.1%	97.4%	2.6%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	39	1	40	0	40	0	40	0	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.5%	2.5%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿	度数	80	10	90	0	90	0	90	0	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	88.9%	11.1%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	719	166	884	1	884	1	884	1	885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	81.2%	18.8%	99.9%	0.1%	99.9%	0.1%	99.9%	0.1%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	61	14	74	1	75	0	75	0	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	81.3%	18.7%	98.7%	1.3%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	10	0	10	0	10	0	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	49	9	58	0	58	0	58	0	58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	84.5%	15.5%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	12	1	13	0	13	0	13	0	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	92.3%	7.7%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	30	6	36	0	36	0	36	0	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	83.3%	16.7%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	246	4	250	0	250	0	250	0	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	98.4%	1.6%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	1469	242	1708	3	1706	5	1707	4	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	85.9%	14.1%	99.8%	0.2%	99.7%	0.3%	99.8%	0.2%	100.0%

表 44 特定疾病とサービス利用⑤

				グループ		型特定施設 生活介護		型介護老人 入所者生活 ·護		·随時対応 介護看護		奠多機能型 :介護	合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	33	0	33	0	33	0	32	1	33	0	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	97.0%	3.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	28	0	28	0	28	0	28	0	28	0	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	21	0	21	0	21	0	21	0	21	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	*多系統萎縮症	度数	21	0	21	0	21	0	21	0	21	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	107	5	112	0	112	0	112	0	112	0	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	95.5%	4.5%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	*脊髓小脳変性症	度数	39	0	39	0	39	0	39	0	39	0	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	40	0	40		40	0	40	0	40		40
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿 病性腎症及び糖尿病性	度数	90	0	90	0	90	0	90	0	90	0	90
	網膜症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	*脳血管疾患	度数	885	0		0	884	1	878	7	885		885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%			99.9%	0.1%	99.2%	0.8%	100.0%		100.0%
	*進行性核上性麻痺、大 脳皮質基底核変性症及	度数	75				75	0	74	1	75		75
	びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%	0.0%	98.7%	1.3%	100.0%		100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10			_	10	0	9	1	10	_	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	90.0%	10.0%	100.0%		100.0%
	関節リウマチ	度数	58	0			58	0	58	0	58		58
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%			100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	13				13	0	13	0	13	0	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関 節に著しい変形を伴う変	度数	36	0	36		36	0	36	0	36		36
	形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	がん(がん末期)	度数	250		250	0	250	0	250	0	250	0	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	1706	5	1711	0	1710	1	1701	10	1711	0	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	99.7%	0.3%	100.0%	0.0%	99.9%	0.1%	99.4%	0.6%	100.0%	0.0%	100.0%

表 45 特定疾病とサービス利用⑥

			介護予防訪問介護 (ホームヘルプ)・訪問 型サービス			方問入浴介 蒦	介護予防	訪問看護	介護予防記 テー	が問リハビリ ション	合計
			利用なし	利用あり		利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	
特定疾病コード(*: 認知症関連疾患)	*筋萎縮性側索硬化症	度数	29	0		0		0			33
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	25	1	28	0	26	0	27	1	28
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	96.2%	3.8%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	96.4%	3.6%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	17	1	21	0	18	0	21	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	94.4%	5.6%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	20	0	21	0	19	1	19	2	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	95.0%	5.0%	90.5%	9.5%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	99	0	112	0	99	0	112	0	112
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	35	2	39	0	37	0	36	3	39
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	94.6%	5.4%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	92.3%	7.7%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	30	5	40	0	35	0	38	2	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	85.7%	14.3%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	95.0%	5.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及び糖尿病性	度数	71	7	90	0	77	1	88	2	90
	網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	91.0%	9.0%	100.0%	0.0%	98.7%	1.3%	97.8%	2.2%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	743	34	885	0	770	7	871	14	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	95.6%	4.4%	100.0%	0.0%	99.1%	0.9%	98.4%	1.6%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及	度数	57	4	75	0	59	2	72	3	75
	びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	93.4%	6.6%	100.0%	0.0%	96.7%	3.3%	96.0%	4.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	8	1	10	0	9	0	10	0	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	88.9%	11.1%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	47	1	58	0	48	0	58	0	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	97.9%	2.1%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	11	0	13	0	11	0	13	0	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関 節に著しい変形を伴う変	度数	31	3	36	0	34	0	35	1	36
	形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	91.2%	8.8%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	97.2%	2.8%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	211	0	250	0	211	0	250	0	250
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
合計		度数	1434	59	1711	0	1482	11	1683	28	1711
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	96.0%	4.0%	100.0%	0.0%	99.3%	0.7%	98.4%	1.6%	100.0%

表 46 特定疾病とサービス利用⑦

			介護予防居宅療養管 理指導			ビス)・通所	介護予防通	所リハビリ ション	活介護(シ	豆期入所生 /ョートステ ()	合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	ши
特定疾病コード(*: 認知症関連疾患)	*筋萎縮性側索硬化症	度数	33	0	33	0	33	0	33	0	33
1000年为建次总/		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	後縦靱帯骨化症	度数	28	0	27	1	28	0	28	0	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	96.4%	3.6%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	21	0	18	3	21	0	21	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	85.7%	14.3%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	21	0	21	0	20	1	21	0	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	95.2%	4.8%	100.0%	0.0%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	112	0	112	0	112	0	112	0	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*脊髄小脳変性症	度数	39	0	33	6	37	2	39	0	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	84.6%	15.4%	94.9%	5.1%	100.0%	0.0%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	40	0	36	4	40	0	40	0	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	90.0%	10.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及び糖尿病性	度数	90	0	87	3	88	2	90	0	90
	網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	96.7%	3.3%	97.8%	2.2%	100.0%	0.0%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	885	0	845	40	861	24	885	0	885
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	95.5%	4.5%	97.3%	2.7%	100.0%	0.0%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及	度数	74	1	69	6	73	2	75	0	75
	びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	98.7%	1.3%	92.0%	8.0%	97.3%	2.7%	100.0%	0.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	9	1	10	0	10	0	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	90.0%	10.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	58	0	55	3	58	0	58	0	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	94.8%	5.2%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	13	0	13	0	13	0	13	0	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関節に著しい変形を伴う変	度数	36	0	32	4	36	0	36	0	36
	形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	88.9%	11.1%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	250	0	250	0	250	0	250	0	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	1710	1	1640	71	1680	31	1711	0	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	99.9%	0.1%	95.9%	4.1%	98.2%	1.8%	100.0%	0.0%	100.0%

表 47 特定疾病とサービス利用®

				豆期入所療 入護		寺定施設入 活介護	介護予防社	富祉用具貸 5		予防福祉用 反売	合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	пп
特定疾病コード(*: 認知症関連疾患)	*筋萎縮性側索硬化症	度数	33	0	33	0	32	1	33	0	33
認知延與建疾思)		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	97.0%	3.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	後縱靱帯骨化症	度数	28	0	27	1	25	3	26	2	28
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	96.4%	3.6%	89.3%	10.7%	92.9%	7.1%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	21	0	21	0	20	1	20	1	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	95.2%	4.8%	95.2%	4.8%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	21	0	21	0	18	3	20	1	21
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	85.7%	14.3%	95.2%	4.8%	100.0%
	*初老期における認知症	度数	112	0	112	0	112	0	112	0	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*脊髓小脳変性症	度数	39	0	39	0	33	6	39	0	39
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	84.6%	15.4%	100.0%	0.0%	100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	40	0	40	0	33	7	36	4	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	82.5%	17.5%	90.0%	10.0%	100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿	度数	90	0	90	0	83	7	89	1	90
	病性腎症及び糖尿病性 網膜症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	92.2%	7.8%	98.9%	1.1%	100.0%
	*脳血管疾患	度数	885	0	885	0	836	49	877	8	885
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	94.5%	5.5%	99.1%	0.9%	100.0%
	*進行性核上性麻痺、大	度数	75	0	75	0	66	9	75	0	75
	脳皮質基底核変性症及 びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	88.0%	12.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	10	0	10	0	9	1	9	1	10
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	90.0%	10.0%	90.0%	10.0%	100.0%
	関節リウマチ	度数	58	0	58	0	53	5	58	0	58
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	91.4%	8.6%	100.0%	0.0%	100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	13	0	13	0	13	0	13	0	13
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	両側の膝関節又は股関	度数	36	0	36	0	35	1	35	1	36
	節に著しい変形を伴う変 形性関節症	特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	97.2%	2.8%	97.2%	2.8%	100.0%
	がん(がん末期)	度数	250	0	250	0	249	1	250	0	250
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	99.6%	0.4%	100.0%	0.0%	100.0%
合計	*	度数	1711	0	1710	1	1617	94	1692	19	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の %	100.0%	0.0%	99.9%	0.1%	94.5%	5.5%	98.9%	1.1%	100.0%

表 48 特定疾病とサービス利用⑨

			住宅改修(予防給付)			忍知症対応 听介護		↑規模多機 宅介護	型共同生	図知症対応 活介護(グ ホーム)	合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	百町
	*筋萎縮性側索硬化症	度数	33	0	33	0	33	0	33	0	33
認知症関連疾患)		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	後縱靱帯骨化症	度数	24	4	28	0	28	0	28	0	28
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	85.7%	14.3%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	20	1	21	0	21	0	21	0	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	95.2%	4.8%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	*多系統萎縮症	度数	19	2	21	0	21	0	21	0	21
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	90.5%	9.5%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	*初老期における認知症	度数	112	0	112	0	112	0	112	0	112
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	*脊髓小脳変性症	度数	38	1	39	0	39	0	39	0	39
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	97.4%	2.6%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	脊柱管狭窄症	度数	36	4	40	0	40	0	40	0	40
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	90.0%	10.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	糖尿病性神経障害、糖尿 病性腎症及び糖尿病性		86			0		0	90		90
	網膜症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	95.6%	4.4%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	*脳血管疾患	度数	836	49		0		0			
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	94.5%	5.5%		0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	*進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及		71	4		0	75	0	75		75
	びパーキンソン病	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	94.7%	5.3%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	閉塞性動脈硬化症	度数	9	1	10	0	10	0	10	0	10
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	90.0%	10.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	関節リウマチ	度数	57	1	58	0		0			
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	98.3%	1.7%		0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	13	0	13	0	13	0	13	0	13
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	100.0%	0.0%		0.0%		0.0%	100.0%		
	両側の膝関節又は股関 節に著しい変形を伴う変	度数	34			0		0			
	形性関節症	特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	94.4%	5.6%		0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
	がん(がん末期)	度数	249	1	250	0		0			
		特定疾病コード(*:認知症関連疾患)の%	99.6%	0.4%		0.0%	100.0%	0.0%	100.0%		100.0%
合計		度数	1637	74	1711	0	1711	0	1711	0	1711
		特定疾病コード(*:認 知症関連疾患)の%	95.7%	4.3%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%

2-5. 認知症高齢者の日常生活自立度 Ⅱ以上と調査項目

以下に、認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上と認定調査項目のクロス表を示します。

表 49 認知症自立度 II 以上と麻痺

			麻痺(左	-上肢)	麻痺(右	一上肢)	麻痺(左	一下肢)	麻痺(右	-下肢)	麻痺(そ	(の他)	合計
			ない	ある									
基本調査認知症高 齢者の日常生活自	自立・I	度数	785	314	805	294	623	476	636	463	912	187	1099
立度(Ⅱ以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	71.4%	28.6%	73.2%	26.8%	56.7%	43.3%	57.9%	42.1%	83.0%	17.0%	100.0%
	Ⅱ以上	度数	400	212	346	266	321	291	276	336	523	89	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	65.4%	34.6%	56.5%	43.5%	52.5%	47.5%	45.1%	54.9%	85.5%	14.5%	100.0%
合計	-	度数	1185	526	1151	560	944	767	912	799	1435	276	1711
		基本調査認知症高齢者の日常生活自立度(II以上)の%	69.3%	30.7%	67.3%	32.7%	55.2%	44.8%	53.3%	46.7%	83.9%	16.1%	100.0%

表 50 認知症自立度 II 以上と拘縮

			拘縮(肩]関節)	拘縮(胎	2関節)	拘縮(服	と関節)	拘縮(そ	- の他)	合計
			ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	
基本調査認知症高	自立・I	度数	775	324	1018	81	828	271	858	241	1099
齢者の日常生活自 立度(II以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	70.5%	29.5%	92.6%	7.4%	75.3%	24.7%	78.1%	21.9%	100.0%
	Ⅱ以上	度数	382	230	530	82	406	206	470	142	612
-		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	62.4%	37.6%	86.6%	13.4%	66.3%	33.7%	76.8%	23.2%	100.0%
合計		度数	1157	554	1548	163	1234	477	1328	383	1711
	基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	67.6%	32.4%	90.5%	9.5%	72.1%	27.9%	77.6%	22.4%	100.0%	

表 51 認知症自立度 II 以上と寝返り・起き上がり・座位保持

				寝返り			起き上がり			座位	保持		合計
			できる	つかまれ ば可	できない	できる	つかまれ ば可	できない	できる	自分で支 えれば可	支えが必 要	できない	
基本調査認知症高	自立・I	度数	288	627	184	74	752	273	390	299	377	33	1099
齢者の日常生活自 立度(II以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	26.2%	57.1%	16.7%	6.7%	68.4%	24.8%	35.5%	27.2%	34.3%	3.0%	100.0%
	Ⅱ以上	度数	168	250	194	69	316	227	189	129	251	43	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	27.5%	40.8%	31.7%	11.3%	51.6%	37.1%	30.9%	21.1%	41.0%	7.0%	100.0%
合計		度数	456	877	378	143	1068	500	579	428	628	76	1711
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	26.7%	51.3%	22.1%	8.4%	62.4%	29.2%	33.8%	25.0%	36.7%	4.4%	100.0%

表 52 認知症自立度 II 以上と両足での立位・歩行・立ち上がり・片足での立位

		·	ī	同足での立位	<u></u>		歩行			立ち上がり		j	片足での立位	4	合計
			できる	支えが必 要	できない	できる	つかまれ ば可	できない	できる	つかまれ ば可	できない	できる	支えが必 要	できない	
基本調査認知症高	自立・I	度数	353	531	215	172	516	411	56	823	220	83	536	480	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	32.1%	48.3%	19.6%	15.7%	47.0%	37.4%	5.1%	74.9%	20.0%	7.6%	48.8%	43.7%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%													
	Ⅱ以上	度数	182	207	223	128	171	313	66	311	235	56	208	348	612
		基本調査認知症高齢者	29.7%	33.8%	36.4%	20.9%	27.9%	51.1%	10.8%	50.8%	38.4%	9.2%	34.0%	56.9%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の %													
合計		度数	535	738	438	300	687	724	122	1134	455	139	744	828	1711
		基本調査認知症高齢者	31.3%	43.1%	25.6%	17.5%	40.2%	42.3%	7.1%	66.3%	26.6%	8.1%	43.5%	48.4%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以													
		上) の%		l			i								

表 53 認知症自立度 II 以上と洗身・つめ切り

				洗	身			つめ切り		合計
			介助され ていない	一部介助	全介助	行ってい ない	介助され ていない	一部介助	全介助	
基本調査認知症高	自立・I	度数	337	434	211	117	260	267	572	1099
齢者の日常生活自 立度(II以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	30.7%	39.5%	19.2%	10.6%	23.7%	24.3%	52.0%	100.0%
	Ⅱ以上	度数	69	210	291	42	52	74	486	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	11.3%	34.3%	47.5%	6.9%	8.5%	12.1%	79.4%	100.0%
合計		度数	406	644	502	159	312	341	1058	1711
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	23.7%	37.6%	29.3%	9.3%	18.2%	19.9%	61.8%	100.0%

表 54 認知症自立度 II 以上と視力・聴力

					視力					聴力			合計
			普通	1m先が見 える	目の前が 見える	ほとんど見 えず	判断不能	普通	大声が聞 える	やっと聞き 取れる	ほとんど聞 えず	判断不能	
基本調査認知症高	自立・I	度数	870	168	44	17	0	1030	57	9	3	0	1099
齢者の日常生活自 立度(Ⅱ以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	79.2%	15.3%	4.0%	1.5%	0.0%	93.7%	5.2%	0.8%	0.3%	0.0%	100.0%
	Ⅱ以上	度数	371	146	40	7	48	499	55	16	2	40	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	60.6%	23.9%	6.5%	1.1%	7.8%	81.5%	9.0%	2.6%	0.3%	6.5%	100.0%
合計		度数	1241	314	84	24	48	1529	112	25	5	40	1711
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	72.5%	18.4%	4.9%	1.4%	2.8%	89.4%	6.5%	1.5%	0.3%	2.3%	100.0%

表 55 認知症自立度 II 以上と移乗・移動

				移	乗			移	動		合計
			介助され	見守り等	一部介助	全介助	介助され	見守り等	一部介助	全介助	
			ていない				ていない				
基本調査認知症高	自立・I	度数	651	145	163	140	594	165	113	227	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	59.2%	13.2%	14.8%	12.7%	54.0%	15.0%	10.3%	20.7%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
	Ⅱ以上	度数	249	73	107	183	208	121	71	212	612
		基本調査認知症高齢者	40.7%	11.9%	17.5%	29.9%	34.0%	19.8%	11.6%	34.6%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
合計		度数	900	218	270	323	802	286	184	439	1711
		基本調査認知症高齢者	52.6%	12.7%	15.8%	18.9%	46.9%	16.7%	10.8%	25.7%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									

表 56 認知症自立度 II 以上とえん下・食事摂取

				えん下			食事	摂取		合計
			できる	見守り等	できない	介助され	見守り等	一部介助	全介助	
						ていない				
基本調査認知症高	自立・I	度数	877	187	35	884	69	72	74	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	79.8%	17.0%	3.2%	80.4%	6.3%	6.6%	6.7%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以								
		上)の%								
	Ⅱ以上	度数	389	153	70	329	86	68	129	612
		基本調査認知症高齢者	63.6%	25.0%	11.4%	53.8%	14.1%	11.1%	21.1%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以								
		上)の%								
合計		度数	1266	340	105	1213	155	140	203	1711
		基本調査認知症高齢者	74.0%	19.9%	6.1%	70.9%	9.1%	8.2%	11.9%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以								
		上)の%								

表 57 認知症自立度 II 以上と排尿・排便

				排	尿			排	便		合計
			介助され ていない	見守り等	一部介助	全介助	介助され ていない	見守り等	一部介助	全介助	
基本調査認知症高	自立・I	度数	700	31	193	175	694	27	200	178	1099
齢者の日常生活自 立度(II以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	63.7%	2.8%	17.6%	15.9%	63.1%	2.5%	18.2%	16.2%	100.0%
	Ⅱ以上	度数	187	29	134	262	197	23	128	264	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	30.6%	4.7%	21.9%	42.8%	32.2%	3.8%	20.9%	43.1%	100.0%
合計		度数	887	60	327	437	891	50	328	442	1711
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	51.8%	3.5%	19.1%	25.5%	52.1%	2.9%	19.2%	25.8%	100.0%

表 58 認知症自立度 II 以上と口腔衛生・洗顔・整髪

				口腔清潔			洗顔			整髪		合計
			介助され ていない	一部介助	全介助	介助され ていない	一部介助	全介助	介助され ていない	一部介助	全介助	
基本調査認知症高 齢者の日常生活自 立度(II以上)	自立・I	度数 基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	725 66.0%	294 26.8%	80 7.3%	680 61.9%	311 28.3%	108 9.8%	773 70.3%	159 14.5%	167 15.2%	1099 100.0%
	Ⅱ以上	度数 基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	185 30.2%	238 38.9%	189 30.9%		236 38.6%	199 32.5%	215 35.1%	134 21.9%	263 43.0%	
슴計		度数 基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	910 53.2%	532 31.1%	269 15.7%		547 32.0%	307 17.9%	988 57.7%	293 17.1%	430 25.1%	

表 59 認知症自立度 II 以上と上衣着脱・ズボン等着脱・外出頻度

				上衣の	D着脱			ズボン等	の着脱			外出頻度		合計
			介助され	見守り等	一部介助	全介助	介助され	見守り等	一部介助	全介助	週1回以	月1回以	月1回未	
			ていない				ていない				上	上	満	
基本調査認知症高	自立・I	度数	518	20	419	142	520	25	349	205	608	175	316	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	47.1%	1.8%	38.1%	12.9%	47.3%	2.3%	31.8%	18.7%	55.3%	15.9%	28.8%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以												
		上)の%												
	Ⅱ以上	度数	130	36	226	220	126	37	195	254	303	65	244	612
		基本調査認知症高齢者	21.2%	5.9%	36.9%	35.9%	20.6%	6.0%	31.9%	41.5%	49.5%	10.6%	39.9%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以												
		上)の%												
合計		度数	648	56	645	362	646	62	544	459	911	240	560	1711
		基本調査認知症高齢者	37.9%	3.3%	37.7%	21.2%	37.8%	3.6%	31.8%	26.8%	53.2%	14.0%	32.7%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以												
		上)の%												

表 60 認知症自立度 II 以上と意思の伝達・毎日の日課・生年月日

				意思(の伝達		毎日の日	課を理解	生年月	日をいう	合計
			できる		ほとんど不	できない	できる	できない	できる	できない	
				きる	可						
基本調査認知症高	自立・I	度数	1034	59	5	1	1085	14	1095	4	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	94.1%	5.4%	0.5%	0.1%	98.7%	1.3%	99.6%	0.4%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
	Ⅱ以上	度数	281	160	104	67	310	302	440	172	612
		基本調査認知症高齢者	45.9%	26.1%	17.0%	10.9%	50.7%	49.3%	71.9%	28.1%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
合計		度数	1315	219	109	68	1395	316	1535	176	1711
		基本調査認知症高齢者	76.9%	12.8%	6.4%	4.0%	81.5%	18.5%	89.7%	10.3%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									

表 61 認知症自立度 II 以上と短期記憶・自分の名前・今の季節の理解・場所の理解

			短期	記憶	自分の名	前をいう	今の季節	作を理解	場所の)理解	合計
			できる	できない	できる	できない	できる	できない	できる	できない	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1074	25	1098	1	1086	13	1098	1	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	97.7%	2.3%	99.9%	0.1%	98.8%	1.2%	99.9%	0.1%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
	Ⅱ以上	度数	263	349	501	111	368	244	449	163	612
		基本調査認知症高齢者	43.0%	57.0%	81.9%	18.1%	60.1%	39.9%	73.4%	26.6%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
合計		度数	1337	374	1599	112	1454	257	1547	164	1711
		基本調査認知症高齢者	78.1%	21.9%	93.5%	6.5%	85.0%	15.0%	90.4%	9.6%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									

表 62 認知症自立度 II 以上と徘徊・外出して戻れない

				徘徊		外占	出して戻れな	こしい	合計
			ない	ときどきある	ある	ない	ときどきある	ある	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1099	0	0	1099	0	0	1099
齢者の日常生活自 立度(Ⅱ以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	Ⅱ以上	度数	557	10	45	582	10	20	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	91.0%	1.6%	7.4%	95.1%	1.6%	3.3%	100.0%
合計		度数	1656	10	45	1681	10	20	1711
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以上)の%	96.8%	0.6%	2.6%	98.2%	0.6%	1.2%	100.0%

表 63 認知症自立度 II 以上と被害的・作話・感情が不安定

				被害的			作話		Jī.	感情が不安定	È	合計
			ない	ときどきある	ある	ない	ときどきある	ある	ない	ときどきある	ある	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1087	3	9	1081	10	8	993	42	64	1099
齢者の日常生活自 立度(II以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	98.9%	0.3%	0.8%	98.4%	0.9%	0.7%	90.4%	3.8%	5.8%	100.0%
	Ⅱ以上	度数	568	11	33	533	14	65	440	37	135	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	92.8%	1.8%	5.4%	87.1%	2.3%	10.6%	71.9%	6.0%	22.1%	100.0%
合計		度数	1655	14	42	1614	24	73	1433	79	199	1711
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	96.7%	0.8%	2.5%	94.3%	1.4%	4.3%	83.8%	4.6%	11.6%	100.0%

表 64 認知症自立度 II 以上と昼夜逆転・同じ話をする・大声をだす

				昼夜逆転			同じ話をする			大声をだす		合計
			ない	ときどきある	ある	ない	ときどきある	ある	ない	ときどきある	ある	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1057	11	31	1072	11	16	1069	9	21	1099
齢者の日常生活自 立度(II以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	96.2%	1.0%	2.8%	97.5%	1.0%	1.5%	97.3%	0.8%	1.9%	100.0%
	Ⅱ以上	度数	531	15	66	480	15	117	500	17	95	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	86.8%	2.5%	10.8%	78.4%	2.5%	19.1%	81.7%	2.8%	15.5%	100.0%
合計		度数	1588	26	97	1552	26	133	1569	26	116	1711
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	92.8%	1.5%	5.7%	90.7%	1.5%	7.8%	91.7%	1.5%	6.8%	100.0%

表 65 認知症自立度 II 以上と介護に抵抗・落ち着きなし・一人で出たがる

				介護に抵抗		3	落ち着きなし	•	_	人で出たが	る	合計
			ない	ときどきあ	ある	ない	ときどきあ	ある	ない	ときどきあ	ある	
				る			る			る		
基本調査認知症高	自立・I	度数	1084	4	11	1097	1	1	1098	0	1	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	98.6%	0.4%	1.0%	99.8%	0.1%	0.1%	99.9%	0.0%	0.1%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以										
		上)の%										
	Ⅱ以上	度数	536	18	58	581	11	20	585	6	21	612
		基本調査認知症高齢者	87.6%	2.9%	9.5%	94.9%	1.8%	3.3%	95.6%	1.0%	3.4%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以										
		上)の%										
合計		度数	1620	22	69	1678	12	21	1683	6	22	1711
		基本調査認知症高齢者	94.7%	1.3%	4.0%	98.1%	0.7%	1.2%	98.4%	0.4%	1.3%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以										
		上)の%										

表 66 認知症自立度 II 以上と収集癖・物や衣類を壊す・ひどい物忘れ

				収集癖		物	や衣類を壊	す	7	ひどい物忘れ	L	合計
			ない	ときどきある	ある	ない	ときどきある	ある	ない	ときどきある	ある	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1098		0	1098		1	1064		18	1099
齢者の日常生活自 立度(II以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	99.9%	0.1%	0.0%	99.9%	0.0%	0.1%	96.8%	1.5%	1.6%	100.0%
	Ⅱ以上	度数	588	3	21	591	7	14	397	26	189	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	96.1%	0.5%	3.4%	96.6%	1.1%	2.3%	64.9%	4.2%	30.9%	100.0%
合計		度数	1686	4	21	1689	7	15	1461	43	207	1711
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	98.5%	0.2%	1.2%	98.7%	0.4%	0.9%	85.4%	2.5%	12.1%	100.0%

表 67 認知症自立度 II 以上と独り言独り笑い・自分勝手に行動・話がまとまらない

			独	り言・独り笑	い	自分	勝手に行動	する	話	がまとまらな	い	合計
			ない	ときどきある	ある	ない	ときどきあ る	ある	ない	ときどきある	ある	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1092	1	6	1085	3	11	1077	10	12	1099
齢者の日常生活自 立度(Ⅱ以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以	99.4%	0.1%	0.5%	98.7%	0.3%	1.0%	98.0%	0.9%	1.1%	100.0%
立及(ロダエ)		上)の%										
	Ⅱ以上	度数	555	7	50	509	12	91	456	26	130	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	90.7%	1.1%	8.2%	83.2%	2.0%	14.9%	74.5%	4.2%	21.2%	100.0%
合計		度数	1647	8	56	1594	15	102	1533	36	142	1711
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	96.3%	0.5%	3.3%	93.2%	0.9%	6.0%	89.6%	2.1%	8.3%	100.0%

表 68 認知症自立度 II 以上と薬の内服・金銭の管理・日常の意思決定

				薬の内服			金銭の管理			日常の意	思決定		合計
			介助され ていない	一部介助	全介助	介助され ていない	一部介助	全介助	できる	特別な場合を除い	日常的に 困難	できない	
基本調査認知症高	自立・I	度数	511	480	108	526	181	392	712	374	11	2	1099
齢者の日常生活自 立度(Ⅱ以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	46.5%	43.7%	9.8%	47.9%	16.5%	35.7%	64.8%	34.0%	1.0%	0.2%	100.0%
	Ⅱ以上	度数	49	340	223	34	91	487	32	288	187	105	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	8.0%	55.6%	36.4%	5.6%	14.9%	79.6%	5.2%	47.1%	30.6%	17.2%	100.0%
合計		度数	560	820	331	560	272	879	744	662	198	107	1711
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	32.7%	47.9%	19.3%	32.7%	15.9%	51.4%	43.5%	38.7%	11.6%	6.3%	100.0%

表 69 認知症自立度 II 以上と集団への不適応・買い物・簡単な調理

			集	団への不適	応		買し	\物			簡単な	は調理		合計
			ない	ときどきあ る	ある	介助され ていない	見守り等	一部介助	全介助	介助され ていない	見守り等	一部介助	全介助	
基本調査認知症高 齢者の日常生活自 立度(II以上)	自立·I	度数 基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(II以 上)の%	1082 98.5%		1.0%	171 15.6%	0.3%	247 22.5%	678 61.7%	338 30.8%	0.4%	39 3.5%	718 65.3%	1099 100.0%
	Ⅱ以上	度数 基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	560 91.5%		32 5.2%	36 5.9%	0.8%	60 9.8%		113 18.5%	0.8%	19 3.1%	475 77.6%	612 100.0%
合計		度数 基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	1642 96.0%		43 2.5%	207 12.1%	0.5%	307 17.9%	1189 69.5%	451 26.4%	9 0.5%	58 3.4%	1193 69.7%	1711 100.0%

表 70 認知症自立度 II 以上と点滴の管理・中心静脈栄養・透析・ストーマの処置

			点滴の)管理	中心静	脈栄養	透	析	ストーマ	の処置	合計
			ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1004	95	1077	22	1032	67	1086	13	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	91.4%	8.6%	98.0%	2.0%	93.9%	6.1%	98.8%	1.2%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
	Ⅱ以上	度数	590	22	605	7	596	16	608	4	612
		基本調査認知症高齢者	96.4%	3.6%	98.9%	1.1%	97.4%	2.6%	99.3%	0.7%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
合計		度数	1594	117	1682	29	1628	83	1694	17	1711
		基本調査認知症高齢者	93.2%	6.8%	98.3%	1.7%	95.1%	4.9%	99.0%	1.0%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									

表 71 認知症自立度 II 以上と酸素療法・レスピレーター・気管切開の処置・疼痛の看護

			酸素	療法	レスピレ	ノーター	気管切開	見の処置	疼痛0)看護	合計
			ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1056	43	1086	13	1084	15	1057	42	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	96.1%	3.9%	98.8%	1.2%	98.6%	1.4%	96.2%	3.8%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
	Ⅱ以上	度数	599	13	608	4	588	24	606	6	612
		基本調査認知症高齢者	97.9%	2.1%	99.3%	0.7%	96.1%	3.9%	99.0%	1.0%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
合計		度数	1655	56	1694	17	1672	39	1663	48	1711
		基本調査認知症高齢者	96.7%	3.3%	99.0%	1.0%	97.7%	2.3%	97.2%	2.8%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									

表 72 認知症自立度 II 以上と経管栄養・モニター測定・じょくそうの処置・カテーテル

			経管:	栄養	モニタ-	一測定	じょくそう	の処置	カテー	テル	合計
			ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1069	30	1059	40	1083	16	1040	59	1099
齢者の日常生活自 立度(Ⅱ以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	97.3%	2.7%	96.4%	3.6%	98.5%	1.5%	94.6%	5.4%	100.0%
	Ⅱ以上	度数	541	71	587	25	589	23	581	31	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	88.4%	11.6%	95.9%	4.1%	96.2%	3.8%	94.9%	5.1%	100.0%
合計		度数	1610	101	1646	65	1672	39	1621	90	1711
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	94.1%	5.9%	96.2%	3.8%	97.7%	2.3%	94.7%	5.3%	100.0%

表 73 認知症自立度 II 以上とサービス利用①

			訪問介護(訪問入	浴介護	訪問	看護	訪問リハヒ	・ ・ ・	
			ブ)					_	,	合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	
基本調査認知症高	自立・I	度数	913	186	1070	29	1066	33	999	100	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	83.1%	16.9%	97.4%	2.6%	97.0%	3.0%	90.9%	9.1%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
	Ⅱ以上	度数	472	140	588	24	581	31	481	131	612
		基本調査認知症高齢者	77.1%	22.9%	96.1%	3.9%	94.9%	5.1%	78.6%	21.4%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
合計		度数	1385	326	1658	53	1647	64	1480	231	1711
		基本調査認知症高齢者	80.9%	19.1%	96.9%	3.1%	96.3%	3.7%	86.5%	13.5%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									

表 74 認知症自立度 II 以上とサービス利用②

			居宅療養	管理指導	通所介護(デイサービ	通所リハビ	・ リテーショ ィ	短期入所(ショート	生活介護 ・ステイ)	合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	ны
基本調査認知症高	自立・I	度数	1066	33	999	100	1014	85	1090	9	1099
齢者の日常生活自 立度(II以上)		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	97.0%	3.0%	90.9%	9.1%	92.3%	7.7%	99.2%	0.8%	100.0%
	Ⅱ以上	度数	581	31	481	131	545	67	595	17	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	94.9%	5.1%	78.6%	21.4%	89.1%	10.9%	97.2%	2.8%	100.0%
合計		度数	1647	64	1480	231	1559	152	1685	26	1711
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	96.3%	3.7%	86.5%	13.5%	91.1%	8.9%	98.5%	1.5%	100.0%

表 75 認知症自立度 II 以上とサービス利用③

			短期入所	皮养 办谜	柱中佐部 7	人居者生活	おが 田	目岱占	杜宁垣九	田目版主	
			及别人別	尔 食 月		介護		福祉用具貸与		特定福祉用具販売	
			±11 000 +11	110+11			£11 00 #51	1100+11	±11 00 +11	#100 # 11	合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1097	2	1090	9	796	303	1040	59	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	99.8%	0.2%	99.2%	0.8%	72.4%	27.6%	94.6%	5.4%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
	Ⅱ以上	度数	606	6	582	30	439	173	577	35	612
		基本調査認知症高齢者	99.0%	1.0%	95.1%	4.9%	71.7%	28.3%	94.3%	5.7%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
合計		度数	1703	8	1672	39	1235	476	1617	94	1711
	基本調査認知症高齢者		99.5%	0.5%	97.7%	2.3%	72.2%	27.8%	94.5%	5.5%	100.0%
	のE										
上)の%		上)の%									

表 76 認知症自立度 II 以上とサービス利用④

			分中36 /	△=#4 /↓\	ᆂᄜᄮᄼᅗ	11=+88 人=#	=37 6 n.c. → 1. d		小田世夕#	*****	
			住宅改修(クトでして (1000)	夜间 刈心 4	2 訪问介護	認知症対応				
						護			10	護	合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	
基本調査認知症高	自立・I	度数	946	153	1097	2	1099	0	1099	0	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	86.1%	13.9%	99.8%	0.2%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
	Ⅱ以上	度数	523	89	611	1	607	5	608	4	612
		基本調査認知症高齢者	85.5%	14.5%	99.8%	0.2%	99.2%	0.8%	99.3%	0.7%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
合計		度数	1469	242	1708	3	1706	5	1707	4	1711
		基本調査認知症高齢者	85.9%	14.1%	99.8%	0.2%	99.7%	0.3%	99.8%	0.2%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									

表 77 認知症自立度 II 以上とサービス利用⑤

			認知症対応	5型共同生	地域密着型	型特定施設	地域密着型	型介護老人	定期巡回·	·随時対応	看護小規模	莫多機能型	
			活介護(グ	ループホー	入居者5	E活介護	福祉施設力	(所者生活	型訪問介護看護		居宅介護		
			L	.)			介	護					合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1099	0	1099	0	1098	1	1093	6	1099	0	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	99.9%	0.1%	99.5%	0.5%	100.0%	0.0%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以											
		上)の%											
	Ⅱ以上	度数	607	5	612	0	612	0	608	4	612	0	612
		基本調査認知症高齢者	99.2%	0.8%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	99.3%	0.7%	100.0%	0.0%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以											
		上)の%											
合計	•	度数	1706	5	1711	0	1710	1	1701	10	1711	0	1711
	基本調査認知症高齢者		99.7%	0.3%	100.0%	0.0%	99.9%	0.1%	99.4%	0.6%	100.0%	0.0%	100.0%
	の日常生活自立度(Ⅱ以												
	上) の%												

表 78 認知症自立度 II 以上とサービス利用⑥

			介護予防	訪問介護	介護予防調	抗問入浴介	介護予防	訪問看護	介護予防討	問リハビリ	
			(ホームへ)	レプ)・訪問	計	售			テー	ション	
				型サービス		~			· '		A =1
											合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	
基本調査認知症高	自立・I	度数	908	54	1099	62	954	8	1073	26	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	94.4%	5.6%	100.0%	5.6%	99.2%	0.8%	97.6%	2.4%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
	Ⅱ以上	度数	526	5	612	9	528	3	610	2	612
		基本調査認知症高齢者	99.1%	0.9%	100.0%	1.5%	99.4%	0.6%	99.7%	0.3%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
合計		度数	1434	59	1711	71	1482	11	1683	28	1711
		基本調査認知症高齢者	96.0%	4.0%	100.0%	4.1%	99.3%	0.7%	98.4%	1.6%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									

注)「介護予防訪問介護(ホームヘルプ)・訪問型サービス」と「介護予防訪問看護」のみ合計 1493

表 79 認知症自立度 II 以上とサービス利用⑦

			介護予防局 理抗		介護予防 (デイサート	通所介護 ゴス)・通所	介護予防通 テー:		介護予防知 活介護(シ		
					型サービス				イ)		合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1098	1	1037	62	1070	29	1099	0	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	99.9%	0.1%	94.4%	5.6%	97.4%	2.6%	100.0%	0.0%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(II以 上)の%									
	Ⅱ以上	度数	612	0	603	9	610	2	612	0	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	100.0%	0.0%	98.5%	1.5%	99.7%	0.3%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	1710	1	1640	71	1680	31	1711	0	1711
		基本調査認知症高齢者	99.9%	0.1%	95.9%	4.1%	98.2%	1.8%	100.0%	0.0%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%									

表80 認知症自立度 II 以上とサービス利用®

					_						
			介護予防知	豆期入所療	介護予防物	寺定施設入	介護予防福	副祉用具貸	特定介護	予防福祉用	
			養介	養介護		活介護	Ė	,	具販売		合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1099	0	1098	1	1012	87	1081	18	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	100.0%	0.0%	99.9%	0.1%	92.1%	7.9%	98.4%	1.6%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
	Ⅱ以上	度数	612	0	612	0	605	7	611	1	612
		基本調査認知症高齢者	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	98.9%	1.1%	99.8%	0.2%	100.0%
		の日常生活自立度(Ⅱ以									
		上)の%									
合計		度数	1711	0	1710	1	1617	94	1692	19	1711
	基本調査認知症高齢者		100.0%	0.0%	99.9%	0.1%	94.5%	5.5%	98.9%	1.1%	100.0%
	の日常生活自立度(Ⅱ以										
		上)の%									

表 81 認知症自立度 II 以上とサービス利用⑨

			住宅改修(予防給付)	介護予防調型通凡		介護予防/ 能型居		介護予防語 型共同生活		
					主題の	リノロ支	化主冶七月段		ループホーム)		合計
			利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	利用なし	利用あり	
基本調査認知症高	自立・I	度数	1029	70	1099	0	1099	0	1099	0	1099
齢者の日常生活自		基本調査認知症高齢者	93.6%	6.4%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
立度(Ⅱ以上)		の日常生活自立度(Ⅱ以上)の %									
	Ⅱ以上	度数	608	4	612	0	612	0	612	0	612
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	99.3%	0.7%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	1637	74	1711	0	1711	0	1711	0	1711
		基本調査認知症高齢者 の日常生活自立度(Ⅱ以 上)の%	95.7%	4.3%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%

2-6. 初老期における認知症・脳血管疾患・パーキンソン病関連疾患の特徴

認知症関連疾患 1,167 ケースの中で、初老期における認知症 112 ケース、脳血管疾患 887 ケース、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病(以下、パーキンソン病関連疾患)75 ケースで 9 割以上を占めます。

この3つの特徴を認定調査における9種類の要介護認定等基準時間の平均値の違いから比較します。比較するのは、①要介護認定等基準時間(食事)、②要介護認定等基準時間(排泄)、③要介護認定等基準時間(移動)、④要介護認定等基準時間(清潔保持)、⑤要介護認定等基準時間(間接ケア)、⑥要介護認定等基準時間(BPSD 関連)、⑦要介護認定等基準時間(機能訓練)、⑧要介護認定等基準時間(医療関連)、⑨要介護認定等基準時間(認知症加算)の9項目です。

下記にデータ提供の無かった2ケースを除いた1,711ケースにおける各項目の最小値、最大値、平均値、標準偏差を示します。要介護認定システムに入力されているのは要介護認定等基準時間を10倍した値です。例えば、①要介護認定等基準時間(食事)の最大値は714となっていますが、これは714分ではなく71.4分を意味します。また平均値をレーダーチャートとして示しました。

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
要介護認定等基準時間(食事)	1711	11	714	82.98	103.116
要介護認定等基準時間(排泄)	1711	2	280	100.58	91.312
要介護認定等基準時間 (移動)	1711	4	214	81.56	66.981
要介護認定等基準時間(清潔保持)	1711	12	243	108.86	59.144
要介護認定等基準時間(間接ケア)	1711	4	113	60.47	27.961
要介護認定等基準時間(BPSD 関連)	1711	58	212	64.16	17.405
要介護認定等基準時間(機能訓練)	1711	5	154	71.29	31.947
要介護認定等基準時間(医療関連)	1711	10	687	89.76	111.741
要介護認定等基準時間(認知症加算)	1711	0	200	2.60	22.333
有効なケースの数 (リストごと)	1711				

表 82 要介護認定等基準時間 9 項目

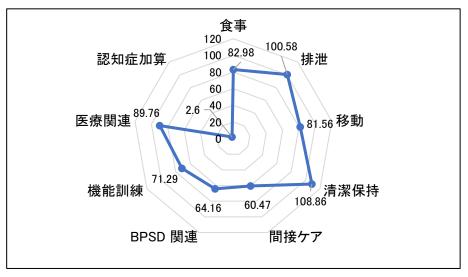


図 2-6 第 2 号被保険者の要介護認定等基準時間の平均値

2-6-1. 初老期における認知症

表83 初老期における認知症の9項目

	度数	最小値	最大値	平均值	標準偏差
要介護認定等基準時間 (食事)	112	11	714	144.77	144.846
要介護認定等基準時間 (排泄)	112	2	280	125.66	96.332
要介護認定等基準時間 (移動)	112	4	214	94.22	68.329
要介護認定等基準時間(清潔保持)	112	12	243	111.93	58.171
要介護認定等基準時間(間接ケア)	112	4	113	66.86	32.524
要介護認定等基準時間(BPSD 関連)	112	58	212	95.88	45.967
要介護認定等基準時間(機能訓練)	112	5	105	41.66	24.661
要介護認定等基準時間(医療関連)	112	10	463	53.73	86.031
要介護認定等基準時間(認知症加算)	112	0	200	18.71	57.323
有効なケースの数 (リストごと)	112				

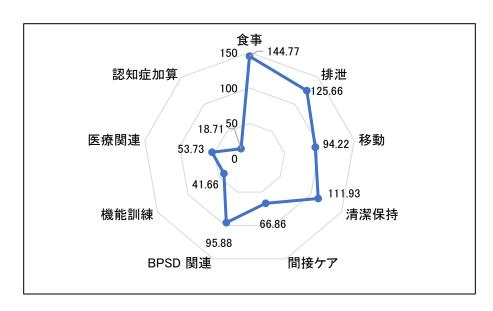


図 2-6-1 初老期における認知症の要介護認定等基準時間の平均値

2-6-2. 脳血管疾患

表84 脳血管疾患の9項目

	度数	最小値	最大値	平均值	標準偏差
要介護認定等基準時間(食事)	885	11	714	75.61	91.689
要介護認定等基準時間 (排泄)	885	2	259	99.68	89.360
要介護認定等基準時間 (移動)	885	4	214	79.15	62.597
要介護認定等基準時間 (清潔保持)	885	12	243	111.50	56.172
要介護認定等基準時間(間接ケア)	885	4	113	60.02	29.149
要介護認定等基準時間(BPSD 関連)	885	58	212	62.81	12.486
要介護認定等基準時間(機能訓練)	885	11	154	74.65	31.802
要介護認定等基準時間(医療関連)	885	10	687	83.08	115.699
要介護認定等基準時間(認知症加算)	885	0	200	1.99	19.638
有効なケースの数 (リストごと)	885				

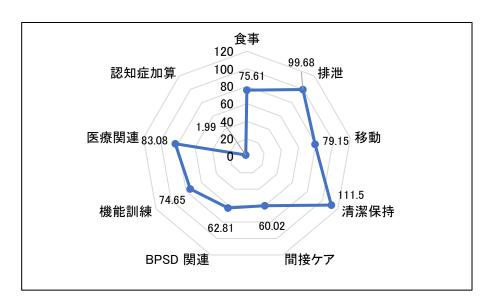


図 2-6-2 脳血管疾患の要介護認定等基準時間の平均値

2-6-3. パーキンソン病関連疾患

	度数	最小值	最大値	平均值	標準偏差
要介護認定等基準時間(食事)	75	11	560	103.63	132.295
要介護認定等基準時間(排泄)	75	2	259	103.20	96.181
要介護認定等基準時間 (移動)	75	4	208	88.36	77.385
要介護認定等基準時間 (清潔保持)	75	12	231	104.21	65.391
要介護認定等基準時間(間接ケア)	75	27	113	62.23	27.130
要介護認定等基準時間(BPSD 関連)	75	58	90	61.24	6.071
要介護認定等基準時間 (機能訓練)	75	5	105	62.29	27.342
要介護認定等基準時間(医療関連)	75	10	381	64.76	51.764
要介護認定等基準時間(認知症加算)	75	0	190	2.53	21.939
有効なケースの数 (リストごと)	75				

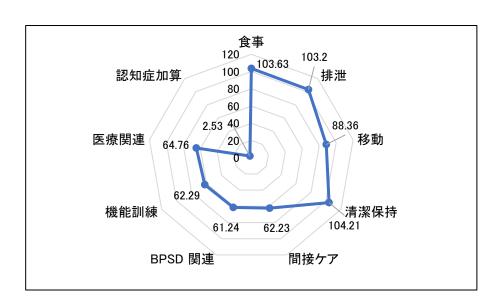


図 2-6-3 パーキンソン病関連疾患の要介護認定等基準時間の平均値

2-6-4. 要介護認定等基準時間による状態像の比較

ここまで初老期における認知症、脳血管疾患、パーキンソン病関連疾患について、要介護認定等基準時間を みてきました。ここまでの表で示した通り、各疾患のそれぞれの項目は分布が偏っていますが、各疾患の状態像を 示していると考えられます。よって、3 疾患のレーダーチャートを重ねて比較してみました。

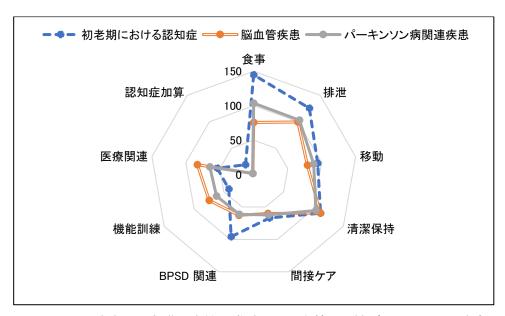


図 2-6-4 3疾患の要介護認定等基準時間の平均値の比較(図 2~図 4 再掲)

初老期における認知症において特徴的なのは BPSD 関連、認知症加算、食事、排泄などの時間が多いことにあります。一方、脳血管疾患は医療関連、機能訓練が多いことがわかります。パーキンソン病関連疾患は脳血管疾患にパターンが近いですが、食事が多くなっています。これらのことから認知症関連疾患であっても、要介護認定調査項目から、疾患による状態像(必要となる介護の時間)の違いが可視化できることが示唆されました。

2-7. 調査対象地域の比較

2-7-1. 基本属性

性別はいずれの区も男性が過半数を占めていました。年齢はいずれの区も、年齢が高くなるに従って割合が増加し、「60~64歳」はいずれの区も4割を超えていました。

D区 合計 A区 B区 C区 性別 度数 122 264 333 932 213 地域の% 56.0% 57.6% 54.2% 52.2% 54.4% 度数 96 157 223 305 781 地域の% 44.0% 42.4% 45.8% 47.8% 45.6% 合計 487 638 度数 218 370 1713 地域の% 100.0% 100.0% 100.0% 100.0% 100.0%

表 86 調査対象地域比較 性別

表 87 調査対象地域比較 年齢

				地	域		
			A区	B区	C区	D区	合計
調査基準日年齢(平成30	40~44歳	度数	10	12	12	17	51
年4月1日)		地域の%	4.6%	3.2%	2.5%	2.7%	3.0%
	45~49歳	度数	22	38	49	78	187
		地域の%	10.1%	10.3%	10.1%	12.2%	10.9%
	50~54歳	度数	33	68	69	101	271
		地域の%	15.1%	18.4%	14.2%	15.8%	15.8%
	55~59歳	度数	53	84	133	181	451
		地域の%	24.3%	22.7%	27.3%	28.4%	26.3%
	60~64歳	度数	100	168	224	261	753
		地域の%	45.9%	45.4%	46.0%	40.9%	44.0%
合計		度数	218	370	487	638	1713
		地域の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2-7-2. 要介護認定

二次判定結果は区により結果に違いがみられました。要支援 1・2 をみると B 区は 37.3%と 4 割近くを占めますが、D 区は 15.2%と 2 倍以上の差がありました。逆に要介護 5 をみると D 区は 22.4%で B 区は 10.3%と 2 倍以上の差がありました。

表 88 調査対象地域比較 二次判定結果

				地	域		
			A区	B区	C区	D区	合計
二次判定結果	要支援1	度数	7	49	43	34	133
		地域の%	3.2%	13.2%	8.8%	5.3%	7.8%
	要支援2	度数	35	89	79	63	266
		地域の%	16.1%	24.1%	16.2%	9.9%	15.5%
	要介護1	度数	22	37	48	45	152
		地域の%	10.1%	10.0%	9.9%	7.1%	8.9%
	要介護2	度数	56	54	115	136	361
		地域の%	25.7%	14.6%	23.6%	21.3%	21.1%
	要介護3	度数	34	55	68	112	269
		地域の%	15.6%	14.9%	14.0%	17.6%	15.7%
	要介護4	度数	34	48	56	105	243
		地域の%	15.6%	13.0%	11.5%	16.5%	14.2%
	要介護5	度数	30	38	78	143	289
		地域の%	13.8%	10.3%	16.0%	22.4%	16.9%
合計	•	度数	218	370	487	638	1713
		地域の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

特定疾病をみると、いずれ区も脳血管疾患が最も多くなりました。顕著な違いがみられたのは「がん(末期がん)」であり、D区は25.1%と全体の4分の1を占めている一方、B区とC区は5~6%程度に留まっていました。

表 89 調査対象地域比較 特定疾病

				地	域		
			Α区	B区	C区	D区	合計
特定疾病コード(*:認	*筋萎縮性側索硬化症	度数	4	4	15	10	33
知症関連疾患)		地域の%	1.8%	1.1%	3.1%	1.6%	1.9%
	後縦靱帯骨化症	度数	2	7	7	12	28
		地域の%	0.9%	1.9%	1.4%	1.9%	1.6%
	骨折を伴う骨粗鬆症	度数	3	6	7	5	21
		地域の%	1.4%	1.6%	1.4%	0.8%	1.2%
	*多系統萎縮症	度数	1	3	9	8	21
		地域の%	0.5%	0.8%	1.8%	1.3%	1.2%
	*初老期における認知症	度数	13	26	33	40	112
		地域の%	6.0%	7.0%	6.8%	6.3%	6.5%
	*脊髓小脳変性症	度数	2	10	18	9	39
		地域の%	0.9%	2.7%	3.7%	1.4%	2.3%
	脊柱管狭窄症	度数	5	13	10	12	40
		地域の%	2.3%	3.5%	2.1%	1.9%	2.3%
	糖尿病性神経障害、糖尿	度数	12	21	23	34	90
	病性腎症及び糖尿病性網 膜症	地域の%	5.5%	5.7%	4.7%	5.3%	5.3%
	*脳血管疾患	度数	108	207	291	281	887
		地域の%	49.5%	55.9%	59.8%	44.0%	51.8%
	*進行性核上性麻痺、大脳	度数	14	18	17	26	75
	皮質基底核変性症及び パーキンソン病	地域の%	6.4%	4.9%	3.5%	4.1%	4.4%
	閉塞性動脈硬化症	度数	1	3	2	4	10
		地域の%	0.5%	0.8%	0.4%	0.6%	0.6%
	関節リウマチ	度数	10	13	12	23	58
		地域の%	4.6%	3.5%	2.5%	3.6%	3.4%
	慢性閉塞性肺疾患	度数	2	1	3	7	13
		地域の%	0.9%	0.3%	0.6%	1.1%	0.8%
	両側の膝関節又は股関節	度数	2	14	13	7	36
	に著しい変形を伴う変形 性関節症	地域の%	0.9%	3.8%	2.7%	1.1%	2.1%
	がん(がん末期)	度数	39	24	27	160	250
		地域の%	17.9%	6.5%	5.5%	25.1%	14.6%
合計		度数	218	370	487	638	1713
		地域の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

障害高齢者の日常生活自立度については、大きな差はみられませんでした。

表 90 調査対象地域比較 障害高齢者の日常生活自立度

				地	域		
			A区	B区	C区	D区	合計
基本調査障害高齢者の日	自立	度数	0	2	4	6	12
常生活自立度(寝たきり度)		地域の%	0.0%	0.5%	0.8%	0.9%	0.7%
1 /x/	J1	度数	14	26	27	41	108
		地域の%	6.4%	7.1%	5.5%	6.4%	6.3%
	J2	度数	33	64	57	88	242
		地域の%	15.1%	17.4%	11.7%	13.8%	14.1%
	A1	度数	43	67	86	86	282
		地域の%	19.7%	18.2%	17.7%	13.5%	16.5%
	A2	度数	36	73	83	125	317
		地域の%	16.5%	19.8%	17.0%	19.6%	18.5%
	В1	度数	36	41	65	92	234
		地域の%	16.5%	11.1%	13.3%	14.4%	13.7%
	B2	度数	33	49	87	92	261
		地域の%	15.1%	13.3%	17.9%	14.4%	15.3%
	C1	度数	4	12	25	29	70
		地域の%	1.8%	3.3%	5.1%	4.5%	4.1%
	C2	度数	19	34	53	79	185
		地域の%	8.7%	9.2%	10.9%	12.4%	10.8%
合計		度数	218	368	487	638	1711
		地域の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

認知症高齢者の日常生活自立度をみると、いずれの区も自立度 II 以上は 3~4 割弱を占めていました。しかし自立と自立度 I をみると、B 区は自立が 57.8%と多いのに対して、A 区は 34.9%と少なくなっていました。

表 91 調査対象地域比較 認知症高齢者の日常生活自立度

				地	域		
			A区	B区	C区	D区	合計
基本調査認知症高齢者の	自立	度数	76	214	221	299	810
日常生活自立度		地域の%	34.9%	57.8%	45.4%	46.9%	47.3%
	I	度数	61	44	79	106	290
		地域の%	28.0%	11.9%	16.2%	16.6%	16.9%
	Πa	度数	19	21	47	47	134
		地域の%	8.7%	5.7%	9.7%	7.4%	7.8%
	Πb	度数	27	36	56	69	188
		地域の%	12.4%	9.7%	11.5%	10.8%	11.0%
	Ша	度数	17	19	45	44	125
		地域の%	7.8%	5.1%	9.2%	6.9%	7.3%
	Шь	度数	4	6	9	14	33
		地域の%	1.8%	1.6%	1.8%	2.2%	1.9%
	IV	度数	12	20	24	42	98
		地域の%	5.5%	5.4%	4.9%	6.6%	5.7%
	М	度数	2	10	6	17	35
		地域の%	0.9%	2.7%	1.2%	2.7%	2.0%
合計		度数	218	370	487	638	1713
		地域の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2-7-3. サービス利用

サービス利用状況を示します。集計はデータ提供のあった 1,711 ケースを対象としました。

表 91 調査対象地域比較 介護サービス

			地	域		Δ÷L
21.00 A 2# / L	THE STATE OF	A区	B区	C区	D区	合計
訪問介護(ホームヘルプ)	利用なし	168	302	397	518	1385
	利用あり	77.1% 50	82.1% 66	81.5% 90	81.2% 120	80.9% 326
	かり出めり	22.9%	17.9%	18.5%	18.8%	19.1%
訪問入浴介護	利用なし	211	357	478	612	1658
		96.8%	97.0%	98.2%	95.9%	96.9%
	利用あり	7	11	9	26	53
=1 00 == =+	THE ALL	3.2%	3.0%	1.8%	4.1%	3.1%
訪問看護	利用なし	190 87.2%	91.6%	90.3%	590 92.5%	1557 91.0%
	利用あり	28	31.0%	47	48	154
	11/11/05 /	12.8%	8.4%	9.7%	7.5%	9.0%
訪問リハビリテーション	利用なし	204	331	455	584	1574
		93.6%	89.9%	93.4%	91.5%	92.0%
	利用あり	14	37	32	54	137
居宅療養管理指導	利用なし	6.4% 209	10.1% 355	6.6% 463	8.5% 620	8.0% 1647
/A 七凉茂 自 任 旧 守	が用るし	95.9%	96.5%	95.1%	97.2%	96.3%
	利用あり	9	13	24	18	64
		4.1%	3.5%	4.9%	2.8%	3.7%
通所介護(デイサービス)	利用なし	187	322	422	549	1480
	利用专口	85.8%	87.5%	86.7%	86.1%	86.5%
	利用あり	31 14.2%	12.5%	65 13.3%	89 13.9%	231 13.5%
通所リハビリテーション	利用なし	207	336	424	592	15.5%
		95.0%	91.3%	87.1%	92.8%	91.1%
	利用あり	11	32	63	46	152
		5.0%	8.7%	12.9%	7.2%	8.9%
短期入所生活介護(ショートステイ)	利用なし	215	357	481	632	1685
	利用あり	98.6%	97.0%	98.8%	99.1%	98.5% 26
	לכשותויה	1.4%	3.0%	1.2%	0.9%	1.5%
短期入所療養介護	利用なし	218	368	484	633	1703
		100.0%	100.0%	99.4%	99.2%	99.5%
	利用あり	0	0	3	5	8
杜宁 佐凯 3 尼老井泛入进	#II ##>1	0.0%	0.0%	0.6% 477	0.8%	0.5%
特定施設入居者生活介護	利用なし	210 96.3%	364 98.9%	97.9%	621 97.3%	1672 97.7%
	利用あり	8	4	10	17	37.7%
	137.13037	3.7%	1.1%	2.1%	2.7%	2.3%
福祉用具貸与	利用なし	142	268	347	478	1235
	TAR E II	65.1%	72.8%	71.3%	74.9%	72.2%
	利用あり	76 34.9%	100 27.2%	140 28.7%	160 25.1%	476 27.8%
特定福祉用具販売	利用なし	204	344	464	605	1617
1772 12 1271377775	111110	93.6%	93.5%	95.3%	94.8%	94.5%
	利用あり	14	24	23	33	94
		6.4%	6.5%	4.7%	5.2%	5.5%
住宅改修(介護給付)	利用なし	189	314	397	569	1469
	利用あり	86.7% 29	85.3% 54	81.5% 90	89.2% 69	85.9% 242
	7.001111.1	13.3%	14.7%	18.5%	10.8%	14.1%
夜間対応型訪問介護	利用なし	218	368	487	635	1708
		100.0%	100.0%	100.0%	99.5%	99.8%
	利用あり	0	0	0	3	3
認知症対応型通所介護	利用なし	0.0% 218	0.0% 368	0.0% 482	0.5% 638	0.2% 1706
認知证对心至通門并設	利用なし	100.0%	100.0%	99.0%		99.7%
	利用あり	0	0	5	0	5
		0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.3%
小規模多機能型居宅介護	利用なし	218	368	485	636	1707
	利用あり	100.0%	100.0%	99.6%	99.7%	99.8%
	TIMOU	0.0%	0.0%	0.4%	0.3%	0.2%
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	利用なし	218	367	485	636	1706
		100.0%	99.7%	99.6%	99.7%	99.7%
	利用あり	0	1	2	2	5
地域 宓美刑柱 宁恢弘 3 尼老用活入器	和田+>!	0.0%	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%
地域密着型特定施設入居者生活介護	利用なし	218 100.0%	368 100.0%	487 100.0%	638 100.0%	1711 100.0%
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	利用なし	218	368	487	637	1710
		100.0%	100.0%	100.0%	99.8%	99.9%
	利用あり	0	0	0	1	1
the William Breat Flore Activities	THE ! :	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%
定期巡回•随時対応型訪問介護看護	利用なし	214	368	485	634	1701
	利用あり	98.2%	100.0%	99.6%	99.4%	99.4% 10
	TUDOU	1.8%	0.0%	0.4%	0.6%	0.6%
		1.0/0				
看護小規模多機能型居宅介護	利用なし	218	368	487	638	1711

表 92 調査対象地域比較 介護予防サービス

			地:	 域		∧ =1
		A区	B区	C区	D区	合計
介護予防訪問介護(ホームヘルプ)・訪問型サー	- 利用なし		340	467	627	1434
ビス			92.4%	95.9%	98.3%	96.0%
	利用あり	1 \ [28	20	11	59
			7.6%	4.1%	1.7%	4.0%
介護予防訪問入浴介護	利用なし	218	368	487	638	1711
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
介護予防訪問看護	利用なし		366	481	635	1482
			99.5%	98.8%	99.5%	99.3%
	利用あり	\	2	6	3	11
			0.5%	1.2%	0.5%	0.7%
介護予防訪問リハビリテーション	利用なし	216	360	477	630	1683
		99.1%	97.8%	97.9%	98.7%	98.4%
	利用あり	2	8	10	8	28
		0.9%	2.2%	2.1%	1.3%	1.6%
介護予防居宅療養管理指導	利用なし	218	367	487	638	1710
		100.0%	99.7%	100.0%	100.0%	99.9%
	利用あり	0	1	0	0	1
		0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
介護予防通所介護(デイサービス)・通所型サー	- 利用なし	211	333	467	629	1640
ビス		96.8%	90.5%	95.9%	98.6%	95.9%
	利用あり	7	35	20	9	71
		3.2%	9.5%	4.1%	1.4%	4.1%
介護予防通所リハビリテーション	利用なし	217	360	471	632	1680
712717277	1 37 13 0	99.5%	97.8%	96.7%	99.1%	98.2%
	利用あり	1	8	16	6	31
		0.5%	2.2%	3.3%	0.9%	1.8%
介護予防短期入所生活介護(ショートステイ)	利用なし	218	368	487	638	1711
7112717121112112112111	1 37 13 0	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
介護予防短期入所療養介護	利用なし	218	368	487	638	1711
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
介護予防特定施設入居者生活介護	利用なし	218	367	487	638	1710
		100.0%	99.7%	100.0%	100.0%	99.9%
	利用あり	0	1	0	0	1
		0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
介護予防福祉用具貸与	利用なし	211	326	455	625	1617
		96.8%	88.6%	93.4%	98.0%	94.5%
	利用あり	7	42	32	13	94
		3.2%	11.4%	6.6%	2.0%	5.5%
特定介護予防福祉用具販売	利用なし	218	361	482	631	1692
		100.0%	98.1%	99.0%	98.9%	98.9%
	利用あり	0	7	5	7	19
		0.0%	1.9%	1.0%	1.1%	1.1%
住宅改修(予防給付)	利用なし	213	335	457	632	1637
		97.7%	91.0%	93.8%	99.1%	95.7%
	利用あり	5	33	30	6	74
		2.3%	9.0%	6.2%	0.9%	4.3%
介護予防認知症対応型通所介護	利用なし	218	368	487	638	1711
21 HZ 2 122 HZ 2 HZ 2 1 L 2 L 1 L 1 L 1 L 1 L 1 L 1 L 1 L 1	, ,,,,,	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
介護予防小規模多機能型居宅介護	利用なし	218	368	487	638	1711
	13713-6-0	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	利用なし	218	368	487	638	1711
プホーム)	1,1,1,1,0,0	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注) 斜線部分は要介護認定システムからデータ抽出ができなかった

3 まとめと考察

3-1. 考察

要介護・要支援認定された第2号被保険者は1,713人でした。しかし特定疾病は16種類あるのに対して、実際に認定された特定疾病には大きな偏りがありました。「脳血管疾患」が887人(52%)と過半数を占めており、その中で認知症自立度 II 以上は391人(44%)と半数弱を占めていました。次に多かったのは「初老期における認知症」で112人(7%)であり、その中で認知症自立度 II 以上は107人(96%)と9割を超えていました。続いて、「糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及び糖尿病性網膜症」が90人(5%)であり、その中で認知症自立度 II 以上は12人(13%)と1割強に留まっていました。次に多かったのは「パーキンソン病関連疾患」の75人(4%)で、その中で認知症自立度 II 以上は13人(17%)と2割を切っていました。なお、調査対象地域においては「早老症」による認定者はいませんでした。

一方、特定疾病の種類により認知症自立度 II 以上にも大きな差があることが明らかとなりました。「初老期における認知症」では自立度 II 以上が 9 割を超えているのに対して、その他の特定疾病では「多系統萎縮症」と「脳血管疾患」が 4 割台で最も多いことがわかりました。1,713 人の内、認知症自立度 II 以上は 613 人(36%)でありましたが、これは「脳血管疾患」が多いことが影響していることが示されました。

認知症関連疾患で人数の多かった「初老期における認知症」、「脳血管疾患」、「パーキンソン病関連疾患」について要介護認定等基準時間を比較しました。「脳血管疾患」と「パーキンソン病関連疾患」は比較的類似したパターンを示していました。しかし、「初老期における認知症」は BPSD 関連、認知症加算、食事、排泄などの時間が多いという、他の2つとは異なるパターンを示していました。要介護認定等基準時間は介護の手間を時間として推計したものであるため、特定疾病の種別により状態像には違いがあると推測されます。

3-2. 今後の課題

最後に介護保険第2号被保険者データを用いた調査を実施する上での課題をまとめておきます。第2号被保険者とは「40~64歳」の人と思う人が多いかもしれませんが、介護保険法第9条の定義をみると「第1号被保険者」は「市町村の区域内に住所を有する六十五歳以上の者」であるのに対して、第2号被保険者は「市町村の区域内に住所を有する四十歳以上六十五歳未満の医療保険加入者」となっています。

つまり、「第2号被保険者」は単に 40~64 歳の者ではなく、医療保険に加入している必要があり、加入していない場合は生活保護を受給していると考えられ、介護保険の枠組みではなく、生活保護の枠組みに入ることになります。このような状況にある人を「みなし第2号被保険者」と呼んで「第2号被保険者」と区別しています。また自治体でも介護保険と生活保護と担当部署が異なります。

冒頭で述べた通り、「みなし第2号被保険者」を加えると、40~64歳の要介護・要支援認定を受けている人は3割以上増加します。

今回の調査は当初、「第2号被保険者」のみを対象とし、途中で「みなし第2号被保険者」を追加したこともあり、「みなし第2号被保険者」については詳細な分析ができませんでした。そのため今回の調査では有病者数のみを明らかにし、有病率は示していません。

今後、介護保険データを利用して若年性認知症の調査を行うためには、みなし第2号被保険者についても第2号被保険者と同様のデータの提供を受け、両者を統合したデータベースを作成して行う必要があるでしょう。

第Ⅲ部 全体の考察

1 調査結果の要約

1-1. 一次調査結果の要約

2018年1月1日現在、調査対象地域(豊島区、北区、板橋区、練馬区)において429人(男性217人、女性209人、不明3人)の若年性認知症の人が把握されました。このうち現在65歳未満の人は248人、現在65歳以上の人は181人でした。若年性認知症の人の年齢範囲は24歳~81歳で、平均年齢は62.4歳、年齢階級別で出現頻度が最も高かったのは60~64歳でした。事業所種別で若年性認知症の人が最も多かったのは認知症疾患医療センターで、一事業所あたりの利用者数は11.17人でした。これに続いて多かったのは、200床以上の病院1.75人、200床未満の病院1.47人、都相談機関1.17人、地域包括支援センター0.51人でした。介護保険サービス事業所における一事業所あたりの若年性認知症の利用者数は、認知症対応型共同生活介護0.26人(現在65歳未満:0.12人)、小規模多機能型居宅介護0.24人(0.14人)、特別養護老人ホーム0.24人(0.08人)、訪問看護0.17人(0.11人)でした。

1-2. 二次調査結果の要約

若年性認知症の原因疾患では、6割以上がアルツハイマー型認知症であり、前頭側頭型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症もそれぞれ6~10%の範囲で認められました。この数値は、後述する介護保険データから見た原因疾患別割合(脳血管障害が最も多い)とは異なります。おそらく、事業所を対象とする調査では、脳血管障害によって認知機能障害を認める人のかなりの部分が若年性認知症というよりも高次脳機能障害として把握されているためかと推測されます。また、高血圧や糖尿病などの生活習慣病やてんかんやうつ病などの精神神経疾患を合併している人が全体の半数程度に認められました。認知症の重症度は軽度・中等度・重度それぞれがほぼ同じ頻度で認められました。

制度やサービスの利用状況については、3割の人が介護保険を申請しておらず、5割の人が障害者手帳を取得しておらず、6割の人が自立支援医療を利用しておらず、7割の人が障害年金を受給していないという結果でした。この結果については、そもそもそのような制度やサービスを必要とする状態にないという人もいる一方で、制度・サービスへのアクセスが不良であるという側面がある可能性があります。

就労状況については、約5割の人が発症時に仕事をしていましたが、現在65歳未満の人のうちの5割が退職し、1割強が解雇されています。また3割の人は通勤や配置転換、産業医の受診勧奨等の職場からの配慮はなかったと回答していました。今回の調査では、退職や解雇時の状況について詳細な確認はしていませんが、職場における理解の不足が関連している可能性があります。

現在困っていると感じていることで頻度が高かったのは、本人に関しては、症状の進行、精神的な不安定さ、若年性認知症にあった社会資源がないことであり、家族介護者に関しては、相談や気晴らしの場がないこと、介護のために仕事が継続できないこと、将来の経済や生活への不安があることでした。身近な地域に若年性認知症についてのきめ細かな情報提供が行える相談機関、若年性認知症の人に合ったサービス(「外出や趣味を楽しんだり」「就労に近い軽作業を行ったり」「就労を支援してくれる」通い場など)があることが強く求められていました。

1-3. 三次調査の結果の要約

本人・家族の陳述から、病名を伝えられる際に、本人のみならず家族介護者も受け容れがたい辛い感情を体験されていることが繰り返し指摘されており、本人・家族への配慮のある病名告知と今後直面することに対する不安や 喪失体験に対するケア、特に心理専門職との連携によるこころのケアが必要であることがわかりました。

また、医療機関を起点とする診断後支援(病気に関する適切な情報提供、適切な制度・サービスにつながるための支援、家族介護者に対して職場の両立介護に関する制度についての情報提供など)の重要性、制度・サービスに積極的につなげる支援の必要性(本人・家族介護者とパートナーシップを形成した同行支援の必要性)、症状・障害・年齢の特徴に応じた制度横断的な支援の必要性(症状の多様性に対応した柔軟な制度設計、介護保険サービスと障害福祉サービスの併用、制度横断的な支援が可能な人材の育成)、若年性認知症に関する理解の促進とそれによる職場を含む地域全体の社会支援の重層化と社会参加の促進が必要とされています。

1-4. 介護保険データを用いた調査の要約

要介護・要支援認定された第2号被保険者は1,713人で、このうち認知症高齢者の日常生活自立度I以上が903人、II以上が613人でした。認知症関連疾患(筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症、初老期における認知症、脊髄小脳変性症、早老症、脳血管疾患、進行性核上性麻痺・大脳基底核変性症及びパーキンソン病)に限定すると認知症高齢者の日常生活自立度I以上は738人、II以上は533人でした。調査基準日における対象地域の住民基本台帳上の40歳~64歳人口646,292人を分母にして、若年性認知症(現在65歳未満)の人の割合を算出すると、全疾患の認知症自立度I以上は人口10万人対139.7人、自立度II以上は人口10万人対94.8人、認知症関連疾患の自立度I以上は人口10万人対114.2人、II以上は人口10万人対82.5人となります。第2号被保険者の特定疾患では脳血管疾患が最も多く、全特定疾患の自立度I以上のうち391人(63.8%)が脳血管疾患で占められていることから、介護保険データで定義される若年性認知症の多くが脳血管障害によるものということになります。この点が、事業所調査の結果と大きく異なります。また、今回は「みなし第2号被保険者」(医療保険に加入していない人=被保護世帯の人)が含まれていませんが、含めた場合にはその出現頻度が1.3倍程度増加するものと予測されます。

2 今後の若年性認知症施策への提言

2-1. 若年性認知症の診断後支援

近年、若年性認知症に対する診断技術は着実に進歩しています。しかし、今日においてもなお、若年性認知症の診断後の支援は不十分であり、そのことが本人・家族の不安や精神的負担の要因になるとともに、制度・サービスへのアクセシビリティーを低下させる重大な要因になっている可能性があります。若年性認知症の人数が相対的に多い医療機関(例:認知症疾患医療センター)において、疾患の説明を含む情報提供のあり方、心理専門職や福祉専門職を含む多職種協働による診断後支援のあり方を検討し、標準化し、普及していく必要があります。

2-2. 身近な場での相談支援体制の充実

現在、東京都には若年性認知症総合支援センターが 2 か所設置されていますが、居住地から遠いために利用し にくい、身近な場所に相談支援の窓口や機関が欲しいという声は少なくありません。より身近な場所で若年性認知 症の相談支援が受けられるように、相談窓口の整備などを検討していく必要があります。

2-3. 制度横断的なサービスの調整を可能にする機関と人材の育成

上記のことと関連して、地域包括支援センター等の地域の第一線の相談機関が、介護保険サービス、障害福祉サービス、その他のインフォーマルなサービスを横断的に調整できるようにするための仕組みづくりや人材を育成することが求められます。

2-4. パートナーシップを形成した柔軟な個別支援

必要な支援に確実にアクセスできるようにするためには、申請主義に基づく窓口での相談対応だけでは不十分であり、若年性認知症と診断されたすべての人に対して、信頼できるパートナーシップを形成した、個別ニーズに応じた 柔軟な支援や同行支援を可能にする仕組みを検討する必要があります。

2-5. 身近な場に、若年性認知症の人のニーズに合った通いの場の支援

身近な場に、若年性認知症の人のニーズに合った通いの場(外出や趣味活動を楽しめる場、就労に近い軽作業ができる場、就労支援を受けられる場など)を整備する必要があります。すでに先進的な取組が行われている事業所やNPOの活動などを調査し、それらを参考に、若年性認知症の人向けの社会資源の整備を進める必要があります。

2-6. 若年性認知症の理解の促進

若年性認知症は、高齢者の認知症と比較して出現頻度が低いことから、今なお人々の理解は不十分であり、そのことが地域や職場における社会支援の不足の重要な要因になっているものと推測されます。地域や職場における若年性認知症の理解の促進をめざした普及啓発を一層推進することが求められます。若年性認知症の本人が社会に参加し、希望をもって暮らせる地域社会を、当事者参画のもとで、地域に暮らす人々と共につくりだしていかなければなりません。

第IV部 資料

資料1:一次調査に関する資料

資料 2: 二次調査に関する資料

資料 3:三次調査に関する資料

資料 4:要介護認定システムから抽出した項目

資料 5:要介護認定調査票・主治医意見書

資料 1:一次調査に関する資料

「若年性認知症の有病率及び生活実態に関する調査(一次調査)」

ご協力のお願い

平成30年6月

東京都福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所

若年性認知症は働き盛りの年代に発症し、ご本人・ご家族は、病気や障害に対する不安のみな らず、就労、経済、子の養育などさまざまな生活課題に直面する可能性が高まります。しかし、若年 そこで、東京都では若年性認知症施策を推進するための基礎資料を得ることを目的に、東京都 4) に委託し、豊島区、北区、板橋区及び練馬区内の医療機関及び介護保険事業所・施設等 性認知症の有病率と生活実態は今なお不明確な点が多く、社会的支援も十分とは言えません。 が地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所(自立促進と精神保健研究チー

なお、調査の回答内容は、全て統計的に処理されますので、個別に公表されることはありません。 に標記調査を実施することといたしました。

また、ご回答いただきましたデータは委託先である東京都健康長寿医療センター研究所において お忙しい中と存じますが、趣旨をご理解いただき、本調査へのご協力をいただきますよう、よろしく 厳重に管理し、この調査以外の目的で使用されることもありません

の交付を受けて東京都健康長寿医療センター研究所(研究開発代表者:栗田主一)が実施する ★本調査は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構の助成及び厚生労働科学研究費補助金 全国調査「若年性認知症の有病率・生活実態把握調査」の一環です。詳細は、当研究所ホーム ページ(www.tmghig.jp/research/AMED-research/index.html)をご参照ください。

【提出期限及び提出方法】

ご記入いただきました調査票は、お手数ですが、**平成30年7月6日(金)までに、同封の返信用封筒**

こて 委託先の東京都健康長寿医療センター研究所にご返送いただきますようお願いいたします。

※ 本調査(一次調査)は、「豊島区、北区、板橋区及び練馬区在住中の若年性認知症等の 患者・利用者の有無」を確認する調査です。 いらっしゃる場合には、後日、患者・利用者ごとの生活実態に関する調査票(二次調査; 担当者票及び本人・家族票)をお送りし、協力依頼をさせていただきますので、併せてご協力 の程よろしくお願いいたします。

[本調査に関する問合せ先(調査専用窓口)]

(自立促進と精神保健研究チーム) 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2

03-3964-3241 (内線 4221) 担当 多賀 努 ø

詳細な聞き取り調査を実施する予定です。 ご本人・ご家族の協力が得られる場合、 別途 生活実態について、訪問による 調査終了です 協力者がいない 回答期日:平成30年7月6日 本人・家族調査の協力者の有無 一次調査票を返信いただき 原之・丫本之) 該当機関様から乙本人・乙家族に 調査票をお渡しいただきます。 本人·家族調查 送付時期:平成30年9月頃(予定) 調査終了です いない 「受診の状況」、「就労の状況」、 「家計の状況」、「困っていること」 など (こ本人・こ家族の協力が得られた) (こ本人・こ家族向け調査) 若年性認知症の該当者の有無 ご自身の、「気づいた時の状況」、 ご本人・ご家族に 二次調査票を 返信いただきます 協力者がいる 〈 調査の全体概要 〉 (有病率に関する調査) 主な調査項目 一次調査票を返信いただきます (該当する方に関する回答を含む) (生活実態に関する調査) 二次調査 (今回依頼の調査部分) 対象となる方の、「診断名」、「自立度」、 る こ 〈対象機関の担当者向け調査〉 「ADL」、「BPSD」、「利用サービス」、 「必要と考える支援(記述)」など 二次調査票を 返信いただきます 動対象機関に調査依頼 (一次調査票の送付) ②該当機関に調査依頼 (二次調査票の送付) 担当者調査 主な調査項目

お願いいたします。

若年性認知症の有病率及び生活実態に関する調査(一次調査) 調査票

平成 29 年 1月 1日 から 平成 29 年 12 月 31日 までの 1年間 に、貴機関・事業所/施設に 受診・入院または、サービス利用・入所していた人の中に、 平成30年1月1日時点で豊島区・ 北区・板橋区・練馬区に在住の、 5

① 18 歳以上 65 歳未満の認知症 *1の人 はいましたか?

2 いない*2 1 いた (Q2も2回答下さい)

6 65歳以上で、認知症の発症が 65歳未満の人 **3 はいましたか?

1 いた (Q2もご回答下さい)

2 いない *2

※1 認知症の診断基準については 裏面の「認知症診断の手引き」をご参照下さい。

※2 該当する方がない場合 (「2 いない」の場合)でも 調査票(回答)のご返送をお願いします。 ※3 ②については、把握・確認できる範囲での回答で結構です。 Q2 上記で「1 いた」と回答された場合、O、O別に、人数(枠上)、性別、年齢、生年月日、発症年月日 (分かる範囲で)、また、貴機関・事業所/施設での主な処遇(利用形態)について、ご回答ください。

 \exists ① 18 歳以上 65 歳未満の認知症の人 [

1	体別	在齡	4年日日(下	生年日日 (下段·発症年日)	主かの温 (いずかか・1 つに)多付けて下さい)	
	-	Ì	1	17. TOOL 17.3		600 10 001000
	#		昭和·平成	年月日	1 受診・通院 2 入院 3 サービス利用	3 サービス利用
	X R	避	(昭和·平成	年月頃)	4 入所 5 相談支援	MIN
	#		昭和·平成	年月日	1 受診・通院 2 入院 3 サービス利用	3 サービス利用
	χ Χ	摐	(昭和·平成	年月頃)	4 入所 5 相談支援	112
	# #		昭和·平成	年月日	1 受診・通院 2 入院 3 サービス利用	3 サービス利用
	× R	ᄣ	(昭和·平成	年月頃)	4 入所 5 相談支援	MIN
	≡		昭和·平成	年月日	1 受診・通院 2 入院 3 サービス利用	3 サービス利用
	ж Х	摐	(昭和·平成	年 月頃)	4 入所 5 相談支援	112
	# #		昭和·平成	年月日	1 受診・通院 2 入院 3 サービス利用	3 サービス利用
	χ Κ	艦	(昭和-平成	年月頃)	4 入所 5 相談支援	MIN

7 🛭 65 歳以上で若年発症 (65 歳未満で発症) の認知症の人 [

性別年齢	年齡		生年月	生年月日 (下段:発症年月)	段:発	症年月)	₩	な処遇	(1)	เ็นมิ 1 วเ∈	主な処遇(いずれか1つに○を付けて下さい)
			昭和	年	В	В	1	受診・通	劉院	2入院	受診・通院 2入院 3サービス利用
A・K 臓	凝		(昭和.	(昭和·平成	#	月頃)	4	孙	5 #	相談支援	
		<u> </u>	昭和	華	Ħ	П	-	受診・道	郵院	受診・通院 2入院	3 サービス利用
光. 然 。	_	_	昭和	昭和·平成	#	月頃)	4	4 入所	5	5 相談支援	
		1	昭和	華	В	В	-	受診・通	€ ●	2入院	受診・通院 2 入院 3 サービス利用
X.比	※	Ŭ	昭和	昭和·平成	#	月頃)	4	河	2	5 相談支援	

※ 該当する方が各欄を超える場合、お手数ですが 本紙をコピーの上、ご記入・ご回答をお願いします。

※ 裏面に「回答者」欄がございますので、必ずご記入ください。

7
#
ë
2
*
Ш
20
眾
認知

認知症の診断は以下の3 点を満たし、発症が65 歳未満である方を対象として下さい。確定診断されて がない場合も含めて下さい。

1 記憶力の低下、または、その他の認知機能障害がある。

例えば、日時や自分のいる場所を大幅にまちがえる、聞いたこと・話したことをすぐ忘れる、少し前の出来 事を忘れてしまうことが多い、知人の名前・自分の年齢・誰でも知っている常識的なことを思い出せない、 よく知っている道でも迷うことがある、言葉の意味が理解できない、言葉がなかなか出てこないなど。 2 以前と比べて仕事、家事、金銭の管理、身辺整理、対人関係などの日常生活や社会生活などが困難 になり、家族などの援助が必要である。

3 知的障害、自閉症などではない。

二次調査について

- ▶ 後日、ご本人やご家族に「生活実態に関する調査(二次調査)」にご協力頂きたいと考えています。 (別添の一次調査ご協力のお願い文の裏面 (調査全体概要)をご参照下さい。)
- ▼二次調査のご本人・ご家族用の調査票は、貴機関・事業所/施設からお渡し頂くことを想定しています。 (一次調査ご回答の対象者人数分の調査票を貴機関・事業所/施設に郵送致します。)
- ▼ご本人・ご家族からの回答は、専用の返信用封筒にてご本人・ご家族からご返送頂〈予定としています。 (回答任意)
- ※ 回答ご協力ありがとうございました。 同封の返信用封筒にてご返送下さい。
- ※ 二次調査に該当される場合、担当者票のご回答やご本人・ご家族票の配布等、引き続きご協力の程 宜しくお願い致します。

・・・・・《回答者欄》追って、確認等をさせて頂く場合のため、必ずご記入をお願いします・・・・・・・・・・・・・

		© D	(冷職名)
美所/施設名】	⊻ ()	60	ご氏名
【貴機関·事業所	[所在地等]		[記入者]

資料 2: 二次調査に関する資料

若年性認知症の有病率及び生活実態に関する調査(二次調査)

担当者様へ ご協力のお願い

平成30年9月 東京都福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課 地方独立行政法人東京都健康長寿医療ビソー研究所 本調査(二次調査)は、一次調査で若年性認知症の人が「いた」と回答された医療機関・施設・事業所の担当者 様とご本人・ご家族を対象に実施いたします。認知症ご本人の生活状況等を、担当者様とご本人・ご家族の双方にご 回答いただアンケート調査です。

以下(1)~(5)ついてご理解いただき、調査協力にご同意いたける場合は、該当する**対象者ごとに**調査票 1 頁の調査協力同意1の口に7を記入していただいた。この答をお願います。

お忙しい中、大変恐縮ですが、調査にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

(1) 調査の目的について

若年性認知症は働き盛りの年代に発症し、ご本人・ご家族は、病気や障害に対する不安のみならず、就労、経済、子の養育など、様々な生活課題に直面する可能性が高くなります。しかし、若年性認知症の有病率や生活実態は今なお不明確な点が多く、社会的な支援を十分とは言えません。

そこで、東京都では、若年性認知症施策を推進するための基礎資料を得ることを目的に、独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所に委託し、豊島区、北区、板橋区及び練馬区内の医療機関・施設・事業所とご本人・ご家族に対い、標記調査を実施いたします。

(2) 調査の方法について

本調査票は、一次調査において若年性認知症の人が「いた」と回答された医療機関・施設・事業所に対してお送りしています。「担当者様用」調査票一式のほか、「ご本人・ご家族票」(調査票)一式が同封されていますので、ご本人・ご家族に調査の目的等をご説明頂き、「ご本人・ご家族票」一式を対度しいだければ幸いです。「ご本人・ご家族票」一式を放復しいたければ幸いです。「ご本人・ご家族票」一式には、調査票のほか「訪問調査協力のお願い」などが入っています。

また。「担当者様用」調査票は、ご本人の病気や障害の状況、サービスの利用状況、ご本人やご家族の生活状況等の質問があります。可能な範囲でお答えください。

(3) 調査結果の利用及び個人情報の保護について

本調査で得られた担当者様の回答結果は、ご本人等が二次調査にご協力いただける場合に、東京都の若年性認知症施策の立案・企画等の基礎資料として活用させていむだきます。

調査の回答内容は、全て統計的に処理されますので、個別に公表されることはありません。

また、ご回答いただきましたデータは委託先である東京都健康長寿医療センター研究所において厳重に管理しこの調査以外の目的で使用されることはありません。

なお、統計的に処理した後の調査結果は、調査報告書といて公表されるとともに、全国調査で活用され、東京都健康長寿医療センター研究所において分析が行われる予定です。

(4) AMED研究 若年性認知症の有病率・生活実態調査の全体像について

本調査の概要、調査地域、調査組織などは、東京都健康長寿医療センター研究所ホームページに乙案内がごさいます。併せてご確認がださい。

http://www.tmghig.jp/J TMIG/extra/h29 amed kenkyu.html

(5) 調査協力の同意と同意撤回について

以上の説明についてご理解いただき、調査協力にご同意いただける場合には、調査票1頁の「調査協力「同意」の口に√を記入していただいた上で、調査票のご回答をお願い申し上げます。

調査協力への同意は、医療機関・施設・事業所の担当者の自由な意志で決められます。

もし、調査協力に同意されなくても、ご本人・ご家族や医療機関・施設・事業所の不利益になることはありませ

また、一旦、調査協力に同意し、調査票を提出した後であっても、同意を撤回するごとができます。同意を撤回する場合は、同封の別紙様式に署名の上、委託先の東京都健康長寿医療センター研究所にご提出化さい。なお、調査結果公表の関係上、平成31年3月1日(金) 以降は同意の撤回はできませんので、予めご了承代さい。

調査票は、同封の返信用封筒を用いて、平成30年11月16日(金)までにご返送代ださい。

何がご不明な点がある場合は、以下の「問合せ先」にご連絡ください。

ご多忙の中、誠に恐縮ではございますが、ご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【問合せ先(調査専用窓口)】

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 (自立促進と精神保健研究チーム)

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

☎ 03-3964-3241 (内線4221) 担当 多賀

メール ttaga@tmig.or.jp

(D)

若年性認知症の有病率および生活実態に関する調査

(二次調査票 担当者様用)

記入者 乙氏名 (20職名 (20職名 (20世界) ((#UØ(E, E	はじめに、 ご記入いただく方 について教えてください	
高 :	記入者	ご氏名	役職名
櫃	貴機関/事業	5所名	
調査協力同意:同封の「ご協力のお願い」の(1)から(5)をご確認の上、 二次調査にご協力いただける場合には、右の口にチェックを入れてください・・・・・	記入年月日	平成年月	
二次調査にご協力いただける場合には、右の口にチェックを入れてください・・・・・	調査協力同)意: 同封の「ご協力のお願い」の (1)	から (5) をご確認の上、
		二次調査にご協力いただける場合	には、右の□にチェックを入れてください・・・・・

- 一次調査で「いた」とお答えいただいた、貴機関/事業所に受診・入院していた人および通所・入所していた人(二次調査対象者)について2回答下さい。
- 二次調査対象者の現状については、 **直近1ヵ月の状態**についてご回答ください。
- 対象となる方が現在貴機関/事業所にいらっしゃらない場合は、<u>利用していた期間のうち、直近</u> <u>の1ヵ月間についてごの答ください。お分かりになる範囲で結構です。</u>
- 各設問の該当する項目や番号に0をつけて頂くとともに、具体的な事柄をご記入ください。
- 二次調査対象者について、本調査票では「ご本人」と表記します。

性別(男・女)/年齢__歳/生年月日	昭和·平成年	E.	Ш
▶病院・診療所の場合:対象となる方が認知症のために貴機関を 最初に 受診したのはいつですか?	機関を 最初に 受診したの	ばいつです	-Ju 3
	昭和·平成	#	
▶上記以外の場合:対象となる方が貴機関を 最初に 利用し始めたのはいつですか?	始めたのはいつですか?		
	昭和·平成	#	Щ

1. 対象となる方の疾病の状況

問1 認知症の診断についてお伺いします。**あてはまる病名に1つだけ**しをつけてください。

1. アルツハイマー病 (アルツハイマー型認知症)

2. 血管性認知症(慢性硬膜下血腫、脳梗塞、も膜下出血、ビンスワンガー病など)

3. レビー小体型認知症(レビー小体病) 4. 前頭側頭型認知症(ピック病など)

5. 頭部外傷後遺症(交通事故など) 6. アルコール依存症

7. 脳腫瘍 8. 感染症 (脳炎など)

9. その他 (具体的に

問2 認知症以外で治療中の病気はありますか?

ある場合、具体的な病名を全て記入して下さい。

1. ない 2. ある (病名:

問3 既往歴はありますか?ある場合、具体的な病名を全て記入して下さい。

1. ない 2. ある (病名:

問4 本人以外で認知症の診断を受けた方が、その方のご家族にいますか? いる場合、わかる範囲で続柄と診断名を記入して下さい。

1. いない 2. いる (本人から見た続柄:_____

II. 対象となる方の就労・生活の状況

問 5 ご本人の職業についてお伺いします。現在、収入を伴う仕事に就いていますか。

あてはまる番号に <u>1 つだけ</u>○をつけてください。

就いている場合 **→** 1. 今まで通りの職場である 2. 職場は同じだが、配置転換などがあった 3. 一旦退職し、別の会社等に再就職した 4. 休職中

就いていない場合 ◆5. 定年で退職した6. 定年前に自己退職した7. 解雇された8. 仕事に就いたことはない

- 2 -

問 6 ご本人の日常生活の自立度についてお伺いします。【参考1】の判定基準を参照しながら、 判定基準のうち、あてはまる番号に1**つだり**○をつけてください

1. I 2. IIa 3. IIb 4. IIIa 5. IIIb 6. IV 7. M 8. わからない

1:何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的に領貨自立している。1:日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが

日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰か、注意していれば自立できる。

注意していれば日立できる。 IIa:家庭外で上記症状が分られる。 IIb:家庭内で上記症状がみられる。 II:日常生活に支障を来すような症状・行動や意志の疎通の困難さがときどき見られ、介護を 必要とする。 ma:日中を中心として上記症状がかられる。 mb:夜間を中心として上記症状がかられる。

N:日常生活に支障を来すような症状・行動や意思の疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。

M:著し、精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

問7 ご本人の現在の日常生活動作(ADL)について、**それぞれ**あてはまる番号<u>1つに</u>○をつけてください。

4. 不明 4. 不明 4. 不明 3. 全介助 3. 全介助 3. 全介助 3. 全介助 3. 全介助 一部介助 2. 一部介助 一部介助 2. 一部介助 2. 一部介助 1. 自立 1. 自立 自立 自立 1. 自立 着脱衣: 行: : ··· 册 7 %: # 米 **₫Ľ**

問8 ご本人に以下のような BPSD(認知症の行動・心理症状)はありますか。 ある場合は、あてはまる番号**すべてに**つをつけてください。〈複数回答〉

12. 食行動異常 5. 不安 9. 易刺激性 4. j 8. 脱抑制 11. 夜間行動異常 3. 興奮 7. 無関心 13. その他 (具体的に: 2. 幻覚 10. 異常行動 6. 多幸 1. 妄想 t 1. ない ある

III. 対象となる方の医療・介護などの提供状況

問 9 ご本人は要介護認定の申請をしましたか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。

1. 申請していない 2. 申請中 3. 申請したかどうかわからない

申請し、認定を受けており、

4. 要支援 1 5. 要支援 2 6. 要介護 1

7. 要介護 2 8. 要介護 3 9. 要介護 4

10. 要介護5

11. 非該当 12. わからない

問 10 ご本人が現在利用しているサービスはどれですか。

貴機関・事業所も含め利用しているものすべてに

○をつけてください。

〈複数回答〉

1. 通所介護(デイサービス) 2. 通所リハビリテーション

5. 訪問看護 6. 訪問入浴介護 7. 訪問リハビリテーション

8. 福祉用具の貸与・購入 9. 住宅改修 10. 夜間対応型訪問介護

小規模多機能型居宅介護
 72. 認知症対応型共同生活介護
 73. 介護老人保健施設
 14. 居宅介護支援事業所

15. 訪問診療(往診や歯科診療等)

16. 介護保険以外のサービス (具体的に:

17. 利用していない (理由:

問11 ご本人は障害者手帳を取得していますか。あてはまる番号に1**つだけ**のをつけてください。

1. 申請していない 2. 申請中 3. わからない

申請し、取得しており、

4. 精神障害者保健福祉手帳1級 5. 精神障害者保健福祉手帳2級

6. 精神障害者保健福祉手帳3級

7. 身体障害者手帳1級 8. 身体障害者手帳2級

9. 身体障害者手帳 3級

- 4 -

問12 ご本人は障害年金などを受給していますか。あてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

12. わからない 15. わからない わからない りからない 3. わからない 11. 受給していない 14. 受給していない 2. 受給していない 5. 受給していない 8. 受給していない (受給している場合は具体的に記載して下さい; : 13. 受給している : 10. 受給している : 1. 受給している : 7. 受給している : 4. 受給している 障害年金 生命保険 損害保険 老齡年金 その他

小・必要と考える支援

「若年性認知症総合支援センター」を知っていましたか。あてはまる番号**すべてに**○をつけ 問13 東京都では、若年性認知症のワンストップ相談窓口として、都内2か所(目黒区・日野 市)に「若年性認知症総合支援センター」を設置しています(別添リーフレット参照)。

2. 受診者・利用者に案内したことがある 1. 受診者・利用者のことで相談したことがある

てください。〈複数回答〉

4. 知っているが利用者に案内したことはない

3. 知っているが受診者・利用者のことで相談をしたことはない

5. 知らなかった

問 14 若年性認知症の方への対応や支援に関して、ご意見・ご要望があればお書きください。

ご記入内容を再度確認のうえ、同封の封筒で返送してください。 ご協力、たいへん有難うございました。

ご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせ下さい。

【問合世先(調査専用窓口)】

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所(自立促進と精神保健研究チーム) 〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

☎ 03-3964-3241 (内線 4221) 担当 多賀 努

メール ttaga@tmig.or.jp

- 5 -

	ŀ
\Box	

若年性認知症の有病率及び生活実態に関する調査(二次調査)

調査協力への同意撤回書

東京都健康長寿医療センター

理事長 井藤 英喜 殿

私は、この調査への協力について説明を受け同意しましたが、同意を撤回したいと思いますので、 私の調査回答(データ等)の廃棄措置を取っていただくことを希望します。

田 # 同意撤回日 平成

Ш

ご氏名 (担当者) 機関/事業所名

ご住所 (機関/事業所) 〒

お電話番号 (機関/事業所) Tel

日常生活と身体の状況に関するアンケート

(若年性認知症実態調查)

ご協力のお願い

東京都福祉保健局高齡社会対策部在宅支援課 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所

ご本人が利用されている医療機関・事業所・施設の担当者から事前にご説明があったかと行じますが、東京都では、若年性認知症の施策を推進するための基礎資料を得ることを目的に、豊島区、北区、板橋区、練馬区在住の若年性認知症の方やそのご家族を対象にアンケート調査を実施することといたしました。

お忙しい中、大変恐縮ですが、調査にご協力をいただけますようよろしくお願い申し上げます。

(1) 調査の目的について

若年性認知症は働き歴りの年代に発症し、ご本人・ご家族は、病気や障害に対する不安のみならず、就労、経済、子の養育など、様々な生活課題に直面する可能性が高くなります。しかし、若年性認知症の有病率や生活実態は今なお不明確な点が多く、社会的な支援も十分とは言えません。

そこで、東京都では、若年性認知症施策を推進するための基礎資料を得ることを目的に、独立行政法人東 京都健康長寿医療センター研究所に委託し、日常生活と身体の状況に関するアンケートを実施することといたし ** **

(2) 調査の方法について

本調査票は、ご本人が利用されている医療機関・事業所・施設から調査の基準に該当する方にお渡ししています。調査票には、ご本人の病気や障害の状況、サービスの利用状況、ご本人やご家族の生活状況等の質問があります。 可能な範囲でお答えください。

(3) 調査協力の同意と同意の撤回について

調査協力の同意は自由な意志で決められます。もし同意されなくても、不利益になることはありません。 また、一旦、調査協力に同意し、調査票を提出した後であっても、同意を撤回することができます。同意を撤回 する場合は、同封の別紙様式に署名の上、委託先の専京都健康長寿医療センター研究所にご提出化ださい。 なお、調査結果公表の関係上、平成31年3月1日(金)以降は同意の撤回はできませんので、予めご了承代さい。

(4) 調査結果の利用及び個人情報の保護について

本調査の結果は、東京都の若年性認知症施策の立案・企画等の基礎資料として活用させていただきます。 調査の回答内容は、全て統計的に処理されますので、個別に公表されることはありません。

また、ご回答いただきましたデータは委託先である東京都健康長寿医療センター研究所において厳重に管理し、この調査以外の目的で使用されることはありません。

なお、統計的に処理した後の調査結果は、調査報告書として公表されるとともに、全国調査で活用され、東 京都健康長寿医療センター研究所において分析が行われる予定です。

(5) 医療機関・事業所・施設の担当者へのアンケート調査

本調査と並行して、ご本人が利用されている医療機関・事業所・施設の担当者を対象に、ご本人の疾病の状況、就労・生活の状況、医療・介護の提供状況に関するアンケート調査を実施いたします。

以上の説明についてご理解いただき、調査協力にご同意いただける場合は、アンケート1頁の口に✔を記入していただいた上で、調査票の回答をお願い申レ上げます。

調査票は、同封の返信用封筒を用いて、平成30年11月16日(金)までにご返送ください。

何がご不明な点がある場合は、以下の「問合せ先」にご連絡ください。

ご多忙の中、誠に恐縮ではございますが、ご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【問合せ先 (調査専用窓口)】

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所(自立促進と精神保健研究チーム) 〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

☎ 03-3964-3241 (内線4221) 担当 多賀 努

メール ttaga@tmig.or.jp

ID ;

***・

日常生活と身体の状況に関するアンケート

(若年性認知症実態調査)

~ご本人・ご家族票~

この調査票は、若年性認知症の方やそのご家族の方の生活の実態を教えていただくための 調査票です。ご協力をよろしくお願いいたします。

あなたが、現在、認知症に関して通院している医療機関(病院、クリニックなど)をご記入ください。

病院・クリニック・診療所	科

※ すでに同じアンケートを他の医療機関や介護事業所などから受け取り、回答した場合は、 下記にチェックいただき、<u>白紙(無記入)のまま、アンケートを返送用封筒でお送りください。</u> 宜しくお願い致します。

□ 私は、すでにこのアンケートを返送しました。

I. 記入いただく方についてお答え下さい。

4. 親	_
3. 子又は子の家族	
2. 配偶者	(具体的な関係:
★	その他
.	5.

II. ご本人 (若年性認知症または若年発症の認知症の方)について、お答え下さい。

問1 性別と生年月日を教えて下さい。

2. 女

性別: 1. 男

生年月日:	問2 同居 してい	1. いない ([2. 同居	
生年月日:明治·大正·昭和·平成	同居している方はいますか。	. いない (一人暮らし)	している人がいる	で、本曲だまで
]•平成		2. 同居して	」場合には、同) 7 ½ (
#		2. 同居している人がいる 人		-
E E			各につをつ) ##
日 (年齢			「2. 同居している人がいる」場合には、同居者すべての番号に○をつけ、人数を記入して下さい。	
緩			, 172	

問3 認知症に気づいたとき、**ご本人は何歳**でしたか。

 \prec

5. その他 (具体的に:

月頃	。〈複数回答〉	6. 知人·友/
# 	ナて下きい,	
昭和·平成	JC\$0.	5. 兄弟姉妹
昭和	7番号(ご	
翔	יאָבני.	4. 親
気づいた時	7(\$\$3 9	
認知症に気づいた時期	ですか。あ	3. 子
1	はどなた	配偶者
褫	たの	2.
<u> </u>	最初に 気づいたのはどなた ですか。あてはまる すべての番号 に○をつけて下さい。〈復数回答〉	1. ご本人
	4	

問5 最初に気づいた症状は何ですか。あてはまるすべての番号につをつけて下さい。〈複数回答〉

9. その他 (

8. かかりつけ医

職場の仲間・上司

- 1. もの忘れが多くなった 2. 言葉がうまく出なくなった 3. 怒りっぽくなった
- 4. 何事にもやる気がなくなった5. 職場や家事などでミスが多くなった6. 上記以外の、今までにない行動・態度が出るようになった
- 7. その他(具体的に:

- 2 -

つですか。
ال ال
0(th
されたの
、最初に受診され
JIC.₹
が最れ
が 大 大 大
ħĴ
9
盟

	(
月頃	1
#	
昭和·平成	
最初に受診した時期	

また、受診された医療機関の診療科や外来について、あてはまる番号 1 つに○をつけて下さい。

5. 脳神経外科 8. わからない 4. 神経内科 3. 心療内科 2. 精神科 1. 一般内科

7. その他 (具体的に: 6. もの忘れ外来 問7 - 問6で受診した医療機関を選んだ**理由**は何ですか。あてはまる**すべての番号**に○をつけて下さい

3. 医療機関から紹介された 1. かかりつけ医だから 2. 認知症の専門医療機関だから 5. テレビや新聞などで知った 4. 医療機関以外の地域包括支援センター等から紹介された

8. 近隣だから 7. 家族や知人に紹介された 6. インターネットや専門誌を検索した

9. その他 (具体的に:

問8 最終的に「認知症」と**診断された時期**はいつですか。

昭和·平成 年
1
診断された時期

また、その医療機関はどこでしたか。あてはまる番号1つに○をつけ、医療機関名を記載して下さい。

 わからない 別の医療機関 1. 最初に受診した医療機関

病院·診療所

問9 **認知症の具体的な病名**は何と言われていますか。あてはまる番号 **1 つに**○をつけて下さい。

1. アルツハイマー病 (アルツハイマー型認知症)

2. 血管性認知症 (慢性硬膜下血腫、脳梗塞、も膜下出血、ビンスワンガー病など)

4. 前頭側頭型認知症 (ピック病など) 3. レビー小体型認知症 (レビー小体病)

5. その他 (具体的に:

7. わからない 6. 病名は聞いていない

ご本人に認知症以外の病気はありますか。 問 10

あてはまる番号 1 つに○をつけ、ある場合は具体的な病名についてもご記入ください。

2. ある (具体的な病名:

介護保険の申請や利用の状況についてお伺いします

۰
4
10
5
150
Ö
75
<u></u>
細巾
10
#6
Ĭ
#6,
É
#3
3
K
Z.
灩
<u></u>
₩
蒾
艦
5
3
7
**
_
7

⊡	
7. 中調十	
同 12 ~	
Î	
中請していない	

→ 問 12 - 問 11 で「1.申請していない」と回答された場合、その**埋由**は何ですか。

3. 周囲の目が気になる あてはまる**すべての番号**に○をつけて下さい。〈複数回答〉 2. 家族や親族が反対 1. サービスについて知らない

6. 家族がいるから大丈夫 5. 必要を感じない 4. 利用したいサービスがない

8. その他 (具体的に: 7. 経済的負担が大きい

⇒ 間 15 へ進んでください

ightarrow 問 11 $ilde{r}$ 「4.申請した」と回答された場合、ご本人の要介護度は何ですか。

あてはまる番号 1 つに○をつけて下さい。

4. 要介護2 3. 要介護1 2. 要支援2 1. 要支援1

7. 要介護5

わからない

5. 要介護3

→ 問 14 問 11 で 「4.申請した」と回答された場合、現在利用しているサービスは何ですか。

あてはまる**すべての番号に**○をつけて下さい。〈複数回答〉

2. 通所リハビリテーション (デイケア) 1. 通所介護 (デイサービス) 4. 訪問介護 短期入所生活介護(ショートステイ)

11. 小規模多機能型居宅介護 8. 福祉用具の貸与・購入 7. 訪問リハビリテーション 10. 夜間対応型訪問介護 6. 訪問入浴介護 9. 住宅改修

13. 介護老人保健施設 12. 認知症対応型共同生活介護

15. 訪問診療(往診や歯科診療等) 14. 居宅介護支援 (ケアプラン作成等)

16. その他 (具体的に:

17. 利用していない (理由:

➡ 利用している事業所の名前を教えてください。

→ 間 15 へ 満んでください

-8

وعر
高い
921
([]
状況
利用
730
4-6
的な
132
127
利用
現在

ightarrow 問 16 $m e^-$ [1. はい」と回答された場合、現在の仕事の状況 について、あてはまるすべての

番号に○をつけて下さい。〈複数回答〉 1. 発症前と同じ職場で働いている

^
〈複数回答
打下さい。
号につをつり
すべての番号に
, あてはまる す
支援 (こついて、
ナービスや支
下記の
問 15

- 1. 利用していない
- 3. 身体障害者手帳を利用 4. 障害年金を利用 2. 精神障害者福祉手帳を利用
- 6. 特別障害者手当を利用 7. 成年後見制度を利用 5. 自立支援医療を利用
- 9. その他のサービス (具体的に: 8. 地域福祉権利擁護事業

発症時のお仕事の状況についてお伺いします

問16 発症時、**仕事**に就いていましたか。あてはまる番号10に0をつけて下さい。

2. いいえ ⇒ 間20~ 1. はい ⇒ 問17~19~

→ 問17 - 問16で「1. はい」と回答された場合、**勤務形態**は何でしたか。

あてはまる番号 1 つに 〇をつけてください。

- 3. 短期雇用 (派遣など) 2. 非常勤・パート 1. 正社員·正職員
- 6. その他 (具体的に: 5. 自営業 4. 契約社**員·**嘱託
- **>具体的な仕事内容についてもご記入ください。 (例:教師、建設業、など)**

具体的な仕事の内容→(

すべての番号に○をつけて下さい。〈複数回答〉

- 2. 専門医を紹介された 1. 産業医の診察を勧められた
- 4. 職場内での配置転換などの配慮があった 3. 労働時間の短縮などの配慮があった
- 5. 通勤に関して配慮があった
- その他の配慮があった(具体的に
- 7. 上記配慮はいずれもなかった
- 8. 職場で福利厚生制度を利用していた (具体的に)
- 9. 上司や雇用主に認知症であると説明した
- 10. 職場に相談相手がいた(具体的に)
- 12. わからない 11. その他(

- 9 -

$ ightarrow$ 問 16 $ ilde{ il}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}}$		3. 社会的な活動をしていた				⇒ 問 21 へ進んでください
と回答された場合、 発症	〈複数回答〉	2. 子育で中だった	5. 失職中だった	: 5		
問16で「2. いいえ」	の番号 に○をつて下さい。〈複数回答〉	家事全般をしていた	趣味活動をしていた	病気療養中だった (病名:	7. その他(
→ 問 20	3	-	4	9	7.	

⇒ 間21 へ進んでください

6. 解雇された

5. 退職した

4. 休職·休業中

3. 転職した

7. 仕事は辞めたが、地域でボランティアなどをしている

8. その他 (

2. 発症前と同じ職場だが、部署が変更になった(配置転換)

現在の暮らしについてお伺いします。

問21 現在の自動車運転について伺います。

運転の状況として、以下のあてはまる番号と記号につをつけて下さい。

- 1. 運転していない ⇒ A. 免許を取ったことがない B. 免許証を返納した
- C. 運転はしていないが、免許証は返納していない(持っている)

2. 運転を制限している ⇒ A. やむを得ない場合のみ運転している B. 常に同乗者を乗せて運転している C. その他 (

3. 今までと同じように運転している

可ですか。
収入(法/
#の主な
人を含む世
可。乙本)
いて伺いま
{状況 (こ)
現在の経済
問 22

あてはまる番号すべての番号に○をつけて下さい。〈複数回答〉

1. ご本人の収入 (傷病手当金等を含む) 2. ご家族の収入

3. ご本人の年金 4. ご本人の障害年金等 5. 生活保護費

6. その他の収入 (具体的に

わからない

問 23 ご本人が、若年認知症になってからの世帯の収入状況について、あてはまる番号 1 つにOを つけて下さい。

1. 変わらない 2. 減った 3. 増えた 4. わからない

問24 現在、**住宅等のローン**はありますか。あてはまる**すべての番号に**○をつけて下さい。〈複数回答〉

1. ローンはない 2. 住宅のローンあり 3. 教育のローンあり 4. 車のローンあり

わからない

問 25 現在の**家計**について、あてはまる番号 **1 つに**しをつけて下さい。

1. とても苦しい 2. やや苦しい 3. 何とかまかなえている

4. 余裕がある 5. わからない

問 26 現在、養育を必要とする子供はいますか。あてはまる番号 1 Oに○をつけて下さい。

1. U\(\text{\$\text{\$L\$}} \text{\$L\$} \rightarrow \end{array} = \end{array} \qquad \qqqq \qqq \qqqq \qqq \qqqq \qqq \qqqq \qqq \qqqq \qqq \qqqq \qqq \qqqq \qqq \qqqq \qqq \qqqq \qqq \qqqq \qqq \qqqq \qqq \qqqq \qqq \qqqq \qqq \qqqq \qqq

→問 27 養育を必要とする**子供の就学状況**について、あてはまる**すべての番号に**○をつけ、

その人数を記入して下さい。〈複数回答〉

1. 就学前 () 人 2. 小学校 () 人 3. 中学校 () 人

4. 高校 () 人 5. 大学·専門学校 () 人 6. その他 () 人

⇒ 問 28 へ進んでください

ご本人やご家族が考える、必要な情報を教えてください。

問 28 診断から治療、介護などで**必要と感じた情報**について、

A からK の項目ごとに、最もあてはまると思う番号に、それぞれ 1 つだけ○をつけて下さい。

		必要と感じ なかった	たまに必要 と感じた	時々必要 と感じた	いつも必要 と感じた
A	専門医や専門病院に関する情報	-	2	8	4
В	治療方法や薬に関する情報	-	2	8	4
C	病気の症状や進行に関する情報	1	2	3	4
	介護保険サービスに関する情報	1	2	3	4
ш	障害年金など経済的支援に関する情報	-	2	3	4
Ъ	若年性認知症の相談窓口に関する情報	1	2	3	4
9	その他の社会資源に関する情報	1	2	3	4
工	就労相談の窓口に関する情報	1	2	3	4
_	介護方法に関する情報	1	2	3	4
Ī	成年後見制度に関する情報	1	2	3	4
\times	家族会などの情報	1	2	3	4

ご本人やご家族が考える、暮らしの中での困りごとを教えてください。

問 29 現在、ご本人のことに関しての**困っていること**について、

A から H の項目ごとに、最もあてはまると思う番号にそれぞれ1つだけ○をつけて下さい。

	1. ご本人に関すること	思わない	思わない たまに思う	時々思う	いつも思う
∢	A 認知症の症状が進行している	-	2	m	4
 8	認知症以外の病気が悪化している	-	2	m	4
 U	C 気分が不安定、あるいは意味もなく不安になる	_	2	m	4
	D 介護保険サービスを受けたくない	1	2	æ	4
 ш	高齢者が多いデイサービス等に行きたくない	_	2	m	4
ш	F 車の運転をやめられない	_	2	m	4
 9	G 社会参加の場が少なく、社会とのつながりが薄い	-	2	m	4
_	H 介護サービスを受けたいが経済的に厳しい	1	2	3	4

1からN、OからQの項目ごとに、最もあてはまると思う番号にそれぞれ1つだけ○をつけて下さい。 次に、現在、家族等介護者のこと、あるいは家族全体のことに関する困っていることについて、

	2. 家族等介護者に関すること	思わない	たまに思う	時々思う	いつも思う
_	支援制度やサービスの情報が得られない	1	2	3	4
_	介護のため、介護者自身の仕事に支障が出る	1	2	æ	4
\mathbf{r}	K 介護を助けてくれたり、相談する人がいない	-	2	æ	4
	相談したり、気晴らしをする場所がない	1	2	æ	4
Σ	M 介護保険・就労等、どこに相談するのかわからない	1	2	8	4
z	N 家族等介護者の健康状態が良好でない	-	2	æ	4
	3. 家族全体のこと	思わない	たまに思う	時々思う	いつも思う
0	0 本人と家族との関係がうまく保てない	-	2	æ	4
۵	P 今後の生活や将来的な経済状態に不安がある	1	2	3	4
O	Q 子どもの進学、就職、結婚について不安がある	1	2	3	4

問 30 若年性認知症の方の**通いの場**として、どのような場が必要と考えますか。

最もあてはまると思う番号 1 つに 0をつけて下さい。 (主に若年層が通う場所を想定します)

- 2. 軽作業に取り組むなど就労に近い内容の通いの場 1. 就労支援を受けられる通いの場
- 4. ボランティアなどの地域活動に取り組む通いの場 3. 外出や趣味活動を楽しめる通いの場
- 5. その他(

問 31 認知症の症状に気づいたとき、家族以外で最初に相談したのはどなた(どこ)ですか。あてはまる番号 1 2に0をつけて下さい。

- 1. 地域包括支援センター(※) 2. 保健所・保健センター(※) 3. 福祉事務所
- 若年性認知症総合支援センター 7. 友人・知人 医療機関
- 10. その他(9. 職場の同僚や上司 8. 職場の健康管理室

※「1.地域包括支援センター」と「2.保健所・保健センター」は、以下のとおり区によって名称が異なります。

	凶智語	以沿	板橋区	練馬区
	高齢者総合相談センター	高齢者あんしんセンター	おとしより相談センター	地域包括支援センター
保健	保健所、健康相談所	健康支援センター	健康福祉センター	保健相談所

問 32 認知症の症状に気づいたとき、若年性認知症に関する情報をどなた(どこ)から得ましたか。

あてはまる**すべての番号に**○をつけて下さい。〈複数回答〉

- 4. 区役所 1. 地域包括支援センター(※) 2. 保健所・保健センター(※) 3. 福祉事務所
- 8. 家族 7. 友人·知人 6. 若年性認知症総合支援センター 医療機関
- 12. 書籍 11. インターネット 10. 職場の同僚や上司 9. 職場の健康管理室
- 13. その他(
- ※「1. 地域包括支援センター」と「2. 保健所・保健センター」は問31参照

問33 東京都では、若年性認知症のワンストップ相談窓口として、都内2か所(目黒区・日野市)に「若 年性認知症総合支援センター」を設置しています。(別添リーフレット参照)

「若年性認知症総合支援センター」を知っていましたか。あてはまる番号1**つに**○をつけて下さい、

3. 知らなかった 2. 知っているが利用したことはない 1. 利用したことがある

問 34 現在の**日中の過ごし方について、**あてはまる**すべての番号に**○をつけて下さい。〈複数回答〉

7. ボランティアをしている 1. 仕事をしている 2. 家事をしている 3. 子育てをしている 4. 就職先を探している 6. 趣味活動をしている 5. デイサービス・ディケアに行っている

8. 認知症カフェや家族会など、若年性認知症の方の交流の場に行っている

9. 特に活動はしていない 10. その他 (

問35 若年性認知症の方への対応や支援に関して、ご意見・ご要望があればお書き下さい。

ご記入内容を再度ご確認ください。また、別紙「訪問調査協力のお願い」にチェックをして、 アンケートはこれですべて終了です。ご協力頂き、大変ありがとうございました。 本アンケートと「訪問調査協力のお願い」を同封の封筒で返送して下さい。

- 6 -

- 10 -

要返送

.;

日常生活と身体の状況に関するアンケート(若年性認知症実態調査)

<u>.</u>

訪問調査協力のお願い

アンケートを返送いただいた方に対して、対面で直接お話する訪問調査を計画しています。この調査は、アンケートに書ききれないような実際の生活の困りごとなどを、ご本人又はご家族から直接お話しいただくことで、皆さまの生活の実態をより詳細に把握し、東京都の若年性認知症施策を推進するための基礎資料を得ることを目的としています。お話する時間は一時間程度です。お話は、ご自宅か、ご指定いただいた場所で聞かせていただきます。訪問調査に際しても、ご本人やご家族のプライバシーは必ず守られます。

この訪問調査にご参加いただける方は、「□参加する」にチェックを付け、記入日とご氏名、お電話番号、ご住所をご記入ください。追って面接員からご連絡をさせていただきます。何卒、訪問調査にご協力をお願いいたします。

記入日 <u>平成</u> 年 月 日 <u>ご氏名(ご本人・ご家族)</u> む電話番号 (Tel)				©6111/60
<u>ご氏名(ご本人・ご家族)</u> む電話番号(Tel) ご住所 〒	記入日 平成	#	A	П
 む電話番号 (Tel)	ご氏名(ご本人・ご	家族)		
	お電話番号 (Tel)			
				Я

⇒加しない

※「□参加しない」を選んだ方も、この用紙はご返送ください。

[問合世先]		
東京都健康長寿医療センター研究所		
(自立促進と精神保健研究チーム)		
〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2		
8 03-3964-3241 (内線 4221)	担当 多質	SK.

日常生活と身体の状況に関するアンケート

(若年性認知症実態調査)

調査協力への同意撤回書

東京都健康長寿医療センター 理事長 井藤 英喜 殿 私は、この調査への協力について説明を受け同意しましたが、同意を撤回したいと思いますので、 私の調査回答(データ等)の廃棄措置を取っていただくことを希望します。
 同意撤回日 平成 年 月 日

 ご氏名 (ご本人)

 ご任所 (ご本人) 〒

 ご住所 (ご本人) 〒

 お電話番号 (ご本人) Tel

<u>-</u>

お電話番号 (代話者)

資料 3: 三次調査に関する資料

若年性認知症の有病率および生活実態に関する調査(三次調査) ご協力のお願いと調査日時・場所のお知らせ

町 平成 30 年

ば協力いただきましてありがとうございました。このたびの調査では、若年性認知症の 保健・医療・福祉に関わる専門職がお宅をご訪問させていただき、日々の生活の様子 このたびは「若年性認知症の有病率および生活実態に関する調査」 (二次調査)に や必要な支援などについて面接調査を行います。ご協力のほどどうぞよろしくお願い 申し上げます。

	\$. 	
	世	
	<u> </u>	
について	# <u>'</u>	
3時·場所	中政	(1) 四 研
調査の日	- 生	場所:
一		

(1) 調査の目的について

若年性認知症は働き盛りの年代に発症し、ご本人・ご家族は、病気や障害に対する 下安のみならず、就労、経済、子の養育などさまざまな生活課題に直面する可能性が 高まります。しかし、若年性認知症の有病率と生活実態は今なお不明確な点が多く、 社会的支援も十分とは言えません。 そこで、東京都では若年性認知症施策を推進するための基礎資料を得ることを目 的に、東京都が地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所(自立促進と 精神保健研究チーム)に委託し、豊島区、北区、板橋区及び練馬区内の医療機関・ 介護保険事業所等を利用されている方々を対象に実施することといたしました。

(2) 調査の方法について

本調査では、若年性認知症の保健・医療・福祉に関わる専門職が、ご本人のご自 名や利用されている医療機関・事業所・施設に訪問させていただき、現在の病気や障 害の状況、生活の状況、具体的に必要な支援やサービスについて質問させていただ きます。 可能な範囲でお答えください。

なお、ご回答内容はデータ化するために、ICレコーダで録音させていただきます。 逐語録を作成後に消去させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

(3) 調査結果の利用について

本調査の結果は、東京都並びにわが国の今後の若年性認知症施策の立案・企画 等の基礎資料として活用させていただきます。調査データは本調査の目的以外には **東用されません。 調査結果は、研究報告書、論文、学術会議等で公表されます。**

4) 個人情報の保護について

もございません。ご回答いただきましたデータは、東京都健康長寿医療センター研究 調査内容はすべて匿名化され、処理されますので、個人が特定されるかたちで回 答内容が公表されることはございません。また、この調査以外の目的で使用されること 所において厳重に管理いたします。

5) 同意の撤回について

あなたの不利益になることはありません。一旦、同意した後でも、同意を撤回すること ができます。同意を撤回する場合には別紙様式に署名の上、問合せ先(下記)までご 提出ください。なお、調査結果公表の関係上、平成31年3月1日(金)以降は同意の 調査協力への同意はあなたの自由な意思で決められます。もし同意されなくでも、 数回はできませんので、予めご了承ください。 ご多忙の中、誠に恐縮ではございますが、ご協力のほどどうぞよろしくお願い申し上

地方独立行政法人、東京都健康長寿医療センター研究所 (自立促進と精神保健研究チーム)

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2

8 03-3964-3241 (内線 4221)

@tmig.or.jp Email:

恕 · 阿阿 加..

問合世時間:月-金9:30-17:00

次調査)
\square
る調査
拓東態
び生
丙率及
の有
生認知症
拓和

若年性認知症の有病率及び生活実態に関する調査(三次調査)

調査協力への同意書

東京都健康長寿医療センター 理事長 井藤 英喜 殿

お話をうかがう内容

- 1. 身近なつながり
- 2. 認知症と診断されたときのこと

私は、この調査について説明を受け、内容を理解いたしました。調査への協力に

同意しません

同意します

(該当する方に〇をつけてください)

- 3. 診断後のできごと
- 4. 仕事や経済的なこと
- 5. 福祉サービス・地域の支えあい
- 6. その他 (生き方に関することなど)

		ı	1		1	1	
説明者:	ш,						
	E						
	平成年_	- 本人の氏名:	』 年 二 二	お電話番号:	代諾者の氏名:	 年 	お電話番号:
	3意日:平成	∵ 本 人0			·諾者0		

_	٠.
1	
1	
Ė	
神	i
48E	
ding	ì

若年性認知症の有病率及び生活実態に関する調査(三次調査)

調査協力への同意撤回書

東京都健康長寿医療センター 理事長 井藤 英喜 殿

私は、研究協力への同意撤回の意思を確認しました。

資料4:要介護認定システムから抽出した項目

緑色の項目は要介護認定システムに無い項目であるが、調査の都合上、研究所から自治体に要請して作成してもらい追加して提供してもらった項目である。

	項目名 	E 147 17 18 1
No.	項目は「介達保険総合データペース(旧認定支援ネットワーク)システム改訂版に関する説明書《平成27年4月制度改訂対応版》』の19頁~24頁に準拠しています。	提供項目: ●
0	データ数(作業用)	•
6	被保険者区分コード	•
12	調査基準日年龄(平成30年4月1日現在)	•
12	年齡	•
13	性別コード	•
27	意見書入手日	•
28	意見書短期記憶	•
29	意見書認知能力	•
30	意見書伝達能力	•
31	意見書食事行為	•
32	意見書認知症高齢者の日常生活自立度	•
34	調査実施日	•
39	一次判定日	•
40	一次判定結果	•
41	一次判定結果(認知症加算)	•
42	要介護認定等基準時間	•
43	要介護認定等基準時間(食事)	•
44	要介護認定等基準時間(排泄)	•
45	要介護認定等基準時間(移動)	•
46	要介護認定等基準時間(清潔保持)	•
47	要介護認定等基準時間(間接ケア)	•
48	要介護認定等基準時間(BPSD 関連)	•
49	要介護認定等基準時間(機能訓練)	•
20	要介護認定等基準時間(医療関連)	•
51	要介護認定等基準時間(認知症加算)	•
52	中間評価項目得点 第1群	•

つた	53	中間評価項目得点 第2群	•
	54	中間評価項目得点 第3群	•
	55	中間評価項目得点 第4群	•
	56	中間評価項目得点 第5群	•
	58	状態の安定性	•
	59	認知症自立度エ以上の蓋然性	•
	09	認知機能及び状態安定性から推定される給付区分	•
	65	二次判定日	•
	99	二次判定結果	•
	69	特定疾病コード	•
	7.1	現在のサービス区分コード	•
	72	現在の状況	•
	73	訪問介護(ホームヘルプ)	•
	74	訪問入浴介護	•
	75	訪問看護	•
	76	訪問リンピリテーション	•
	1.1	居宅療養管理指導	•
	78	通所介護(デイサービス)	•
	79	通所リンボリテーション	•
	80	短期入所生活介護(ショートステイ)	•
	150	短期入所療養介護	•
	82	特定施設入居者生活介護	•
	63	福祉用具貸与	•
	84	特定福祉用具販売	•
	85	住宅改修(介護給付)	•
	98	夜間対応型訪問介護	•
	87	認知症対応型通所介護	•
	88	小規模多機能型居宅介護	•
	89	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	•
	06	地域密着型特定施設入居者生活介護	•
	91	地域密着型介護老人福祉施設人所者生活介護	•
	92	定期巡回,随時対応型訪問介護看護	•

125	片足での立位	•
126	洗身	•
127	hispac	•
128	視力	•
129	聴力	•
130	移乗	•
131	移動	•
132	えん下	•
133	食事摂取	•
134	排尿	•
135	排便	
136	口腔清潔	•
137	光繭	•
138	整髮	•
139	上衣の着脱	•
140	ズボン等の着脱	•
141	外出頻度	•
142	意思の伝達	•
143	毎日の日課を理解	•
144	生年月日をいう	•
145	短期記憶	•
146	自分の名前をいう	•
147	今の季節を理解	•
148	場所の理解	•
149	4件回	•
150	外出して戻れない	•
151	被害的	•
152	作話	•
153	感情が不安定	•
154	昼夜逆転	•
155	同じ話をする	•
156	大声をだす	•

0.0	新小语	•
00	鱼(数4.5%) 聚罗(数15) 指 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	•
94	介護予防訪問介護(ホームヘルプ)・訪問型サービス	•
95	介護予防訪問入浴介護	•
96	介護予防訪問看護	•
97	介養予防訪問リハビリテーション	•
86	介護予防居宅療養管理指導	•
99	介護予防通所介護(デイサービス)・通所型サービス	•
100	介護予防通所リハビリテーション	•
101	介護予防短期入所生活介護(ショートステイ)	•
102	介護予防短期入所療養介護	•
103	介護予防特定施設入居者生活介護	•
104	介護予防福祉用具貸与	•
105	特定介護予防福祉用具販売	•
106	住宅改修(予防給付)	•
107	介護予防認知症対応型通所介護	•
108	介護予防小規模多機能型居宅介護	•
109	介護予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	•
110	麻痺(左一上肢)	•
111	麻痺(右一上肢)	•
112	麻痺(左一下肢)	•
113	麻痺(右一下肢)	•
114	麻痺(その他)	•
115	拘縮(肩関節)	•
116	拘縮(股関節)	•
117	拘縮(滕関節)	•
118	拘縮(その他)	•
119	寝返り	•
120	起き上がり	•
121	座位保持	•
122	両足での立位	•
123	歩行	•
124	立ち上がり	•

158		•
150	落ち着きなし	NCON.
661	一人で出たがる	•
160	収集癖	•
191	物や衣類を壊す	•
162	ひども物志れ	•
163	独り言・独り笑い	•
164	自分勝手に行動する	•
165	話がまとまらない	•
166	薬の内服	•
167	金銭の管理	•
168	日常の意思決定	•
169	集団への不適応	•
170	買い物	•
171	簡単な調理	•
172	点滴の管理	•
173	中心静脈栄養	•
174	透析	•
175	ストーマの処置	•
176	酸素療法	•
177	レスピレーター	•
178	気管切開の処置	•
179	疼痛の看護	•
180	経管栄養	•
181	モニター測定	•
182	じょくそうの処置	•
183	カテーテル	•
184	認定調査障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)	•
185	認定調査認知症高齢者の日常生活自立度	•

資料 5:要介護認定調査票・主治医意見書

調査は、調査対象者が通常の状態(調査可能な状態)であると きに実施して下さい。本人が風邪をひいて高勢を出している等、

認定調査票(概況調査)

被保険者番号

保険者番号

調査実施者(記入者)

 ふりかな

 記入者氏名

 II 調査対象者

自宅内 · 自宅外

実施場所

Ш

町

井

平成

実施日時

)・要介護(I ш 品和 町 1 非該当・要支援(明治・大正 # 生年月日 Ha 品 1 男・女 前回認定結果)調査対象者との関係(性別 $\widehat{\blacksquare}$ 初回・2回め以降 町 井 (前回認定 氏名 過去の認定 5 4 4 4 对象者氏名 現住所 連絡先 家族等

認定調査票(基本調査)

1-1 麻痺等の有無について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。(複数回答可)

1.ない 2.左上版 3.右上版 4.左下版 5.右下版 6.その他(四版の欠損)

拘縮の有無について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。(複数回答可) 1 かい 2 即由第 3 即由第 4 駐田縣 5

1. ない 2. 肩関節 3. 股関節 4. 膝関節 5. その他(四肢の欠損)

1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる

寝返りについて、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。

3.でみない

4 起き上がりについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。1.つかまらないでできる2.何かにつかまればできる3.できない

-5 <u>歴位保持</u>にしいて、あてはまる番号に一しだけO印をしけてください。

1. できる 2. 自分の手で支えればできる 3. 支えてもらえればできる 4. できない

6 両足での立位保持について、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。

2. 何か支えがあればできる

1. 支えなしでできる

|-7 歩行について、あてはまる番号に一つだけO印をつけてください。 1. つかまらないでできる -8 立ち上がりについて、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。

2. 何かにつかまればできる

1. つかまらないでできる

1-9 片足での立位保持について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください

1. 支えなしでできる 2. 何か支えがあればできる 3. できない

1-10 洗身について、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。

1. 介助されていない

1-11 つめ切りについて、あてはまる番号に一つだけO印をつけてください。

1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助

視力について、あてはまる番号に一つだけO印をつけてください。	2-9 整髪について、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。	け〇印をつけてください。
	1. 介助されていない	2. 一部介助 3. 全介助
2. 約 1m離れた視力確認表の図が見える	・ 本語(ませ)・ 古田(古)・ ・ 田田(古)・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(本語へを立りを回ります)
3. 目の間に置いて張力艦器 変の図が 兄太ら 1 デザン アラケン	1. 介助されていない 2. 見守り等	3. 一部介助 4. 全介助
	ういて、	3
1-13 聴力について、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。	1. 介助されていない 2. 見守り等	3. 一部介助 4. 全介助
	ついて、あてはまる番号に一	
3.かなり大きな声なら何とか聞き取れる	1. 圖1回以上	2. 月 1 回以上 3. 月 1 回未満
	1	
	3-1 意思の伝達について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。	一つだけ〇印をつけてください。
2-1	1. 調査対象者が認思を増充に伝達できる 2. ときどき伝達できる	
9 日年的维 3 一部介即 4	3.ほとんど伝達できない	
The latest the state of the sta	4. できない	
2-2 移動について、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。		
2. 見守り等 3. 一部介助 4	3-2 毎日の日課を理解することについて、あ-	3-2 毎日の日課を理解することについて、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください
これば、イエラを囚してばり一、当事が生はイネーイこうには、それに	7, 74% 5	2.できない
- Charles	3-3 生年月日や年齢を言うことについて、あ	3-3 生年月日や年齢を言うことについて、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。
	1. できる	2 できない
食事摂取について、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。		
2. 見守り等 3. 一部介助 4	金介明 3-4 超期記憶(面接調査の運前に何をしていた	3-4 短期記憶(面接調査の直前に何をしていたか思い出す)について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。
排尿について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。		2. できない
2. 見守り等 3. 一部介助 4	全介助 3-5 自分の名前を言うことについて、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。	まる番号に一つだけ〇印をしけてください。
排便について、あてはまる番号に一つだけO印をつけてください。	1. 70 출 중	2. できない
2. 見守り等 3. 一部介助 4	全介助 3-6 今の季節を理解することについて、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。	はまる番号に一つだけ〇印をつけてください。
口腔清潔について、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。	1, 785	2. できない
2. 一部介助 3.	全介助 3-7 場所の理解 (自分が)と場所を答える)	3-7 場所の用盤(自分がいる場所を答える)について、むてはまる番号に一つだけ〇回をつけてください。
2-8 洗顔について、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。	(Per 5)	2. できない
2. 一部介助 3	(全介助) 3-8 (金値について、もとは主め番号に一つだけ〇四多つけてください。	い〇日をしけてくがおい。
		2 7 4 7 4 4 3 4 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8

	1 4 4 2 4 - 0	* + 0			こうしょうこういん
1.750	2. rarango	3. 85	1. ない 2. とき	ときどきある	3. 8-5
かを盗られたなどと被害的にな	4-1 物を盗られたなどと被害的になることについて、あてはまる番号に一つだ	一つだけ〇印をつけてください。	これな イオン 外辺 つきない 一点 世帯 どせき ずみ・ オンフェ ちょく メナ 書が 単光器 グローアデア	さった日〇七ぱつ一八日米と	ながら
1 2013	9 レキアキカス	5 4 × ×	サーキ ロカ野十に口髪りのしてについて、のここもの	の事から プロロースを	ر ۱ ر ن د د ه
			1.ない 2.とき	2. ときどきある	3. ある
話をすることについて、あて	4-2 作話をすることについて、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてくださ	ください。	4-15 語がまとまらず、会話にならない、ことについて、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。	て、あてはまる番号に一つだり	ナ〇印をつけてください。
1.40	2. ときどきある	3. ある	1.40	2. ときどきある	3. 55
いたり、笑ったりして感情が、	1不安定になることについて、 あては i	4-3 泣いたり、笑ったりして感情が不安定になることについて、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてくだ。	5-1 薬の内服について、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。	JO印をつけてください。	
さい。 1. ない	2. ときどきある	3. ある	1. 介助されていない 2. 一部	一部介助	3. 全介助
、夜の逆転について、あてはま	4-4 昼夜の逆転について、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。	ै १ १	5-2 金銭の管理について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。	どけ〇印をつけてください。	#44
1.421	2. ときどきある	3. ある		14.17.49	o. 至万·助
っこく同じ話をすることにつ	4-5 しんこく同じ語やすることにしてた、老とはまる権助に一つだけ〇円からけたください。	印をつけてください。	5-3 日常の意思決定について、あてはまる番号に一つだけO円をつけてください。 1 カッド / semi-sut A a a x x v o semi-sut A e feet - a a gentle in A e feet - a a a gentle in A e feet - a a a gentle in A e feet - a a a gentle in A e feet - a a a a gentle in A e feet - a a a a a a a a a a a a a a a a a a	ーつだけO印をつけてください。 もか、アルキタ 9 日前的下田郷	11年本7 日 横田
1. ない	2. ときどきある	3. ある	1. トロの 人名西安斯 ロック この この 1. たいの		報
声をだすことについて、あて	4-6 大声をだすことについて、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてくださ	ください。	5-4 集団への不適応について、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。 ・ こをじをする	号に一つだけO印をつけてください 0 Lきじきキア	N ++ C
1.ない	2. ときどきある	3. 85		50505	6, 69.5
護に抵抗することについて、	4-7 弁護に抵抗することにしてん、あたはまる番号に一つだけ○印をつけてく	けてください。	5-5 買い物について、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。 ・ 4m+キャーション・ の ロウロ の	O印をつけてください。 ・ 神心中	1 AAH
1.ない	2. ときどきある	3. ある	これ切られていない。これでの	3. 一部开助	
「家に帰る」等と言い落ち着き	等と言い落た着きがない、どびついて、あてはまる番号に一	中に一しだけ○日をしな下くがさい。	5-6 簡単な調理について、あてはまる番号に一つだけ〇印をつけてください。	どけ〇印をつけてください。	A AAn.
1.40					
人で外に出たがり目が離せな	4-9 一人で外に出たがり目が離せないことについて、あてはまる番号に一つだ	けの印表	6 過去14日間に受けた医療について、あてはまる番号すべてにO印をつけてください。 (複数回答可)	まる番号すべてに〇印をつい	ナてください。
1. ない	2. ときどきある	3. 8-2	の部内容 1 占法の管理 2 中心結婚学業	3 城井	4 ストーマ (人工町門) の処署
いろいろなものを集めたり、# ください。	4-10 いろいろなものを集めたり、無断でもってくることについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。	にはまる番号に一つだけ〇印をつけて	5. 酸素療法 8. 疼痛の看護	必需()	7. 気管切開の処置
1.ない	2.ときどきある	3. ある	<u>特別な対応</u> 10.モニター測定(血圧、心社、酸素飽和度等) 12. カテーテル(コンドームカテーテル、留置)	りテーテル、	11. じょくそうの処置 ウロストーマ等)
物を壊したり、衣類を破いたりすることについて、	りすることについて、あてはまる番号に一	計に一つだけ〇印をつけてください。			
1. £v	2.ときどきある	3. ある	7 日常生活自立度について、各々該当するものに一つだけ〇印をつけてください。	のに一つだけ〇印をつけてく	ください。
シどい物忘れについて、あて!<	4-12 ひどい物忘れについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください	ださい。	:きり度)	自立・J1・J2・A1・A2・B1・B2・C1・C2	C1 · C2
. 4.	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	11 44 6	認知証尚齢者の日常生活目立度 目立・1・	<u> </u>	. W

障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)

(1) 判定の基準

調査対象者について、調査時の様子から下記の判定基準を参考に該当するものに○印をつけること。 なお、全く障害等を有しない者については、自立に○をつけること。

生活自立	ランクリ	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1. 交通機関等を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	577A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たま	ランクB	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、壁位を保つ 1. 重いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により重いすに移乗する
10 50	777C	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する1. 自力で寝返りをうつ2. 自力では寝返りもうてない

※判定に当たっては、補装具や自助具等の器具を使用した状態であっても差し支えない。

認知症高齢者の日常生活自立度

(1) 判定の基準

調査対象者について、訪問調査時の様子から下記の判定基準を参考に該当するものに○印をつけること。 なお、まったく認知症を有しない者については、自立に○印をつけること。

参为

(出典:要介護認定認定調査員テキスト2009改訂版. 平成27年4月)

主治医意見書 22.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.	
- 上 編	(5)身体の状態 利き腕 (□右 □左) 身長= cm km= kg (過去6ヶ月の体脈の変化 □ 増加 □ 維持 □減少) □同時を相 (高位:
明・大・昭 年 月 日生(歳) 本 連絡先 () 上記の申請者に関する意見は以下の通りです。 主語の申請者に関する意見は以下の通りです。 主治隊として、本意見書が介護サービス計画作成に利用されることに	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
企地	(部位: 程度: 口軽 口中
(1) 最終診察日 平成 年 月 日 (2) 意見書作成回数 □初回 □2回目以上	口失調・不随意運動・上肢 口右 口在 ・下肢 口右 口左 ・体幹 口右 口右 口幕指
□右 □所 □所 □所 □所 □所 □永 □形 □形 □形 □形 □形 □形 □ □ □ □	□その他の皮膚疾患(前位:
1. 簡集に関する意見	
(1) 診断名(特定表徴または生活機能低下の直接の原因となっている協務名については1,に記入)及び発金年月日 1. 発症年月日 (昭和・平成 年 月 日頃)	 「日立、 □イ助があればしている □していない □上ていない □上にしなる □上に他人が挙作している □上に他人が挙作している □上に他人が挙作している □上に他人が挙作している □上に他人が発作している □ 「「「」」を対象をしている □ 「「「」」を対象をしている □ 「「「」」を対象を対している □ 「「」」を対象を対している □ 「「」」を対象を対している。
発展年月日 (昭和・史成 年 月 1886年11日 (昭和・中成 4 日	ないし何とか自分で食べられる ロ全面
の名が (を作・上版 十 カ	口戌姓 (
(4.2.乗及としくの文文性 (「不安定」とした場合、具体的な状況を記入) ロケア ロケダボ ロイ・リ	「能性の高い状態とその対処方針 能力の低下 □棒瘡 □心肺機能の低下 □閉
(3) 生活機能低下の直接の原因となっている協病または特定疾病の経過及び投棄内容を含む治療内容[あげ] (時に (時に) 中国に対し、中国に対象のでしまった。 あた 物学会社については少労者の出資法についてです。	□既栄養 □表食・職下機循版下 □既水 □影感染性 □がん等による察権 □その他() → 対処分字 (
	(4)サービス利用による生活機能の維持・改善の見通し □ 財務できる □ 財務できない □ 不明
	(5) 医学的管理の必要性 (特に必要性の高いものには下線を引いて下さい。予防給付により提供されるサービスを含わます。) □肪間を指 □お間素剤管理指導 □訪問リインドリテーション □均期入所能表介機 □訪問保存等等 □訪問業剤管理指導 □訪問リインドリテーション □を向めの医療系分機 □訪問保存権生指導 □部開保存金 □部用のイン・コントー・ション □をの他の医療系・サービス (
	(6) サービス提供時における医学的観点からの留意事項 ・血圧 □特になし □あり()・移動 □特になし □あり()・摂食 □特になし □あり()・運動 □特になし □あり()・運食 □特になし □あり()
2. 特別な医療 (過去14日間以内に受けた医療のすべてにチェック)	・嚥下 □物になし □あり()・その他(
処置内容 口が	(7) 懸染症の有無(有の場合は具体的に記入して下さい) □
16.5	5. 特部すべき事項 数介護認定及び介護サービス計画作成時に必要な医学的なご意見等を記載して下さい。なお、専門医等に別途意見を求め
3. 心身の状態に関する意見	た場合はその内容、結果も記載して下さい。(情報提供書や身体障害者申請診断書の写し等を添けして頂いても結構です。)
(1) 日常生活の自立度等について ・解告高齢者の日常生活自立度(疑たきり度) □自立 □J1 □J2 □A1 □A2 □B1 □B2 □C1 □C2 ・認知底高齢者の日常生活自立度	
外の疾患で同様の症状を認める場合を含む □問題なし □問題あり 8知能力 □自立 □いくらか困 □伝えられる □いくらか困	
(該当する項目全てチェック:認知症以外の疾患で同様の症状を認める場合を含拠:5幻聴 二妄思 二昼夜遊歌、二皋言 二皋行 二介鏡への抵抗の不妨求 二不請行為 二級食行動 二性的問題行動 二その他(

若年性認知症の生活実態に関する調査報告書

発 行 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

東京都健康長寿医療センター研究所

編集 東京都健康長寿医療センター研究所

自立促進と精神保健研究チーム

粟田主一

平成 31(2019) 年 3 月 禁無断転載